

# 矢浜津波避難施設建設工事 設計図

【建築工事】				【電気設備工事】	
A-01	特記仕様書 (1)	S-01	構造特記仕様書	E-01	電気設備特記仕様書
A-02	特記仕様書 (2)	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)	E-02	1階~6階平面図
A-03	特記仕様書 (3)	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)	E-03	2階 R階 平面図
A-04	特記仕様書 (4)	S-04	鉄骨構造標準図 (1)	E-04	2階・R階 平面詳細図
A-05	特記仕様書 (5)	S-05	鉄骨構造標準図 (2)	E-05	照明器具 姿図 (参考)
A-06	特記仕様書 (6)	S-06	地盤改良特記仕様書	E-06	ソーラーパネル架台・電池ボックス (参考)
A-07	特記仕様書 (7)	S-07	ベースバック柱脚工法標準図	E-07	照明設備配置図
A-08	特記仕様書 (8)	S-08	伏図 1	E-08	照明設備1・M1階平面図
A-09	配置図	S-09	伏図 2	E-09	照明設備2・R階平面図
A-10	仕上表・求積図	S-10	軸組図 1	E-10	照明設備・システム系統図
A-11	1階・M2階平面図	S-11	軸組図 2	E-11	照明設備立面図
A-12	2階・R階平面図	S-12	基礎伏図・基礎詳細図		
A-13	立面図	S-13	スロープ 基礎伏図・基礎詳細図・雑詳細図		
A-14	2階 平面詳細図	S-14	鉄骨リスト		
A-15	R階 平面詳細図	S-15	鉄骨詳細図 1		
A-16	雑詳細図 (1)	S-16	鉄骨詳細図 2		
A-17	雑詳細図 (2)	S-17	スロープ 配筋図		
A-18	外構図	S-18	雑配筋詳細図		
A-19	仮設計画図				

株式会社田端隆建築設計

# 工事特記仕様書

<b>I. 工事名称</b>	<b>矢浜津波避難施設建設工事</b>
<b>II. 工事概要</b>	
1. 工事場所	三重県尾鷲市矢浜一丁目460-11
2. 敷地面積	1,050.72 m <sup>2</sup>
3. 工事内容	
棟名称	矢浜津波避難施設
構造	鉄骨造
建築面積	160.60 m <sup>2</sup>
延べ面積	359.6 m <sup>2</sup>
工事項目	建築工事・電気設備工事・外構工事

## III. 建築工事仕様

### 1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「三重県公共工事共通仕様書（令和6年7月制定(令和7年7月一部改定)）」及び「公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 令和7年版」(以下「標準仕様書」という。)による。

### 2. 特記仕様

- 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。^m
- 特記事項は、○印の付いたものを適用する。^m
- 項目に記載の( ) 内番号は標準仕様書の当該項目、図又は表を示す。

章	項目	特記事項																				
1 一般 共通 事項	① 適用基準等	本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準等を用する。^2 1) 建築工事標準詳細 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課整備(令和4年版) 2) 敷地調査共通仕様書 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課整備(令和4年版)																				
	2. 発生材の処理等 (1.3.11)	・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。)施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになつたやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。  分別解体等の方法 <table border="1"><thead><tr><th>工程</th><th>作業の有無</th><th>分別解体等の方法</th></tr></thead><tbody><tr><td>造成等</td><td>・有 ・無</td><td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>基礎・基礎くい</td><td>・有 ・無</td><td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>上部構造部分 ・外装</td><td>・有 ・無</td><td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>屋根</td><td>・有 ・無</td><td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>建築設備・内装等</td><td>・有 ・無</td><td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>その他 ( )</td><td>・有 ・無</td><td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td></tr></tbody></table> ・引渡を要するもの ・有( ) ・特別管理産業廃棄物 ・有( ) 処理方法( ) ・現場において再利用を図るもの( ) ・再資源化を図るもの ・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・建設発生木材 ( )	工程	作業の有無	分別解体等の方法	造成等	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	基礎・基礎くい	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	上部構造部分 ・外装	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	屋根	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	建築設備・内装等	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	その他 ( )	・有 ・無
工程	作業の有無	分別解体等の方法																				
造成等	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																				
基礎・基礎くい	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																				
上部構造部分 ・外装	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																				
屋根	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																				
建築設備・内装等	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																				
その他 ( )	・有 ・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																				
③ リス・プラ への登録		請負金額100万円以上の工事について、受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。 また、工事完了後には「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用																				

### ④ 三重県産業 廃棄物税

促進実施書」をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。  
なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「コプリス・プラス」に登録のうえ、行うこと。

本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。  
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。

### ⑤ 施工条件 (1.3.5)

下記で指定するもの以外は監督員と協議し決定する。

- 施工可能日  
・指定なし ・一部に土、日曜日、祝祭日施工あり
- 施工可能時間帯  
・指定なし ・時～ 時
- 部位別の施工順序  
・指定なし ・( )
- 工事車両の駐車場  
・指定なし ○ 図示(図面番号: ) ・ ( )
- 資材置場  
・指定なし ・ 図示(図面番号: ) ・ ( )

### 6. 概成工期

- 指定なし
- 指定あり( 年 月 日)

### 7. 部分引渡し 部分使用

- 部分引渡しあり ・部分使用あり
- 指定部分( )  
時期( 年 月 日～ )

### 8. 猛暑への対策

- ・本工事は工期に猛暑による作業不能日数を見込んでいる。
- 1) 作業不能日数は、環境省が公表する観測地点(工事場所を所管する建設事務所管内の観測地点とする。なお、伊勢建設事務所管内においては小俣地点、尾鷲建設事務所管内においては尾鷲地点とする。以下観測地点)における WBG 値(気温、湿度、日射・輻射を考慮した暑さ指数)過去5年分について、本工事の工期に対応する期間(行政機関の休日に関する法律(昭和63年法律第91号)に定める行政機関の休日及び夏季休暇(3日)を除く。)において、8時から17時の間に WBG 値が31以上となった時間を算定し、日数に換算したものの5年分を平均したものを。
- 2) 気象状況により工期中に発生した猛暑による作業不能日数(当該現場における定時の現場作業時間において、環境省が公表する観測地点等における WBG 値が31以上となり、かつ受注者が契約工事単位で全作業を中断し、又は現場を閉鎖した時間を算定し、日数に換算したもの(小数点以下第一位を四捨五入する。))が1)の日数から著しく乖離した場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。
- ・本工事は、夏休み等の夏季の一定期間に現場施工の一部が必要となるため、猛暑対策を充分講ずることにより、現場作業の安全に配慮し、工事を行うこと。

- 埋蔵文化財調査  
・ 試掘調査の実施あり(発見された場合、発掘調査等の実施あり)
- ・ 発掘調査等の実施あり

### 10. 電気保安技術 者 (1.3.3)

- ・配置する

### 11. 技能士 (1.5.2)

職種別に可能なものについては積極的に活用すること

### ⑫ 建築材料等

- 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とするほか「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」(最新版)と同等とする。品質が求められる水準以上であれば、県内生産品の優先使用に努めること。
- 本工事で使用する建設資材の調達にあたっては極力県内の取扱業者から購入するよう努めること。
- 製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、三

重県「環境物品等の調達方針」に従い、あらかじめ「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」に準拠した証明書、監督員に提出すること。

- 本工事に使用する木材は、原則として県産材を使用するほか、品質が求められる水準以上であれば、県産材のJAS製材品及び「三重の木」利用推進協議会が認証する「三重の木」の優先利用に努めること。
- 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。
- 下記製品を本工事で使用する場合は、「三重県リサイクル製品利用推進条例」に基づく認定製品を使用する。ただし認定製品が入手できない場合は、監督員と別途協議を行うこと。  
認定製品の品名: ・( )
- 下記製品を本工事で使用する場合は、「三重県リサイクル製品利用推進条例」に基づく認定製品を使用する。ただし認定製品が入手できない場合は、監督員と別途協議を行うこと。  
認定製品の品名: ・ 間伐材製工用パナケード  
・ 間伐材工事看板  
・( )

### 13. 化学物質の 濃度測定 (1.5.10)

測定対象化学物質(●で示したものとす。)	測定対象化学物質(●で示したものとす。)	測定対象化学物質(●で示したものとす。)	測定対象化学物質(●で示したものとす。)	測定対象化学物質(●で示したものとす。)	測定対象化学物質(●で示したものとす。)	測定対象化学物質(●で示したものとす。)
通用	施設用途	学校	住宅	その他	学校	住宅
	学校、教育施設^5	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●
	その他	●	●	●	●	●

対象箇所 ・ 図示(図面番号: ) ・ ( )  
測定方法 ・ パッパ法 ・ アクティブ法  
測定時期 ・ ( )  
報告書提出部数 2部

### 14. 特別な材料 の工法

標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。  
  
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

宮構工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和5年版)に従い撮影する。  
なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について(令和5年3月1日付国営建設第14号)」による。

- 提出図書  
・ 完成図(設計図面同程度とする)
- ・ 安全に関する資料( 1 ) 部  
完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)は発注者に移譲するものとする。  
完成図は(・A2版二つ折り製本1部 ・( ))を監督員に提出すること。

- 撮影箇所数は、外観4面、内観主要室各2面程度とする。規定の箇所数が確保できない場合には、監督員と協議することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)は発注者に移譲するものとする。  
・ 電子媒体で提出する。  
・ 写真は全てL版相当サイズで印刷し、提出する。  
(A4版用紙に1ページあたり3枚) 1部  
・ アルバム(大きさ 335mm×290mm程度 カラー) 1部

- ・ 工事写真は、「宮構工事に係る電子納品マニュアル(デジタル工事写真編)」等に基づき電子媒体で提出すること。  
(提出部数 ・ 3部 ・ 部)
- ・ 工事完成図書は、「宮構工事に係る電子納品マニュアル(工事完成図書編)」に基づき電子媒体で提出すること。  
(提出部数 ・ 3部 ・ 部)

- 施工範囲  
・ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
- ・ 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び補強
- ・ 駆動装置又は電動建具等の2次側配管配線及び操作スイッチ
- 施工図  
・ 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承認を受けること。

### ⑭ 設計GL

### ⑮ 養生その他

### ⑯ 事故の 発生時

### ⑰ 下請回数 制限及び 県内(管 内)企業 優先使用

・ 図示(図面番号: )  
  
工事施工に際し既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、既存にならない補修すること。

工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員に提出すること。  
また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

本工事における下請の回数は、2次(建築一式工事は3次)までとする。なお、その回数を超える下請契約を締結する場合は、下請契約締結前に書面により発注者の承認を得ること。  
本工事において、下請契約を締結する場合は、当該契約の相手方(2次以下の請負人を含む)を三重県内に本店(建設業法において規定する主たる営業所を含む)を有する者の中から選定するように努めること。  
また、工事場所を所管する建設事務所管内又は隣接する建設事務所管内に本店(建設業法において規定する主たる営業所を含む)を有する者を優先して選定するよう努めること。なお、県外企業を下請契約の相手方に選定する場合は、下請契約締結前に書面により発注者に報告を行うこと。^2

### 25. 総合評価 方式

本工事で提案不履行があった場合は、本工事完成年度の翌年度に総合評価方式で発注する案件(以下「発注工事」という。))で、貴社の評価点において発注工事の加算点(満点)の1割を減点します。

### ⑳ 不当介入を 受けた場合 の措置

暴力団員等による不当介入(三重県公共工事等暴力団等排除措置要綱第2条第1項第14号)を受けた場合の措置について  
(1) 受注者は暴力団員等(三重県公共工事等暴力団等排除措置要綱 第2条第1項第12号)による不当介入を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに三重県警察本部に通報し、捜査上必要な協力を行うこと。  
(2) (1)により三重県警察本部に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合は、速やかに発注者に報告すること。発注者への報告は必ず文書で行うこと。  
(3) 受注者は、暴力団員等により不当介入を受けたことから工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。

### 27. 消防法関 係の手続き

- 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成  
・ 本工事( ・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ・ 機械設備工事)  
・ 別途工事
- 防火対象物使用開始届出書  
書類の作成(建築図面の作成及び建築に関する部分の記入)を行うこと。

### ⑳ 主任技術者 又は監理技 術者

- 技術者要件  
工事現場に配置する主任技術者又は監理技術者は、本工事の入札公告で定める技術者要件を満たす者としなければならない。
- 専任を要しない期間  
(1) 現場施工に着手するまでの期間  
請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事が開始されるまでの期間)については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。  
なお、現場施工に着手する日については、請負契約締結後、監督員との打合せにおいて定める。
- 検査終了後の期間  
工事完成後、検査が終了し(発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。)、事務手続、後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、発注者に通知した日とする。

### ㉑ 工事の一時 中止

工事の一時中止の取り扱いについては「三重県工事一時中止に係るガイドライン(令和7年7月一部改定 三重県県土整備部)」による。  
三重県建設工事請負契約書(以下「契約書」という。))第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間における工事現場の維持・管理に関する計画(以下「基本計画書」という。))を発注者に提出し、協議する。  
なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、

1 一般共通事項

30. 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置

労働者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。  
工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。

労働安全衛生法第30条第2項の規定が適用される場合、同項の規定に基づき本工事の受注者を指名する。  
この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

31. 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重

建築基準法に基づき定められた区分等  
基準風速  $V_0 = 46 \text{ m/s}$   
地表面粗度区分 Ⅱ Ⅲ  
積雪区分 (25) cm

32. 火災保険等

契約書第53条第1項の規定により、火災保険、建設工事保険又はその他の保険等に加え、その加入証券等を提示しなければならない。  
(1) 保険の目的物 工事目的物及び工事材料(支給材料を含む)  
(2) 保険の加入期間 工事着手後速やかに加入し、完成引渡しまでの間  
(3) 保険金額 原則として請負金額に相当する金額  
(4) 被保険者 発注者、請負者及びその全請負人

33. 技術検査 (1.6.2)

中間技術検査  
実施回数 ( ) 回  
実施する段階 ( )

34. 施工の検査等 (1.5.5)

見本施工  
・実施する(施工箇所: )

35. 屋外広告物

屋外広告物を設置する場合は、三重県屋外広告物条例第23条に規定する屋外広告物の登録事業者であること。

36. 社会保険等未加入対策

適用除外でないにもかかわらず、社会保険等に未加入である建設業者を下請負人としてはならない。  
受注者は、施工体制台帳・再下請負通知書・作業員名簿により、下請業者が社会保険等に加入しているかどうかを確認すること。  
また、発注者が加入状況を証明する書類の提出又は提示を求めた場合、速やかに対応すること。

37. 現場での安全確保(自主施工の原則)

受注者は、工事中の適切な安全確保の措置等の一切の手段について、自らの責任において定め、工事を実施すること。  
設計図書に明示された施工条件と工事現場が一致せず、安全確保のために指定仮設の変更や計上が必要な場合は、監督員と協議を行い、指示を受けた後、受注者として適切な安全確保の措置を講じたうえで、工事を実施すること。

2 仮設工事

1. 監督員事務所 (2.3.1)

・設置する。  
監督員事務所の規模(単位: m)

適用					
規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

2. 監督員事務所の設備・備品等 (2.3.1)

種類	数量	備品	備品
机、いす	○	書棚	ホワイトボード
長巻	○	適合弁	保護帽
衣類ロッカー	○	冷暖房機器	インターネット
( )	( )	( )	( )

数量については、監督員との協議による。

監督員事務所の仕上げ	
部位等	仕上げ
床	合板張り又はビニール床シート張り?
内壁・天井	合板又はせつこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り?
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、鋼合ペイント塗り

3. 仮設便所

構内既存の施設 ・利用できる ・利用できない

4. 工事用水

構内既存の施設  
・利用できる (○)有償 ・無償 ・利用できない

5. 工事用電力

構内既存の施設  
・利用できる (○)有償 ・無償 ・利用できない  
本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。

6. 足場等 (2.2.4)

足場を設ける場合には、「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における(1)手すり据置き方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行うこと。  
高さが5m以上の箇所での作業を行う場合、労働安全衛生規則の各規定により使用する要求性能墜落制止用器具はフルハネス型とし、「墜落制止用器具の規格」(平成31年1月25日厚生労働省告示第11号)によるものとする。

7. 土工事

1. 遮り及び盛土 (3.2.3)(表3.2.1)  
2. 建設発生土の処理 (3.2.5)

3. 山留めの撤去

4. 地業

1. 適用基準  
本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。  
国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」(平成28年3月4日)

2. 施工記録  
受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。

3. 施工記録の代替  
取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。

4. 根拠資料  
共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料(施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等)は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第32条第4項又は第5項(第39条においてこれらの規定を準用する場合を含む。)の規定による引渡しを受けた日から10年とする。また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。

5. 試験杭及び試験掘 (4.2.2)

6. 支持層  
支持層の位置、土質 ・ 図示(図面番号: ) ・ ( )

7. 水平方向の位置ずれ (4.3.4)(4.5.5)

8. 杭の載荷試験 (4.2.3)  
試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・ ( )  
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。  
位置、本数 ・ 図示(図面番号: ) 載荷荷重 ( ) kN  
報告書 ・ 提出部数 2部  
・ 記載事項 ( )

9. 地盤の載荷試験 (4.2.4)  
試験方法 ・ 平板載荷 ・ ( )  
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。  
位置 ・ 図示(図面番号: ) 載荷荷重 ( ) kN  
報告書 ・ 提出部数 2部  
・ 記載事項 ( )

10. 既設コンクリート杭地業 (4.3.1)(表4.3.1)(4.3.3)(4.3.4)(4.3.8)

種別	杭径(mm)	杭長	継手数	セツト数	長期設計支持力(kN/本)	備考

先端形状 ・ 開放型 ・ 閉せく型  
施工方法  
・ セメントミルク工法  
・ オーガーの支持層への掘削深さ ・ ( )m ・ 図示(図面番号: )  
・ 杭の支持層への根入れ深さ ・ ( )m ・ 図示(図面番号: )  
・ 根固め液及び杭周固定液の管理試験  
・ 標準仕様書[4.3.4(6)~(g)] ・ ( )  
・ 特定埋込杭工法  
・ 杭の根入れ深さ ・ ( )m ・ 図示(図面番号: )  
継手 ・ アーク溶接 ・ 機械式継手  
杭頭処理の方法 ・ 外圧方式 ・ ガイバドカ方式 ・ ( )

11. 鋼杭地業 (4.4.3)(4.4.4)(4.4.5)(4.4.6)(4.3.5)(4.3.8)(7.2.5)(表4.5.1)

鋼管杭 ・ SKK400 ・ SKK490  
H形鋼杭 ・ SHK400 ・ SHK490  
径 ・ φ300 ・ φ350 ・ φ400 ・ φ450 ・ φ( )  
長さ ( )m  
継手の工法 ・ 現場溶接 ・ 機械式継手  
溶接材料 ・ 標準仕様書[7.2.5(1)(2)以外 ( )  
・ 特定埋込杭工法  
・ 杭の根入れ深さ ・ ( )m ・ 図示(図面番号: )  
杭頭処理の方法 ・ ガス切断 ・ ( )

12. 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1)(4.5.4)(4.5.5)(4.5.6)(表4.5.1)

施工方法  
・ アースドリル工法 ・ リバース工法  
・ オールケーシング工法 ・ 鋼管コンクリート杭工法  
掘削 ・ 行わない ・ 行う( )  
杭の根入れ深さ ・ ( )m ・ 図示(図面番号: )  
孔壁の超音波測定 ・ 行う ・ 行わない  
帯筋の加工及び組立 ・ 図示(図面番号: )  
鉄筋の最小かぶり厚さ ( )mm  
鉄筋かごの補強 ・ 図示(図面番号: )  
継手 ・ 重ね継手 ・ ( )  
コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種  
設計基準強度 ( )N/mm  
セメントの種類 ・ 高炉セメントB種 ・ ( )  
スランプ (cm) ・ 21 ・ ( )  
構造体強度補正值(S) ・ 3N/mm ・ ( )  
鋼管部分の材料 ( )

13. 地盤改良 (4.7.1)~(4.7.4)(4.8.1)~(4.8.4)

・ 深層混合処理工法  
固化材の種類 ( )  
方式 ・ 機械攪拌方式 ・ ( )  
改良体の設計基準強度 (Fc) ( )  
改良体長さ( ) 改良率( ) 改良体幅( )  
・ 特殊な地盤等で試験施工を行う ・ 図示 ・ ( )

・ 浅層混合処理工法  
固化材の種類 (セメント系固化材)  
方式 ・ 原位置混合方式 ・ ( )  
改良体の設計基準強度 (Fc) (1000.00)  
改良対象土( ) 改良範囲( ) 改良厚さ(1.0m)

施工前の室内配合試験  
対象とする地層 ・ 図示 ・ ( )  
・ 一軸圧縮試験(JIS1216による) 供試体数 ( )  
・ 六面クロム溶出試験  
(「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六面クロム溶出試験実施要領(案)」の一部変更について)(平成13年4月20日 国官技第16号、国営建第1号)による)

完了後の室内配合試験  
・ 一軸圧縮試験(JIS1216による) 検査対象 ( )  
コア採取方法 ( ) 供試体数 ( ) 検査方法 ( )  
・ 六面クロム溶出試験  
(「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六面クロム溶出試験実施要領(案)」の一部変更について)(平成13年4月20日 国官技第16号、国営建第1号)による)

14. 砂及び砂利地業 (4.6.2)(4.6.3)

砂利 ・ 再生リサイクル ・ 切込砂利 ・ 切込砕石 ・ ( )  
砂 ・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂 ・ ( )  
施工範囲 ・ 図示(図面番号: )  
厚さ ○60mm ・ ( )mm  
・ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。

15. 雑コンクリート地業 (4.6.4)

厚さ ○50mm ・ ( )mm  
施工範囲 ・ 図示(図面番号: )  
・ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。

16. 床下防湿層 (4.6.2)(4.6.5)

施工範囲 ・ 図示(図面番号: )  
ポリエチレンフィルム厚さ ・ 0.15mm以上 ・ ( )

1. 鉄筋の種類 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	径	備考
○SD295	○D16以下	
○SD345	○D19以上	

・ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの

5. 鉄筋工事

2. 溶接金網 (5.2.2)

鉄線の形状 ・ 丸鉄線 ・ 異形鉄線(・リブ・インデント)  
鉄線の径 ・ 4mm ・ 5mm ・ 6mm ・ ( )mm  
網目寸法 ・ 100×100mm ・ 150×150mm ・ ( )mm

3. 内法直径 (5.3.2)

90°未満の折曲げの内法直径 ・ 図示(図面番号: )

4. 継手・定着 (5.3.4)(表5.3.2)(表5.3.3)(表5.3.4)(表5.3.3)

	径	部位
○重ね継手	D16以下	
○ガス圧接	D19以上	

主筋及び前立筋の重ね継手の長さ  
○ 標準仕様書[5.3.4(3)(7)後段] ・ 図示(図面番号: )  
継手位置  
・ 各部配筋参考図による ・ 図示(図面番号: )  
・ 隣り合う接手を同一か所に設ける場合(先組み工法等) ・ 図示(図面番号: )  
鉄筋定着  
○ 標準仕様書[表5.3.4] ・ 図示(図面番号: )  
○ 標準仕様書[図5.3.3] ・ 図示(図面番号: )  
機械式定着工法の適用 ・ あり ・ なし  
・ 適用箇所(図面番号: ) ・ 種類(図面番号: )

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ  
○ 標準仕様書[表5.3.6] ・ 図示(図面番号: )

5. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5)(表5.3.6)

6. 各部配筋 (5.3.7)

7. 圧接完了後の試験 (5.4.10)

抜き試験方法 ・ 超音波探傷試験 ・ 引張試験  
引張試験方法 ○ 標準仕様書[5.4.10(4)(b)] ・ ( )

8. 機械式継手及び溶接継手 (5.5.3)(5.5.5)(5.6.3)(5.6.5)

・ 機械式継手 適用箇所( )  
種類( ) 性能( )  
施工完了後の継手部の試験( )  
試験項目( )、試験方法( )  
不合格となった継手部への措置( )  
鉄筋相互のあき( )mm

○ 溶接継手 適用箇所( )  
工法( ) 性能( )  
施工完了後の溶接部の試験( )  
試験項目( )、試験方法( )  
不合格となった溶接部への措置( )  
鉄筋相互のあき( )mm

Table with 2 columns: Item description (e.g., ①コナトの使用骨材による種類及び強度) and Technical specifications (e.g., 普通コンクリートの設計基準強度, 軽量コンクリートの設計基準強度).

Table with 2 columns: Item description (e.g., 11. マスコンクリート) and Technical specifications (e.g., 適用箇所, セメントの種類, スラブ).

Table with 2 columns: Item description (e.g., ⑧ハンパル, 9. デボプレート) and Technical specifications (e.g., 種類及びねじの呼び等, 材質、形状及び寸法).

Table with 2 columns: Item description (e.g., 20. 耐火被覆, 21. 軽量形鋼) and Technical specifications (e.g., 耐火性能, 接合部 (ボルト接合の場合)).

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

Table with 6 columns: 区分, 単位荷重 (N/mm), 呼び寸法 (厚さ, 幅, 長さ), 構法, 耐火性能. Rows include 外壁パネル, 間仕切壁パネル, 屋根パネル, 床パネル.

パネル幅を300mm未満とする部分 適用あり
外壁耐風性能 設計風圧力 ( N/m<sup>2</sup>)
間仕切壁パネル耐震性能 層間変形角 ( )

Table with 5 columns: 種類, 表面形状及び原料区分, 板厚 (mm), 動き幅 (mm), 工法. Rows include 外壁パネル, 間仕切壁パネル.

パネル幅を300mm未満とする部分 適用あり
パネル相互の目地幅 (パネル幅900mm以下は、長辺10mm以上、短辺 16mm以上とし、900mmを超えるものは、長辺短辺ともに15mm以上とする)

9 防水工事

1. アスファルト防水 (表9.2.3) ~ (表9.2.8) (9.2.2) (9.2.3) 改質アスファルトルーフィングシート 種類・標準仕様書[表9.2.3] ~ [表9.2.8] ・図示( ) 厚さ・標準仕様書[表9.2.3] ~ [表9.2.8] ・図示( ) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類・標準仕様書[表9.2.5] ~ [表9.2.8] ・図示( ) 厚さ・標準仕様書[表9.2.5] ~ [表9.2.8] ・図示( ) 絶縁用シート ・ポリエチレンフィルム(厚さ 0.15mm以上) ・フラットヤーンクロス (70g/m<sup>2</sup>) 押え金物 ・アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm) ・図示(図面番号: ) 断熱材 ・屋根保護断熱工法 厚さ( ) mm ・屋根露出防水断熱工法 種類( ) 厚さ( ) mm 屋根保護防水 立上り部の保護工法・図示(図面番号: ) 乾式保護材・使用する 立上り部保護れんが・JIS R 1250 ・( ) 断熱工法における立上り部への断熱材及び絶縁シート・設置する 脱気装置 ・設置数量 図示(図面番号: ) 種類( ) 屋根露出防水における仕上塗料 ・図示(図面番号: ) 種類( ) 使用量( ) 屋内防水密着工法における保護層 ・図示(図面番号: ) E-1の工程3・行う・行わない (9.2.4) 防水層の地下モルタル塗り ・図示(図面番号: ) 立上りのコンクリート打放し仕上げの種類 種類・B種・( ) 屋根露出防水絶縁断熱工法 ルーフドレン回り及び立上り部周辺断熱材の張りじまい位置 ・図示(図面番号: ) (9.2.5) 保護コンクリートの厚さ こて仕上げ・水下 80mm以上 ・( ) 床タイル張り・水下 60mm以上 ・( ) 立上り部の保護方法 ・乾式保護材・れんが押え・コンクリート押え ・モルタル押え(屋内等)・( ) 屋上排水溝 ・図示(図面番号: )

2. 改質アスファルトシート防水<sup>3</sup> (9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1) ~ (表9.3.3) 改質アスファルトシート 種類・標準仕様書[表9.3.1] ~ [表9.3.3] ・図示( ) 厚さ・標準仕様書[表9.3.1] ~ [表9.3.3] ・図示( ) 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート 種類・標準仕様書[表9.3.2]、[表9.3.3] ・図示( ) 厚さ・標準仕様書[表9.3.2]、[表9.3.3] ・図示( ) 押え金物の材質、形状、寸法 ・アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm) ・( ) 仕上塗料 ・図示(図面番号: ) 種類( ) 使用量( ) 脱気装置・設置数量 図示(図面番号: ) 種類( ) (表9.3.3) 断熱材 ・屋根露出防水絶縁断熱工法 種類( ) 厚さ( ) mm 防湿用シートの設置・有り・無し

3. 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2) (9.4.3) (9.4.4) (表9.4.1) (表9.4.2) (表9.4.3) ルーフィングシート 種類・標準仕様書[表9.4.1] ~ [表9.4.3] ・図示( ) 厚さ・標準仕様書[表9.4.1] ~ [表9.4.3] ・図示( ) 可塑性移行防止用シート ・発泡ポリエチレンシート ・( ) 固定金具 材質、寸法形状( ) ・図示(図面番号: ) 断熱材 種類、厚さ ・機械的固定工法 図示(図面番号: ) ・接着工法 図示(図面番号: ) 仕上塗料 ・図示(図面番号: ) 種類( ) 使用量( ) 防湿用フィルムの設置・有り・無し 屋内保護密着工法 モルタル塗り厚さ・( ) mm 立上り部の保護モルタル塗厚さ・( ) mm 目地処理(接着工法) PC下地・図示(図面番号: ) 増張り(S-F1、S1-F1) PC入隅部・図示(図面番号: ) 機械的固定工法 風圧力に対応した工法・図示(図面番号: ) 脱気装置 ・設置数量 図示(図面番号: ) 種類( )

4. 塗膜防水 (9.5.3) (表9.5.1) (表9.5.2) 施工箇所 種別 2階、R階平場、立上壁 X-2 Y-1 Y-2

5. ケイ酸質系塗布防水 (9.6.4) 防水層の地下 壁及び天井部の仕上げ・コンクリート打放し仕上げ(B種) ・図示(図面番号: ) 防水層下地のコンクリートの打継ぎ箇所の地下処理 ・標準仕様書[9.6.4](2)(7)後段・( ) 標準仕様書[9.6.4](2)(4)及び(5)以外の処理・( ) ・標準仕様書[表9.7.1]による 種類 材種 目地寸法 施工箇所 ・SR-1 シリコン系 ・MS-2 変成シリコン系 ・PS-2 ポリサルファイド系 ・PU-2 ポリウレタン系 ※仕上げを行う場合はノンブリードタイプ、水回りに使用するSR-1は防かびタイプとする。 接着性試験 ・簡易接着性試験 ・引張接着性試験 工事区分 材料名 保証年数 防水工事 ○ 防水 ○ 10年 年 防水工事 ○ シーリング ○ 5年 年 ※防水工事業者、製作メーカー、受注者の連名により提出する。

6. シーリング (9.7.2) (9.7.3) (表9.7.1) (9.7.5) 7. 保証書 1. 共通 (10.1.3) 2. 天然石 (10.2.1) (10.2.2) (表10.2.1) (表10.2.2) 使用部位 種類(名称) 寸法(mm) 表面仕上げ 工法 形状 床 ・粗磨き ・( ) 壁 ・水磨き ・( ) ジェットバーナー仕上面 パフ仕上 ・あり・なし

10 石工事

3. テラゾ (10.2.1) (表10.2.2) テラゾタイル 使用部位 種石の種類 種石の大きさ 寸法による区分 表面仕上 ・大理石 ・1.5~12mm ・300型 ・400型 テラゾブロック 使用部位 種石の種類 種石の大きさ 形状 仕上げ面 寸法(mm) 表面仕上 ・大理石<sup>1</sup> ・1.5~12mm<sup>1</sup> ・平もの<sup>1</sup> ・片面 ・( )<sup>1</sup> ・役もの<sup>1</sup> ・両面 4. その他の材料 (10.2.3) 取付用モルタル ・図示(図面番号: ) 目地用モルタル ・図示(図面番号: ) 浸透性吸水防止剤 ・図示(図面番号: ) 石表面処理材 ・図示(図面番号: ) 裏打ち処理材 ・図示(図面番号: ) 充填材料 ・図示(図面番号: ) 5. 外壁湿式工法 (10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3) 受金物の材質、形状、寸法 ・図示(図面番号: ) アンカーの材質及び寸法 材質・SS400 ・( ) 寸法( ) あと施工アンカーの材質及び寸法 ・( ) ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製/タイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ ・( ) 石材の厚さ ・25mm以上 ・( ) 石表面処理 ・適用する 裏打ち処理 ・適用する 下地ごしらえ ・流し筋工法 ・あと施工アンカー工法 ・あと施工アンカー横筋流し工法 目地 一般目地 目地幅 ・6mm ・7mm ・8mm ・9mm ・10mm シーリング材の有無・有り・無し 伸縮調整目地 位置・標準仕様書[表11.1.1] ・図示(図面番号: ) シーリング材の目地寸法 ・幅、深さとも6mm以上 ・図示(図面番号: ) 6. 内壁干積工法 (10.2.2) (10.3.3) (10.4.2) (10.4.3) 受金物の材質、形状、寸法 ・図示(図面番号: ) アンカーの材質及び寸法 材質・SS400 ・( ) 寸法( ) あと施工アンカーの材質及び寸法 ・( ) 石材の厚さ ・20mm以上 ・( ) 下地ごしらえ ・あと施工アンカー・横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法 目地 一般目地 目地幅 ・6mm ・7mm ・8mm ・9mm ・10mm 伸縮調整目地 位置・6mごと ・図示(図面番号: ) シーリング材の目地寸法 ・幅、深さとも6mm以上 ・図示(図面番号: ) 7. 外壁乾式工法 (10.2.2) (10.5.2) (10.5.3) (表10.2.4) 金物の種類、形状、寸法 ・図示(図面番号: ) 取り付け工法 ・スライド方式 ・ロックン方式 アンカーの材質及び寸法 材質・SUS304 ・( ) 寸法( ) あと施工アンカーの材質及び寸法 ・( ) 石材の厚さ ・30mm以上(外壁) ・25mm以上(内壁) ・( ) たぼり穴の位置 ・図示(図面番号: ) 裏打ち処理 ・適用する 風圧力に対応した工法 ・図示(図面番号: ) 目地 目地幅 ・8mm以上 ・( ) シーリング材 ・適用する

8. 床及び階段の石張り (10.3.3) (10.6.2) (10.6.3) 石材の厚さ ・( ) mm 石表面処理 ・適用する(浸透性吸水防止剤) 裏打ち処理 ・適用する(浸透性吸水防止剤) 目地 一般目地 目地幅 ・屋外4mm以上、屋内3~6mm ・図示(図面番号: ) 伸縮調整目地 位置・標準仕様書[10.6.2](5)(4)後段 ・図示(図面番号: ) シーリング材の目地寸法 ・幅、深さとも6mm以上 ・図示(図面番号: ) 取付け金物 ・標準仕様書[10.2.2](3)(7)の各後段 ・( ) アンカーの材質及び寸法 材質・SUS304 ・( ) 寸法( ) あと施工アンカーの材質及び寸法 ・( ) 取付工法 ・湿式工法 ・乾式工法 石材の厚さ ・( ) mm 石表面処理 ・適用する 取付け代(乾式工法の場合) ・標準仕様書[10.5.3](2) ・( ) mm 石裏の補強用モルタル(乾式工法の場合) ・適用する 図示(図面番号: ) 目地 一般目地 目地幅 ・( ) mm 伸縮調整目地(外壁湿式工法の場合) 位置 ・図示(図面番号: ) シーリング材の目地寸法 ・幅、深さとも6mm以上 ・図示(図面番号: ) 石材の厚さ ・40mm ・( )

11 タイル工事 1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3) (表11.1.1) 2. タイル張り (11.2.3) (11.2.2) (11.2.3) (11.3.2) (11.3.3) (11.3.4) (表11.3.2) (11.1.4) (11.2.6) (11.3.5) タイルの種類・工法 施工箇所 工法 種類 形状寸法 耐滑り性 うわぐすり 役物 標準・特注色 耐薬害性 ・試験張りを行う ・見本焼きを行う ・既設合モルタル材料( ) セメントモルタル塗り又は有機系接着剤あと張り工事 コンクリート素地の処理・適用箇所 図示(図面番号: ) ・目荒し工法 ・MCR工法 有機系接着剤あと張り工事 シーリング材の種類 打継、ひび割れ誘発目地 ・PU-2 ・( ) 伸縮、その他目地 ・MS-2 ・( ) 外装タイル接着剤張りの目地詰め ・行う ・行わない

12 木 工 事

1. 木材 (12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) (表12.2.1)

2. 製材 (12.2.1) (2) (7) 2

(12.2.1) (2) (4) (表12.2.2)

3. 集成材等 (12.2.1) (3)

4. 造作用単板 積層材 (12.2.1) (4)

5. 直文集成材 (12.2.1) (5)

6. 合板等 (12.2.1) (6)

木材の含水率

部材名称	種別
下地材	・A種 ・B種
造作材	・A種 ・B種

「JAS 1083」による製材

	寸法	等級	含水率	保存処理	県産材
下地用製材	・図示 ( : )	・2級 ( )			
造作用製材	・図示 ( : )	・小節以上 ・小節以上 ( )			
広葉樹製材	・図示 ( : )	・1級 ( )	・10% 以下		

「JAS 1083」以外の製材

樹種、寸法、材面の品質、防虫処理及び含水率

・図示 (図面番号: )

造作材の材面の品質 ・A種 ( )

樹種

樹種	部位	樹 種	県産材

「JAS 1152」による造作用集成材等

	品名・樹種・寸法 見付け材面数	見付け材面の品質	化粧薄板厚さ
造作用集成材	・図示 (図面番号: )	・1等 ( )	
化粧ばり造作用集成材	・図示 (図面番号: )	・1等 ( )	

「JAS 1152」以外の造作用集成材等

樹種、寸法、見付け材面の品質及び含水率等

・図示 (図面番号: )

「JAS 0701」による造作用単板積層材

品名、寸法、表面の品質及び防虫処理

・図示 (図面番号: )

「JAS 0701」以外の造作用単板積層材

寸法、表面の品質、含水率及び防虫処理

・図示 (図面番号: )

「JAS 3079」による直文集成材

品名、曲げ強度(強度等級)、種別、接着性能(使用環境)、樹種、寸法

・図示 (図面番号: )

品名・品目	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫・保存 <sup>3)</sup> 処理等	厚さ

構造用合板の強度等級

・図示 (図面番号: )

特殊加工化粧合板の化粧加工方法

・オーバーレイ ・プリント ・塗装 ( )

パーティクルボード

表裏面の状態、曲げ強さ、耐水性、難燃性による区分、厚さ等

・図示 (図面番号: )

13 屋 根 及 び と い 工 事

7. 接合具等 (12.2.2) (表12.2.3) ~ (表12.2.5)

8. 防蟻・防蟻 防虫処理 (12.3.1) (12.3.2)

9. RC造等の間仕切軸組及び床組 (12.4.1)

10. 窓、出入口等 (12.5.1)

11. 床板張り (12.6.1)

12. 壁及び天井下地 (12.7.1)

1. 長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3) (表13.2.1)

2. 折板葺 (13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1)

3. 粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3)

ミディアムデンシティーファーパーボード (MDF)

表裏面の状態、曲げ強さ、接着剤、難燃性による区分、厚さ等

・図示 (図面番号: )

造材の化粧面の釘打ち

・隠し釘打ち ・釘埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘埋めし

諸金物の形状、寸法、材質

・図示 (図面番号: )

防蟻・防蟻処理

薬剤加圧注入

適用部材、保存処理性能区分 ・図示 (図面番号: )

薬剤の塗布等

処理方法 ・薬剤の製造所の仕様 ( )

附属書A (規定) に基づく表面処理用木材保存剤による処理

薬剤の種類、適用部材 ・図示 (図面番号: )

薬剤の接着剤への混入 ( )

合板等の加圧注入 ( )

防虫処理 ( )

間仕切軸組に用いる木材 ・杉 ・松 ( )

床組に用いる木材(土間)7) 類の土台、転ばし大引、転ばし根太

・ひのき ・保存処理材 ( )

床組に用いる木材(上記以外) ・杉 ・松 ( )

吊元枠、水掛りの下枠、敷居 ・ひのき ( )

上記以外 ・松 ・杉 ( )

縁甲板、上がりがまち ・ひのき ( )

木材 ・杉 ・松 ( )

屋根葺形式 <sup>2)</sup>	材種	塗膜の耐久性	厚さ (mm)	葺板の寸法	めっき付着量
・立て平葺 ・心木なし瓦葺 ・横葺	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛 <sup>4)</sup> 合金メッキ鋼板 ( )		・0.4		

下葺の種類 ・7) フロア-7) の940 ( )

風圧力に対応した工法 ・図示 (図面番号: )

屋根葺工法に応じた下地留め付け方法等 ・図示 (図面番号: )

横葺のくらは ・つかみ込み納め ・くらは包み納め

雪止め ・図示 (図面番号: )

緊結方法	板厚(mm)	山高(mm)	山ピッチ(mm)	耐力区分
・重ね形	・0.8	・90	・( )	・( )
	・0.6	・( )		
・はぜ締め形	材種			軒先面戸板
	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 ( )			・あり ・なし

断熱材 種別 ・ガラス繊維シート ( )

厚さ ・5mm ( )mm

防火性能 ( )

風圧力に対応した工法 ・図示 (図面番号: )

積雪荷重に対応した工法 ・図示 (図面番号: )

くらは納め ・くらは包み ( )

製 法	形 状	寸 法	産 地	役物の種類	棟の工法

凍害試験 ・行う ・行わない

雪止め瓦 ・使用する

瓦棟木の材種、寸法 ・杉 21×15 ( )

棟補強用心材の材質、寸法 ・杉 40×30 ( )

瓦緊結用釘又はわじの種類、径、長さ ・図示 (図面番号: )

棟補強等に使用する金物等の材質、形状、寸法、留付け方法

・図示 (図面番号: )

下葺材の種類 ( )

風圧力及び地震力に対応した工法 ・図示 (図面番号: )

瓦棟木の留付け工法 ・図示 (図面番号: )

棟の工法 ・7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟 ・のし積み棟

面戸、省口、葺土の露出する瓦接合部の仕上 ・砂利 ・瓦葺用しっくい

14 金 属 工 事

④ ① ② ③ ④

(13.5.2) (表13.5.1) (表13.5.2) (13.5.3) (表13.5.4)

材種 ① 硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ・配管用鋼管(白管) ( )

表面処理鋼板の塗膜の種類 ( )

耐酸被覆鋼板 材質等 ( )

受金物及び足金物の材種、形状、取付け間隔 ・図示(図面番号 )

軒どいの取付け間隔(多雪地域) ・0.5m以下 ( )

鋼管製といの防露巻工法 ・標準仕様書[表13.5.4] ( )

1. アルミニウム (14.2.1) (表14.2.1)

2. 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2) (表14.2.2)

3. 軽量鉄骨 天井下地 (14.4.2) (表14.4.1) (14.4.3) (表14.4.2) (14.4.4)

4. 軽量鉄骨壁 下地 (14.5.3) (表14.5.1) (14.5.4)

5. 金属成形板 張り (14.6.2) (14.6.3)

6. アルミニウム 製笠木 (14.7.2) (14.7.3) (表14.7.1)

7. 天井見切縁

8. 点検口

表面処理の種類

・AB-1 ・AB-2 ・AC-1 ・AC-2 ・BA-1

・BA-2 ・BB-1 ・BB-2 ・BC-1 ・BC-2

・C (常温乾燥形の塗装 ( ))

陽極酸化被膜の着色方法 ・二次電解着色 ( )

陽極酸化被膜の色合い等 ( )

亜鉛めっきの種類

・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ・F種

野縁等の種類

屋内 ・19形 ( )

屋外 ・25形 ( )

屋外の野縁受等の間隔 ・図示(図面番号: )

吊りボルトの補強方法 (@90mm超) ・図示(図面番号: )

吊りボルトの水平補強、斜め補強

・天井ふところ>3.0m 図示(図面番号: )

・耐震天井 図示(図面番号: )

・耐風圧の補強 図示(図面番号: )

スタッド、ランナーの種類

・50型 ・65型 ・90型 ・100型 ・スタッドの高さによる区分

・図示(図面番号: )

スタッドの高さ5m超

・図示(図面番号: )

出入口、開口部の補強 ・標準仕様書[14.5.4] (5) 後段 ( )

施工箇所	種 別	形 状	表面処理
	・アルミニウム ・ステンレス ・鋼	・スバンドレル形 ・パネル形	・

取付け用下地 ・図示(図面番号: )

長尺ものにおける伸縮調整継手

・設ける 図示(図面番号: )

部材の種類 ・250形 ・300形 ・350形

表面処理 ( )

固定方法 ・図示 (図面番号: )

風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・図示 (図面番号: )

材種 ・アルミニウム合金製 ・塩化ビニル製

取付箇所	材種	寸法	形式
・天井	・アルミニウム製	・450角 ・600角	・縦線タイプ ・目地タイプ
・床	・アルミニウム製	・450角 ・600角	

15 左 官 工 事

1. ラス系下地 (15.2.4)

2. せっこうボード 其他のボード下地 (15.2.5)

3. こまい下地 及び木ずり下地<sup>2)</sup> (15.2.6) (15.2.7)

④ ① ② ③ ④

④ ① ② ③ ④

(15.3.2) (15.3.5)

5. 仕上塗材仕上 (15.6.2) (表15.6.1)

通気構造 ・二層下地 ・単層下地

直張り工法 ・ラスモルタル下地 ・ラスシートモルタル下地

ラス及び補強用プラス

材料記号	種類	質量 (kg/m <sup>2</sup> )
・K ( )	・( )	・( )

ラスシート

山高 (mm)	山ピッチ (mm)	質量 (kg)	溶接ピッチによる区分
・( )	・( )	・( )	・( )

外張断熱工法 ・図示 (図面番号: )

ステープルの形状、寸法 ・図示 (図面番号: )

換気口部の措置 ・標準仕様書(木造)[11.4.3] (2) ( ) ( )

耐力壁のラスシートの施工 ・図示 (図面番号: )

せっこうボード、せっこうラスボードの種類、厚さ

・図示 (図面番号: ) ( )

木質系セメント板の種類、厚さ

・図示 (図面番号: ) ( )

耐力壁の指定 ・図面 (図面番号: )

木ずり用小板の樹種

・杉(芯去り材) ・図示 (図面番号: )

材料 ・現場調合材料 ・既調合材料

既製目地材 ・使用する 図示 (図面番号: )

床の目地 ・図示 (図面番号: A- )

下地モルタル、下地調整塗材の接着力試験 (外壁タイル張り等)

・実施する

種 類	呼 び 名	仕 上 形 状	工 法
薄付仕上塗材	・外装塗材E	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状	・吹付け
	・内装塗材E	・砂壁状ジュラク	
	・( )	・( )	・( )
厚付け仕上塗材 <sup>2)</sup>	・外装厚塗材C	・吹出し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・吹付け ・こて
	・外装厚塗材Si	・吹出し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状	・吹付け ・こて
	・外装厚塗材E	・ひき起こし	・ローラー
	・( )	・( )	・( )
	・( )	・( )	・( )
複層仕上塗材	・複層塗材E ・複層塗材RC	・ゆず肌状	・ローラー
	・防水型複層塗材E ・防水型複層塗材RC	・凸部処理 ・凹凸状	
	・( )	・( )	・( )
	・( )	・( )	・( )
軽量骨材 仕上塗材	・吹付け軽量塗材	・砂壁状	・吹付け
	・こて用軽量塗材	・平たん状	・こて

内装薄塗材、内装厚塗材 (吸放湿性を有するもの)

・JIS A 6909 調湿形

複層仕上塗材の耐水性 ・耐水性3種 ( )

外装厚塗材<sup>2)</sup>の上塗材

・セメントスタッコ以外の場合 材所要量( )kg/m<sup>2</sup>

外装厚塗材Si、Eの上塗材の適用 ・あり ・なし

15 左官工事

Table with 3 columns: 樹脂種類, 溶媒種類, 外観. Rows include アクリル系, シリカ系, ポリウレタン系, アクリルシリコン系, ふっ素系.

- 6. マステック塗材塗り (表15.7.2)
7. しっくい塗り (表15.10.1-15.10.5)
8. こまい壁塗り (表15.11.1-15.11.9)
9. ロックウール吹付け (表15.12.3)

- 5. 網戸等 (表16.2.3)
6. 樹脂製建具 (表16.3.1-16.3.4)
7. 鋼製建具 (表16.4.1-16.4.6)

- 8. 鋼製軽量建具 (表16.5.1-16.5.5)
9. ステンレス製建具 (表16.6.1-16.6.6)
10. 木製建具 (表16.7.1-16.7.7)

16 建具工事

- 1. 防火戸 (表16.1.3)
2. 見本の製作等 (表16.1.4)
3. 防犯建物部品 (表16.1.6)
4. 7&M製建具 (表16.2.1-16.2.5)
1. 防火戸 (表16.1.3)
2. 見本の製作等 (表16.1.4)
3. 防犯建物部品 (表16.1.6)
4. 7&M製建具 (表16.2.1-16.2.5)

- 11. 建具用金物 (表16.8.1-16.8.5)
12. 自動ドア開閉装置 (表16.9.1-16.9.4)
13. 自閉式上吊り引戸装置 (表16.10.1)
14. 重量シャッター (表16.11.1-16.11.3)
15. 軽量シャッター (表16.12.1-16.12.4)
16. オーバーヘッドドア (表16.13.1-16.13.3)

- 17. ガラス (表16.14.1-16.14.3)
18. ガラスブロック積み (表16.14.5)

- 1. 種類 (表17.1.1-17.1.3)
2. 性能等 (表17.1.3-17.3.2)
3. メタルカーテンウォール (表17.2.1-17.2.3)
4. PCカーテンウォール (表17.3.1-17.3.6)

17 カーテンウォール工事

- 17. ガラス (表16.14.1-16.14.3)
18. ガラスブロック積み (表16.14.5)

- 1. 種類 (表17.1.1-17.1.3)
2. 性能等 (表17.1.3-17.3.2)
3. メタルカーテンウォール (表17.2.1-17.2.3)
4. PCカーテンウォール (表17.3.1-17.3.6)

Table with 4 columns: 材料, 規格等, 見え振り部の仕上げ, 映像調整. Row 1: アルミニウム製, 標準仕様書[16.2.3], 行う.

Table with 2 columns: 製品の寸法許容差, ガラス溝の寸法、形状等. Row 1: 標準仕様書[表17.2.1], 製造所の仕様による.

Table with 2 columns: 躯体付け金物取付け位置の寸法許容差, カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差. Row 1: 標準仕様書[表17.2.2], 標準仕様書[表17.2.3].

Table with 2 columns: カーテンウォールの材料, カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差. Row 1: コンクリートの種類及び品質, 標準仕様書[表17.3.1].

Table with 2 columns: 表面仕上げ材, カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差. Row 1: 磁器質タイル, 標準仕様書[表17.3.2].

18 塗装工事

1. 材料
② 施工一般
(18.1.4)
(18.2.2)
~(18.12.2)
・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)
下地 種別 素地ごしらえ 錆止め塗料の種類 錆止め塗料塗りの種別
・木部
・鉄鋼面
・垂れめっき鋼面
・クリヤラッカー塗り (CL)
種別 素地ごしらえ 着色の適用
・A種
・B種
・適用しない
・溶剤形ステイン
・オイルステイン
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)
種別
・A種
・B種
③ 耐候性塗料塗り (DP) 【鉄鋼面、垂れめっき鋼面】
下地 素地ごしらえ 錆止め塗料の種類 上塗りの等級
・鉄鋼面 B種 (1回目) C種 (2・3回目) D種
・1級
・2級
・3級
④ 耐候性塗料塗り (DP) 【コンクリート面、押出成形セメント版面】
種別 素地ごしらえ 上塗りの等級
・A種
・B種
・C種
・A種
・B種
・1級
・2級
・3級
・つや合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)
下地 種別 素地ごしらえ 錆止め塗料の種類 錆止め塗料塗りの種別
・モルタル面
・コンクリート面
・せっこうボード面
・木部
・鉄鋼面
・垂れめっき鋼面
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)
下地 種別 素地ごしらえ
・モルタル面
・コンクリート面
・せっこうボード面
・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)
種別 素地ごしらえ 着色の適用
・A種
・B種
・適用しない
・適用する

19 内装工事

1. ビニル床シート張り
(19.2.2)
(表19.2.1)
(19.2.3)
2. ビニル床タイル張り
(19.2.2)
(表19.2.1)
3. 特殊機能床材
(19.2.2)
(表19.2.2)
4. ビニル幅木
(19.2.2)
5. 施工
(19.2.3)
6. 3-ベツ敷き
(19.3.2)
(表19.3.1)
(表19.3.2)
・ビグメントステイン塗り
・木材保護塗料塗り (WP)
種別 素地ごしらえ
・A種
・B種
種類 色柄 厚さ(mm) 継目
・FS
・( )
・無地
・柄物
・2.0
・( )
・熱溶接
・突付け
接着剤の種類、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外
・図示 (図面番号: )
寸法・色合 種類 厚さ(mm)
・300×300
・コンポジションビニル床タイル (KT)
半硬質
・2.0
・450×450
・コンポジションビニル床タイル (KT)
軟質
・( )
・ホモニアスピニルタイル
・( )
接着剤の種類、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外
・図示 (図面番号: )
・帯電防止床シート・床タイル 寸法( )mm 厚さ( )mm 種類( ) 性能( )
・視覚障害者用床タイル
種類(・ビニル床タイル ( ))
形状(・300×300 ( ))
・耐動荷重性床シート
種類( ) 厚さ( )mm
・ゴム床タイル
色柄( ) 種類( ) 寸法( ) 厚さ( )mm
接着剤の種類、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外
・図示 (図面番号: )
・防滑性床シート・床タイル 種類( ) 寸法( ) 厚さ( )mm
種類 図示 (図面番号: )
高さ 図示 (図面番号: )
厚さ 図示 (図面番号: )
下地
・モルタル
・コンクリート
・木下地
・( )
接合部の処理
・熱溶接工法
・( )
織りじゅうたん
種別 色柄 バイル形状 織り方
・A種
・B種
・C種
・無地
・柄物
・ループ
・カット
・ワイルトンカーベツ
・ダブルフェースカーベツ
・アキスミンスターカーベツ
種別 色柄 バイル形状 バイル長・寸法、総厚7 工法
・タフテツ
カーベツ
・無地
・柄物
・ループ
・カット
・バイル長
・5~7mm
・4~6mm
・グリッパー
・全面接着
・タイル
カーベツ
・1種
・2種
・無地
・柄物
・ループ
・カット
・総厚さ、サイズ
・6.5mm
・500角
・全面接着

7. 合成樹脂塗床
(19.4.3)
(表19.4.4)
(表19.4.5)
~(表19.4.8)
8. フローリング張り
(19.5.2)
(19.5.3)
(19.5.4)
(19.5.5)
(表19.5.2)
~(表19.5.6)
9. 畳敷き
(19.6.2)
(表19.6.1)
10. せっこうボード、5
その他のボード\*4
及び合板張り\*3
(19.7.2)
(表19.7.1)
(19.7.3)
(表19.7.3)
(表19.7.5)
・帯電性(人体帯電圧の値3kV以下)
タイルカーベツの敷き方 (全面接着工法)
平場
・市松敷き
・模様流し
・図示 (図面番号: )
階段部分
・市松敷き
・模様流し
・図示 (図面番号: )
下敷き材
・第2種2号、呼び厚さ8mm
・図示 (図面番号: )
見切り、押え金物
・材質( )
・種類( )
・形状 (図面番号: )
織じゅうたんの接合方法
・ヒートボンド工法
・( )
・弾性ウレタン塗床材
仕上げ
・平滑仕上げ
・防滑仕上げ
・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材
工法、仕上げ
・薄膜流しのベ工法(・平滑
・防滑)
・厚膜流しのベ工法(・平滑
・防滑)
・樹脂モルタル工法(・平滑
・防滑)
材料
・単層フローリング
(・「フローリング」(1等)
・「フローリング」(1等))
・複合フローリング
・釘留め工法
材料 種別 樹種
・フローリングボード (概太張用)
・複合フローリング (概太張用)
・フローリングボード (直張用)
・複合フローリング (直張用)
・A種
・B種
・C種
・なら
・( )
・なら
・( )
・なら
・( )
・A種
・B種
・C種
・なら
・( )
・接着工法
材料 樹種 厚さ(mm) 幅・長さ 表面不陸緩衝材
・「フローリング」 (直張用)
・「フローリング」 (直張用)
・複合「フローリング」 (直張用)
・A種
・B種
・C種
・なら
・( )
・合成樹脂発泡シート
種別
・A種
・B種
・C種
・D種
・A種の畳床
・JS
・J1
・C種の畳床 PS-(・C20
・C25
・C30)
・D種の畳床 KT-(・I
・II
・III
・K
・N)
衝撃緩和型畳
・C1
・C2
種別 種別 厚さ(mm)
・せっこうボード
壁
・9.5(不燃)\*2
・12.5(不燃)\*2
天井
・化粧せっこうボード\*2
・トラバーチン模様
・9.5(不燃)
・9.5(準不燃)
・木目模様
・9.5(不燃)
・9.5(準不燃)
・ロックウール化粧
吸音板
・普通
・9
・( )
・立体模様
・9
・( )
・けい酸カルシウム板\*2
・タイプII 0.8FK
・( )
・( )
・( )
・( )

20 ユニット及びその他工事

11. 壁紙張り
(19.8.2)
(19.8.3)
12. 断熱材
(19.9.3)
(19.9.4)
1. フリーアクセス\*3
フロア
(20.2.2)
2. 可動間仕切
(20.2.3)
3. 移動間仕切
(20.2.4)
4. トイレブース\*2
(20.2.5)
合板張り
・普通合板
表面の樹種名
・生地のまま
・(透明塗料塗り)ラワン
・(不透明塗料塗り)しな
・( )
板面の品質( ) 厚さ( )mm
防虫処理
・( )
・K1(70材及びなら材)
・天然化粧合板
化粧板の樹種名
・( )
厚さ( )mm
防虫処理
・( )
・K1(70材及びなら材)
・特殊加工合板
化粧加工の方法
・オーバーレイ
・プリント
・塗装
・( )
表面性能( ) 厚さ( )mm
防虫処理
・( )
・K1(70材及びなら材)
天井ボードの重ね張り
・図示 (図面番号: )
合板類の張付け
・A種
・B種
せっこうボードの目地工法
・継目処理
・突付け(・ベベルエッジ
・スクウェアエッジ)
・目透し(・ベベルエッジ
・スクウェアエッジ)
施工箇所 種類 防火性能 品質
素地ごしらえ
せっこうボード面
・A種
・B種
コンクリート面
・A種
・B種
モルタル・せっこうプラスター面
・A種
・B種
断熱材打込み工法
断熱材の種類、厚さ
・図示 (図面番号: )
断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種I
・A種II
・図示 (図面番号 )
断熱材の厚さ
・図示 (図面番号: )
1-70材及び表面仕上げ材の寸法、1-70材70材高さ、耐震性能、所定荷重、帯電防止性能、漏えい抵抗
・図示 (図面番号: )
試験方法
20.2.2(2)(f)(a)~(d)
寸法精度
20.2.2(2)(f)(a)~(c)
組立て方式
・スタッド式
・パネル式
・スタッドパネル式
パネル内建具寸法及び形状
・図示 (図面番号: )
構成材の種類
・図示 (図面番号: )
遮音性
・図示 (図面番号: )
表面仕上げ
・図示 (図面番号: )
操作方法
・手動式
・電動式
表面材の材質及び仕上げ
・図示 (図面番号: )
遮音性
・図示 (図面番号: )
ハンガーレールの取付け下地の補強
・標準仕様書[20.2.4](3)(f)
・図示 (図面番号: )
パネルをランナーに取り付ける部品
・標準仕様書[20.2.4](3)(g)
・図示 (図面番号: )
ハンガーレール
・標準仕様書[20.2.4](3)(h)
・図示 (図面番号: )
ランナー
・標準仕様書[20.2.4](3)(h)
・図示 (図面番号: )
ハンガーレールの固定方法
・溶接
・あと施工アンカー (材質: )、寸法: )
表面材
・メラミン樹脂系化粧板
・ポリエステル樹脂系化粧板
脚部
・幅木
・図示 (図面番号: )
扉小口の材質
・ステンレス製
・アルミ製
ドアエッジの材質
・製造所の仕様による
・( )

5. 手すり (20. 2. 6)	材料の種類 ・アルミ ・ステンレス(仕上げ: )															
6. 階段滑り止め <sup>3</sup> (20. 2. 7)	材種 ・ ステンレスSUS304製 ビニルタイヤ入り(両端フラットエンド付き) ・ (溶融亜鉛メッキ鋼板) 寸法 ・約35mm ・図示(図面番号: ) 工法 ・接着工法 ・埋込み工法															
7. 黒板及び ホワイトボード <sup>4</sup> (20. 2. 9)	黒板の区分 ・焼付け ・( ) 黒板の種類 ・鋼製黒板 ・ほうろう黒板 ・( ) ホワイトボード ・( ) ・図示(図面番号: )															
8. 鏡 (20. 2. 10)	厚さ ・5mm ・( )mm															
9. 表示 (20. 2. 11)	室名札、ピカゲ <sup>7</sup> 、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、 印刷等の種別、取付形式等 ・図示(図面番号: ) ・衝突防止表示 図示(図面番号: ) ・非常用進入口表示 図示(図面番号: )															
10. タラップ (20. 2. 12)	材料の種類 ・ステンレス ・( ) 仕上げ ・研磨等なし ・( )															
11. 煙突 ライニング (20. 2. 13)	適用安全使用温度 ・( )℃ 工法 ・図示(図面番号: )															
12. ブラインド (20. 2. 14)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>スラット</th> <th>開閉方式</th> <th>スラットの成形幅(mm)</th> <th>ヘッドボックス<sup>2</sup>・<sup>2</sup>ボトムレールの材種<sup>5</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 横形 ブラインド<sup>2</sup></td> <td>・ アルミニウム<sup>4</sup>合金 ・ ( )</td> <td>・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ( )</td> <td>・ 25 ・ ( )</td> <td>・ 鋼製 ・ ( )</td> </tr> <tr> <td>・ 縦形 ブラインド<sup>2</sup></td> <td>・ アルミニウム<sup>4</sup>合金 ・ ( )</td> <td>・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ( )</td> <td>・ 80 ・ 100 ・ ( )</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※幅、高さの寸法 図示(図面番号: )</p>	形式	スラット	開閉方式	スラットの成形幅(mm)	ヘッドボックス <sup>2</sup> ・ <sup>2</sup> ボトムレールの材種 <sup>5</sup>	・ 横形 ブラインド <sup>2</sup>	・ アルミニウム <sup>4</sup> 合金 ・ ( )	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ( )	・ 25 ・ ( )	・ 鋼製 ・ ( )	・ 縦形 ブラインド <sup>2</sup>	・ アルミニウム <sup>4</sup> 合金 ・ ( )	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ( )	・ 80 ・ 100 ・ ( )	
形式	スラット	開閉方式	スラットの成形幅(mm)	ヘッドボックス <sup>2</sup> ・ <sup>2</sup> ボトムレールの材種 <sup>5</sup>												
・ 横形 ブラインド <sup>2</sup>	・ アルミニウム <sup>4</sup> 合金 ・ ( )	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ( )	・ 25 ・ ( )	・ 鋼製 ・ ( )												
・ 縦形 ブラインド <sup>2</sup>	・ アルミニウム <sup>4</sup> 合金 ・ ( )	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ( )	・ 80 ・ 100 ・ ( )													
13. ロール スクリーン (20. 2. 15)	操作方式 ・スプリング式 ・コード式 ・電動式 寸法及び材種 ・図示(図面番号: )															
14. カーテン及び <sup>3</sup> カーテンレール <sup>4</sup> (20. 2. 16)	カーテンの形式等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>生地</th> <th>ひだの種類</th> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ドレープ ・ レース ・ 図示( )</td> <td>・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ<sup>3</sup></td> <td>・ 片引き ・ 引分け</td> <td>・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動</td> </tr> <tr> <td>・ 暗幕 (遮光( )織)</td> <td>・ ( )</td> <td>・ ( )</td> <td>・ ( )</td> </tr> </tbody> </table> <p>暗幕用カーテン両端、上部及び召合せの重なり ・ 300mm以上 ・( ) ・図示(図面番号: )</p> <p>カーテンレール ・アルミ製 ・ステンレス製 強さによる区分 ・10-90 ・( ) 形状 ・シングル ・ダブル 断面形状 ・角形 ・C形 ・D形 仕上げ ・アルマイト ・( ) 付属金物(フック) ・鋼製 ・樹脂製</p>	生地	ひだの種類	形式	開閉操作	・ ドレープ ・ レース ・ 図示( )	・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ <sup>3</sup>	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ 暗幕 (遮光( )織)	・ ( )	・ ( )	・ ( )			
生地	ひだの種類	形式	開閉操作													
・ ドレープ ・ レース ・ 図示( )	・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ <sup>3</sup>	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動													
・ 暗幕 (遮光( )織)	・ ( )	・ ( )	・ ( )													
15. ブレキャスト <sup>4</sup> コンクリート工事 <sup>4</sup> (20. 3. 2) (20. 3. 3) (20. 3. 4)	補強鉄線の径 ・3. 2mm ・( ) 補強鉄線の網目寸法 ・( ) 設計基準強度F <sub>o</sub> 図示(図面番号: ) 配筋 図示(図面番号: ) 取付方法 図示(図面番号: )															
16. 間知石及び <sup>1</sup> 間知ブロック <sup>3</sup> (20. 4. 2) (20. 4. 3)	材種 ・( ) 種類及び質量区分 図示(図面番号: ) 積み方 ・谷積み ・布積み 目塗り ・( ) 伸縮調整目地 ・材種( ) ・厚さ( )mm															

21 排水工事

1. 排水管 (21. 2. 1) (表21. 2. 1)	<p>排水管用材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>管の種類</th> <th>呼び径</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>VP</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 排水管、ふた 種類等 図示(図面番号: ) ・ 側塊の形状、寸法 図示(図面番号: )</p> <p>グレーチングの種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>メインピッチ<sup>3</sup></th> <th>片固定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>場所打ちコンクリート 種類 ・普通コンクリート ・( ) 設計基準強度 ・18N/mm<sup>2</sup> ・( ) スランブ ・15cm ・18cm ・( ) cm 鉄筋の種類等 ・SD295 ・( ) 凍結抑制層の材料 ・( )</p>	材種	管の種類	呼び径	備考	・ 硬質ポリ塩化ビニル管	VP											材質	用途	適用荷重	メインピッチ <sup>3</sup>	片固定										
材種	管の種類	呼び径	備考																													
・ 硬質ポリ塩化ビニル管	VP																															
材質	用途	適用荷重	メインピッチ <sup>3</sup>	片固定																												
2. 排水溝等 (21. 2. 1)	・ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石 試験 ・ 砂の粒度試験																															
3. 地業の材料 (21. 2. 1)	・ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石 試験 ・ 砂の粒度試験																															
4. 埋め戻し土 (21. 2. 1)	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土																															
5. 施工 (21. 2. 2)	場所打ち排水樹の足掛け金物の材料 ・ スチール製(幅400mm、径22mm) ・ 鉄製(径22mm、防錆処置済み) <sup>2</sup> ・ 合成樹脂被膜加工を行ったもの(径19mm) ・ 図示(図面番号: ) <sup>2</sup> 遠心力鉄筋コンクリート管 基礎の厚さ、種類 図示(図面番号: ) 硬質ポリ塩化ビニル管 基礎の厚さ、種類 図示(図面番号: ) 継手 ・ 接着剤 ・ ゴム輪																															
6. 街きよ (21. 3. 1) (21. 3. 2)	コンクリート縁石、側溝 種類、形状、寸法 図示(図面番号: ) 砂利地業 厚さ ・ 100mm 図示(図面番号: )																															

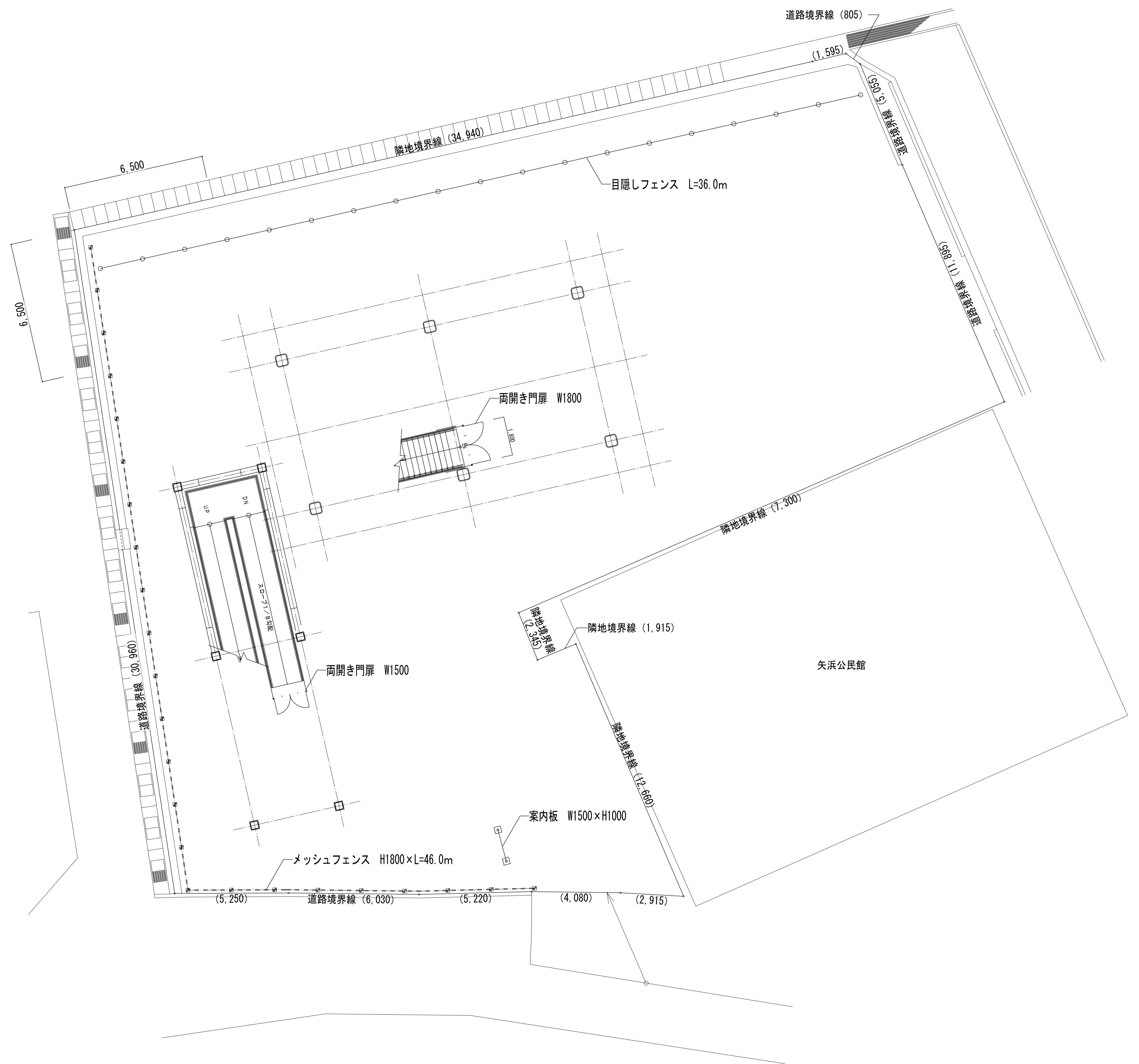
22 舗装工事

1. 路床 (22. 2. 2) (22. 2. 3) (表22. 2. 1) (22. 2. 4) (22. 2. 5)	<p>路床の材料(厚さは図示(図面番号: ))</p> <p>道断層 ・ 川砂 ・ 海砂又は良質な山砂 凍上抑制層 ・ 切込み砂利 ・ 砂 ・ ( ) フィルター層 ・ 砂 路床安定処理 ・ 行う 添加材料による安定処理 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 生石灰( )号 ・ 消石灰( )号 添加量( )kg/m<sup>3</sup>(目標CBR ・ 5以上 ・ ( )) 盛土に用いる材料 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 C種の場合: 建設発生土受入量( )m<sup>3</sup> 片道の運搬距離( )km</p> <p>試験 ・ 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 路床締固め度の試験 ・ 現場CBR試験</p>																		
2. 路盤 (22. 3. 2) (表22. 3. 1) (22. 3. 3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>舗装の種類</th> <th>路盤の厚さ(mm) 車道部 歩道部</th> <th>路盤材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ アスファルト舗装</td> <td>・ ( ) ・ ( )</td> <td>・ 再生クラッシュラン<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・ カラー舗装</td> <td>・ ( ) ・ ( )</td> <td>・ クラッシュラン</td> </tr> <tr> <td>・ 透水性アスファルト舗装<sup>3</sup></td> <td>・ (150) ・ ( )</td> <td>鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td>・ インターロッキング ブロック舗装</td> <td>・ ( ) ・ ( )</td> <td>・ クラッシュラン ・ ( )</td> </tr> <tr> <td>・ ( )</td> <td>・ ( ) ・ ( )</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	舗装の種類	路盤の厚さ(mm) 車道部 歩道部	路盤材料	・ アスファルト舗装	・ ( ) ・ ( )	・ 再生クラッシュラン <sup>3</sup>	・ カラー舗装	・ ( ) ・ ( )	・ クラッシュラン	・ 透水性アスファルト舗装 <sup>3</sup>	・ (150) ・ ( )	鉄鋼スラグ	・ インターロッキング ブロック舗装	・ ( ) ・ ( )	・ クラッシュラン ・ ( )	・ ( )	・ ( ) ・ ( )	
舗装の種類	路盤の厚さ(mm) 車道部 歩道部	路盤材料																	
・ アスファルト舗装	・ ( ) ・ ( )	・ 再生クラッシュラン <sup>3</sup>																	
・ カラー舗装	・ ( ) ・ ( )	・ クラッシュラン																	
・ 透水性アスファルト舗装 <sup>3</sup>	・ (150) ・ ( )	鉄鋼スラグ																	
・ インターロッキング ブロック舗装	・ ( ) ・ ( )	・ クラッシュラン ・ ( )																	
・ ( )	・ ( ) ・ ( )																		

3. アスファルト <sup>2</sup> 舗装 (22. 4. 2)~ (22. 4. 6) (表22. 4. 1)~ (表22. 4. 6)	<p>舗装の構成及び厚さ ・ A-5-15 ・ 図示(図面番号: ) ・ A-3-10 ・ ( )</p> <p>平坦性 ・ 通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・ 図示(図面番号: ) 再生7A7Hの種類 ・ 60~80 ・ 80~100 図示(図面番号: ) 表層の種類 ・ 密粒度7A7H混合物(13) ・ 細粒度7A7H混合物(13) ・ ( )</p> <p>試験 ・ アスファルト混合材等の抽出試験</p>																									
4. コンクリート <sup>2</sup> 舗装 (22. 5. 2)~ (22. 5. 6) (表22. 5. 1)	<p>舗装の構成及び厚さ ・ 図示(図面番号: )</p> <p>平坦性 ・ 通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・ 図示(図面番号: )</p> <p>コンクリートの種類 ・ 普通コンクリート ・ 図示(図面番号: ) 設計基準強度等 ・ 標準仕様書[表22. 5. 1] ・ ( ) 早強セメント ・ 使用する 注入目地材料 ・ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ 目地 ・ 種類( ) ・ 間隔( ) ・ 標準仕様書[表22. 5. 3]</p> <p>目地の構造 ・ 標準仕様書[図22. 5. 1] ・ 図示(図面番号: ) 平坦性 ・ 著しい不陸がないこと ・ 図示(図面番号: )</p>																									
5. カラー舗装 (22. 6. 2) (22. 6. 3) (22. 6. 4) (表22. 6. 1)	<p>種類 ・ 加熱系 構成及び厚さ( ) 結合材 ・ アスファルト ・ 石油樹脂系(顔料の添加量: ) 添加材 ・ 着色骨材 ・ 自然石 ・ 常温系</p> <p>工法 ・ ノート工法 ・ 塗布工法 着色部下部 ・ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装 ノート工法及び塗布工法の配合その他 ・ 図示(図面番号: )</p> <p>試験 ・ アスファルト混合物等の抽出試験</p>																									
6. 透水性アス <sup>1</sup> ファルト舗装 <sup>3</sup> (22. 7. 2)(表22. 7. 1) <sup>5</sup>	<p>舗装構成 ・ 図示(図面番号: )</p>																									
7. ブロック系舗装 <sup>4</sup> (22. 8. 2) (22. 8. 3) (表22. 8. 1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>舗装</th> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ コンクリート<sup>4</sup>平板舗装<sup>2</sup></td> <td>・ 普通平板 ・ 透水平板</td> <td>・ 300角 ・ ( )</td> <td>・ 60 ・ ( )</td> <td>目地 ・ 砂 ・ モルタル<sup>4</sup> 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し</td> </tr> <tr> <td>・ インター<sup>2</sup>ロッキング<sup>2</sup>ブロック舗装<sup>4</sup></td> <td>・ 普通ブロック<sup>4</sup> ・ 透水性ブロック<sup>5</sup></td> <td></td> <td>車道部 ・ 80 ・ ( ) 歩道部 ・ 60 ・ ( )</td> <td>表面加工 ・ 標準品 ・ ( ) 曲げ強度 ・ ( )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 植生用ブロック<sup>5</sup></td> <td></td> <td>・ 80 ・ 100<sup>4</sup></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鋪石舗装</td> <td>・ 小鋪石 ・ 花こう岩 ・ ( )</td> <td></td> <td>・ 80~100<sup>2</sup></td> <td>施工方法 ・ うろこ張り ・ ( ) 基層 ・ コンクリート舗装<sup>4</sup> ・ アスファルト舗装<sup>4</sup> 基層の厚さ ・ ( )mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>コンクリートの平板舗装及び鋪石舗装のクッション材 ・ 砂 ・ 空練りモルタル 図示(図面番号: ) 平坦性 ・ 平板等の段差3mm以内 図示(図面番号: )</p>	舗装	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考	・ コンクリート <sup>4</sup> 平板舗装 <sup>2</sup>	・ 普通平板 ・ 透水平板	・ 300角 ・ ( )	・ 60 ・ ( )	目地 ・ 砂 ・ モルタル <sup>4</sup> 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し	・ インター <sup>2</sup> ロッキング <sup>2</sup> ブロック舗装 <sup>4</sup>	・ 普通ブロック <sup>4</sup> ・ 透水性ブロック <sup>5</sup>		車道部 ・ 80 ・ ( ) 歩道部 ・ 60 ・ ( )	表面加工 ・ 標準品 ・ ( ) 曲げ強度 ・ ( )		・ 植生用ブロック <sup>5</sup>		・ 80 ・ 100 <sup>4</sup>		・ 鋪石舗装	・ 小鋪石 ・ 花こう岩 ・ ( )		・ 80~100 <sup>2</sup>	施工方法 ・ うろこ張り ・ ( ) 基層 ・ コンクリート舗装 <sup>4</sup> ・ アスファルト舗装 <sup>4</sup> 基層の厚さ ・ ( )mm
舗装	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考																						
・ コンクリート <sup>4</sup> 平板舗装 <sup>2</sup>	・ 普通平板 ・ 透水平板	・ 300角 ・ ( )	・ 60 ・ ( )	目地 ・ 砂 ・ モルタル <sup>4</sup> 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し																						
・ インター <sup>2</sup> ロッキング <sup>2</sup> ブロック舗装 <sup>4</sup>	・ 普通ブロック <sup>4</sup> ・ 透水性ブロック <sup>5</sup>		車道部 ・ 80 ・ ( ) 歩道部 ・ 60 ・ ( )	表面加工 ・ 標準品 ・ ( ) 曲げ強度 ・ ( )																						
	・ 植生用ブロック <sup>5</sup>		・ 80 ・ 100 <sup>4</sup>																							
・ 鋪石舗装	・ 小鋪石 ・ 花こう岩 ・ ( )		・ 80~100 <sup>2</sup>	施工方法 ・ うろこ張り ・ ( ) 基層 ・ コンクリート舗装 <sup>4</sup> ・ アスファルト舗装 <sup>4</sup> 基層の厚さ ・ ( )mm																						
8. 砂利敷き (22. 9. 2) (表22. 9. 1)	<p>・ 通路部 ・ A種 ・ B種 ・ ( ) ・ 建物周囲 ・ A種 ・ B種 ・ ( )</p>																									

23 植栽工事

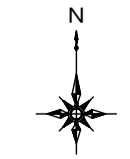
1. 植栽地の確認 <sup>2</sup> (23. 1. 3)	<p>試験 ・ 土壌の水素イオン濃度(pH)試験 ・ 電気伝導率類(EC)の試験 ・ ( )の試験</p>
2. 植栽基盤 (23. 2. 2) (23. 2. 3) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2)	<p>植栽基盤整備工法 樹木 ・ A種 ・ ( ) 芝及び地被類 ・ B種 ・ ( ) 有効土層 面積 図示(図面番号: ) 厚さ 図示(図面番号: )</p> <p>排水設備 ・ 設ける ( ・ 暗きょ ・ 開きょ ・ 排水層 ・ 縦穴排水 ・ ( ) ) 植込み用土 ・ 現場発生の良質土 ・ 客土 土壌改良材 種類、指定量 ・ ( )</p>
3. 植樹 (23. 3. 2) (23. 3. 3)	<p>樹木の種類 図示(図面番号: ) 寸法 図示(図面番号: ) 株立数 図示(図面番号: ) 刈込み ・ あり ・ なし</p> <p>支柱材 丸太(防腐処理方法 ・ 加圧式防腐処理方法 ・ ( ) ) 支柱形式 ・ 添え柱形 ・ 鳥居形 ・ ハツ掛け形 ・ 布掛け形 ・ ワイヤ掛け形 ・ 地下埋設形 幹巻き用材料 ・ 幹巻き用テープ ・ わら ・ こも</p>
4. 新植樹木の <sup>1</sup> 枯補償 (23. 3. 4)	引渡しの日から ・ 1年 ・ ( )
5. 移植樹木の <sup>1</sup> 枯補償 (23. 3. 6)	引渡しの日から ・ 1年 ・ ( )
6. 芝張り、 吹付けは種 及び地被類 (23. 4. 2) (23. 4. 3) (23. 4. 7)	<p>種類 ・ コウライシバ ・ ノシバ ・ ( ) 吹付けは種用種子 種類 ・ 標準仕様書[23. 4. 2]①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p> <p>試験 量 ・ ( ) ・ 図示(図面番号: )</p> <p>地被類種類、芽立数、径、単位面積当たりの株数 ・ 図示(図面番号: )</p> <p>芝張り工法 平地 ・ 目地張り ・ ベタ張り 図示(図面番号: ) 法面 ・ 目地張り ・ ベタ張り 図示(図面番号: )</p> <p>芝張り、吹付けは種及び地被類の枯補償期間 ・ 引渡日から1年間 ・ ( )</p>
7. 屋上緑化 (23. 5. 2) (23. 5. 3) (23. 5. 4) (23. 5. 5)	<p>植栽基盤及び材料 ・ 屋上緑化システム 土壌層の厚さ 図示(図面番号: ) 排水層 ・ 軽量骨材(層の厚さ: ) ・ 板状成形品 植込み用土 ・ 改良土 ・ 人工軽量土</p> <p>樹種・種類、寸法、株立数、刈込み 図示(図面番号: ) 芝及び地被類の樹種並びに種類等 図示(図面番号: ) 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 図示(図面番号: ) 風圧力に対応した工法(建設省告示第1458号) 図示(図面番号: ) 支柱 図示(図面番号: ) かん水装置 図示(図面番号: ) 新植樹木の枯補償期間 ・ 引渡日から1年間 図示(図面番号: ) 芝及び地被類の枯補償期間 ・ 引渡日から1年間 図示(図面番号: )</p>



1. 工事概要

工事名称	矢浜尾鷲市津波避難施設建設工事	
敷地概要	地名地番	三重県尾鷲市矢浜一丁目460-11
	都市計画区域	都市計画区域
	用途地域	指定なし
	防火地域	法22条地域
	敷地面積	1,050.72 m <sup>2</sup>
	指定建ぺい率	70 %
	指定容積率	200 %
	高さ制限	—
	道路	
	敷地と接している道路長さ	72.210m
建物概要	建物用途	その他
	構造	鉄骨造
	建築面積	170.00 m <sup>2</sup>
	延床面積	340.00 m <sup>2</sup>
	建ぺい率	
	容積率	
	最高高さ	
	軒の高さ	

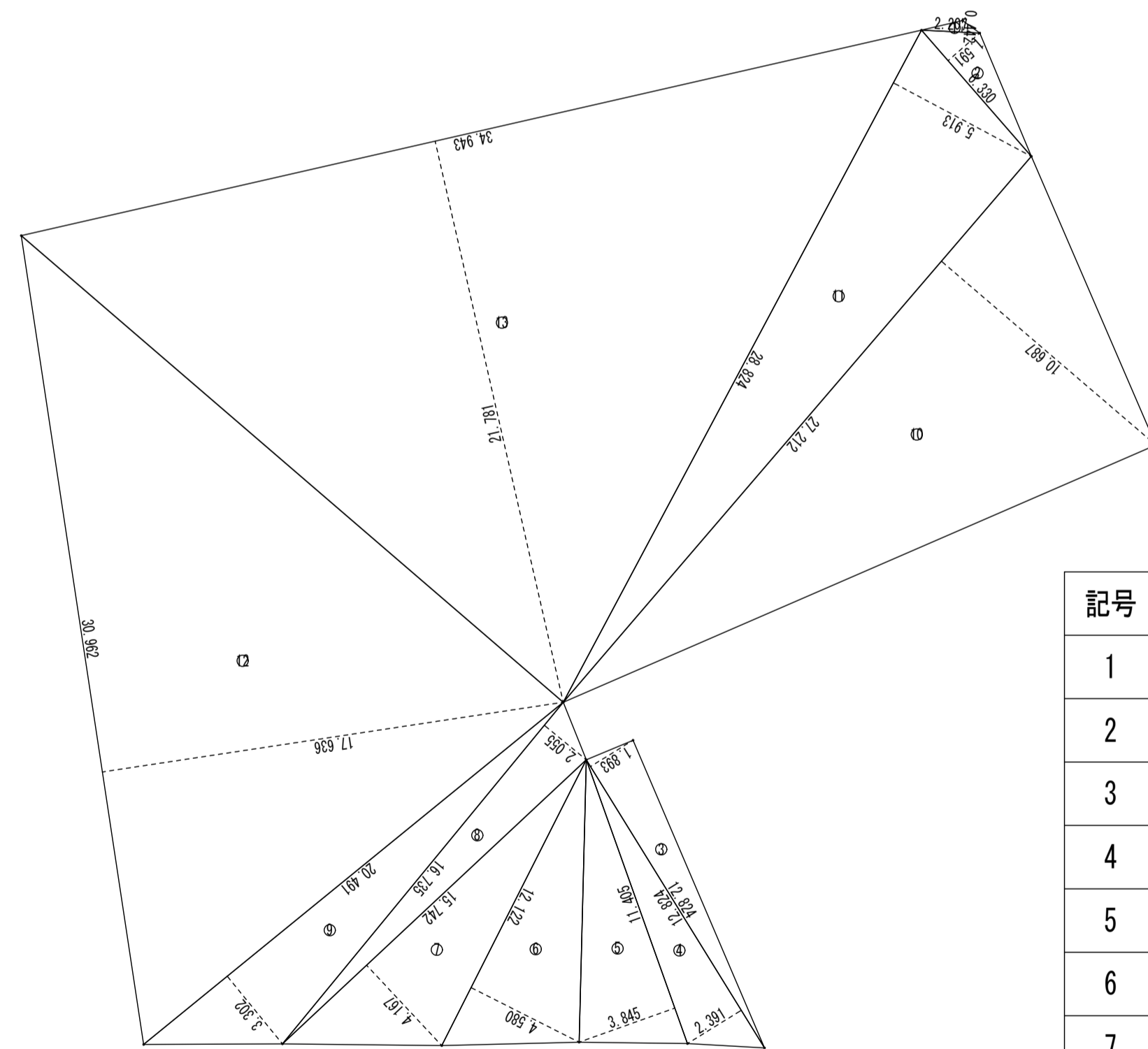
配置図 S=1/100



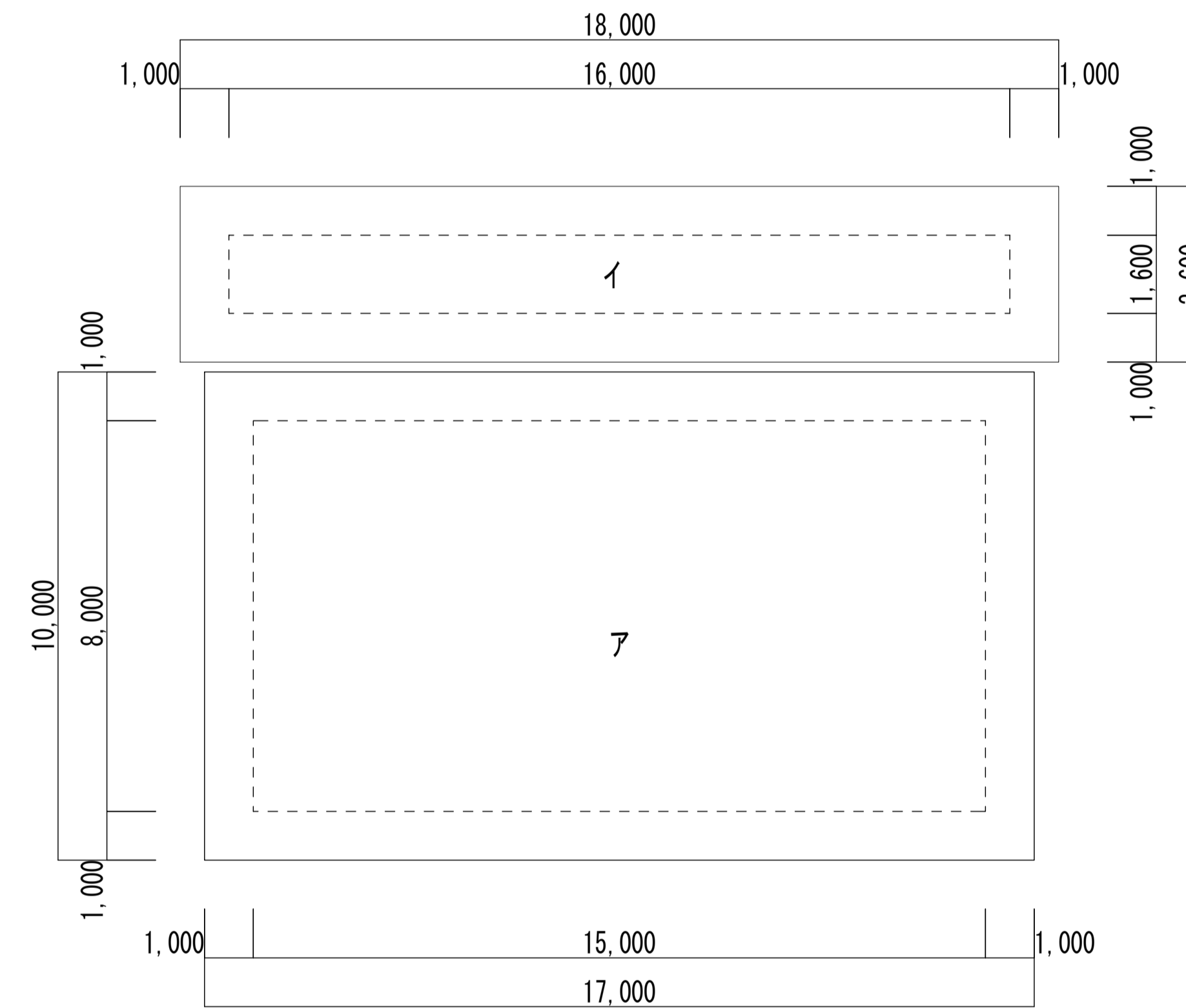
仕上表

部位	仕上	部位	仕上
避難床	コンクリート金ゴテ押えのうえ、ウレタン塗膜防水 (X-2工法)	ドレン	縦引き用 鋳鉄製打込み型 φ100
立上り (外側)	コンクリート打放し補修 目地切 (PU-2 10×10充填) @3,000	樋	縦樋 VP φ100 (SUS製掴み金物@1000内外)
立上り (内側)	コンクリート金ゴテ押えのうえ、ウレタン塗膜防水 (X-2工法) 目地切 (MS-2 10×10充填) @3,000	階段踏板・踊場	縞鋼板 t 6.0 (水抜き穴加工)
笠木	コンクリート金ゴテ押えのうえ、ウレタン塗膜防水 (X-2工法)	スロープ床・踊場	アンチスリップ鋼板 片面型 t 6.0 溶融亜鉛メッキ (HDZT49)
転落防止柵 (避難床)	ガードフェンス H=1,200 【朝日スチール工業 角格子ガードフェンス角格子ガードフェンス PZ-FC-H1200同等品】	階段側板	PL-28
フェンス (階段・スロープ出入口)	メッシュフェンス両開き門扉 H1,800 【朝日スチール工業 UNフェンス同等品】	階段・スロープ手摺柵	支柱：□-50×50×3.2 笠木・下棧：□-50×30×3.2 格子：丸鋼φ9@100以下
		階段・スロープ手摺	アルミ製 φ40 2段

- ・柱には、溶融亜鉛メッキ錆止めのうえ、発泡型耐火被覆材をを施すこと。(SK化研タイカコート同等品 30分耐火 CC-0001)
- ・鉄部見え掛りには、溶融亜鉛メッキ錆止めのうえ、DP塗装を施すこと。
- ・シーリングが必要な箇所は、特記なき場合もシーリングを行うこと。
- ・石綿を使用した建築材料は使用しないこと。



記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	2.207 × 0.442 ÷ 2	0.49
2	6.330 × 1.591 ÷ 2	5.04
3	12.824 × 1.893 ÷ 2	12.14
4	12.824 × 2.391 ÷ 2	15.33
5	11.405 × 3.845 ÷ 2	21.93
6	12.122 × 4.580 ÷ 2	27.76
7	15.742 × 4.167 ÷ 2	32.80
8	16.735 × 2.055 ÷ 2	17.20
9	20.491 × 3.302 ÷ 2	33.83
10	27.212 × 10.687 ÷ 2	145.41
11	28.824 × 5.913 ÷ 2	85.22
12	30.962 × 17.636 ÷ 2	273.02
13	34.943 × 21.781 ÷ 2	380.55
合計面積		1,050.72

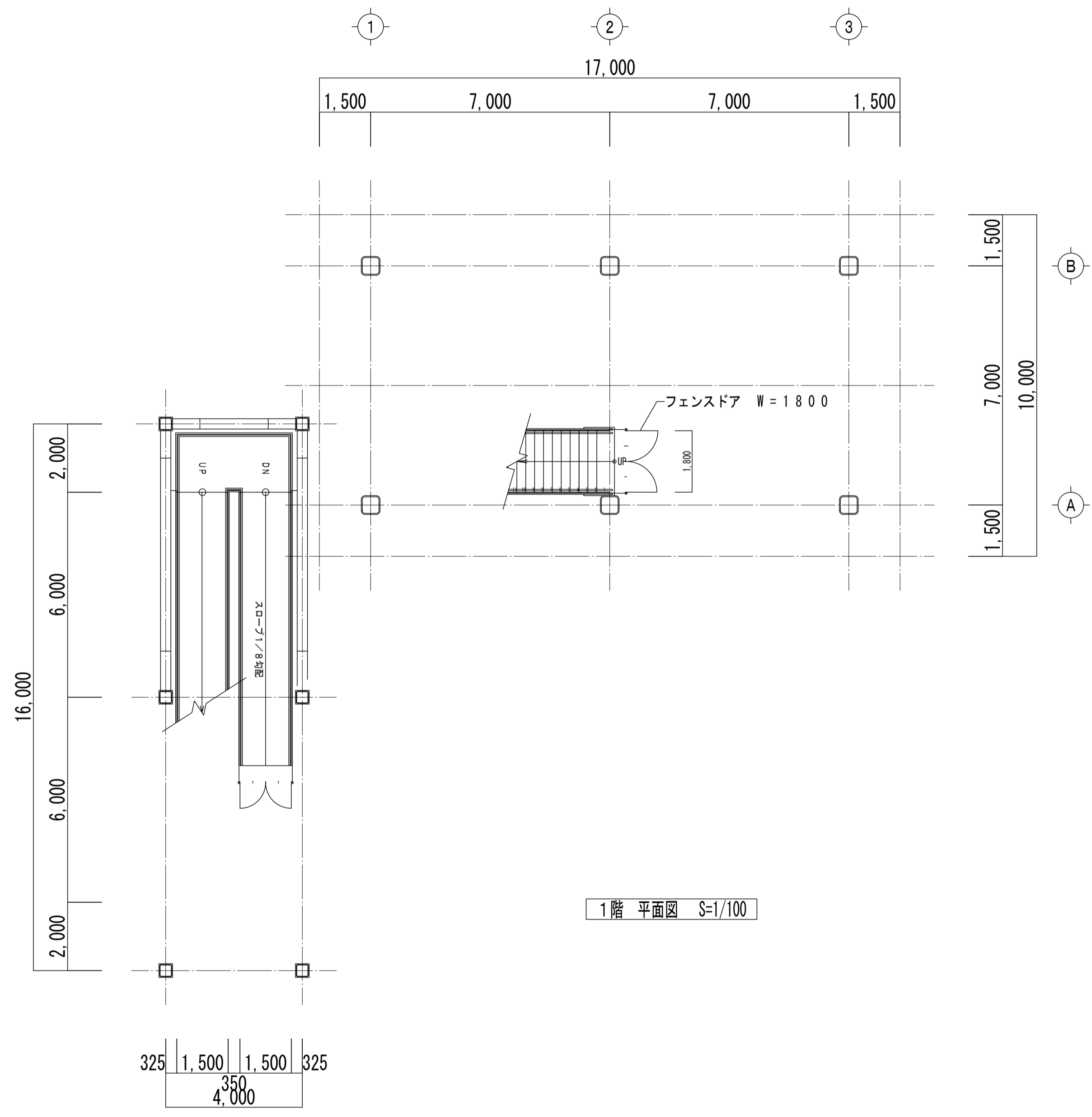


建築面積

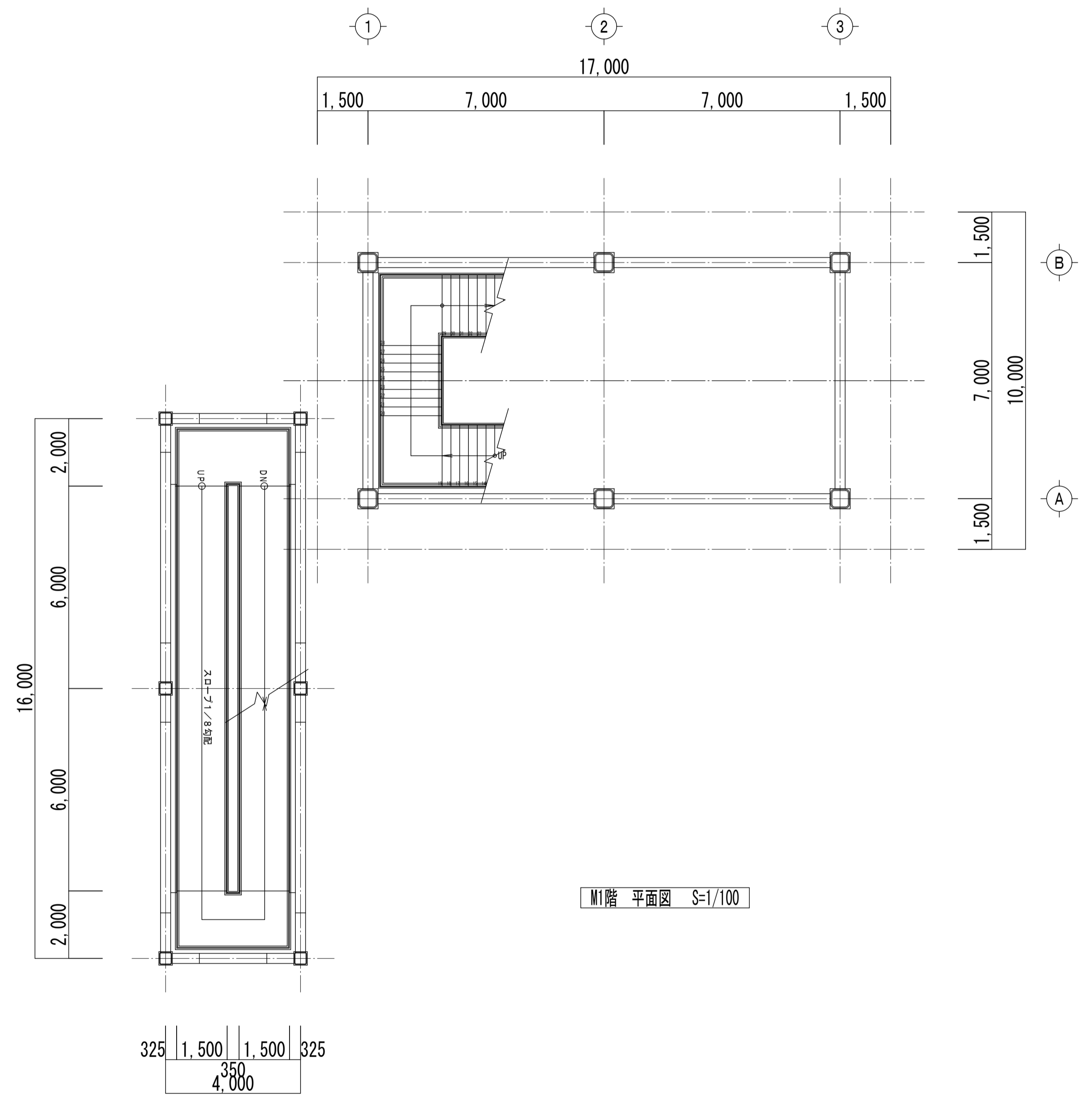
記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
ア	15.0×9.0	135.0
イ	16.0×1.6	25.6
合計		160.6

延床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
ア	15.0×9.0×2	270.0
イ	16.0×1.6×3.5	89.6
合計		359.6



1階 平面図 S=1/100



M1階 平面図 S=1/100

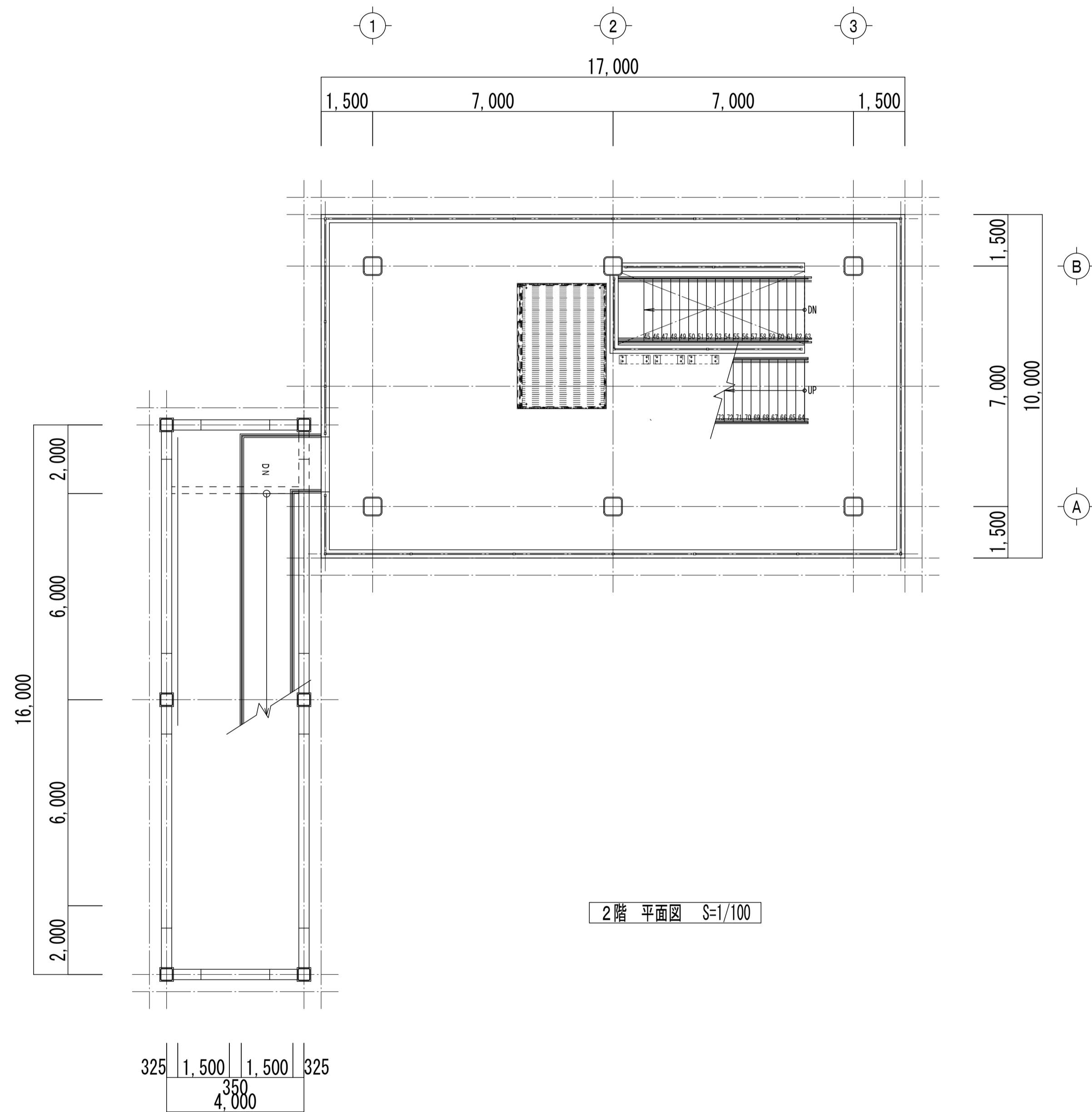
・	
・	
・	
・	

田端隆建築設計 (株) 田端隆建築設計  
 三重県知事登録第1-861 一般建築士 No.352551 田端 進也

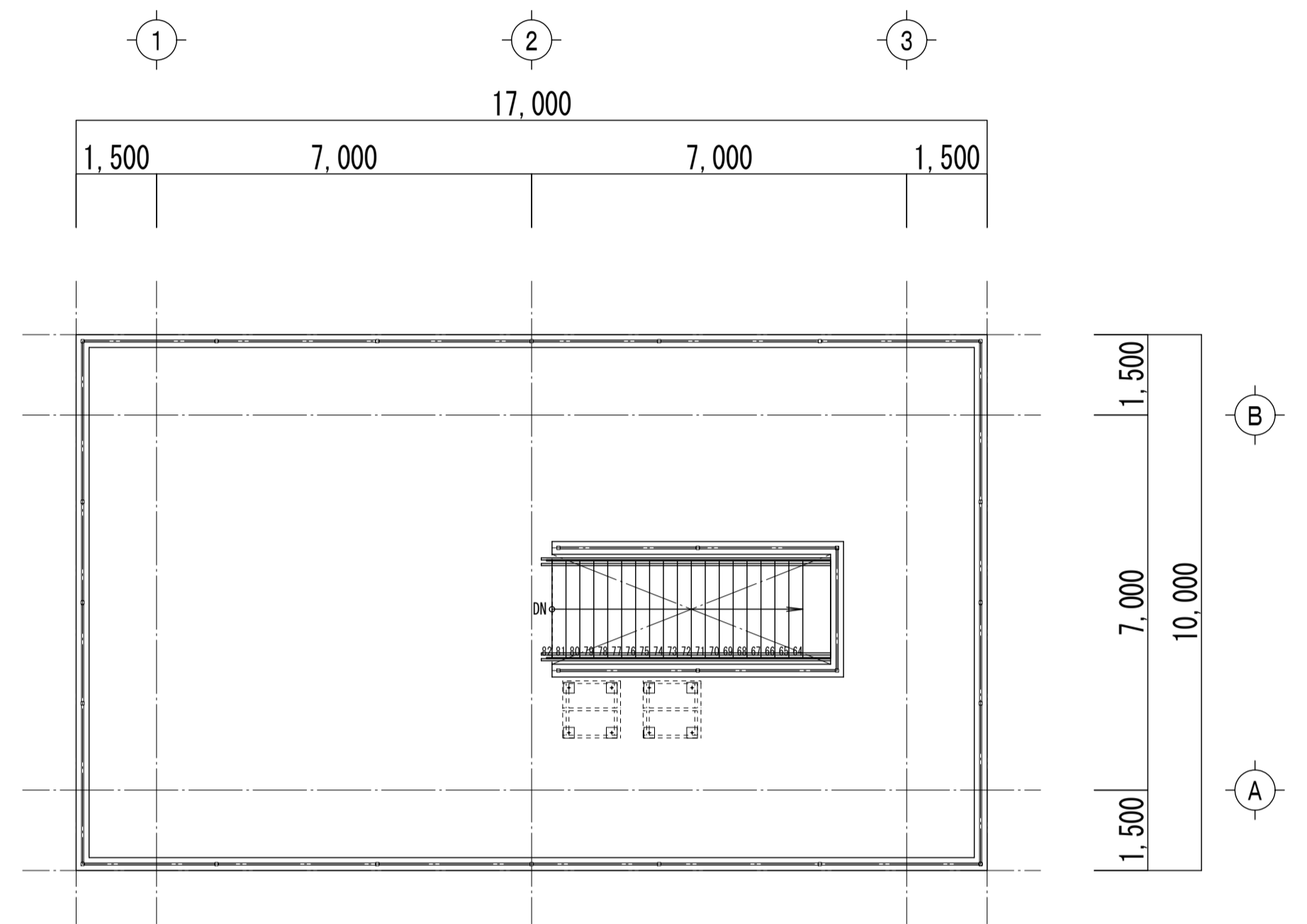
設計代表者	設計担当者
一般建築士 No.352551 田端進也	一般建築士 No.352551 田端進也 構造設計一般建築士 田端進也

SCALE	A 1 : 1/100
A 3 : 1/200	
DATE	R 8 . 0 3

工事名称 矢浜津波避難施設建設工事  
 図面名称 1階・M2階平面図



2階 平面図 S=1/100



R階 平面図 S=1/100

横 縦 階 原	三重県知事登録第1-061 一般建築士 No.352551 田端 進也
------------------	-------------------------------------

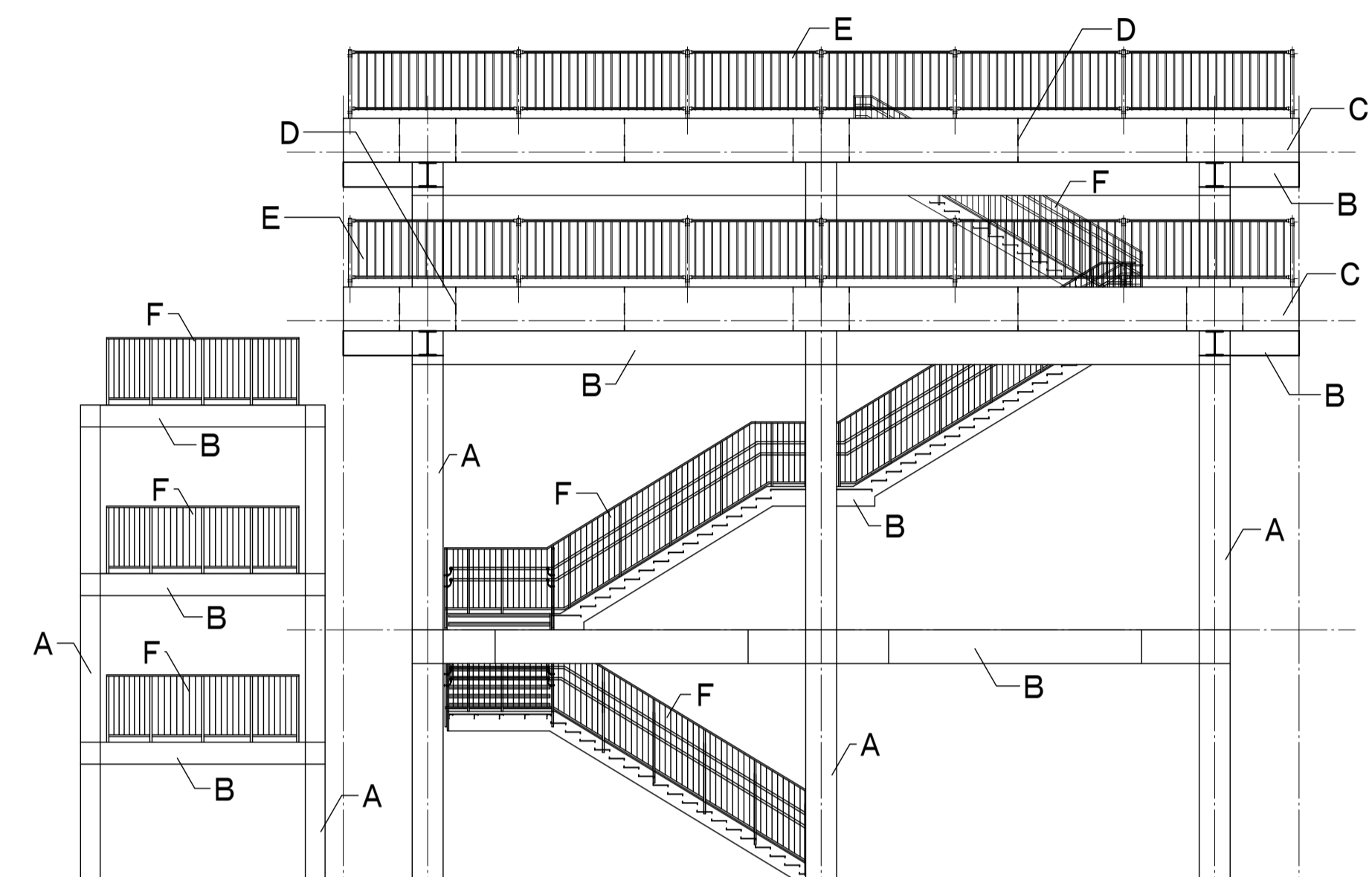

**(株)田端隆建築設計**  
三重県知事登録第1-061 一般建築士 No.352551 田端 進也

設計代表者 一般建築士 No.352551 田端進也	設計担当者 一般建築士 No.352551 構造設計一般建築士 村上俊賢
-------------------------------------	--

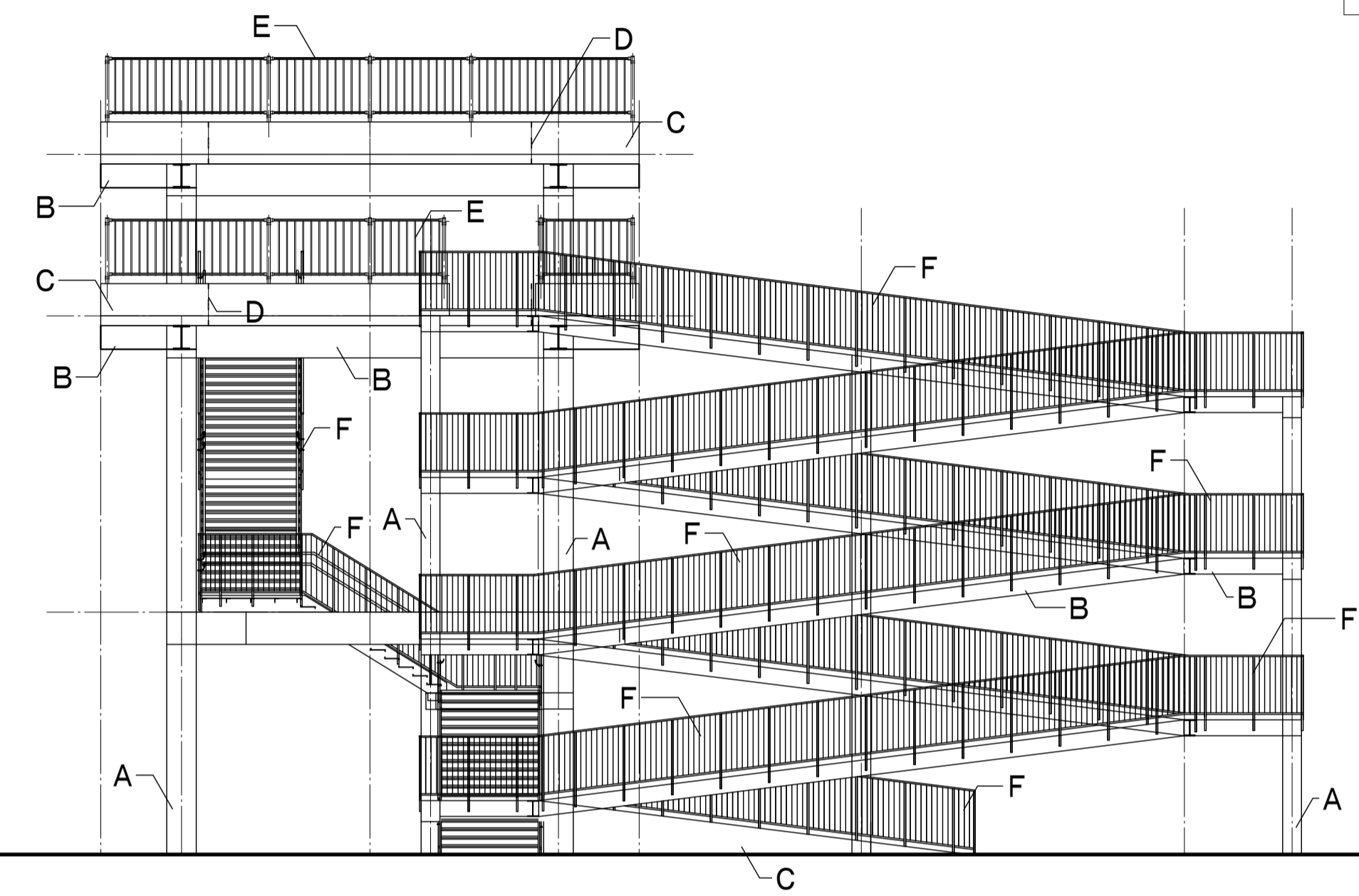
SCALE A1 1/100 A3 1/200 DATE R 8 . 0 3
--

工事名称 矢浜津波避難施設建設工事 図面名称 2階・R階平面図
------------------------------------

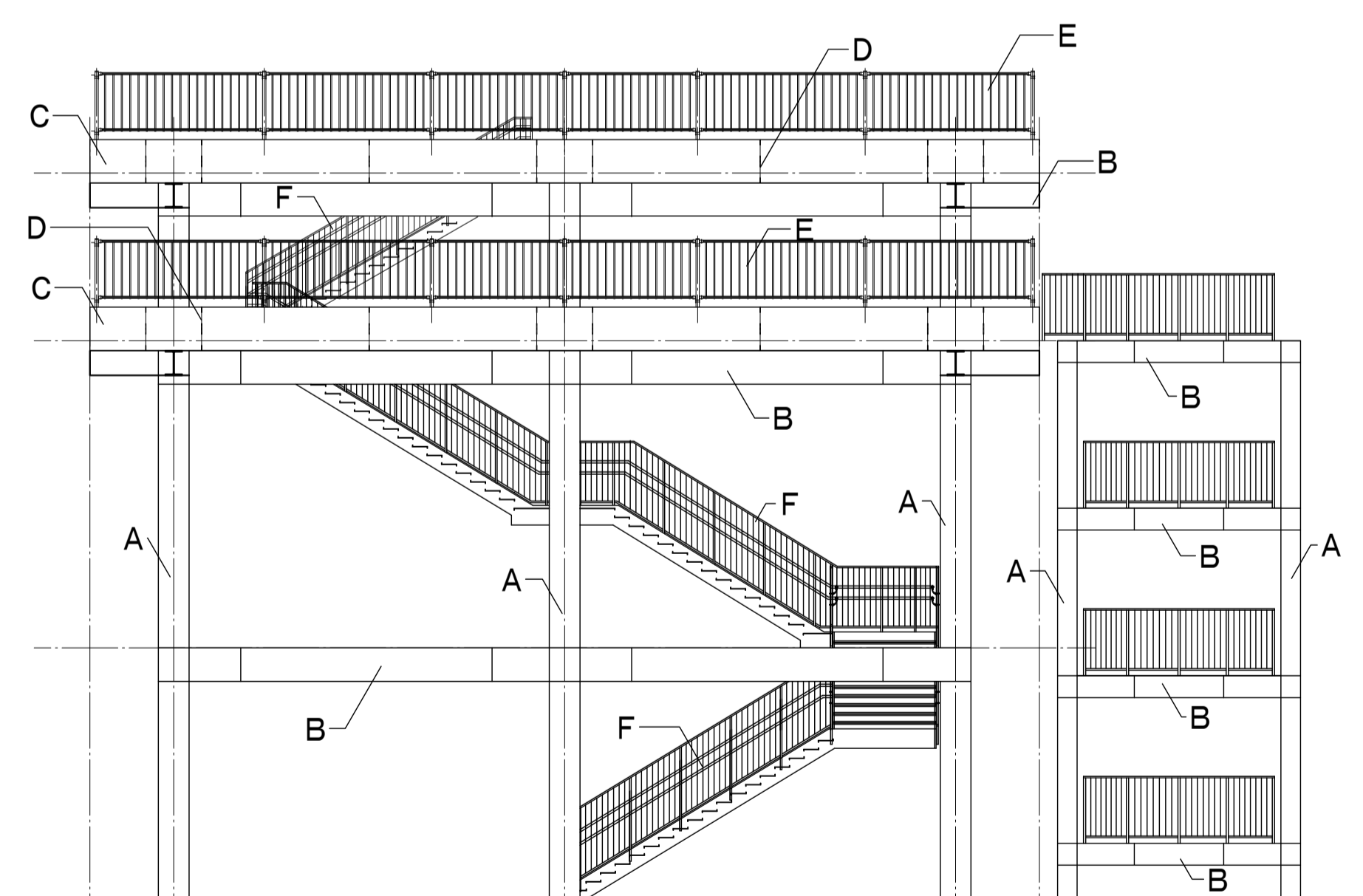
A	溶融垂鉛メッキ錆止めのうえ、発泡型耐火被覆材
B	溶融垂鉛メッキ錆止めのうえ、DP塗装
C	コンクリート打放し補修
D	シーリング (PU-2) 10×10充填
E	転落防止柵 H=1200
F	手摺柵 H1200 溶融垂鉛メッキ仕上



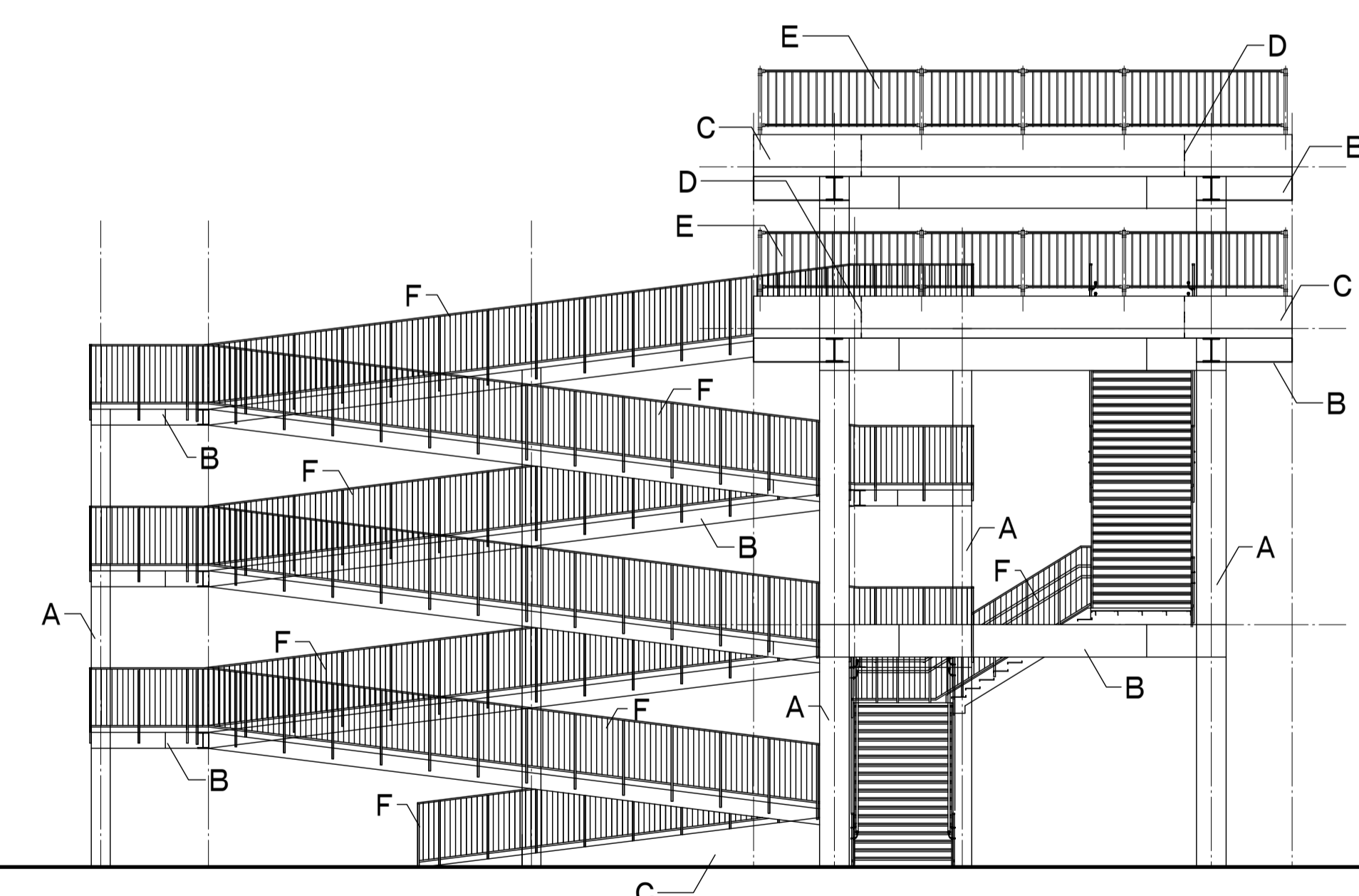
南側 立面図 S=1/100



西側 立面図 S=1/100



北側 立面図 S=1/100



東側 立面図 S=1/100

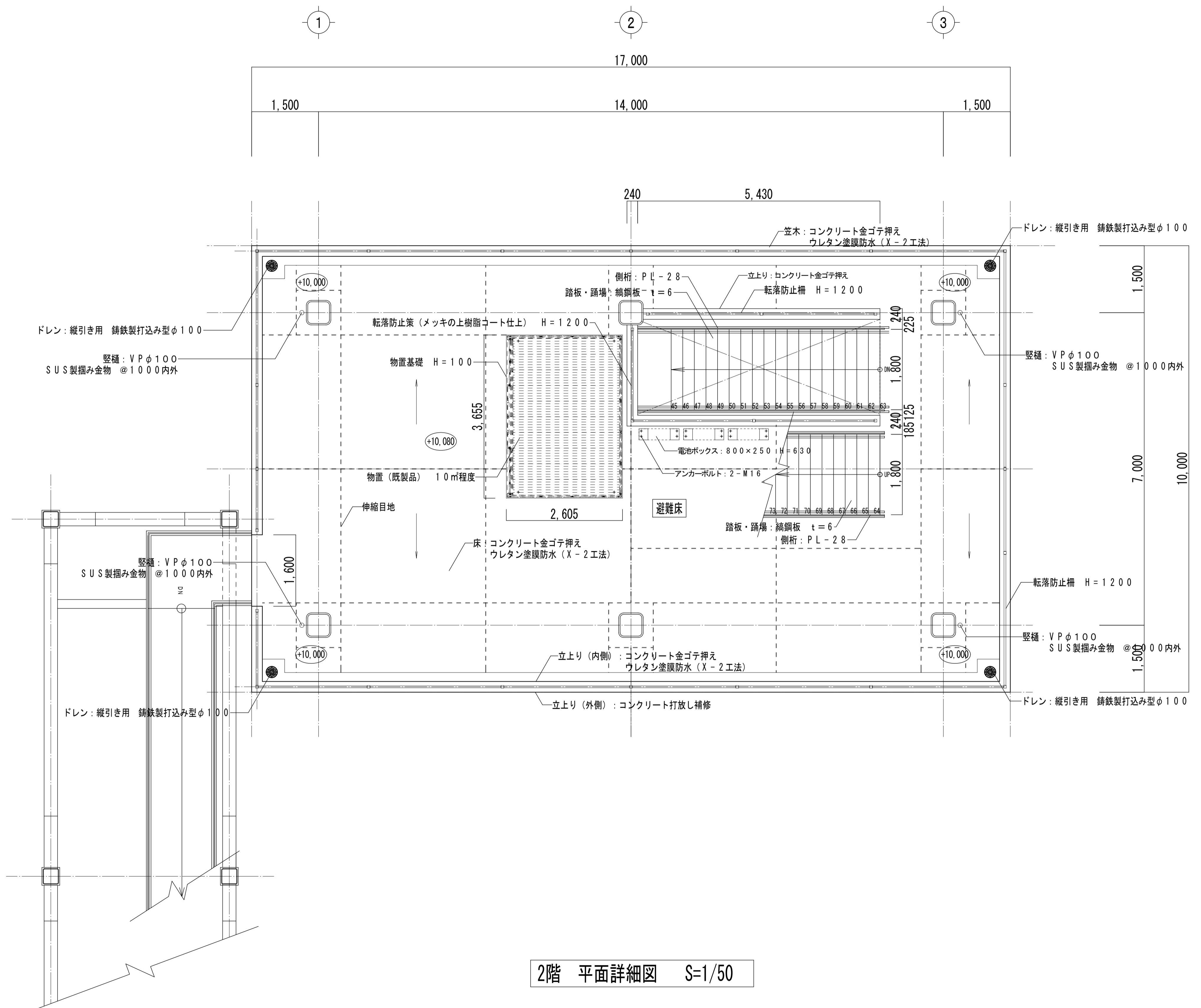
・	
・	
・	
・	

(株)田端隆建築設計  
 三重県知事登録第1-0-01 一般建築士 No.352551 田端 進也

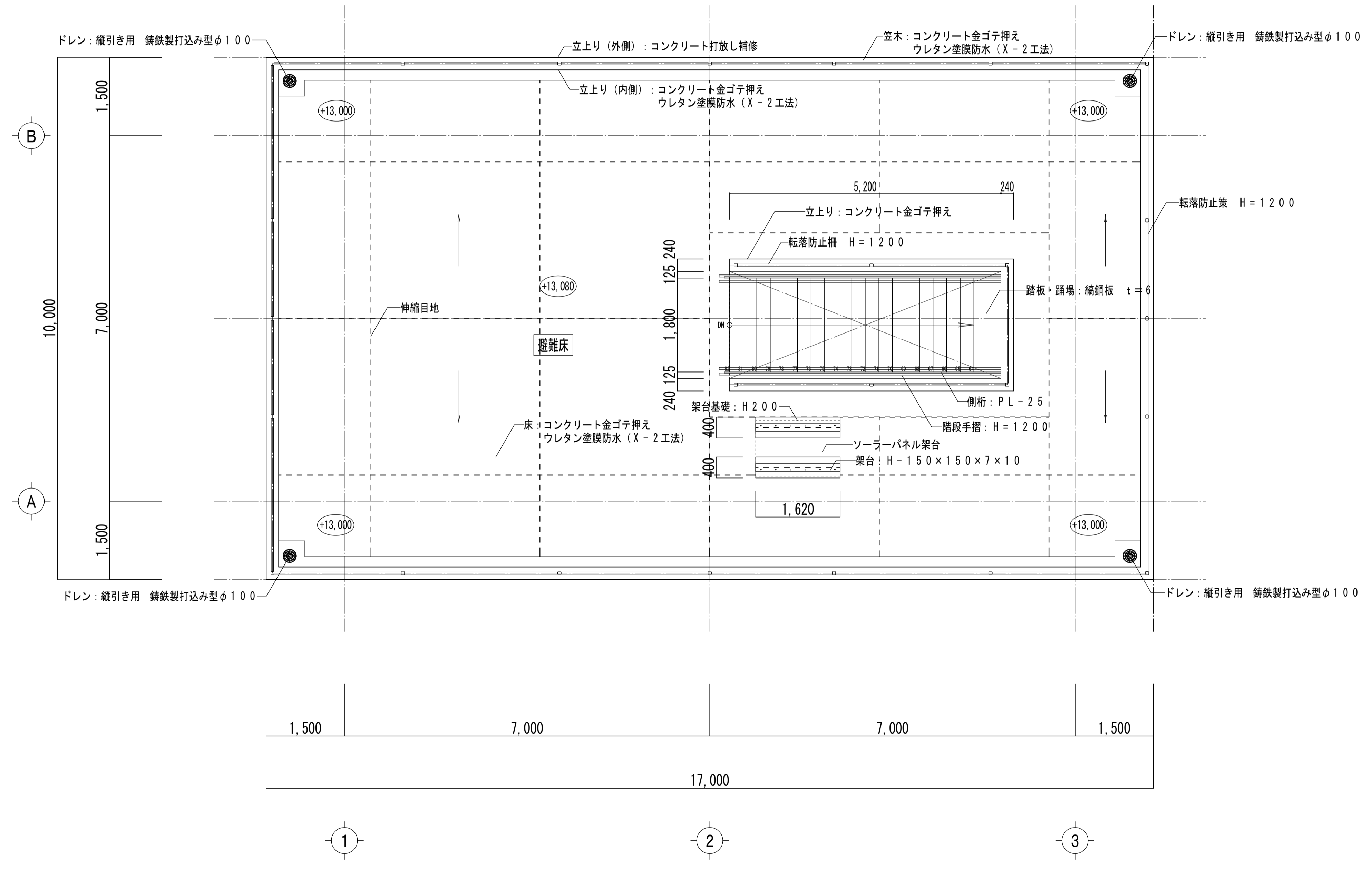
設計代表者	設計担当者
一般建築士 No.352551 田端進也	一般建築士 No.352551 橋本健一 No.352551 村上直貴

SCALE	1/100
DATE	2023.11.20
R 8 . 0 3	

工事名称 矢浜津波避難施設建設工事  
 図面名称 立面図



2階 平面詳細図 S=1/50



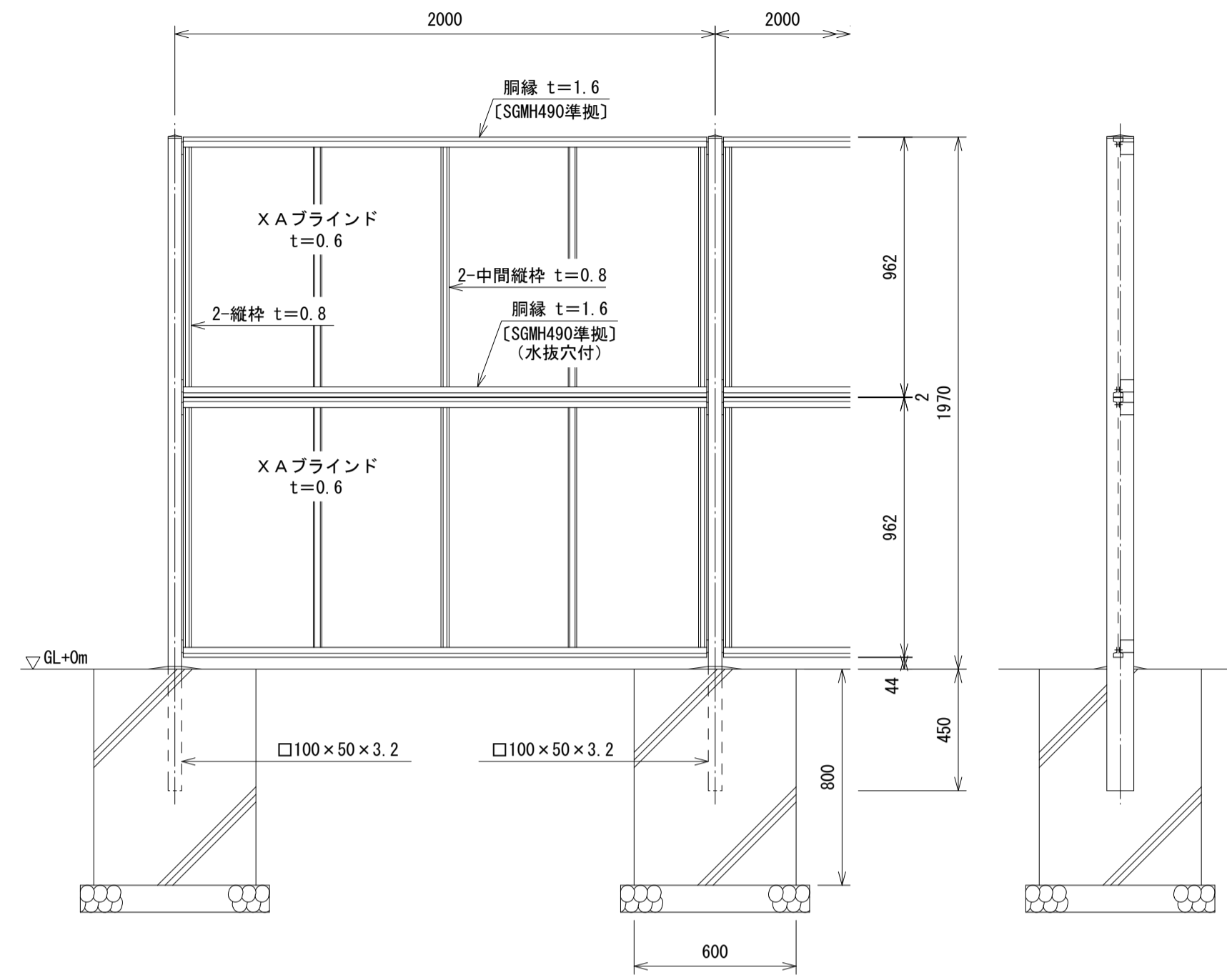
R階 平面詳細図 S=1/50



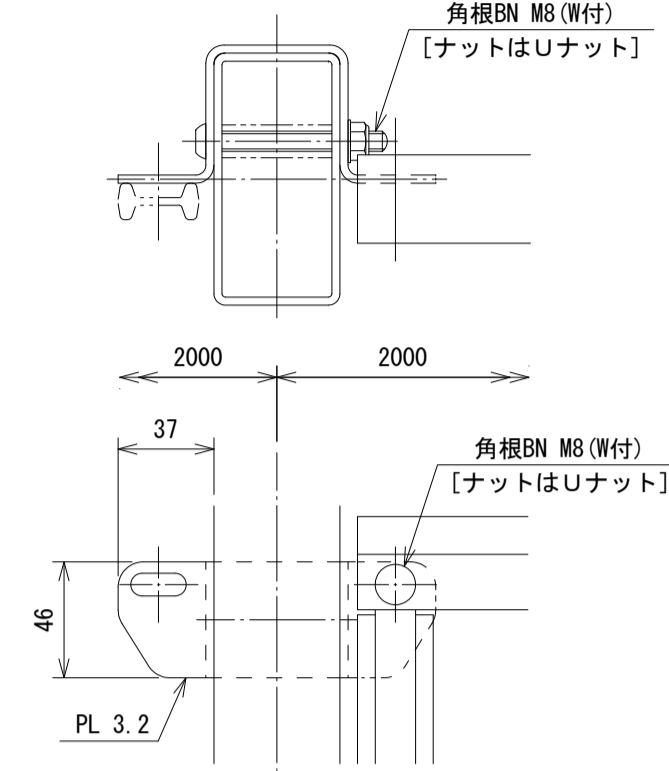
目隠しフェンス (参考図)

目かくしフェンス AM-2000-M S=1:20

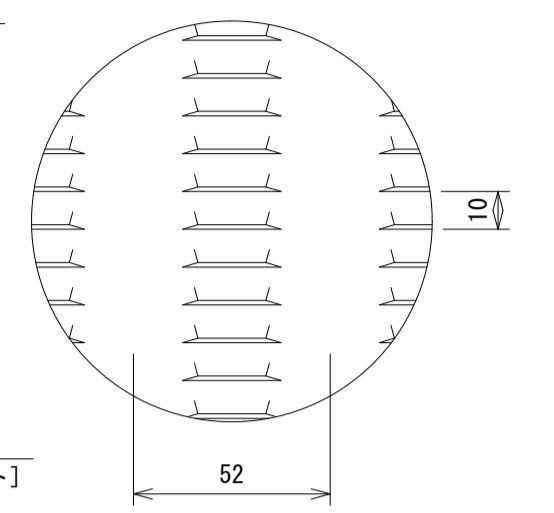
建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る  
 基準風速 3.4m/sec 地表面粗度区分Ⅲ GL+0m



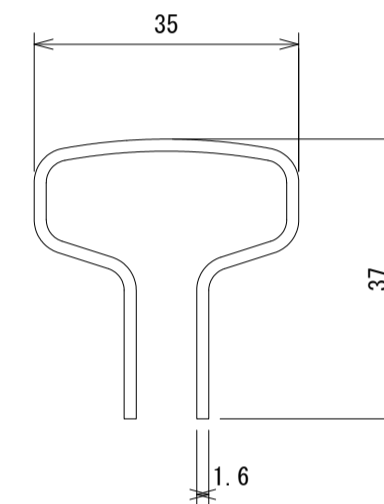
パネル取付図 S=1:3



X A プラインド S=1:2  
t=0.6



胴縁断面図 S=1:1



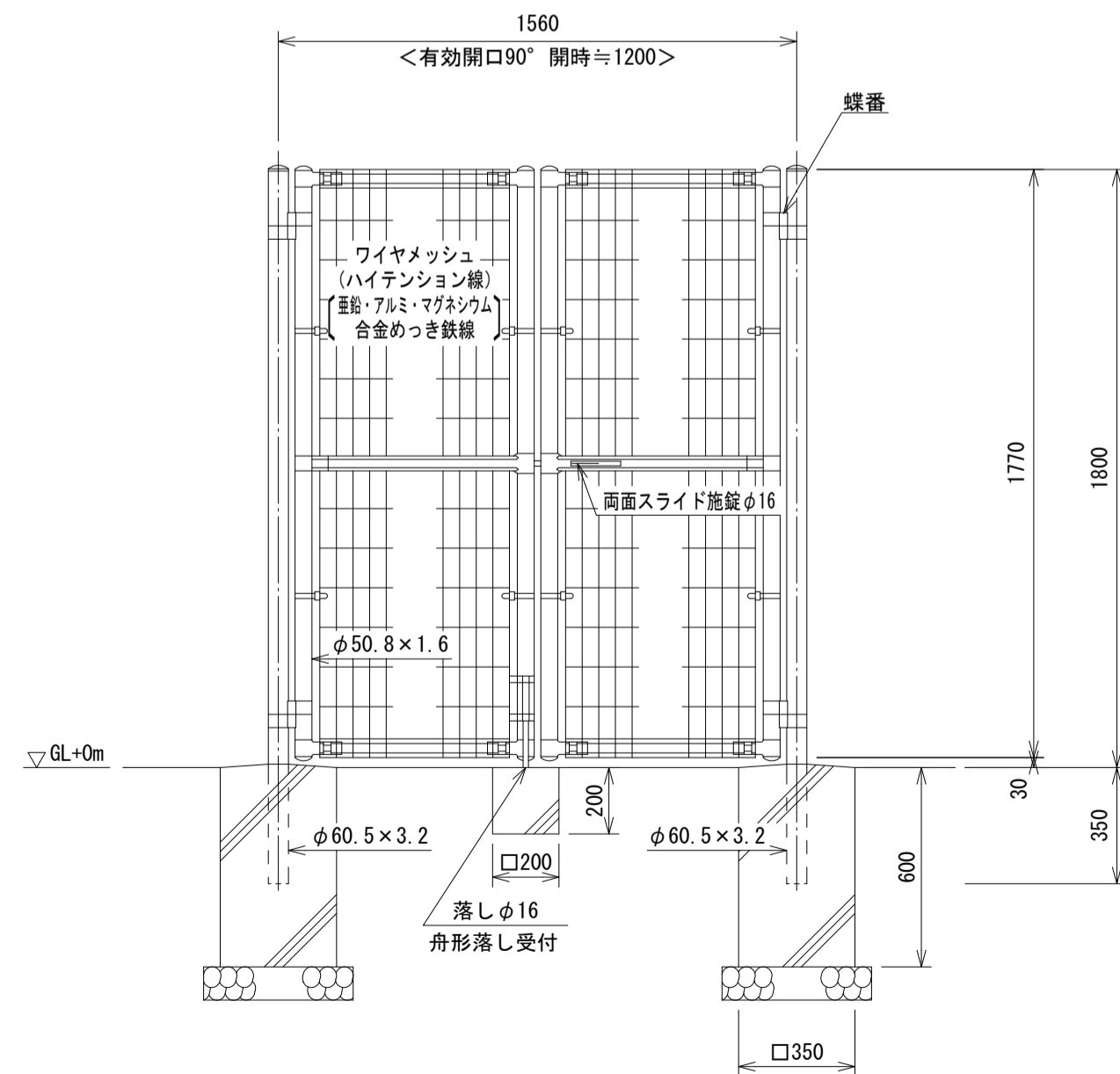
設計条件  
 設計荷重・・・建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る。  
 基準風速・・・3.4m/sec  
 地表面粗度区分・・・Ⅲ  
 基礎条件・・・長期許容地耐力 100kN/m<sup>2</sup>

備考  
 1. 外装は亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉末塗装とする。但し、ボルト・ナットは溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理とする。  
 2. X A プラインドの目の向きは指示に依る。

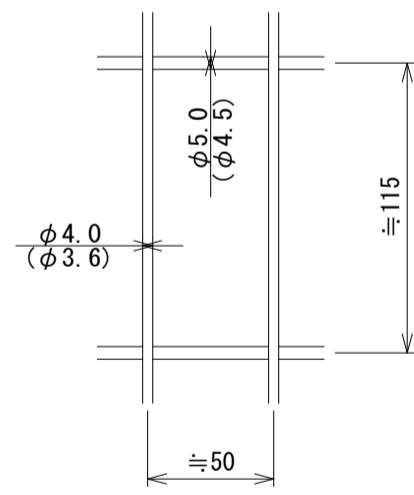
両開き門扉 (参考図)

UN両開き門扉 H1800-50×W1560 S=1:20

建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る  
 基準風速 3.4m/sec 地表面粗度区分Ⅲ GL+0m



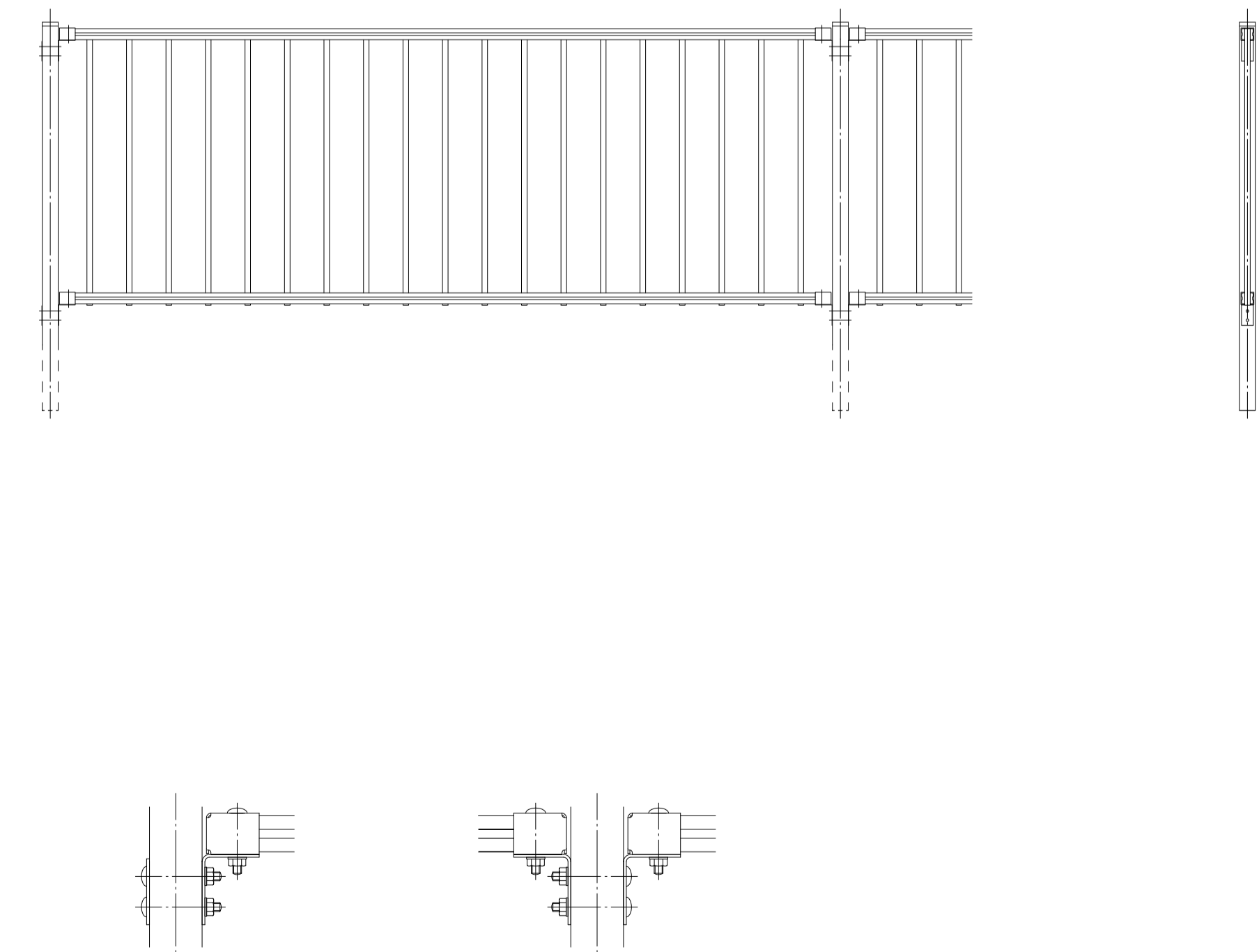
ワイヤメッシュ図  
 ( ) 内は芯径を示す。



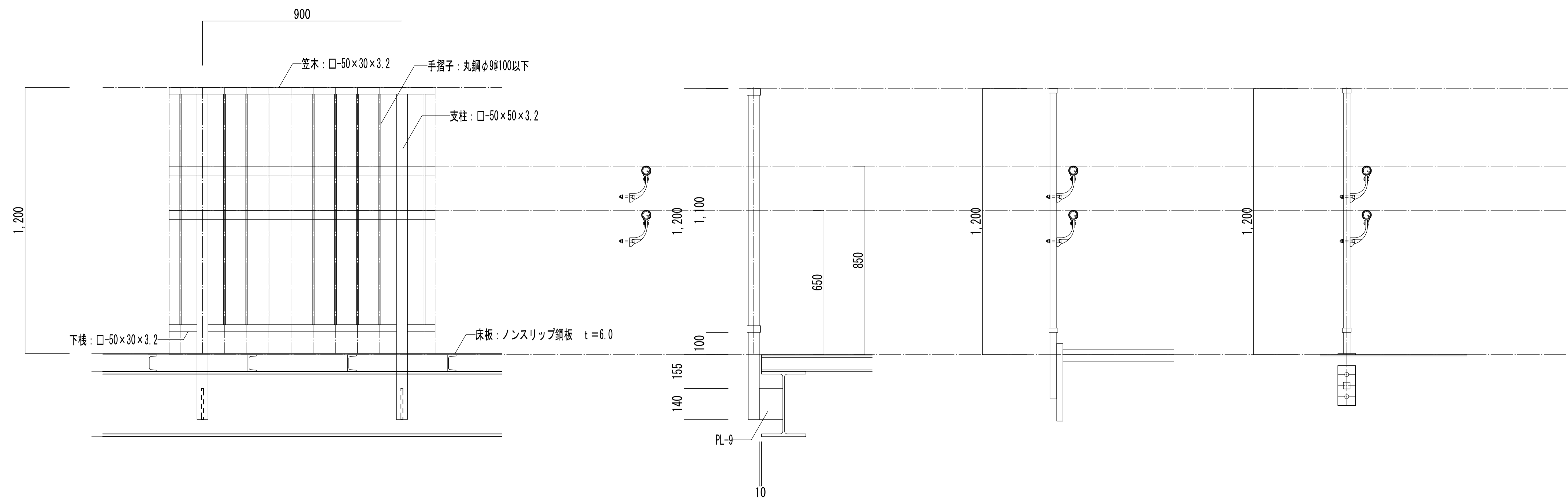
設計条件  
 設計荷重・・・建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る。  
 基準風速・・・3.4m/sec  
 地表面粗度区分・・・Ⅲ  
 基礎条件・・・長期許容地耐力 100kN/m<sup>2</sup>

備考  
 1. 外装について  
 ・門柱、枠体・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉末塗装  
 ・ジョイント押え金具ワイヤメッシュ・・・亜鉛・アルミ合金めっきの上高耐候性樹脂粉末塗装  
 ・バンド・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上防錆着色処理  
 ・U型金具・・・溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理  
 ・ボルト、ナット・・・溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理  
 ・旋錠装置、落し・・・溶融亜鉛めっきのみ  
 2. 本図門扉は片側180°開きとする。

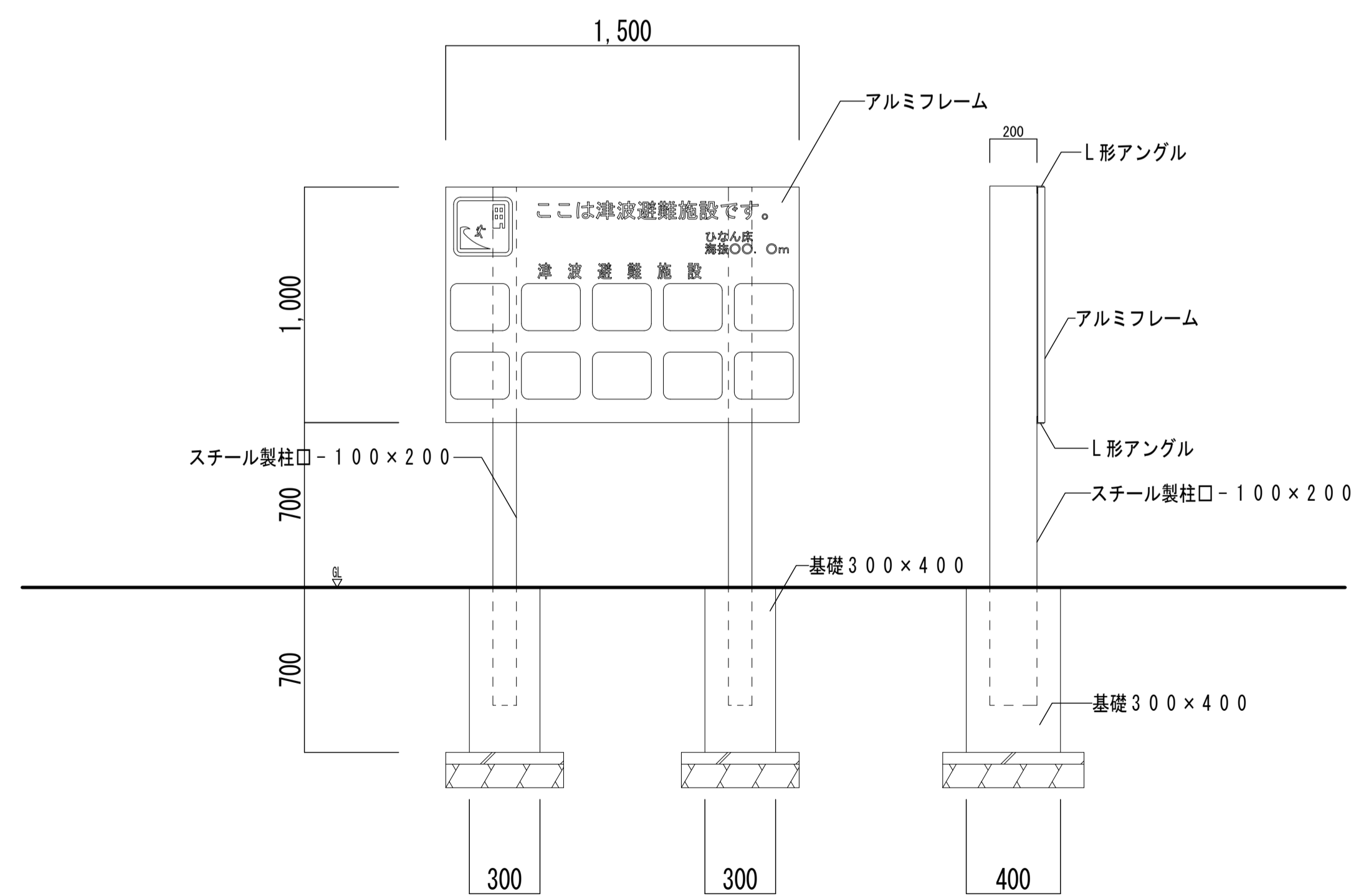
転落防止柵 (参考図)



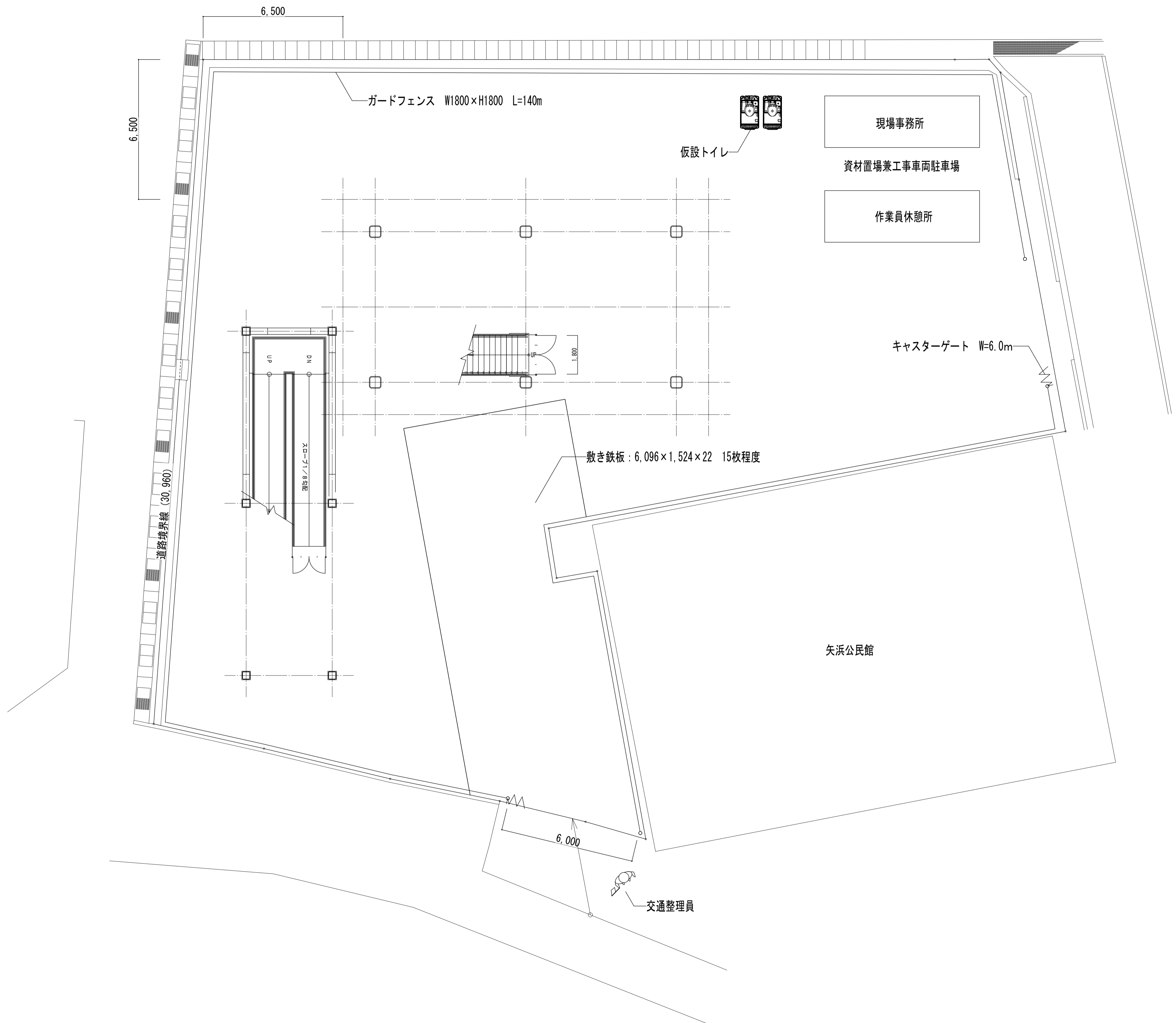
階段・スロープ手摺詳細図



案内板詳細図 (参考図) 1/20



※案内板表示内容は一例で有り、表示内容については監督員と協議の上決定とする



仮設計画図 S=1/100



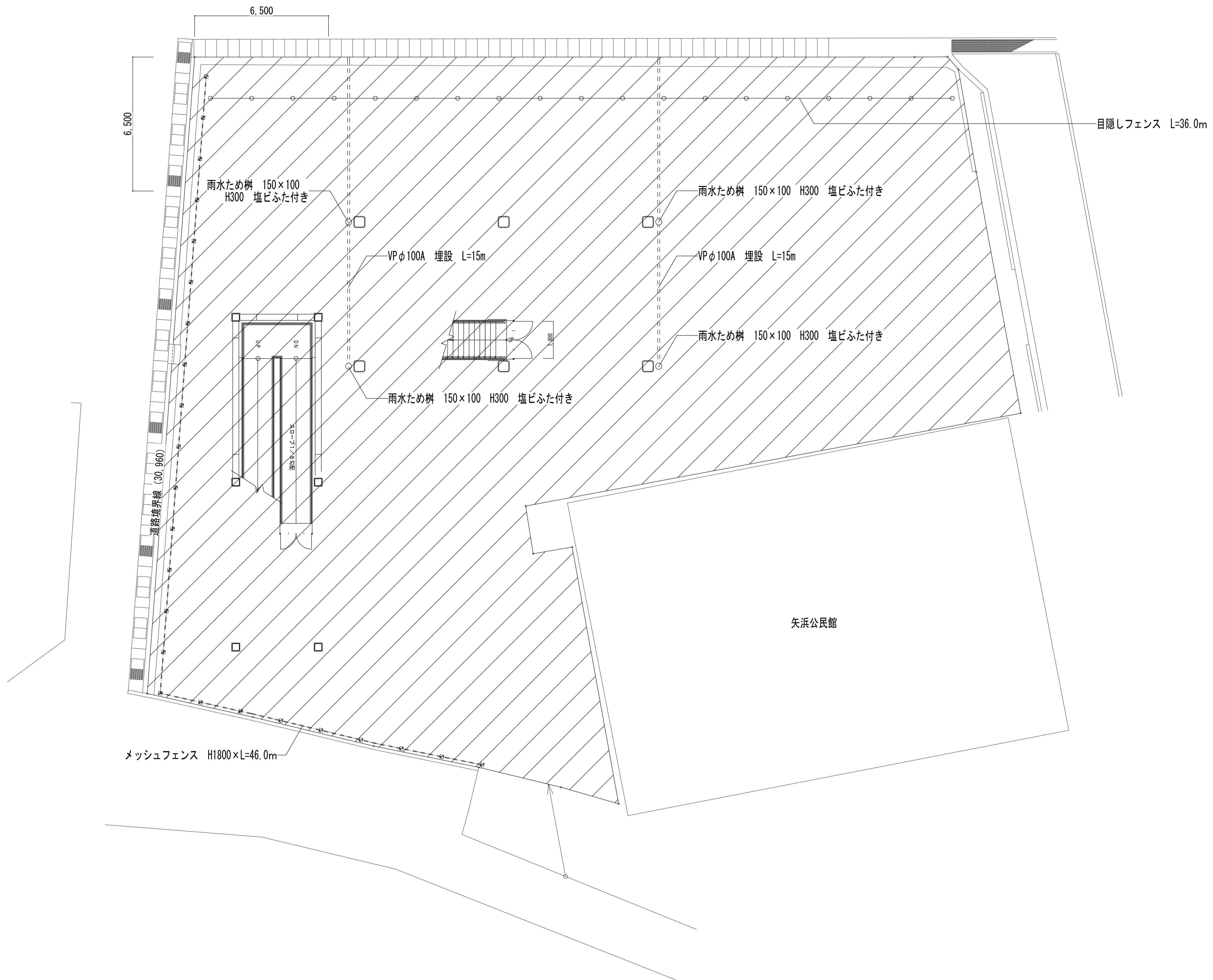
・	
・	
・	
・	

**田端隆建築設計 (株)**  
 三重県知事登録第1-061 一般建築士 No.352551 田端 進也

設計代表者 一般建築士 No.352551 田端進也	設計担当者 一般建築士 No.352552 橋本健一 構造設計一般建築士 No.352553 井上直智
-------------------------------------	---

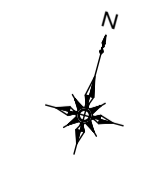
SCALE A1 1/100 A3 1/200
DATE R 8 . 0 3

工事名称 矢浜津波避難施設建設工事
図面名称 仮設計画図



透水性舗装施工範囲を示す

外構図 S=1/100



・	
・	
・	
・	

**田端建築設計 (株)**  
 三重県知事登録第1-861 一般建築士 No.352551 田端 進也

設計代表者  
 一般建築士  
 No.352551  
 田端進也

設計担当者  
 一般建築士  
 No.352551  
 田端進也

SCALE  
 A1 1/100  
 A3 1/200  
 DATE  
 R 8 . 0 3

工事名称 矢浜津波避難施設建設工事  
 図面名称 外構図

A-20  
 原図: A1

構造設計特記仕様書

1. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所 三重県 市
(2) 工事種別 新築
(3) 構造設計一級建築士の関与
(4) 構造種別
(5) 階数
(6) 主要用途
(7) 屋上付属物
(8) 特別な荷重
(10) 増築計画
(11) 構造計算ルート

2. 使用構造材料

Table with columns: 適用場所, 種類, 設計基準強度, 品質基準強度, スランプ, 備考. Includes concrete and reinforcement materials.

Table for reinforcement (鉄筋) with columns: 種類, 径, 使用箇所, 継手工法. Lists various steel reinforcement types and diameters.

Table for steel plate (鉄骨) with columns: 種類, 使用箇所, JIS規格・認定番号等. Lists steel plate specifications.

Table for bolts (ボルト) with columns: 種類, 使用箇所, JIS規格・認定番号等. Lists bolt specifications.

Table for floor, wall, and ceiling (屋根、床、壁) with columns: 材種, 形式, 厚さ, 使用箇所, 仕様・構造.

3. 地盤

Table for ground investigation (地盤調査資料) with columns: 調査項目, 資料有り, 調査項目, 資料有り, 調査項目, 資料有り. Includes a depth profile chart.

4. 地業工事

- (1) 直接基礎
(2) 地盤改良
(3) 杭基礎

Table for foundation work (地業工事) with columns: 杭種, 材料, 施工工法, 備考. Lists foundation types and materials.

Table for pile work (杭基礎) with columns: 杭種, 設計支持力, 杭の先端の深さ, 本数, 特記事項.

5. 鉄筋コンクリート (施工方法等計画書)

- (1) コンクリート
(2) 鉄筋

Table for reinforcement (鉄筋) with columns: 鉄筋継手工法, 継手の位置等の設計条件による仕様・等級.

- (3) 型枠

Table for formwork (型枠) with columns: 種類, せき板, 支柱. Includes a table for concrete temperature and curing time.

- 注 1 片持り、底、スパン9.0m以上のり下は、監理者の指示による。
注 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。
注 3 支柱の盛りかえは、必ず直上隣のコンクリート打ち後とする。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
(3) 工事監理者が行う検査項目
(4) 接合部の溶接は下記によること
(5) 接合部の検査

Table for steel structure (鉄骨工事) with columns: 検査箇所, 検査方法, 検査率又は検査数, 工事監理者, 備考.

- 注 1 現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
(6) 防錆塗装
(7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

- 建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
(1) 建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を残り保管すること。

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

## 1. 一般事項

- 構造断面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号

d・・・異形棒の呼び名に用いた数値 丸線では径 D・・・部材の成  
 ◎・・・間隔 r・・・半径 L・・・部材間の内法距離 R・・・半径  
 h<sub>0</sub>・・・部材間の内法高さ ST・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋  
 S, HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸期

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ、壁筋の末端部又はスラブと同時に打ち込むI型及びL型梁のキャップタイにおおひいる。 キャップタイ ※片持スラブ上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SR235~SD345の径16およびD16以下は3d以上、SD295~SD345のD19~D38は4d以上、D41およびSD390は5d以上、スラブ筋、壁筋に丸線は使用しない。				

### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状、鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による名称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SR295 SD295A・B SD345	16φ以下 D16以下 D19以上 D16以下 D19~D25	3d以上 4d以上 4d以上 6d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A・B SD345 SD390	D29~D41	8d以上

### (3) 鉄筋の定着及び重ね接手の長さ

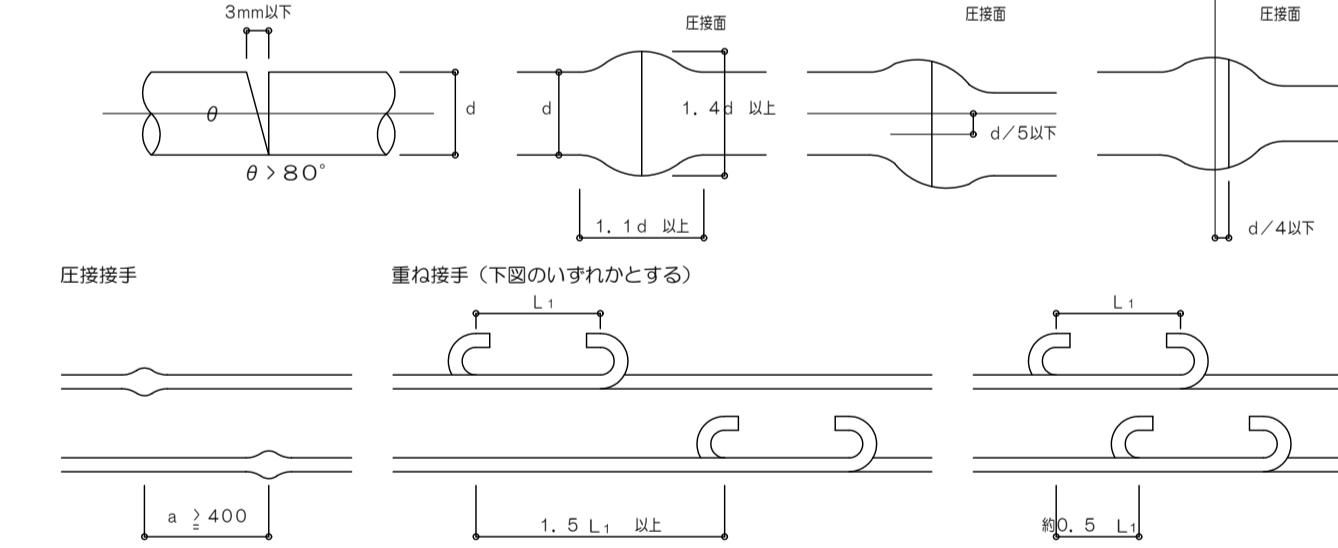
鉄筋の種類	普通、軽集コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ		特別の定着及び重ね接手の長さ(L1)
		一般(L2)	下ば筋(L3) 小梁 スラブ	
SD295A SD295B	18	40dまたは30dフック付	20dまたは10dかつ150mm以上	45dまたは35dフック付
	21	35dまたは25dフック付		40dまたは30dフック付
SD345	24~36	30dまたは20dフック付	10dかつ150mm以上	35dまたは25dフック付
	18	40dまたは30dフック付		50dまたは35dフック付
	21	35dまたは25dフック付		45dまたは30dフック付
	24, 27, 30, 33, 36	30dまたは20dフック付		40dまたは25dフック付

【注】許容耐力設計、許容耐力等設計、その他構造計算を要さない規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は40dとする。

### 接 手

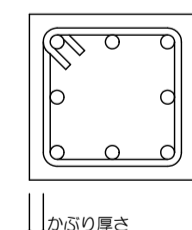
- 末端のフックは、定着及び重ね接手の長さに含まない
- 接手位置は、耐力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね接手長さは、細い方の鉄筋の接手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね接手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

### ガス圧接形状



### (1) かぶり厚さ(単位: mm)

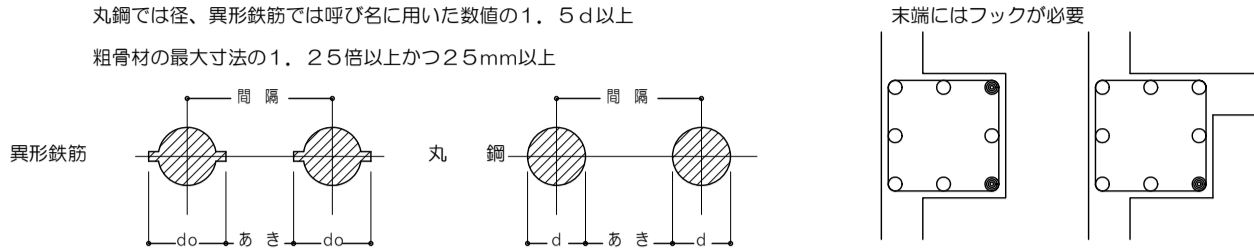
ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



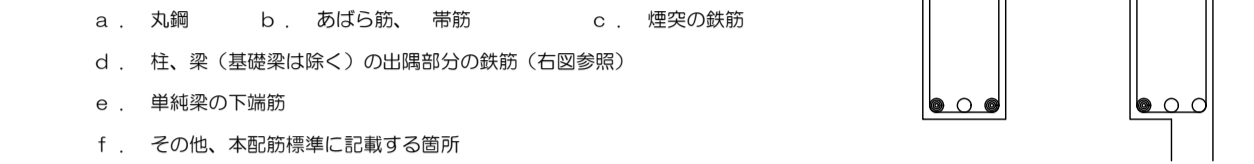
- 耐久性上有効な仕上げがある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
- 耐久性上有効な仕上げがある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
- コンクリートの品質及び施工方法に拘り、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
- 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
- ( ) 内は仕上げがある場合。
- 上に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

部 位	設計から厚さ (mm)	最小から厚さ (mm)
土に接しない部分	屋梁 スラブ 厚 30	20
	床 スラブ 厚 30	20
土に接する部分	柱・梁・スラブ・耐力壁 50 <sup>(1)</sup>	30 <sup>(20)</sup>
	梁 50 <sup>(3)</sup>	40 <sup>(30)</sup>
土に接する部分	柱・梁・スラブ・耐力壁 50	40 <sup>(4)</sup>
	基礎・床 70	60 <sup>(4)</sup>

## (5) 鉄筋のあき

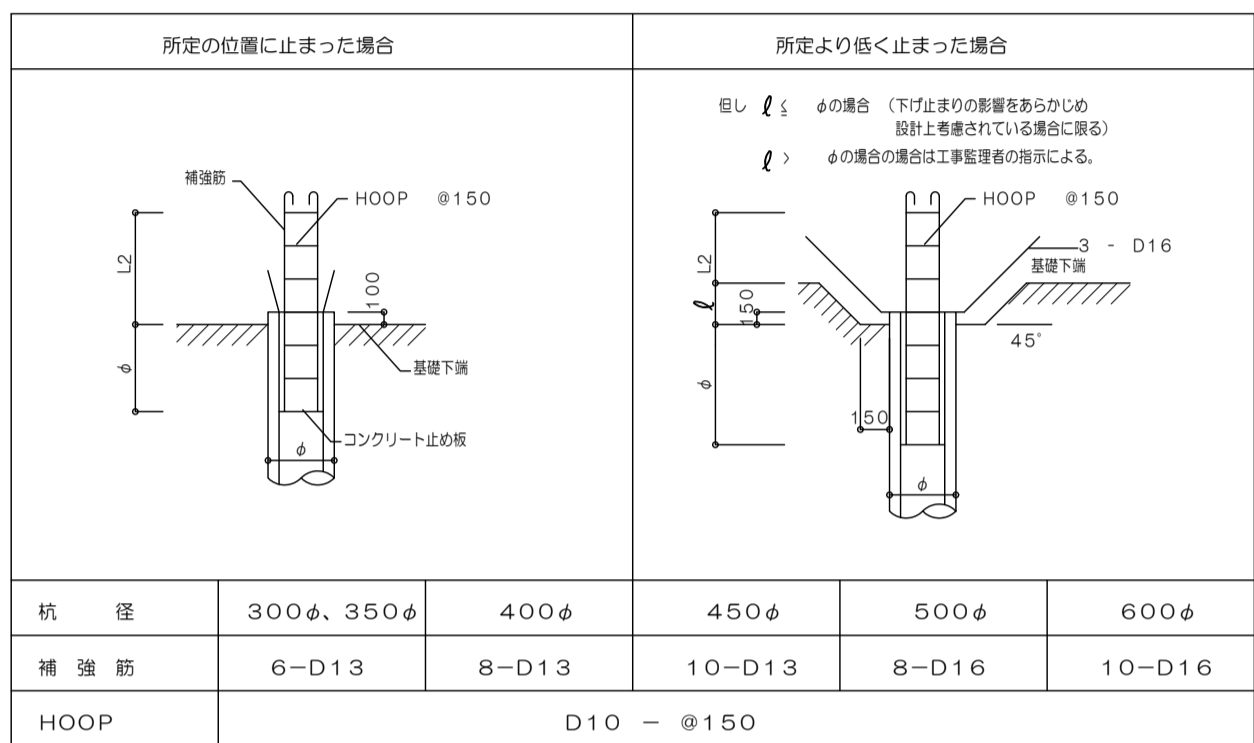


## (6) 鉄筋のフック

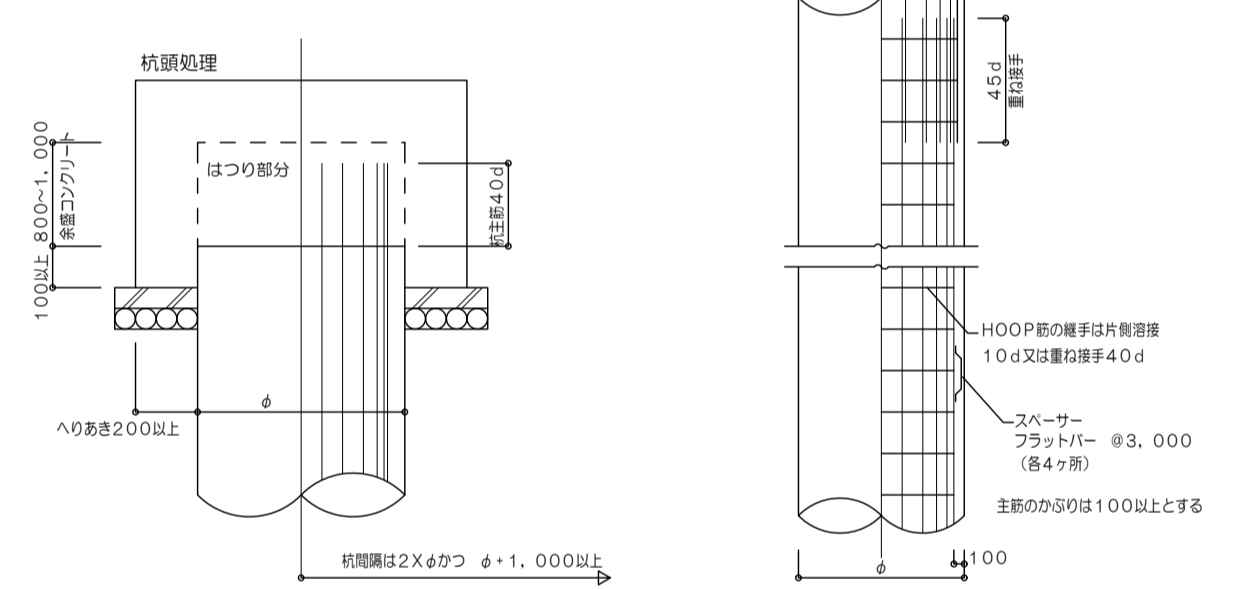


## 3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

### (1) PC杭、又はPHC杭の全長に補強を行う

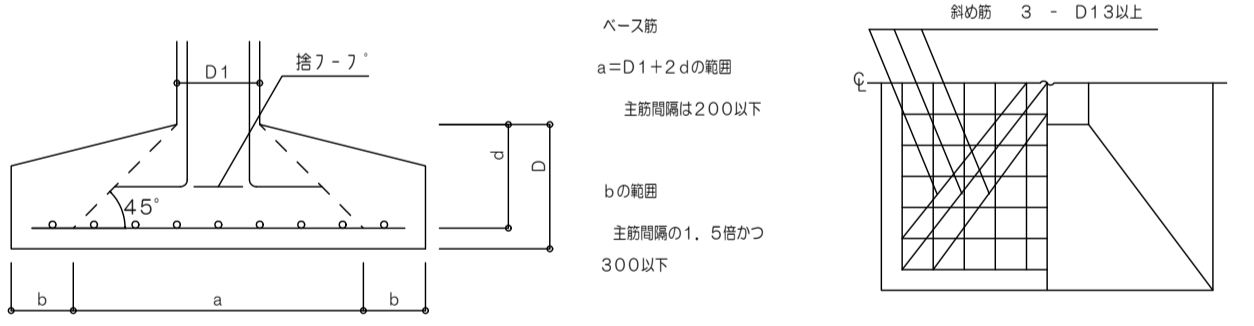


### (2) 現場打ちコンクリート杭

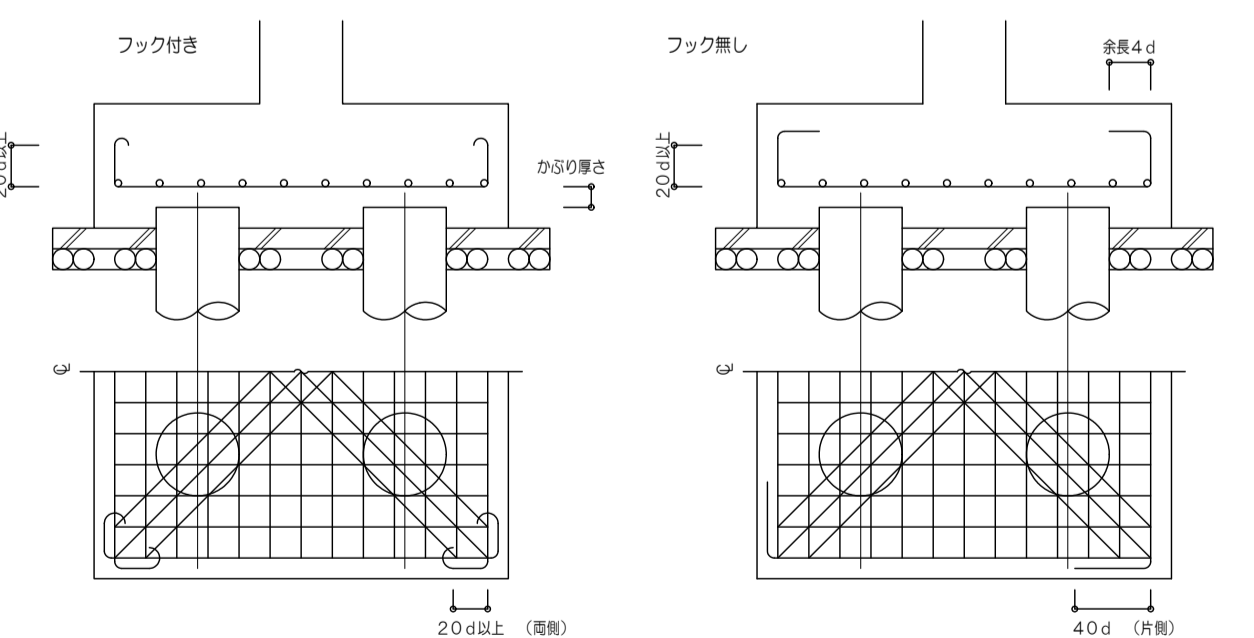


## 4. 基 礎

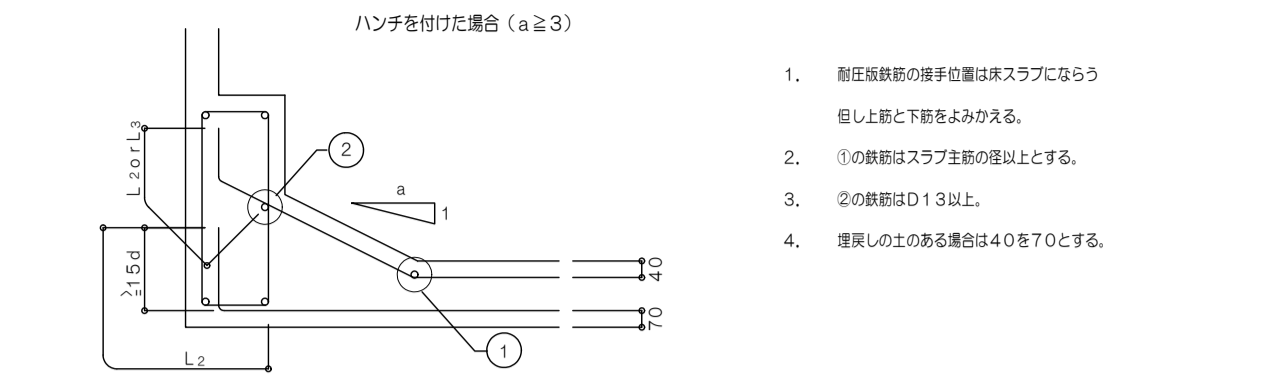
### (1) 直接基礎



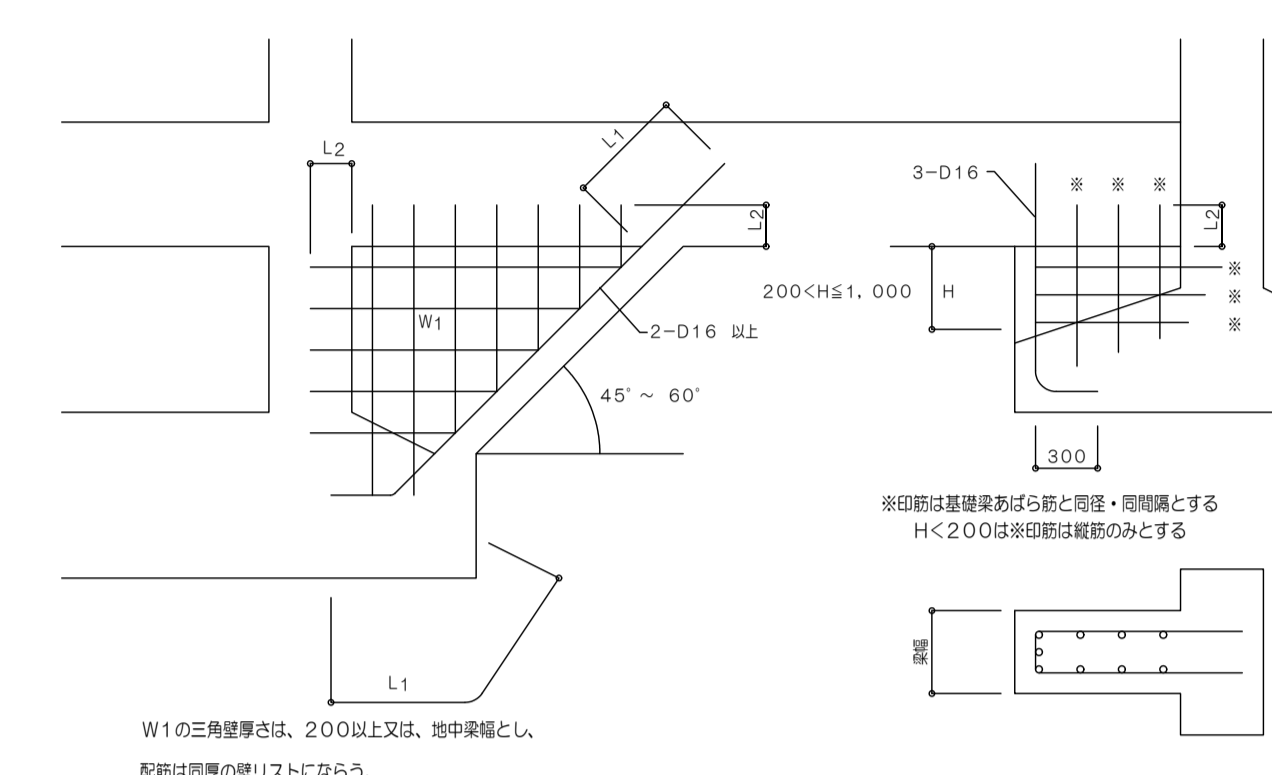
### (2) 杭基礎



## (3) ベタ基礎

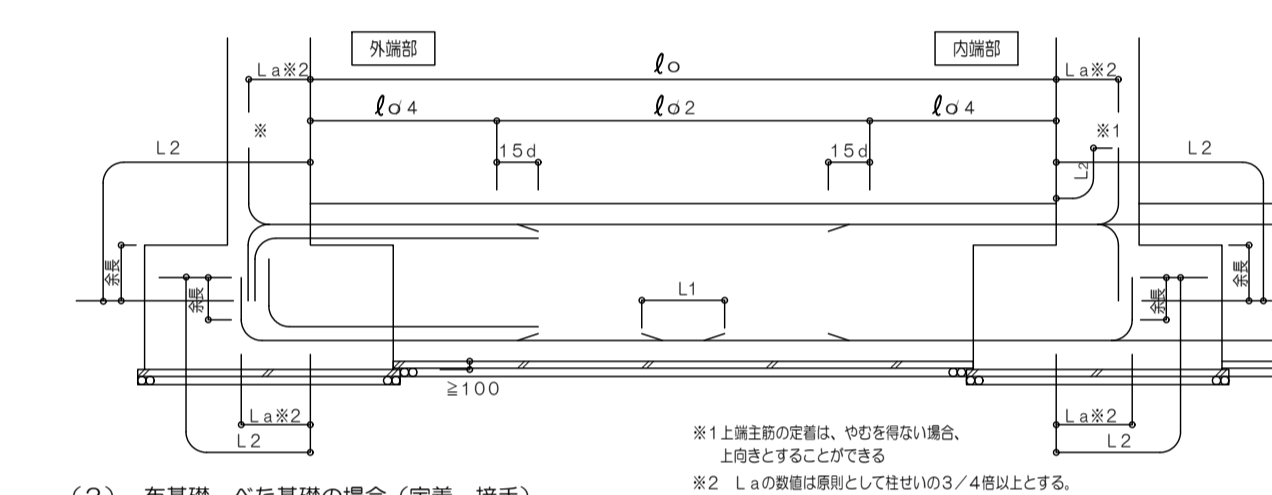


## (4) 基礎接合部の補強

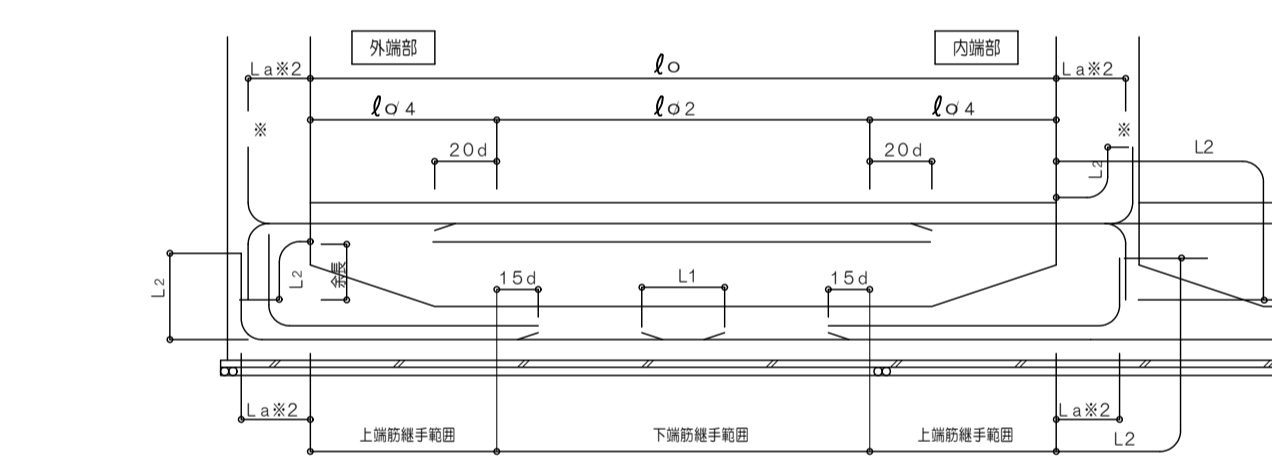


## 5. 地中梁

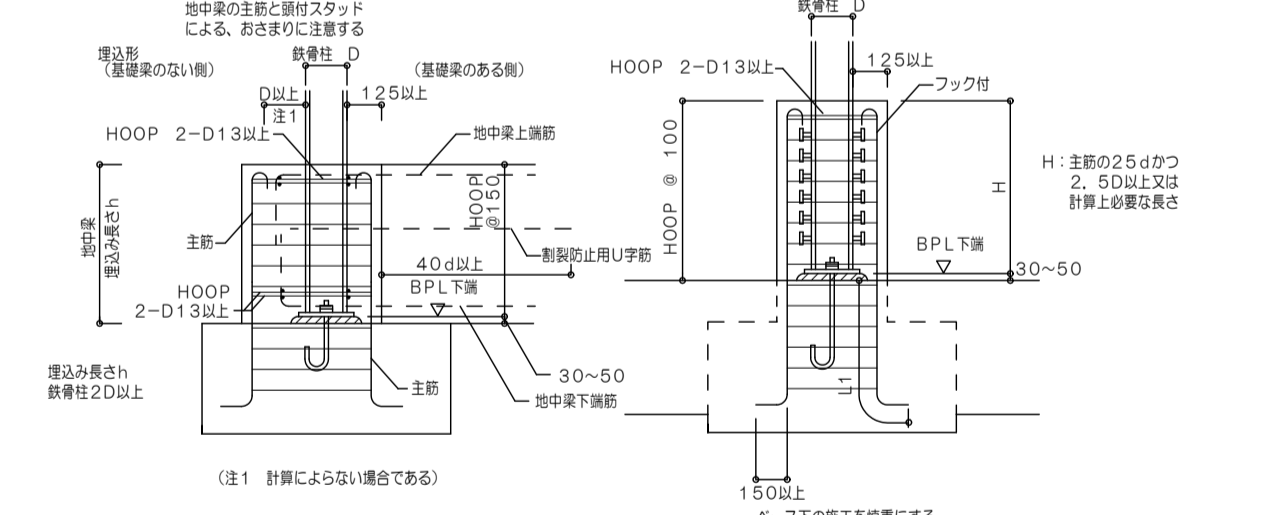
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、接手)



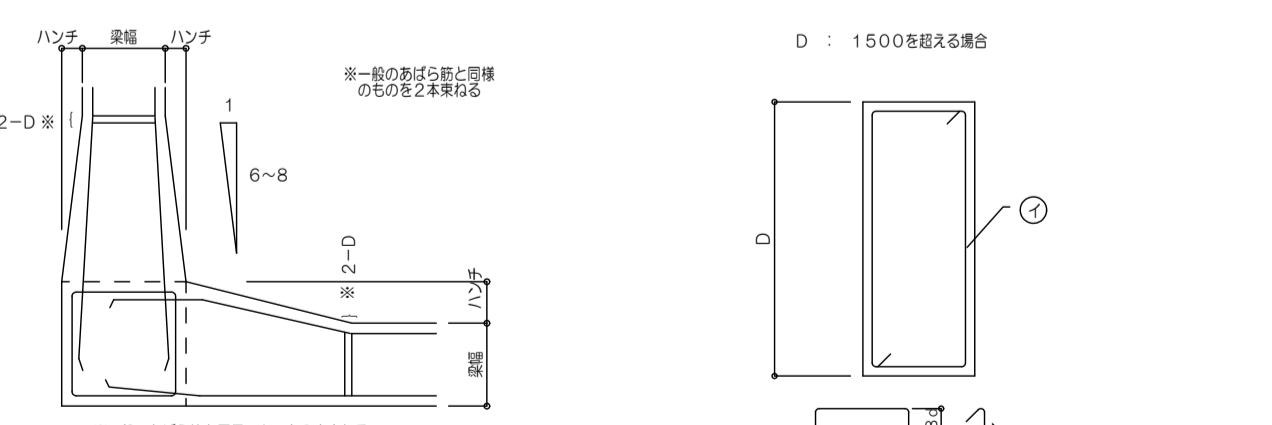
### (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、接手)



### (3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



### (4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

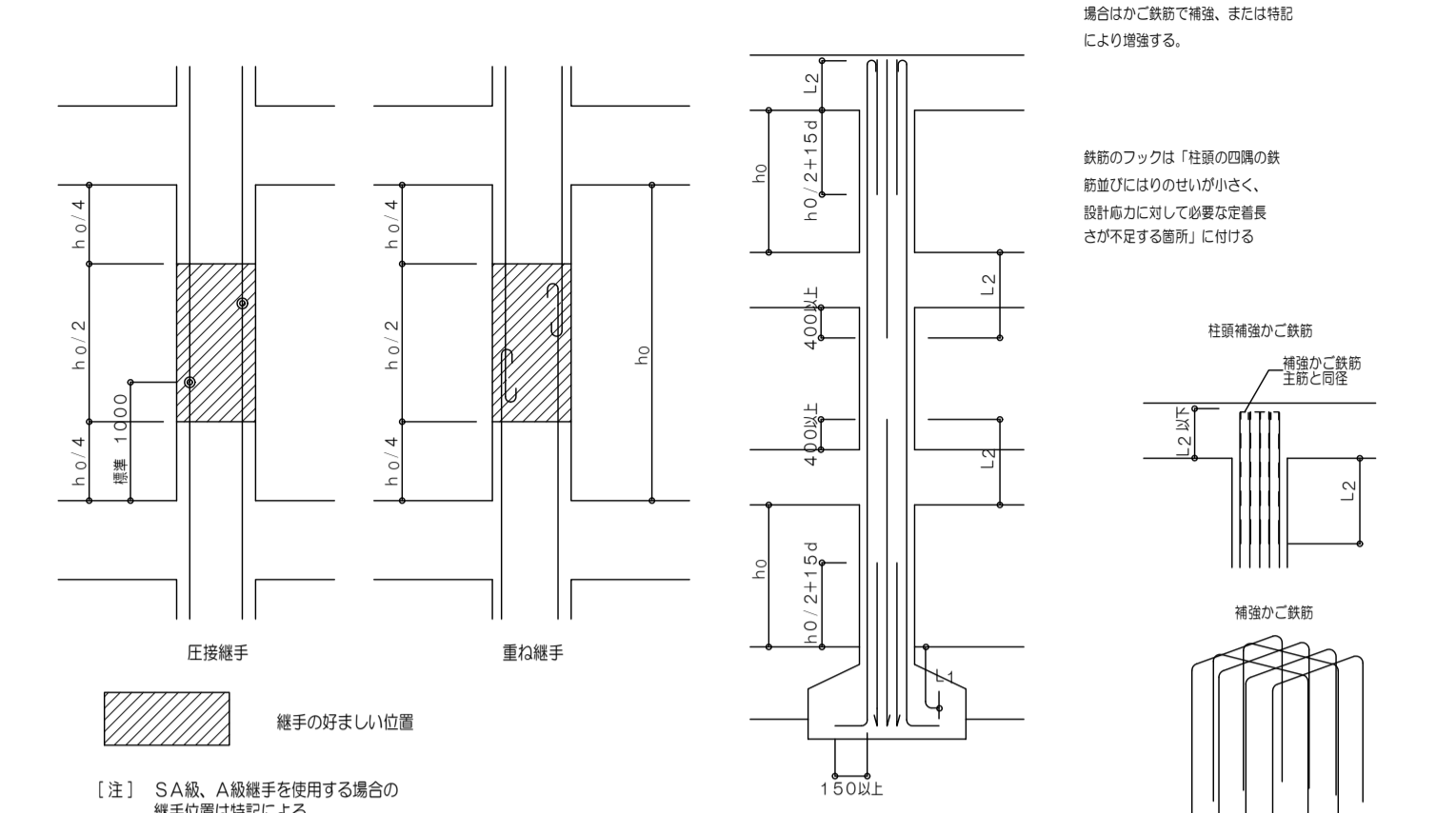


### (5) せいの高い場合のあばら筋加工要領

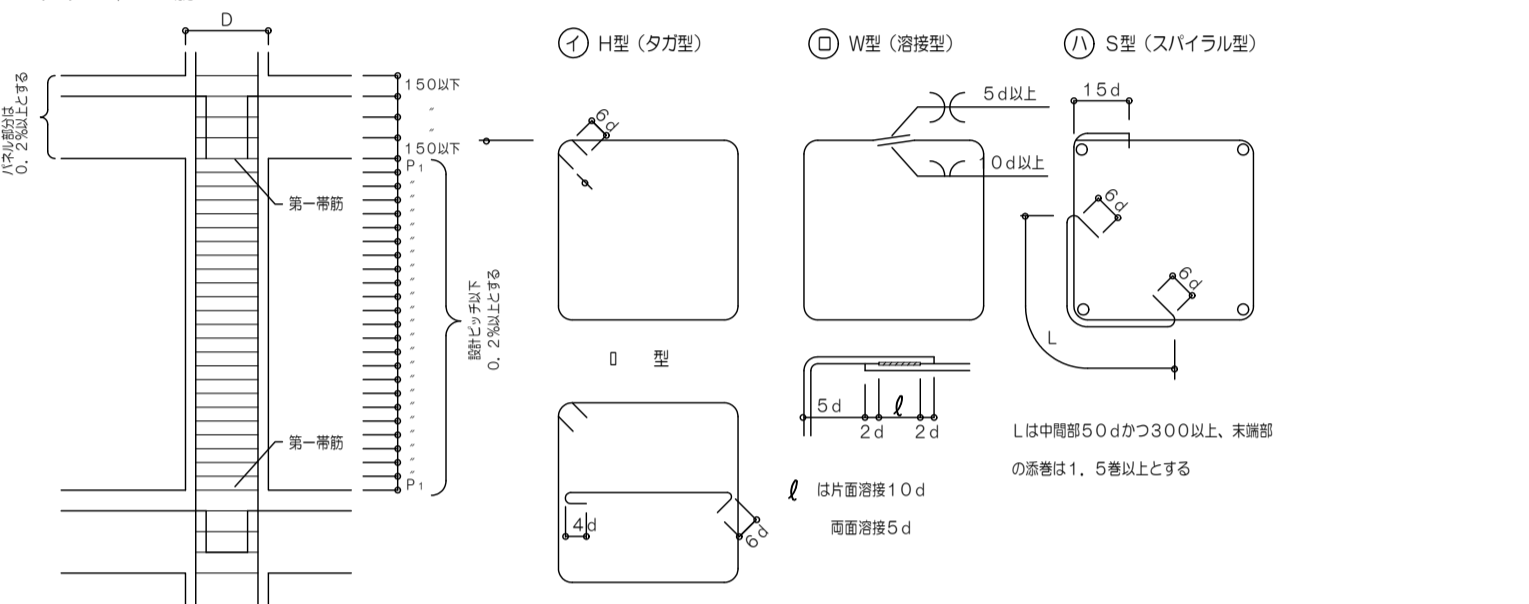


## 6. 柱

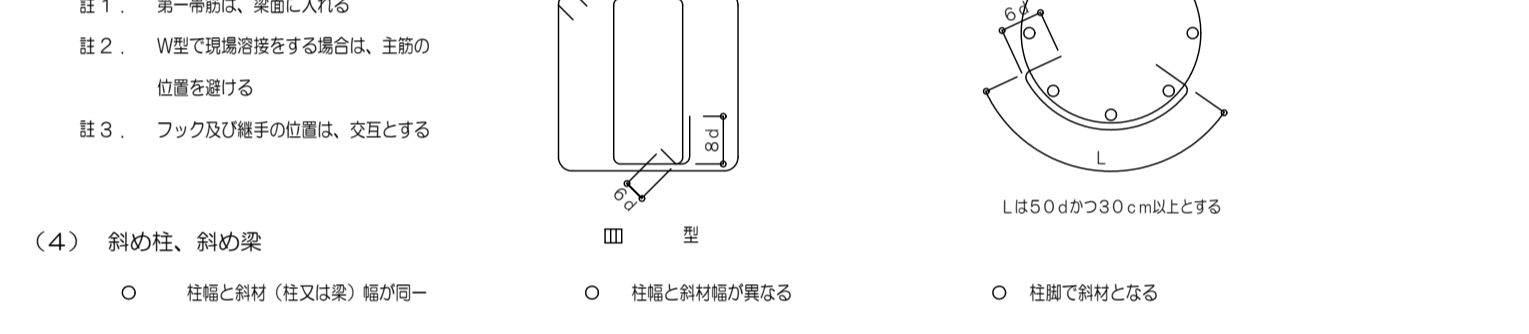
### (1) 柱主筋の継手



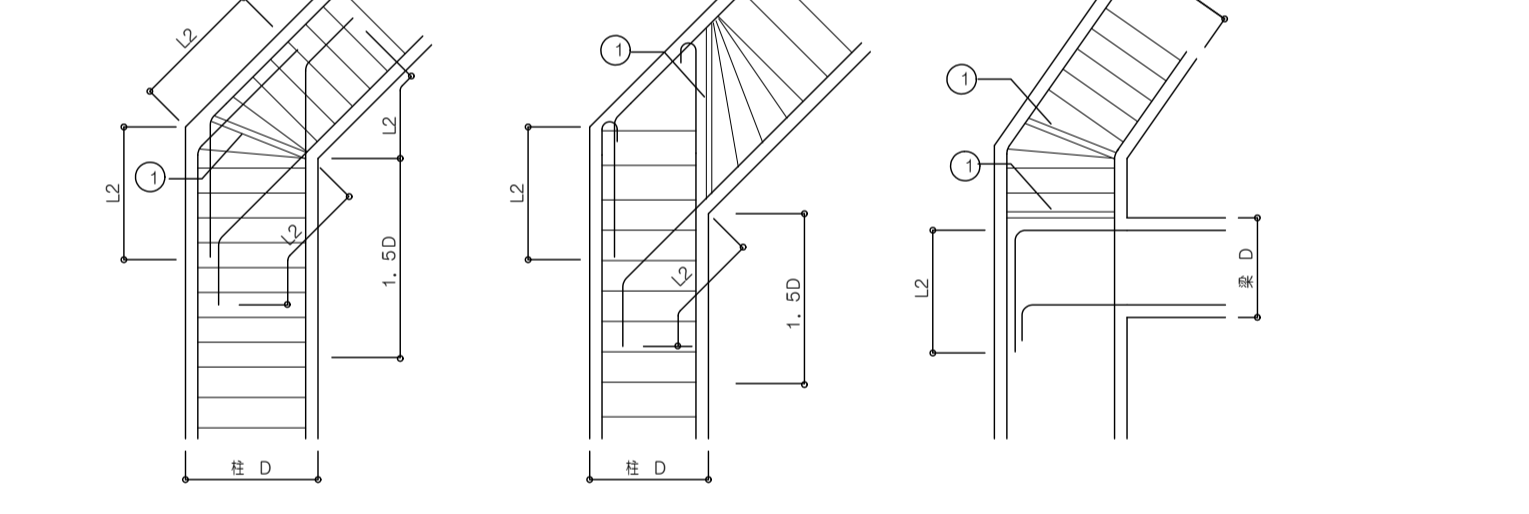
### (2) 柱主筋の定着



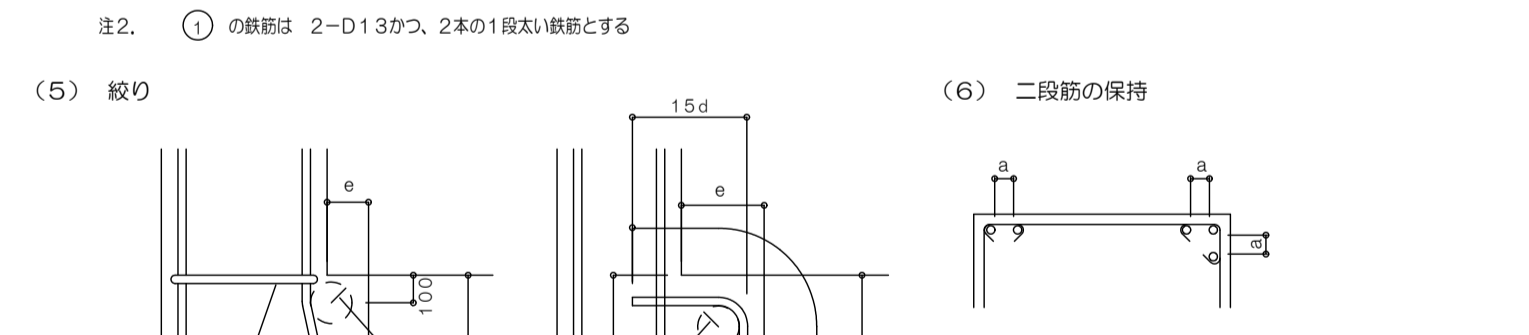
### (3) 帯 筋



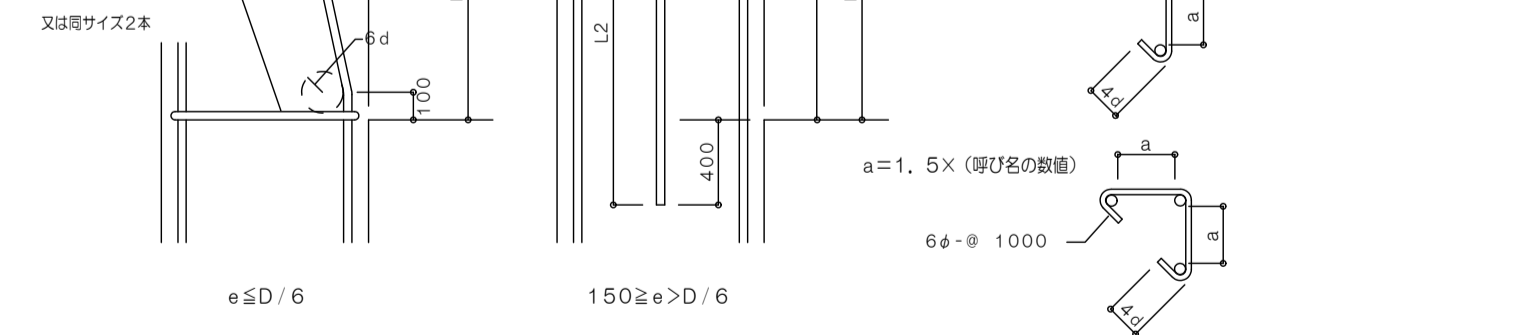
### (4) 斜め柱、斜め梁



### (5) 絞 り



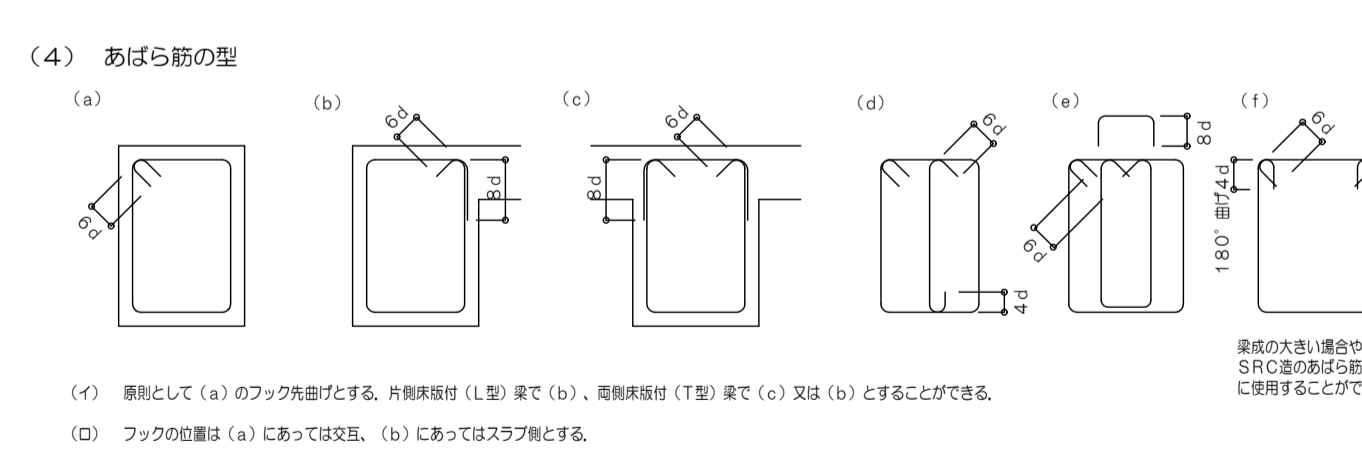
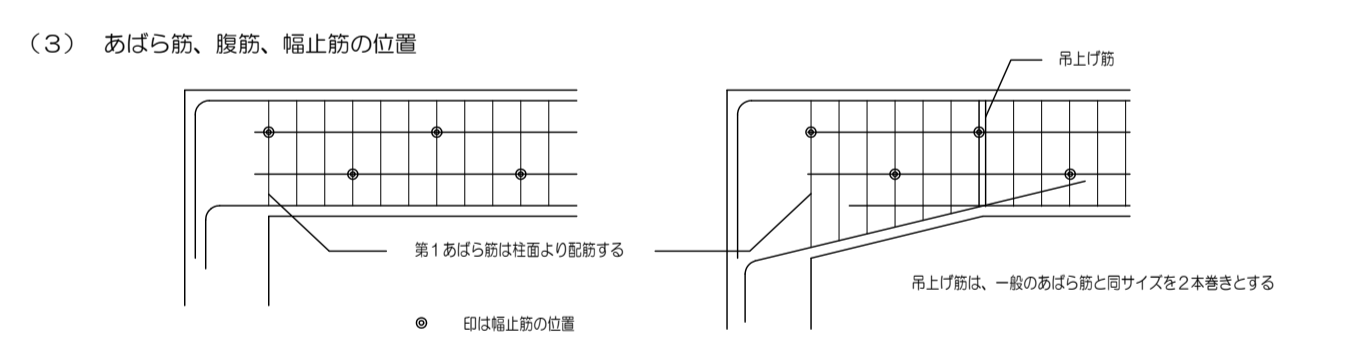
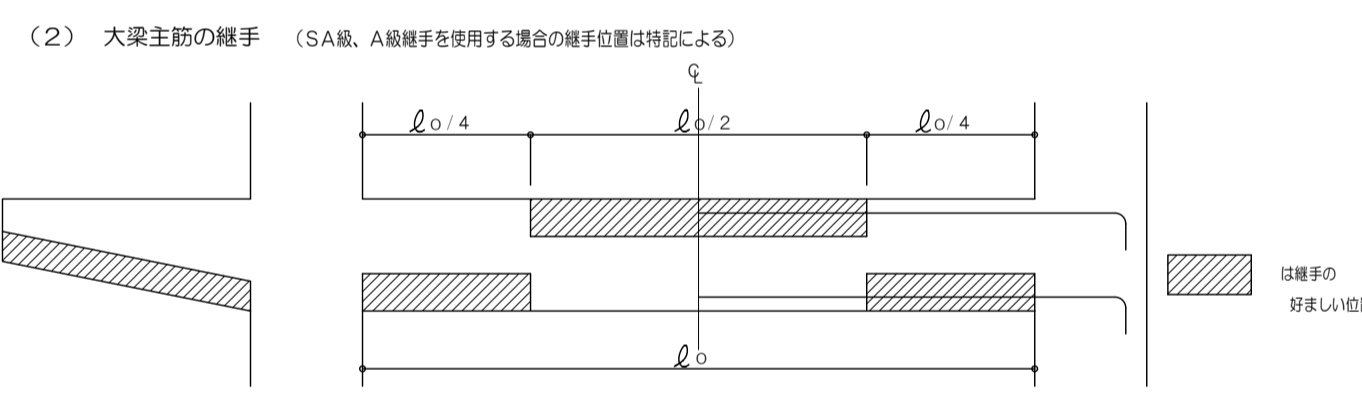
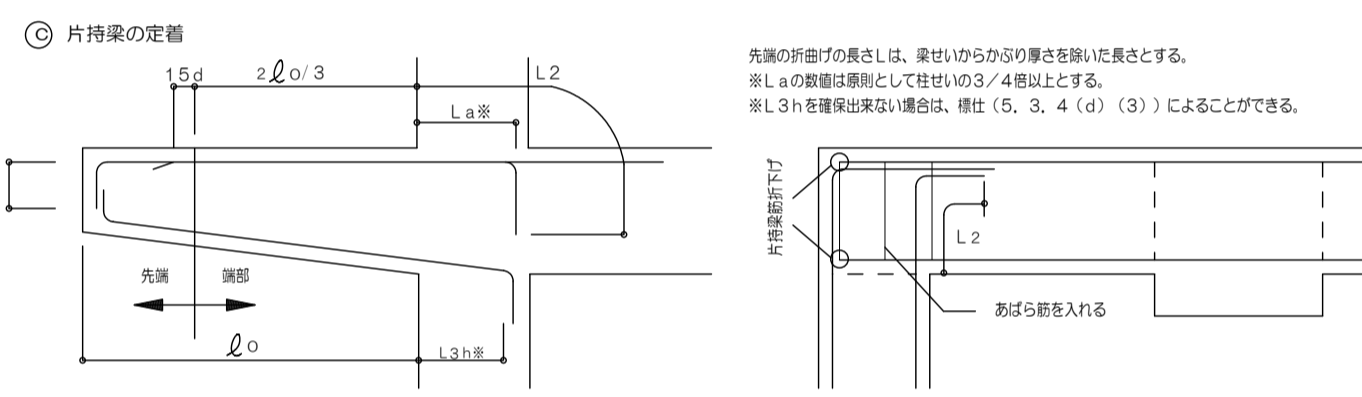
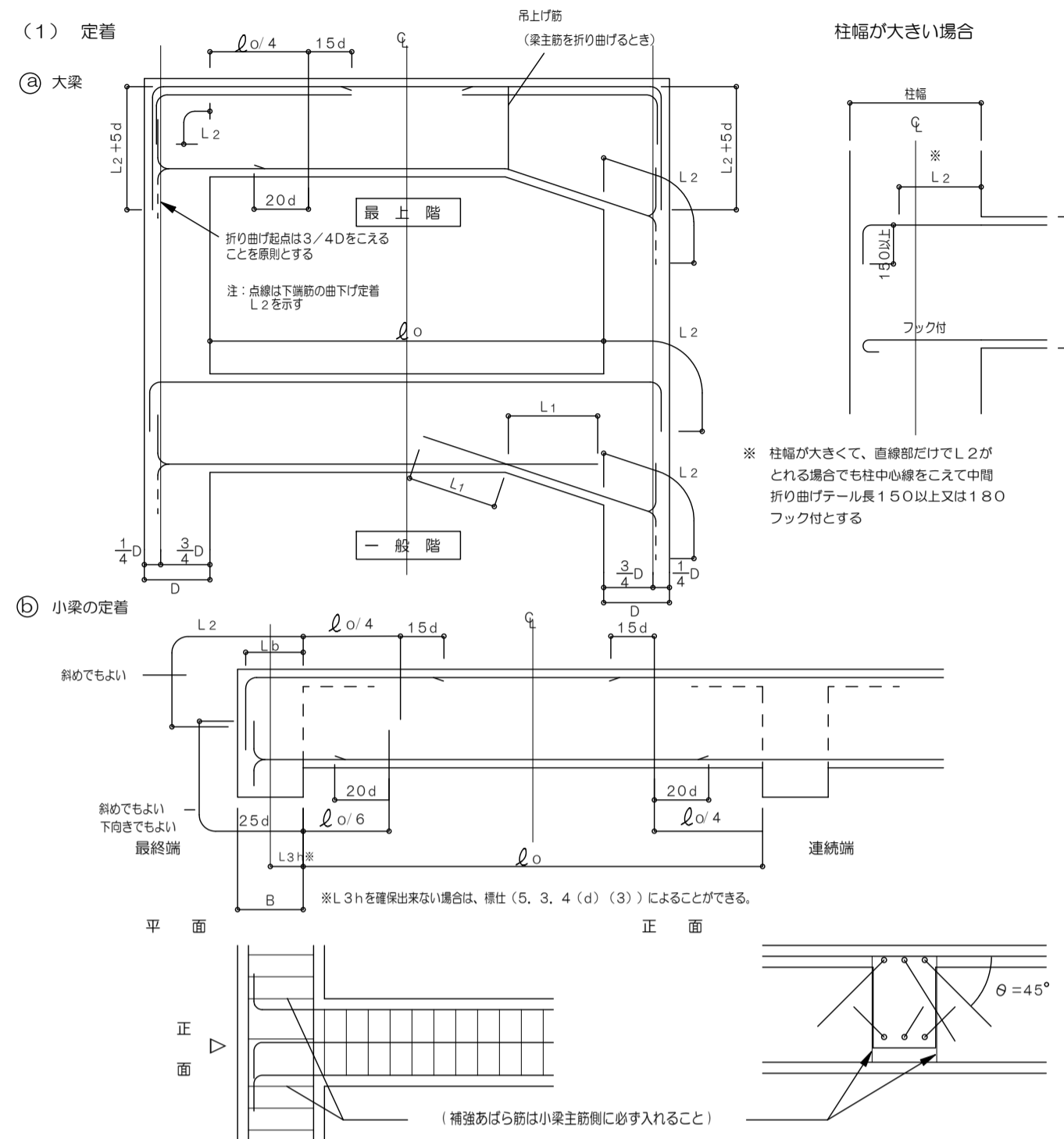
### (6) 二段筋の保持



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

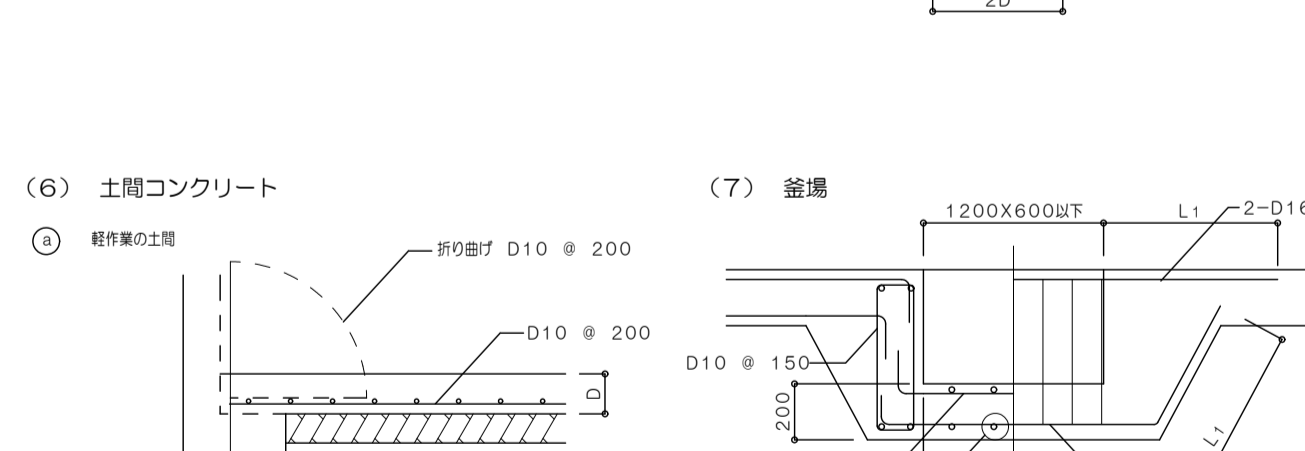
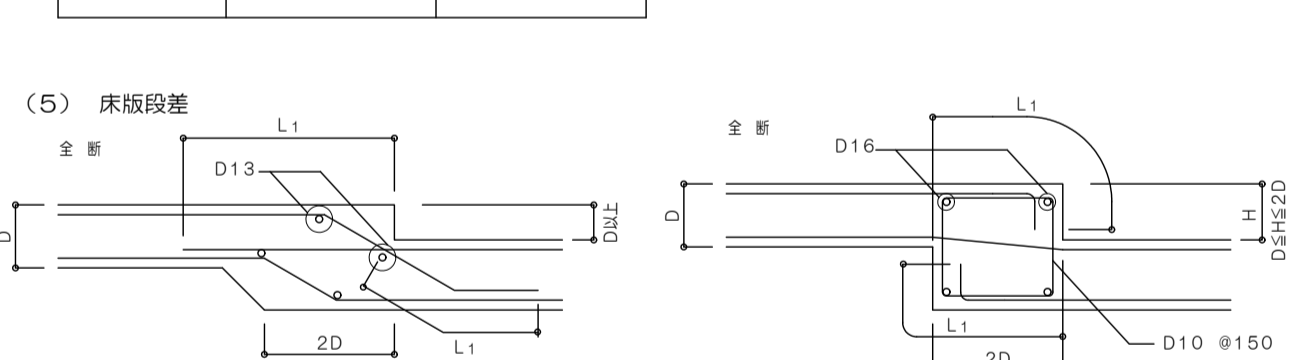
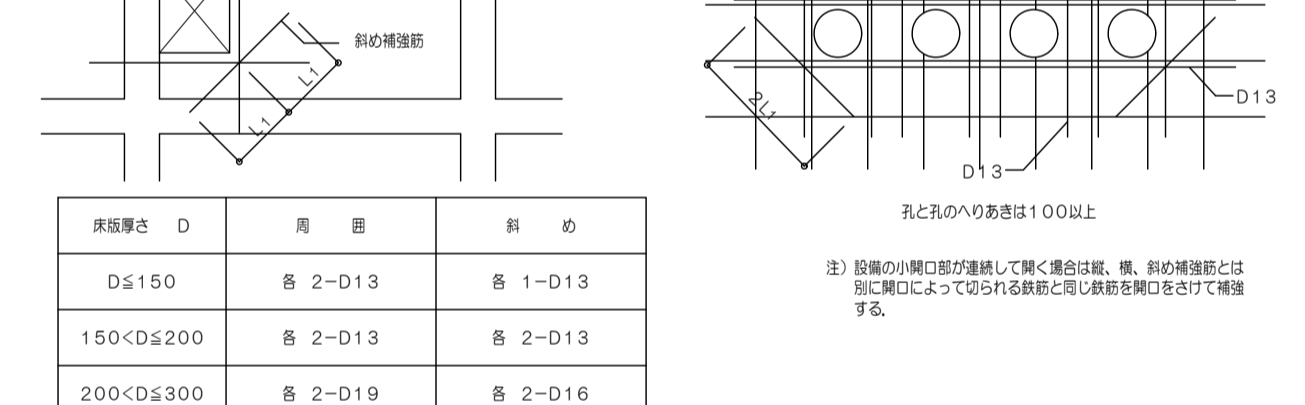
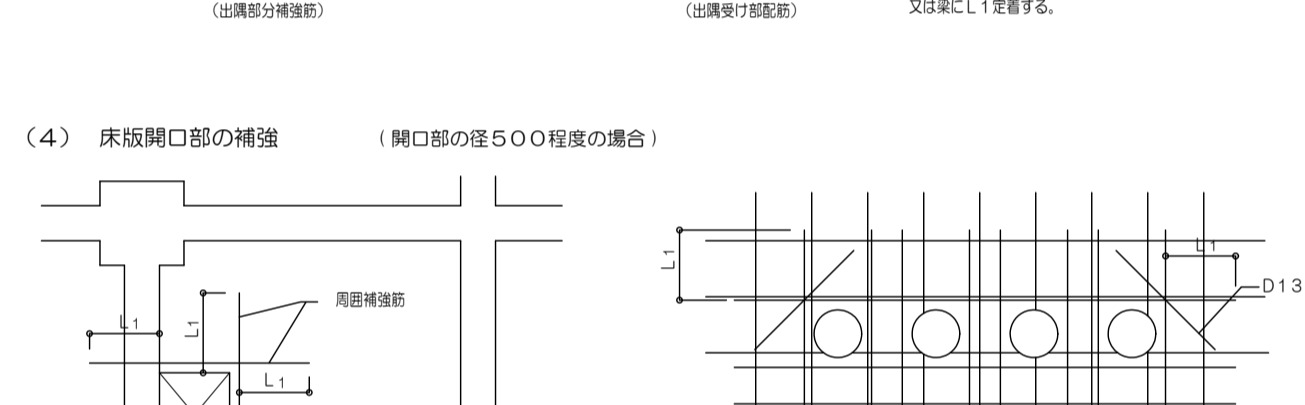
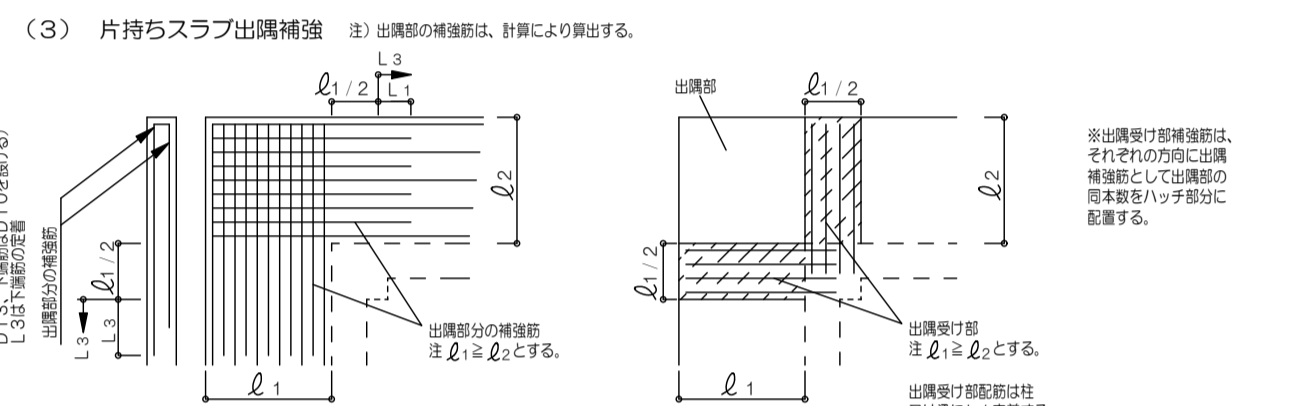
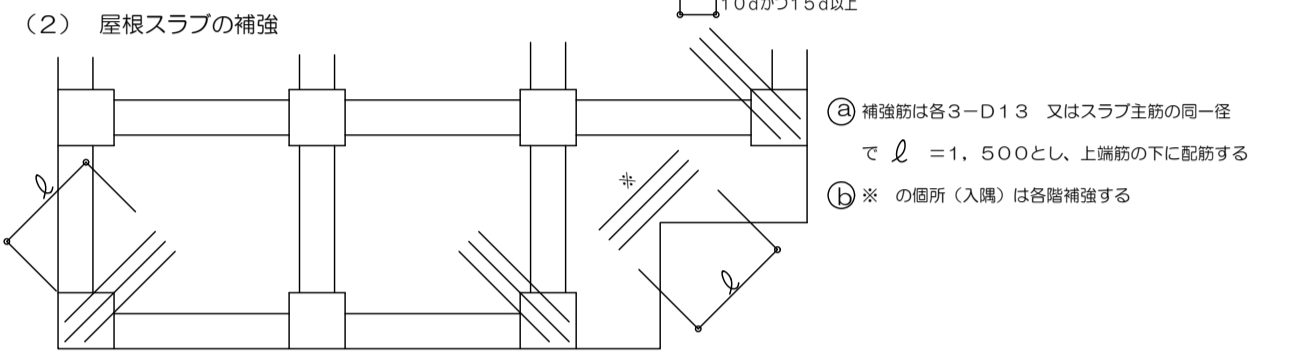
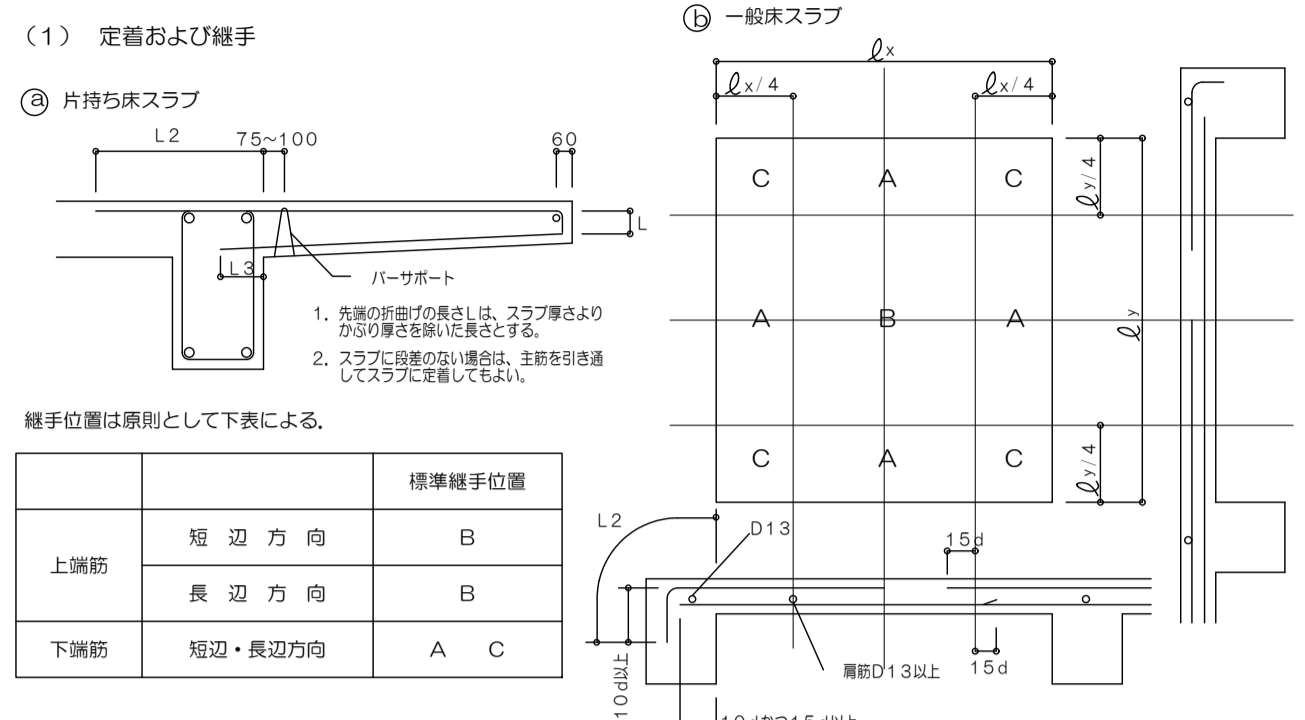
L=鉄筋コンクリート構造配筋 標準図(1) の2-(3)による。

## 7. 大梁、小梁、片持梁

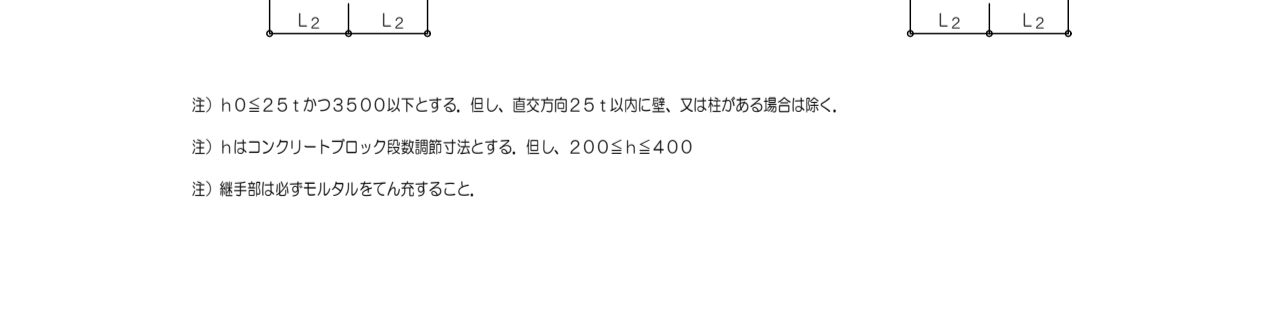
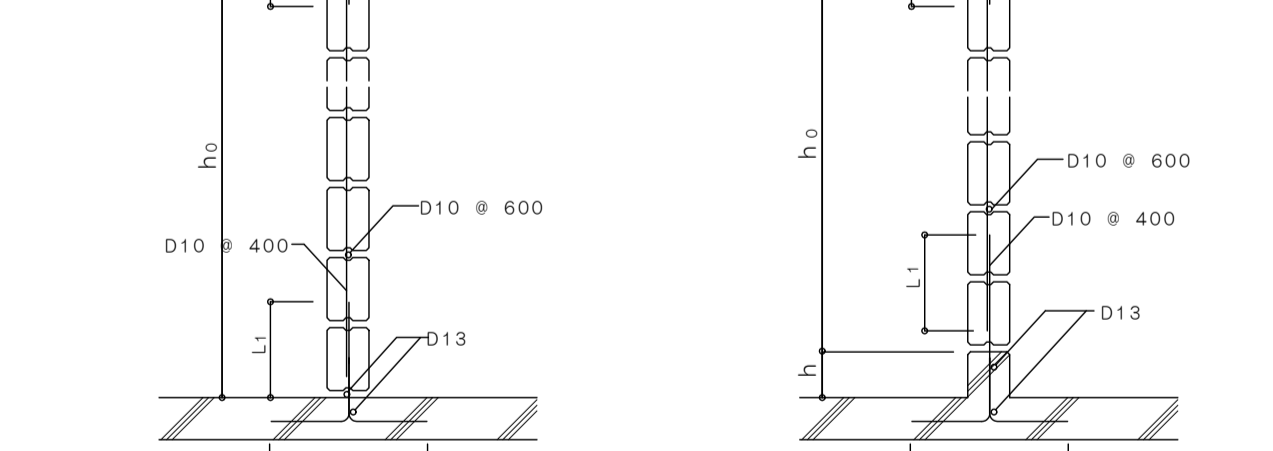
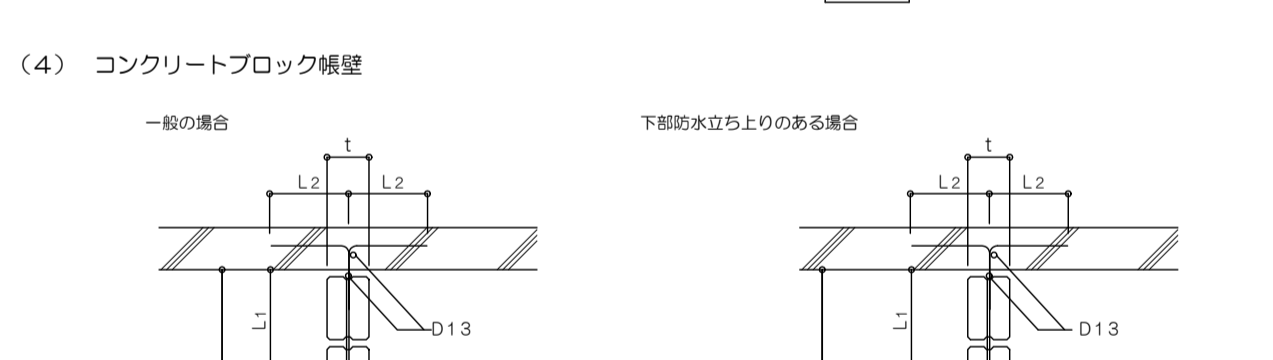
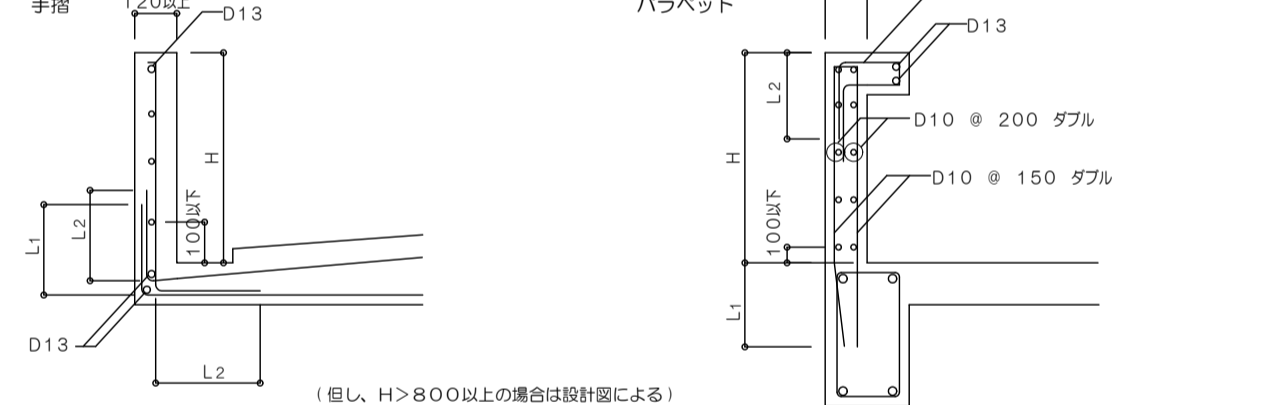
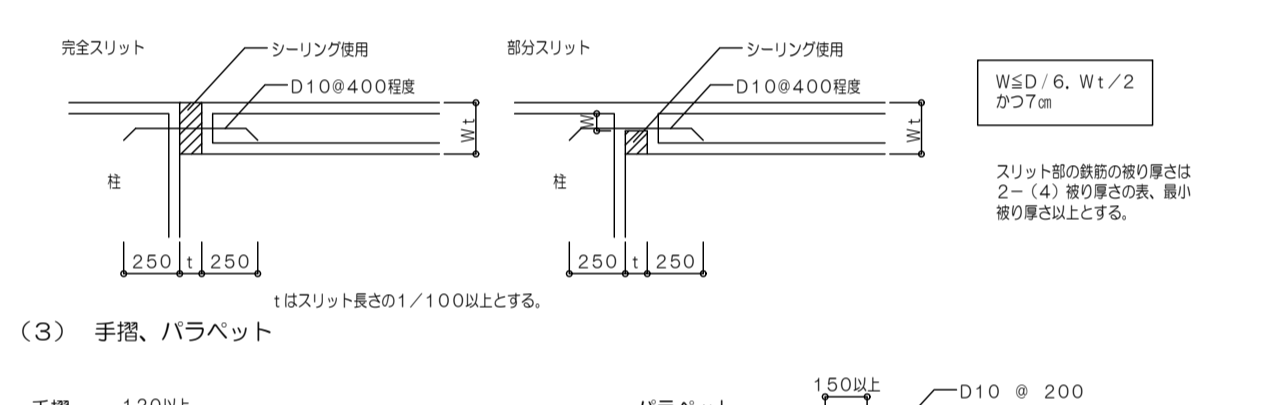
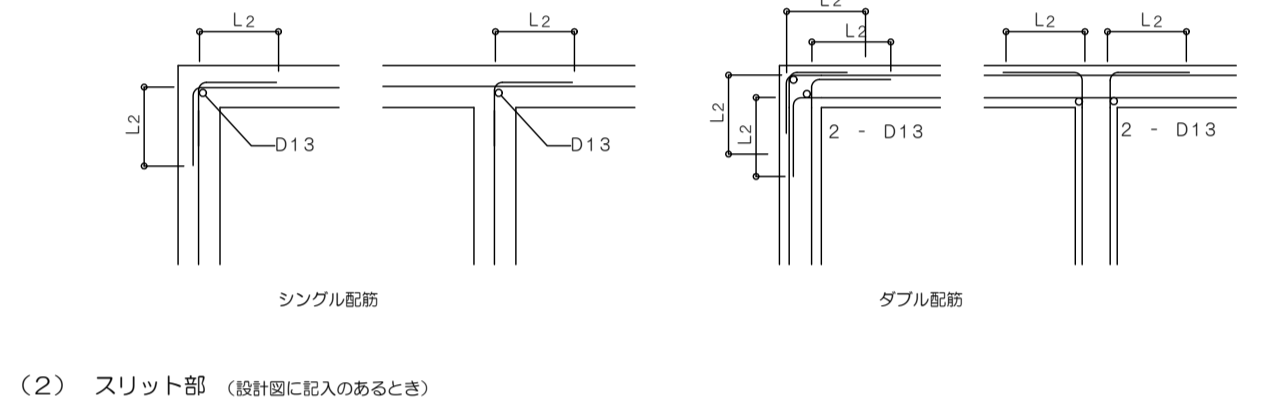
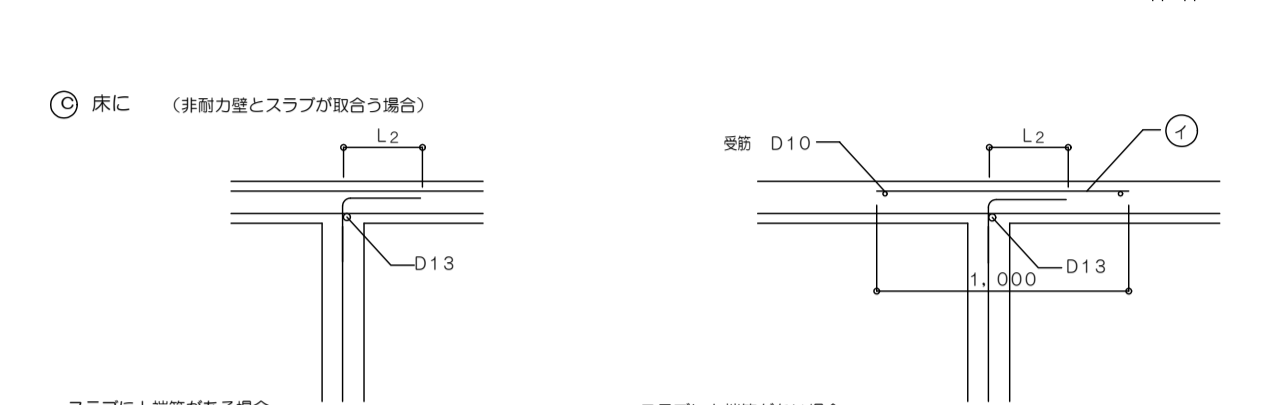
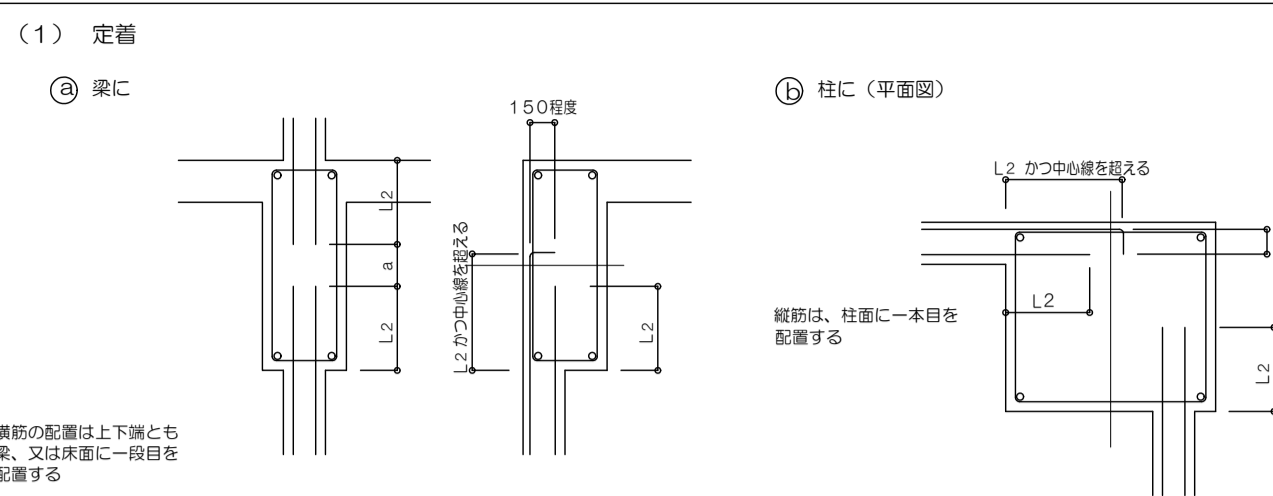


種別	幅	高さ	筋径	間隔
補正筋	600 ≤ D < 900	2	D10 (9φ)	1 段
	900 ≤ D < 1200	4	D10 (9φ)	2 段
	1200 ≤ D	D10 (9φ) ③	300 間隔	

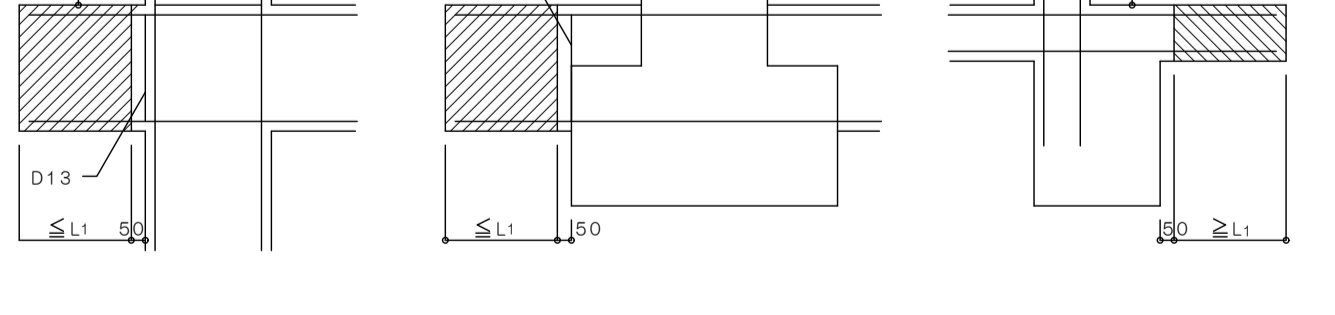
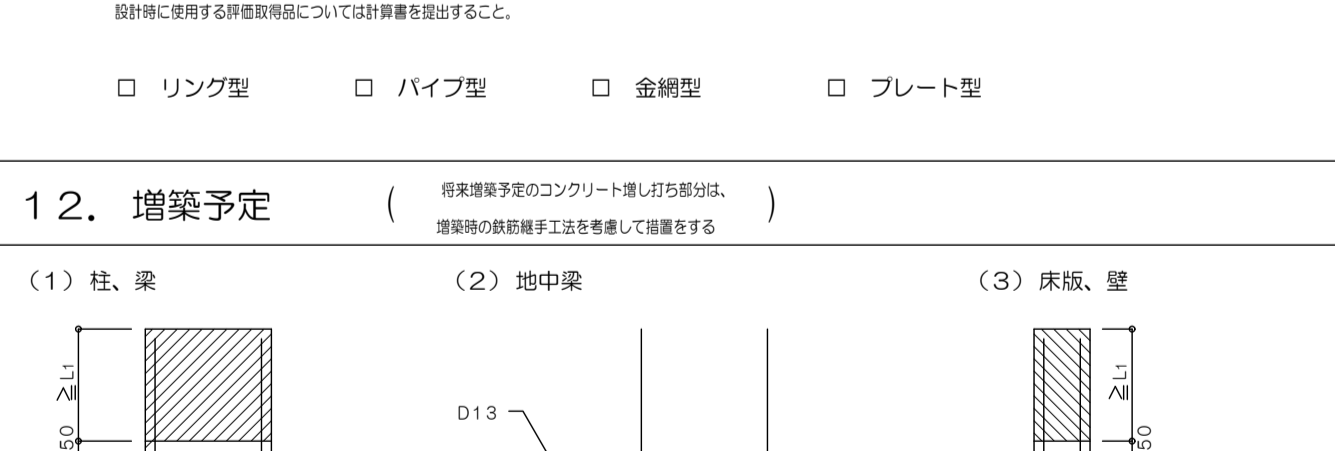
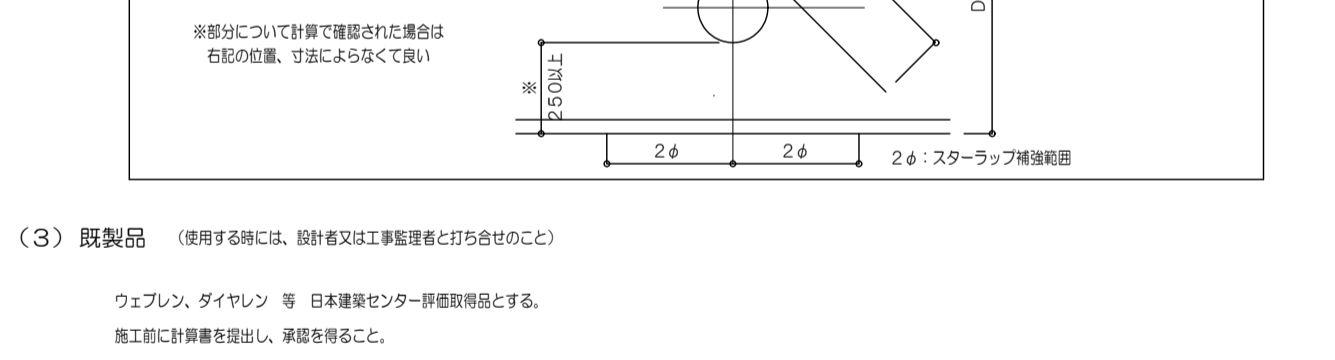
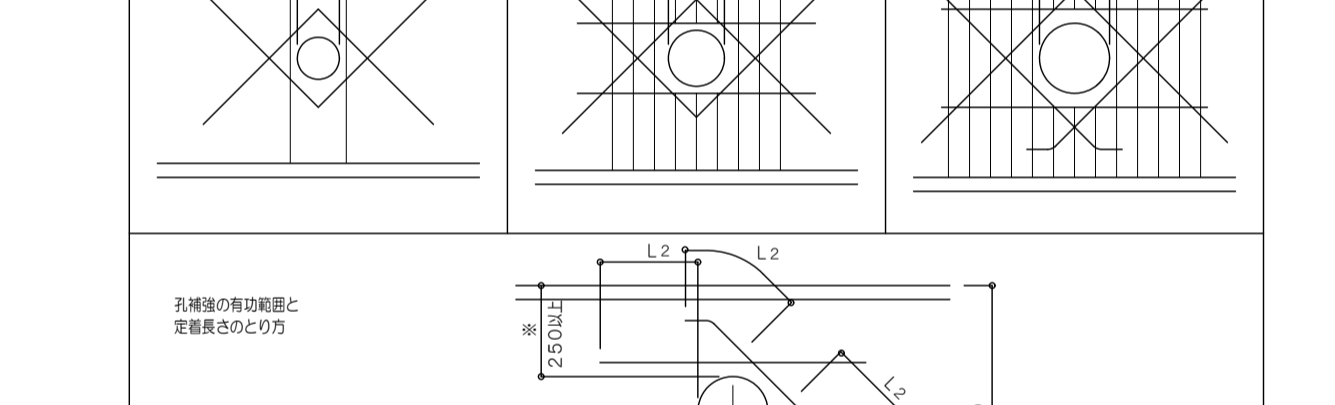
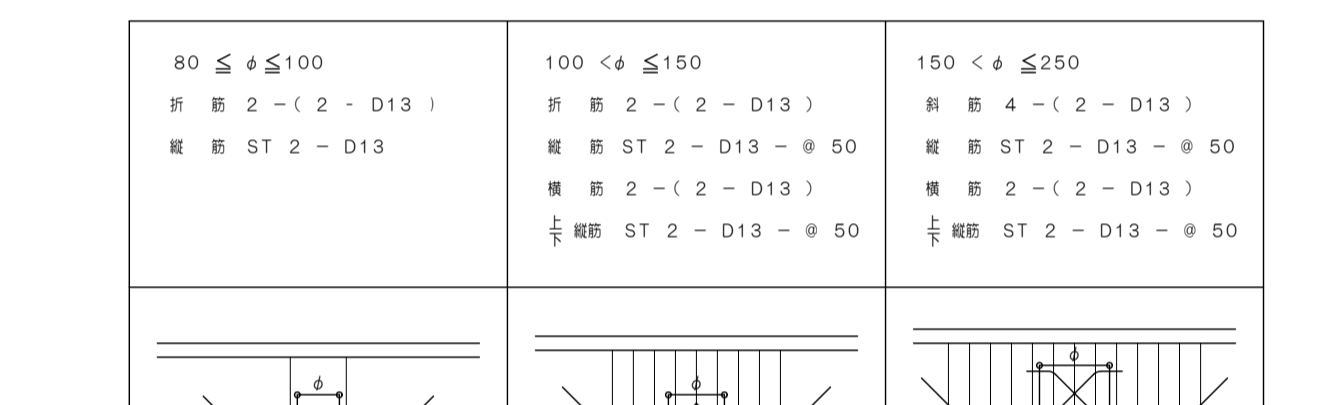
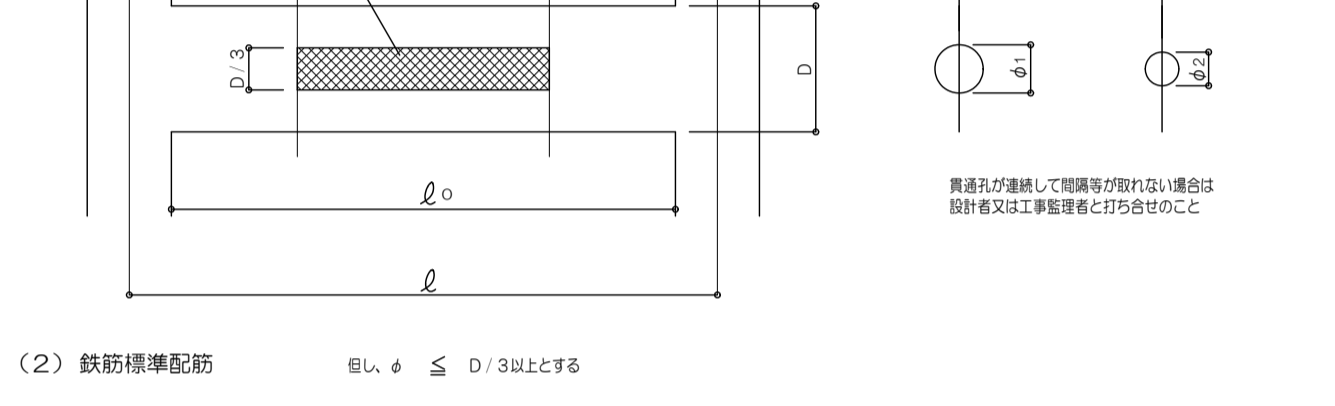
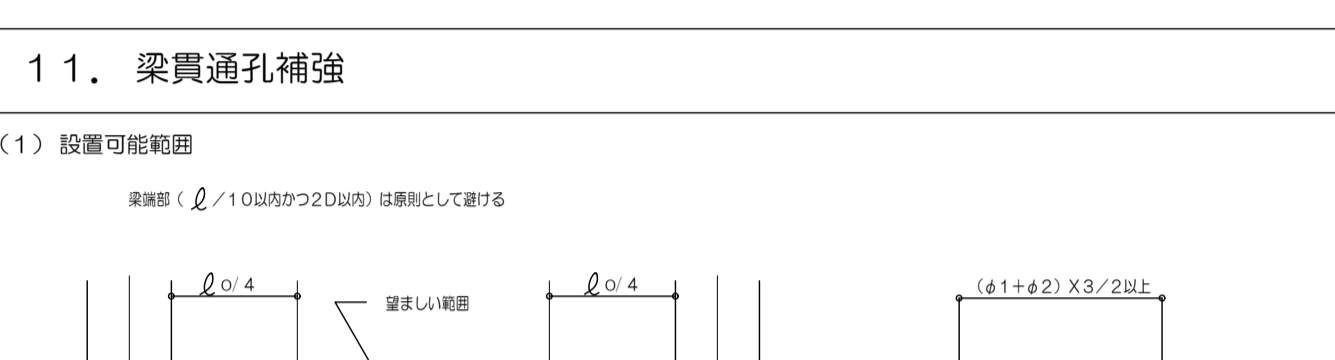
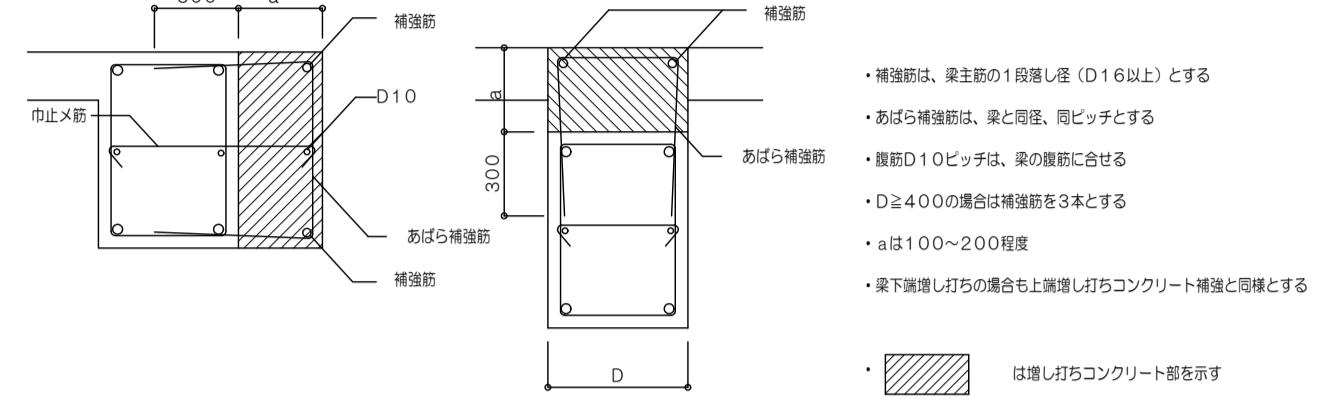
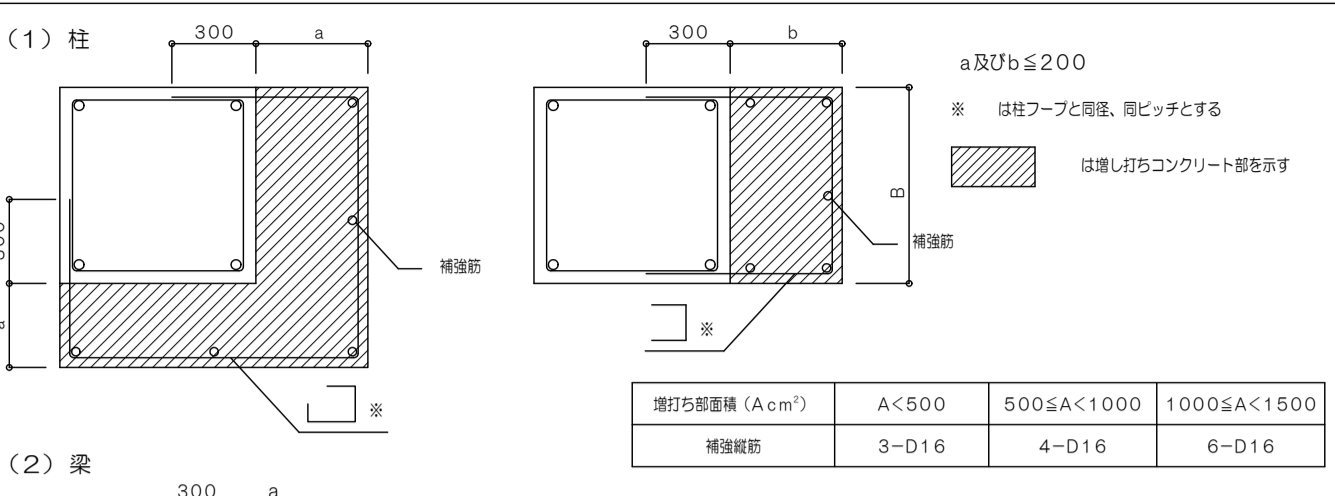
## 8. 床版



## 9. 壁



## 10. 柱、梁増し打ちコンクリート補強



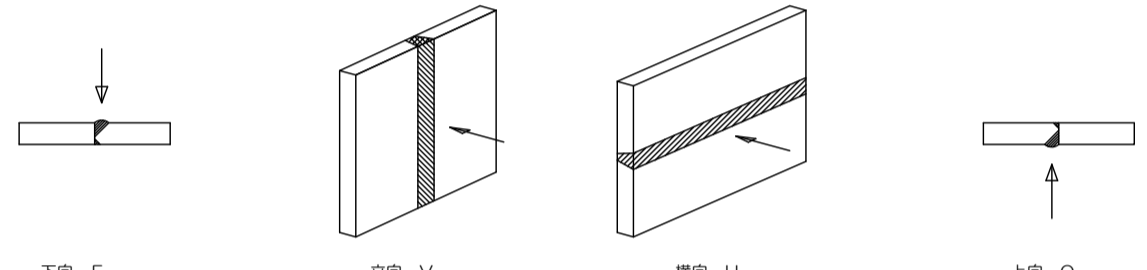
種別	幅	高さ	筋径	間隔
補正筋	600 ≤ D < 900	2	D10 (9φ)	1 段
	900 ≤ D < 1200	4	D10 (9φ)	2 段
	1200 ≤ D	D10 (9φ) ③	300 間隔	

補正筋の本数、加工

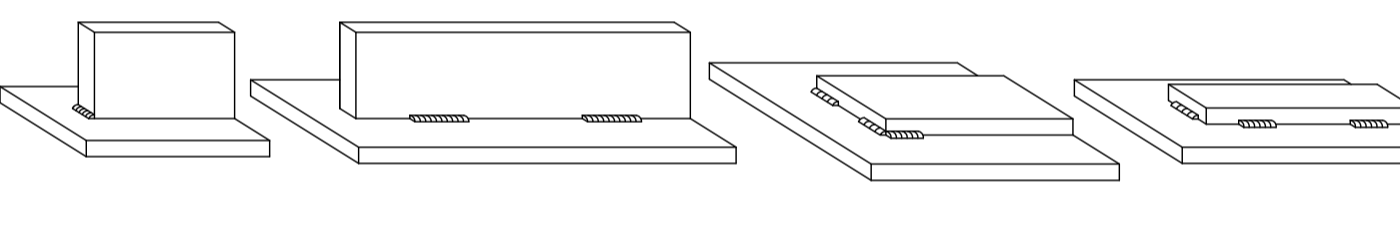
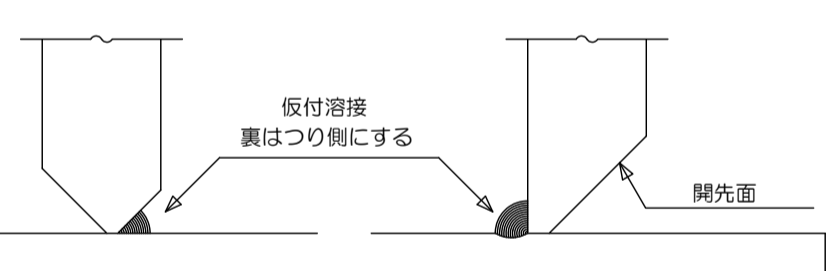
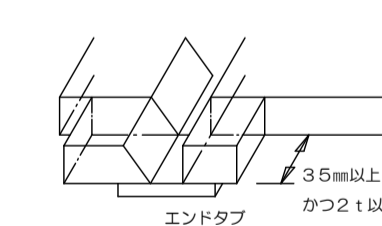
# 鉄骨構造標準図 (1)

## 1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
  - (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが4.0mm以下のものとする
  - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 作業一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る
  - (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
  - (c) 高強力鋼のみずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本編めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技術者
 

溶接技術者は施工する溶接に適用する JIS Z 3801 (手溶接) 又は JIS Z 3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引き継ぎ、半年以上溶接に従事している者とする
  - (b) 溶接機
    - (イ) 交流アーク溶接機 300A ~ 500A
    - (ロ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
    - (ハ) アークエア-ガウジング機 (直流)
    - (ニ) 溶接電流を測定する電流計
    - (ヘ) サーマリアーク溶接機 1式
    - (ホ) 溶接棒乾燥機
  - (c) 溶接方法
    - アーク手溶接 (MC)
    - ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
    - セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC)
    - アークエア-ガウジング (AAG)
  - (d) 溶接姿勢
 
  - (e) 組立て溶接技術者は、原則として本工事に従事する者が行う
    - (イ) 仮付位置
 

組立て溶接は溶接の始、終端、隅部など強度上、工作上、問題となりやすい箇所は避ける


    - (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
 
  - (f) 溶接施工
    - (イ) エンドタブ
      - I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
      - II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
      - III) エンドタブの長さは、MC : 35mm以上  
NGC, GC : 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度切り断して、グラインダー仕上げとする
      - IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
    - (ロ) 裏あて金
 

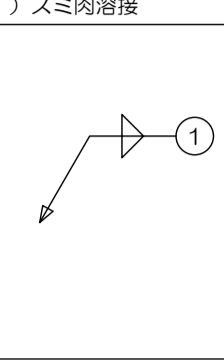
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
    - (ハ) スカールアップ半径は30~35mmと、10mmのダブルールとする
    - (ニ) 裏はつり
 

規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を助行し、部材に確認マークをつける
    - (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行なう
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

## 2. 溶接規準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位: mm)

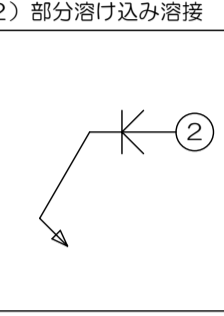
(1) スミ肉溶接



t	7以下	8~10	11~13	14~16
s	6	7	10	12

- 但し表面溶接の場合はs=tとする
- tはt1, t2の中間値とする
- 余盛は(1+0.1S)mm以下とする
- 軸力が加わる場合は母材と同質とする事が望ましい

(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所に注意)



$R \leq 2$   $t/4 \leq S \leq 10mm$   $t \leq t1$

t	t > 16mm
溶接姿勢	F, V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

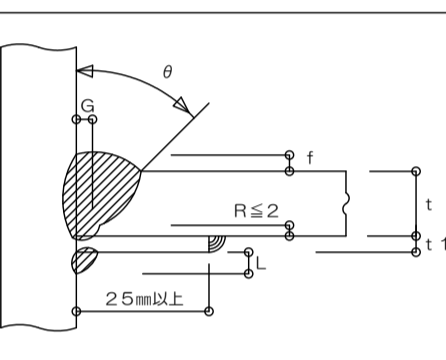
(3) 突合せ溶接 (平継手 T型継手)

$\theta = 45^\circ$   $f = t/4$

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG

(4) 突合せ溶接 (T型継手)



t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

- 補強すみ肉溶接を付加する

(5) 突合せ溶接 (T型継手)

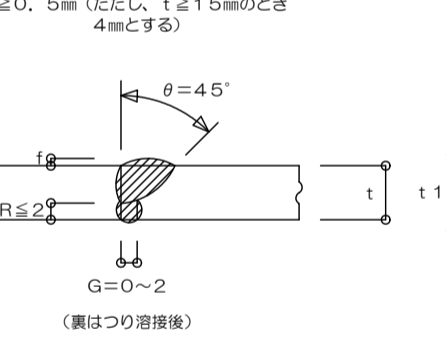
$\theta = 45^\circ$  (55°)  $f = t/4$  T型突合せ継手余盛

のど厚mm	余盛の高さmm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
t > 19	4

t	t ≥ 19mm
溶接姿勢	F, V

- AAG ( ) 内はGCでF, Hの場合
- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

(6) 突合せ溶接 (T型継手)

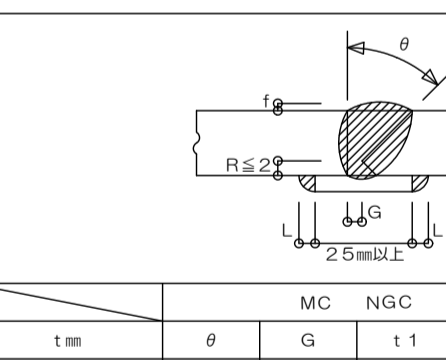


$f \geq 0, 5m$  (ただし、 $t \geq 15mm$  のとき  $4m$  とする)  $a > 4mm$  の場合 平継手では板厚が異なる場合

t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

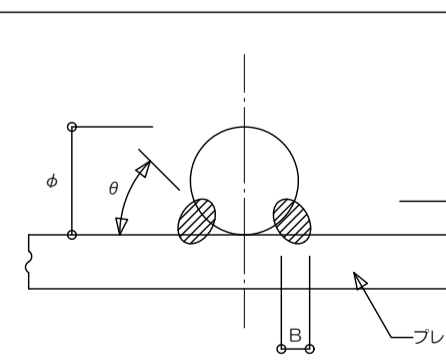
- 補強すみ肉溶接を付加する

(7) 突合せ溶接 (T型継手)



t	6 < t < 19mm
溶接姿勢	F, V

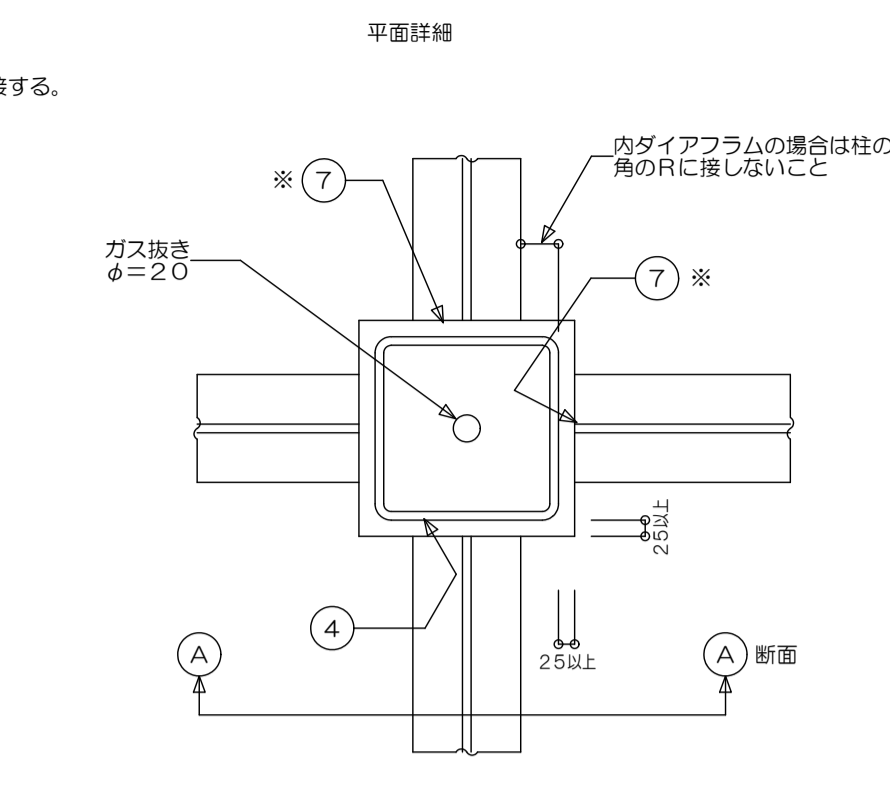
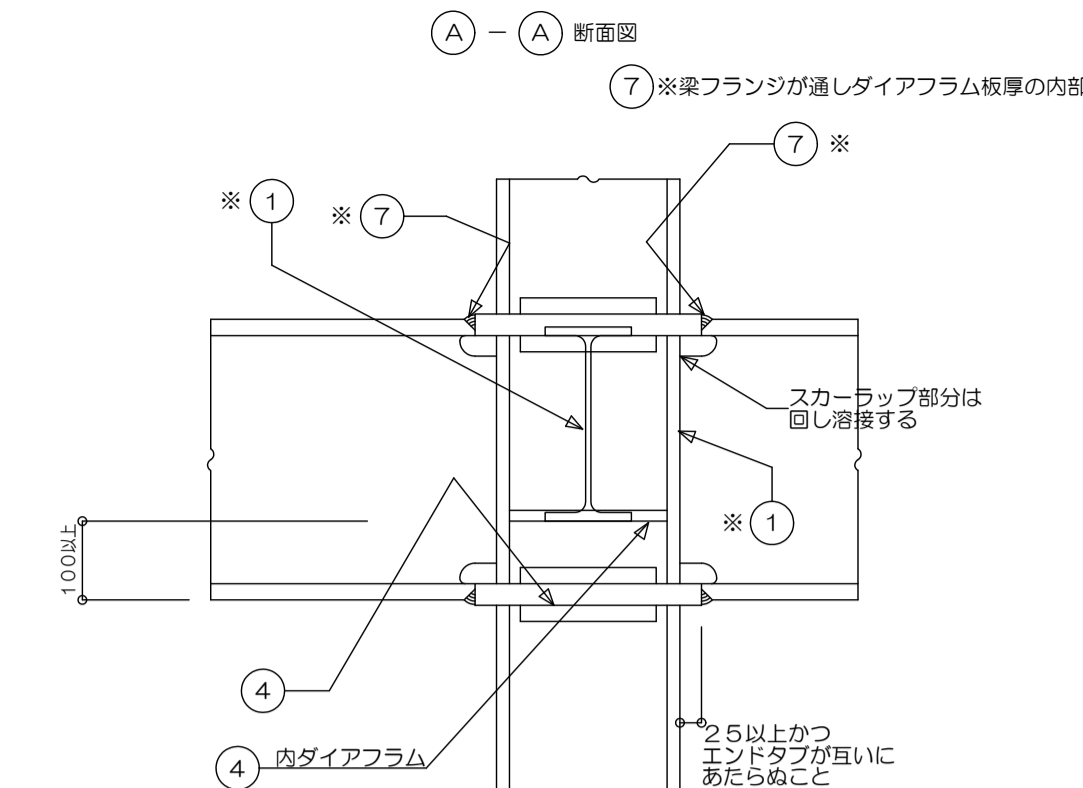
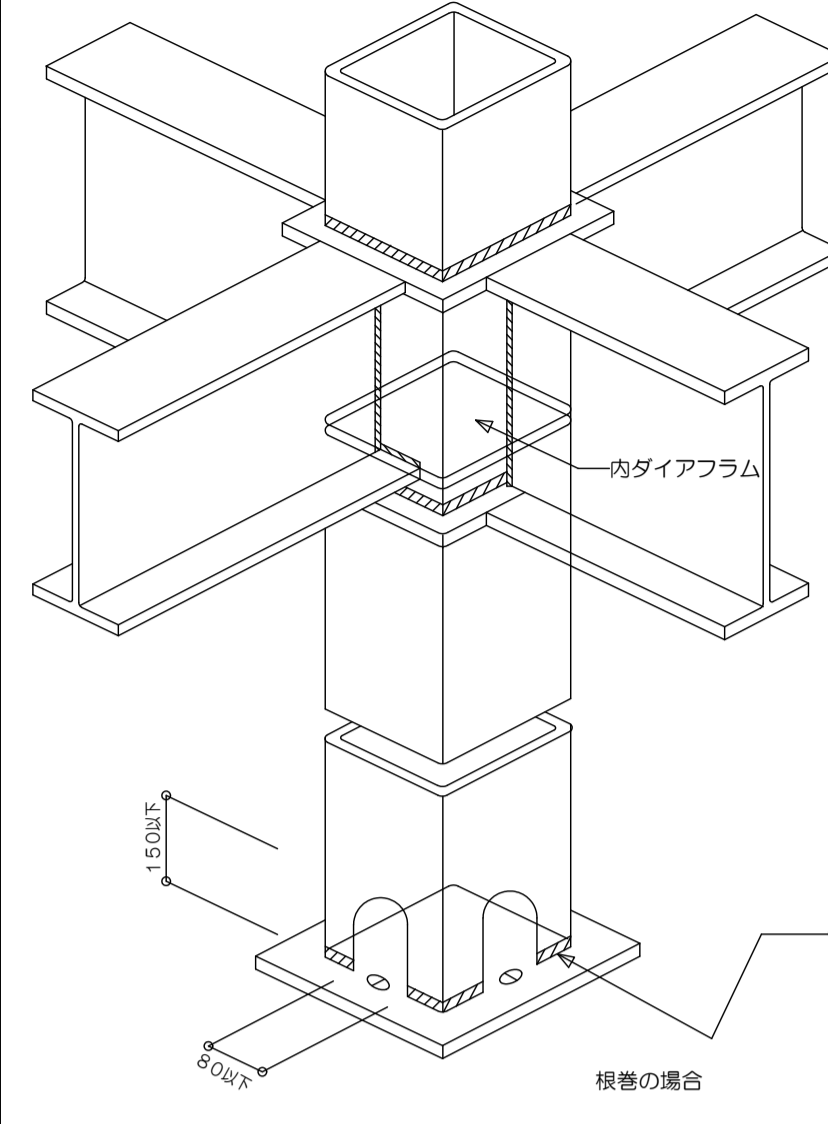
(4) フレア-溶接



寸法 (mm)	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

- フレア-溶接長は、鋼材に接する全長とする
- 9~16mmは、1/3以上、19mm以上は2/3以上とする
- 溶接傾斜角は30°~40°とする

● 溶接記号番号を○の中に記入のこと  
◎ BOX型 (通しダイアフラムの場合)

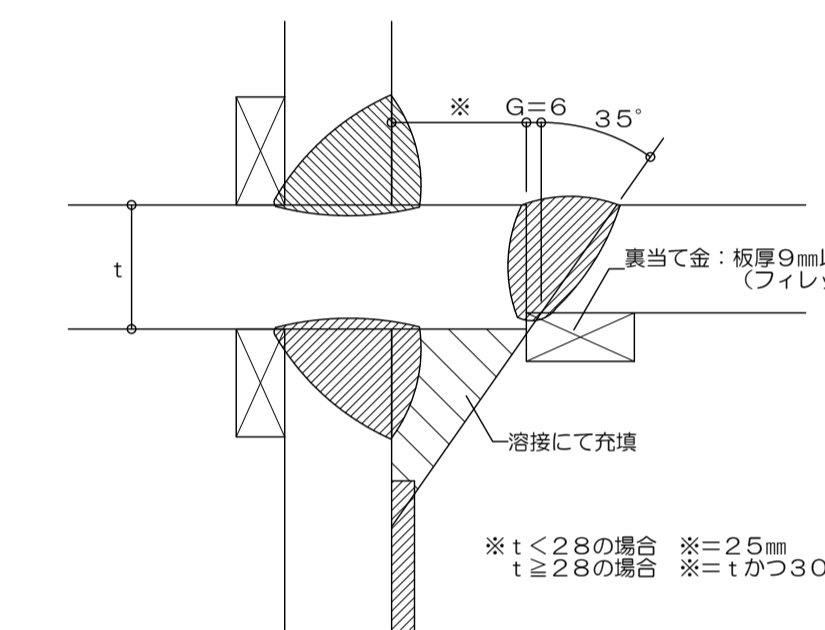


● 鋼材種別による溶接条件

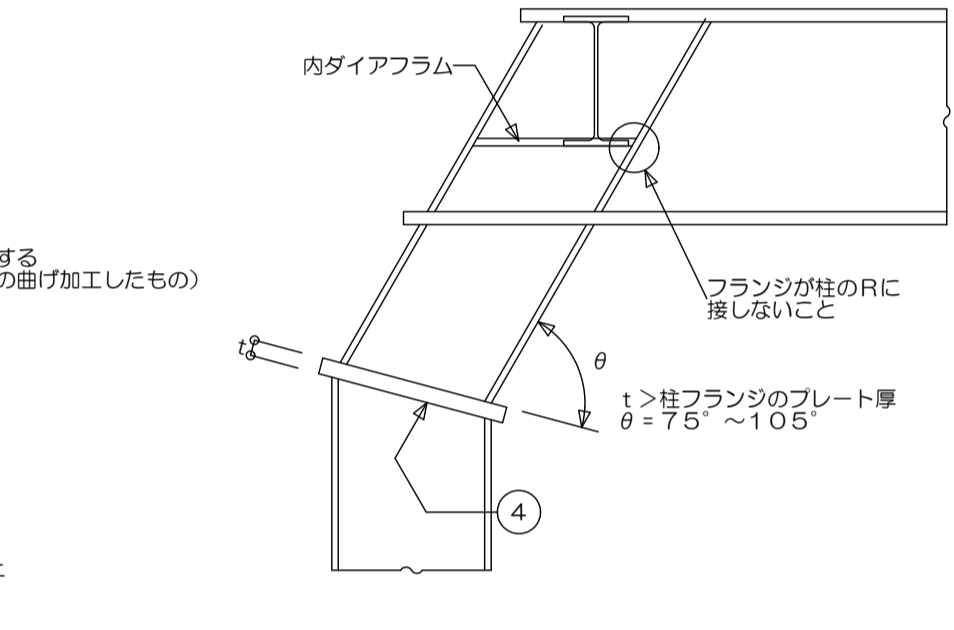
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ / m)	パス温度差 (°C)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGA-50W, 50P		

< 柱材料: BCR295, BCP325を使用する場合 >  
通しダイアフラムは、SN490C, SM490同等以上の鋼材を使用すること  
通しダイアフラム厚は、接合する柱、梁の最大径の2サイズアップ以上とする

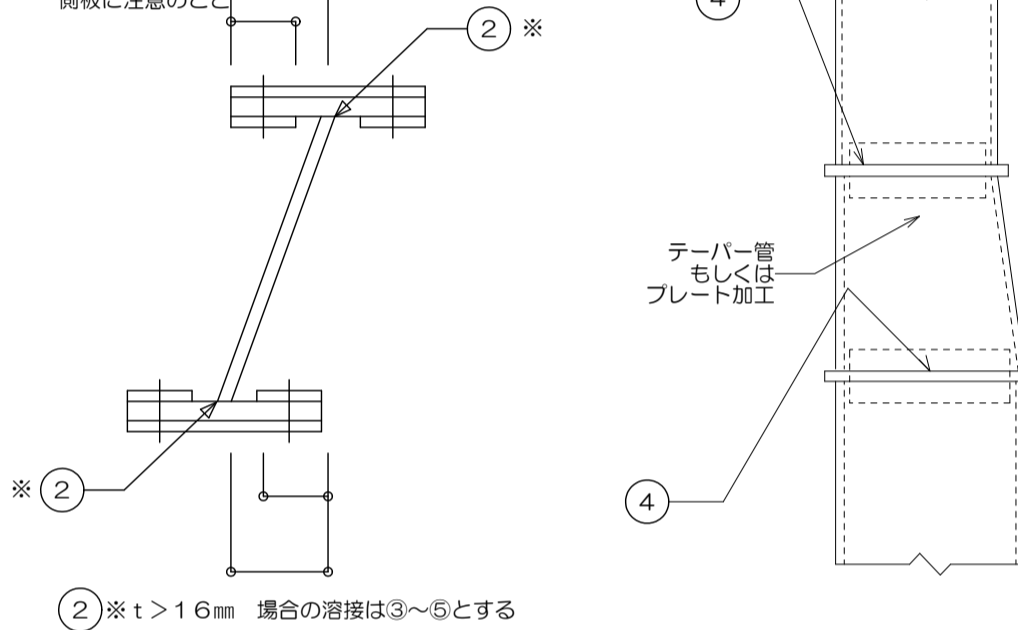
### ◎ ノンスカールアップ工法



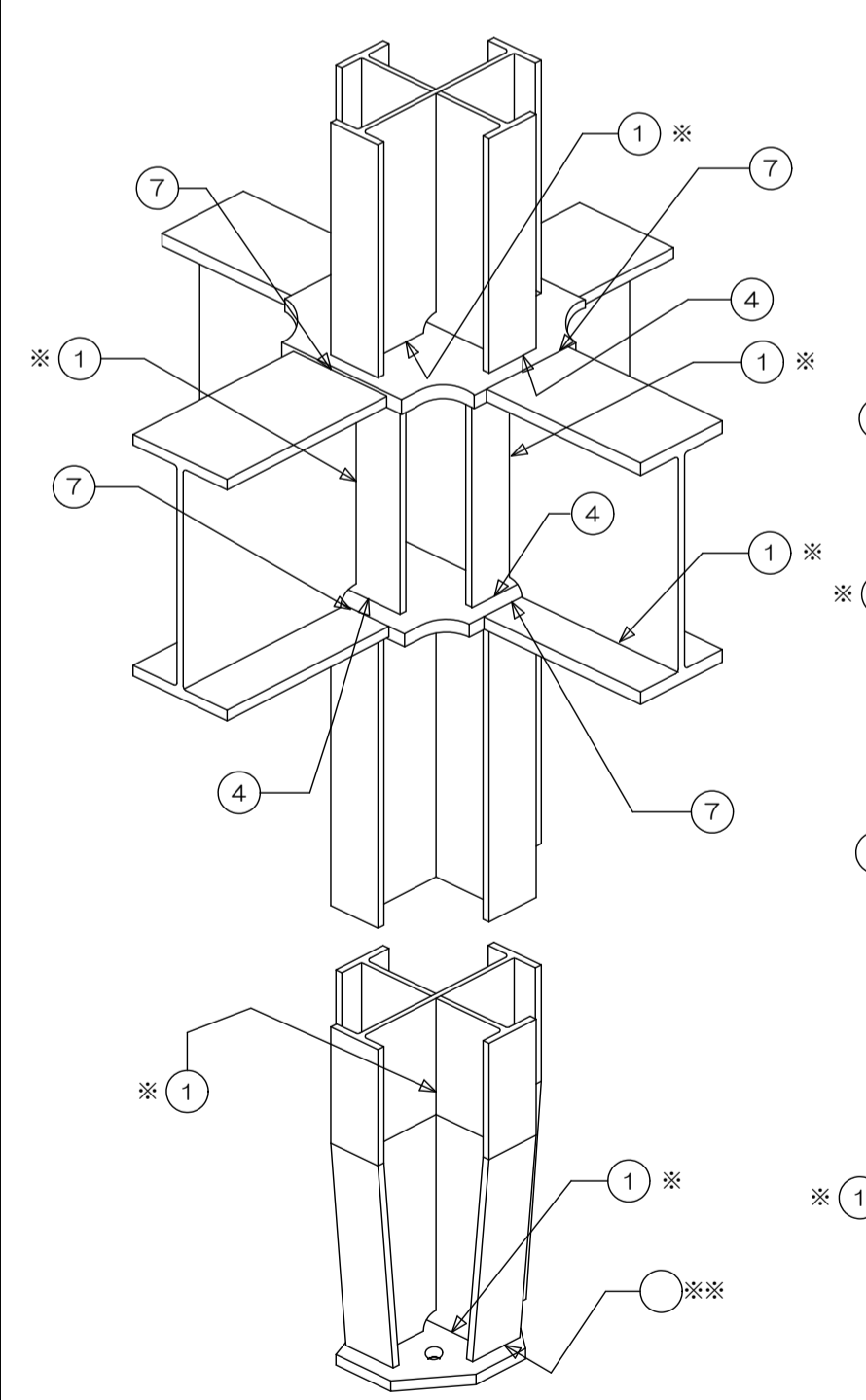
### ◎ 柱が途中で折れる場合 及び 梁が折れる場合



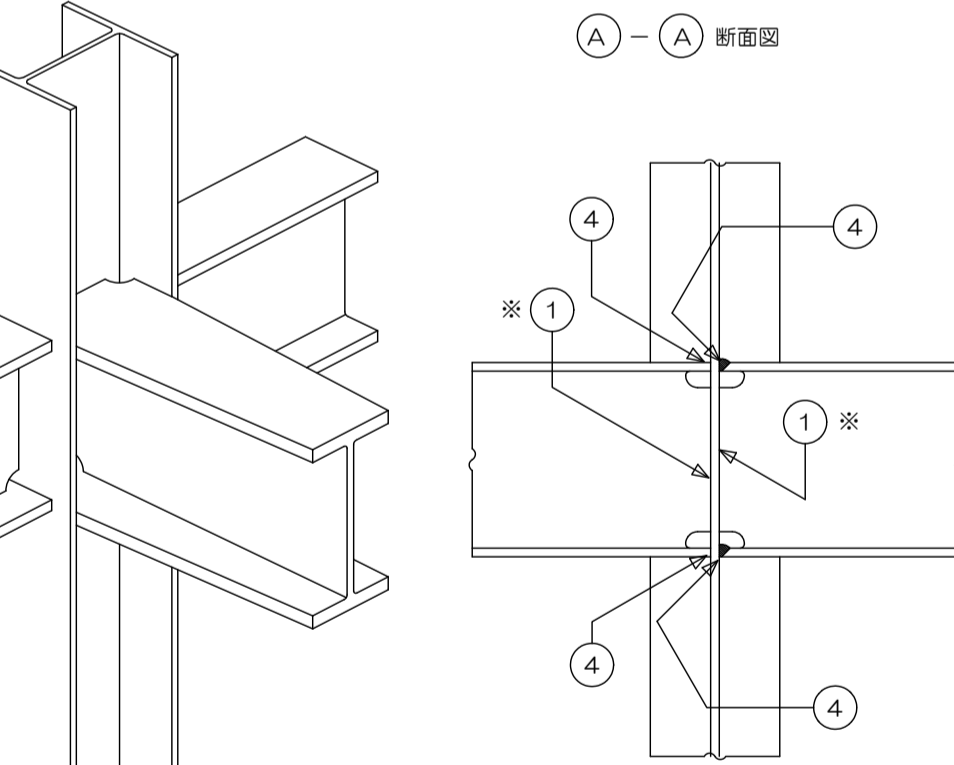
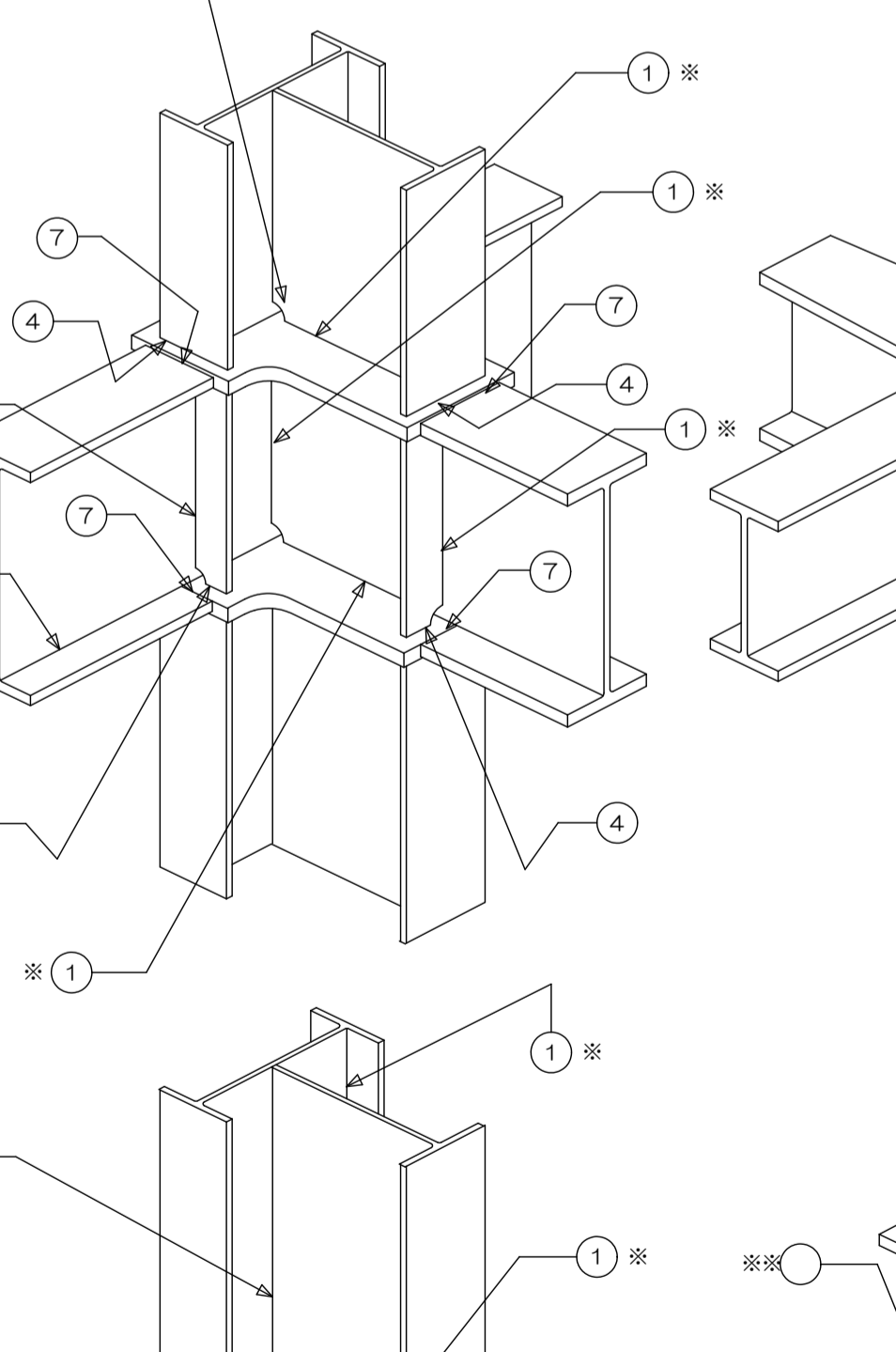
### ◎ 柱を途中で折る場合



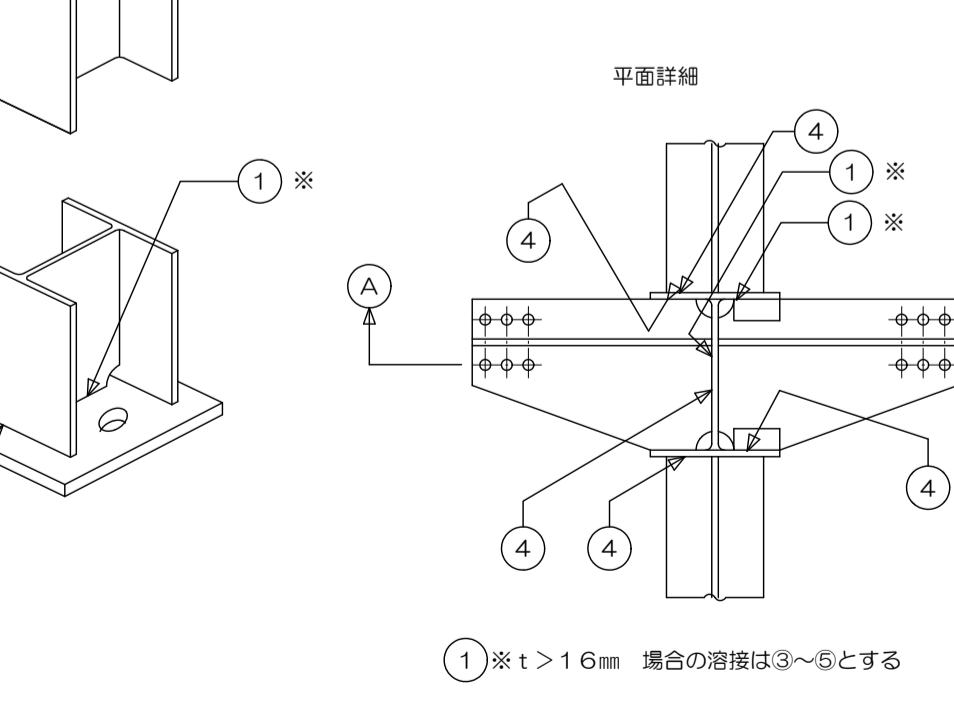
### ◎ 十字、I、H型



### ◎ B, H方式



◎ t > 16mm 場合の溶接は◎又は◎~◎とする  
◎※ 印は設計者が記入すること



# 鉄骨構造標準図(2)

※標準断面は下線を引きのこと

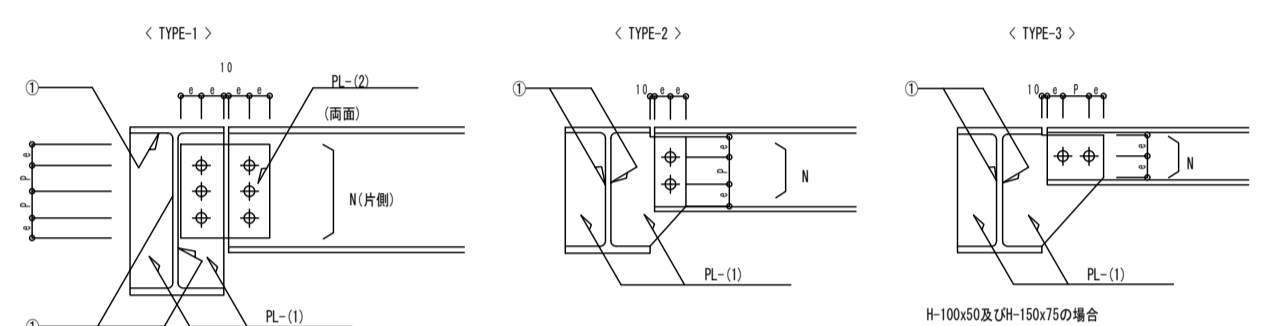
## 3. 継手標準図, その他

### (1) 高力ボルト, ボルト, アンカーボルトのピッチ (P)

呼び径φ	ボルト穴径	最小継手距離 (a)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2)の標準	最小	標準
φ16	18	40	28	22	40	40	60
φ20	22	50	34	26	40	50	60
φ22	24	55	38	28	40	55	60
φ24	26	60	44	32	45	60	70
φ26	28	65	48	34	45	65	70
φ28	30	70	52	36	50	70	80
φ30	32	75	56	38	50	75	80
φ32	34	80	60	40	55	80	90
φ36	38	90	68	44	60	90	100
φ40	42	100	76	48	65	100	110
φ45	48	115	88	56	75	115	130
φ50	54	130	100	64	85	130	150
φ55	60	145	112	72	95	145	170
φ60	66	160	124	80	105	160	190
φ65	72	175	136	88	115	175	210
φ70	78	190	148	96	125	190	230
φ75	84	205	160	104	135	205	250
φ80	90	220	172	112	145	220	270
φ85	96	235	184	120	155	235	290
φ90	102	250	196	128	165	250	310
φ95	108	265	208	136	175	265	330
φ100	114	280	220	144	185	280	350

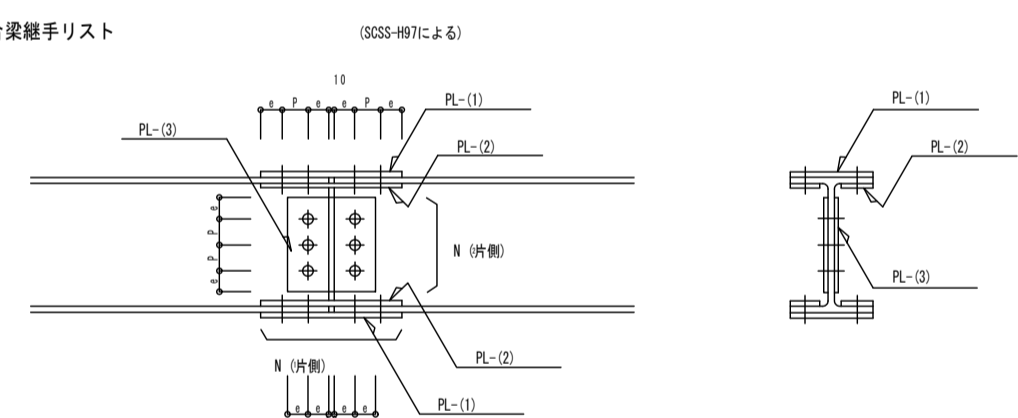
- (注) (1) 引張材の接合部でボルトが5本以上並ぶ場合は引張材の幅方向の継手距離  
 (2) センチメートル単位で寸法を記載する場合の継手距離  
 (3) 圧延鋼・自動溶接鋼・のりきり鋼・機械仕上鋼の場合の継手距離

### (2) ピン接合継手リスト



番号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N・径
1	3	H-125・60・6・8	8		2-φ16
2	3	H-150・75・5・7	6		2-φ16
3	2	H-175・90・5・8	6		2-φ16
4	2	H-200・100・5・8	6		2-φ16
5	2	H-250・125・6・9	6		3-φ16
6	2	H-300・150・6・9	9		3-φ20
7	2	H-350・175・7・11	9		3-φ20
8	1	H-350・175・7・11	9	6	4-φ20
9	2	H-400・200・8・13	9		5-φ20
10	1	H-400・200・8・13	9	9	4-φ20

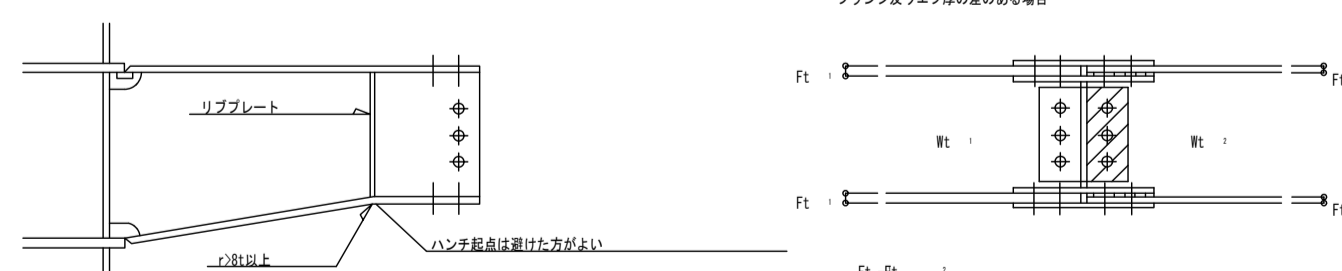
### (3) 剛接合継手リスト



(注) 構造を別とする場合は部材は設計図による

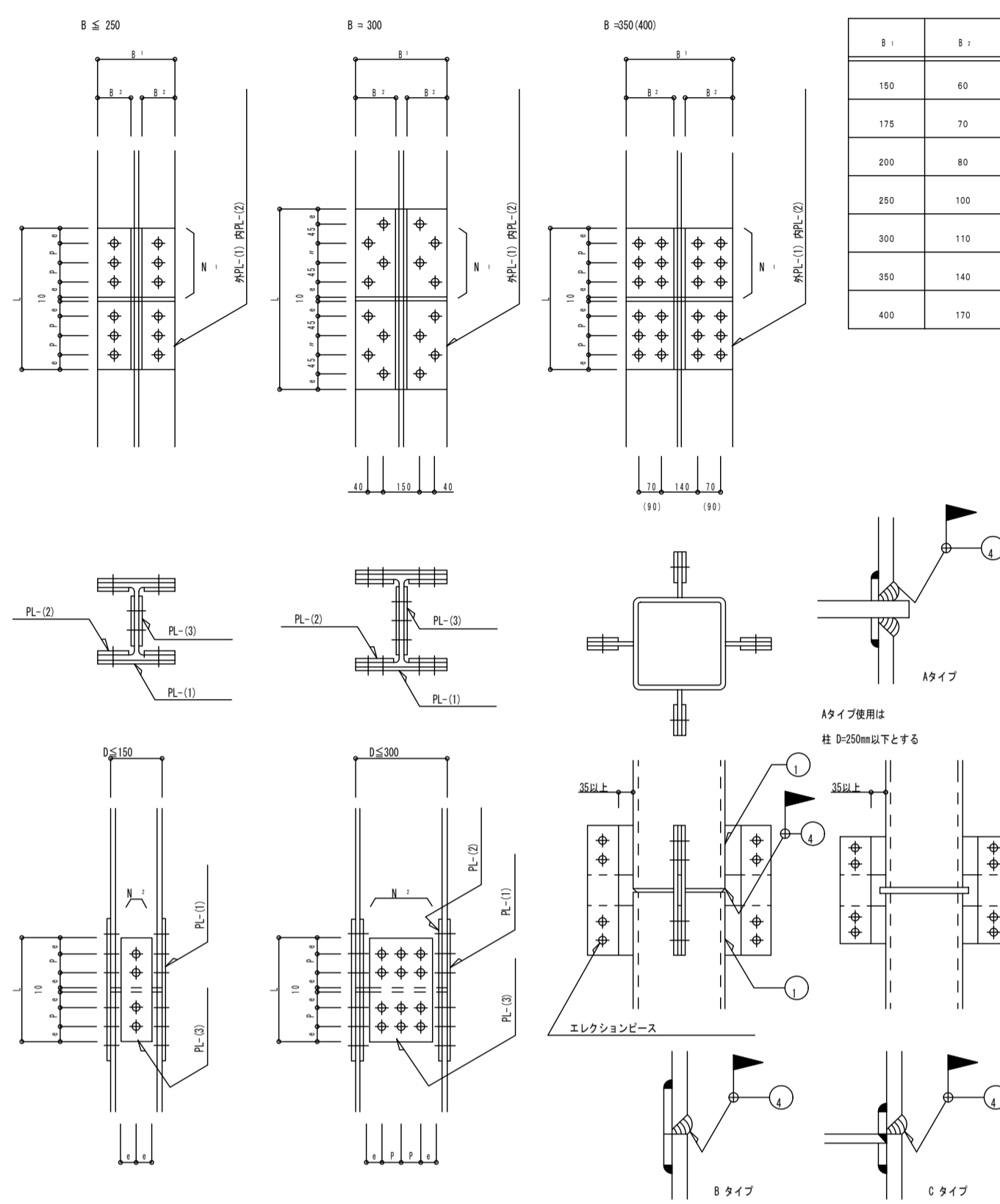
番号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N・径	PL-(3)

### (4) ハンチ部の継手



ハンチ切取は裏面1/4程度であるが構造図による  
 P: 半径, t: 板厚

### (5) 柱継手リスト



(注) 現場溶接は原則として溶接溶接試験を100%行う

番号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N・径	PL-(3)

### (6) 鉄筋ブレース

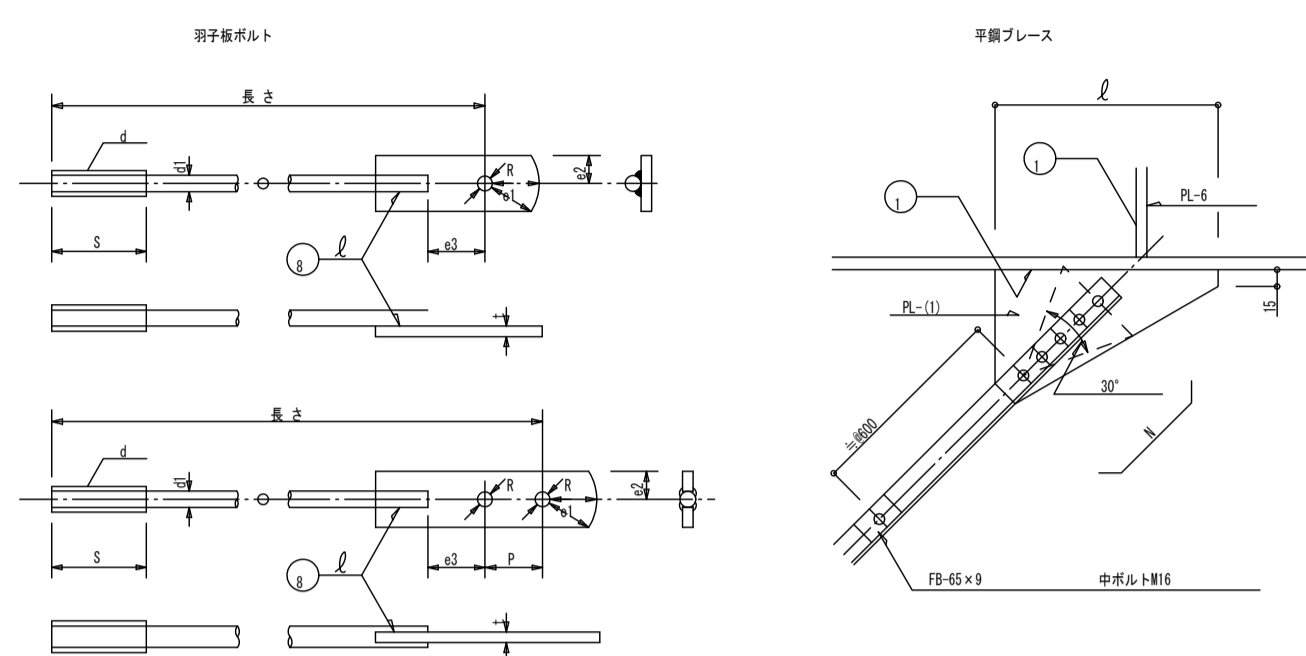
(JIS標準品とする) ... JIS A 540 ... 1982, 1981, 1982, 1983, 1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000

軸径φ	最大	φ12	φ14	φ16	φ18	φ20	φ22
		最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11
調整ねじの長さ	S	100	115	125	140	150	165
取付けボルト穴径	φ	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0
はしあき(最小)	(2) φ1	35	40	45	50	55	60
切取部	へりあき(最小)	(1) φ2	22	26	28	34	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9
平張部	へりあき(最小)	(1) φ2	19.0	25.0	25.0	32.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9
ボルト端から取付けボルト穴の長さ(最小)	φ3	47	52	58	66	66	73
溶接長さ(最小)	φ	40	50	55	60	75	85

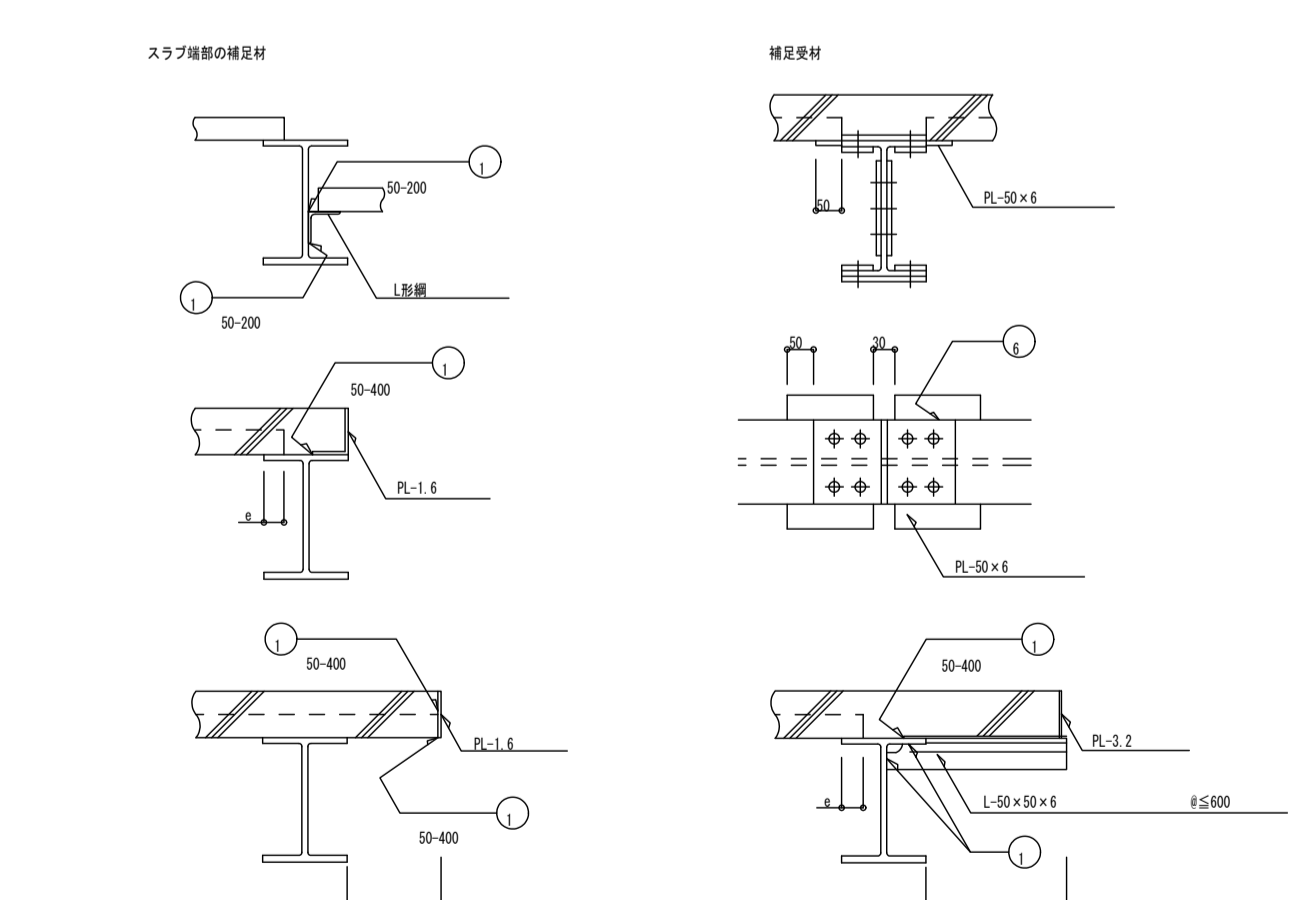
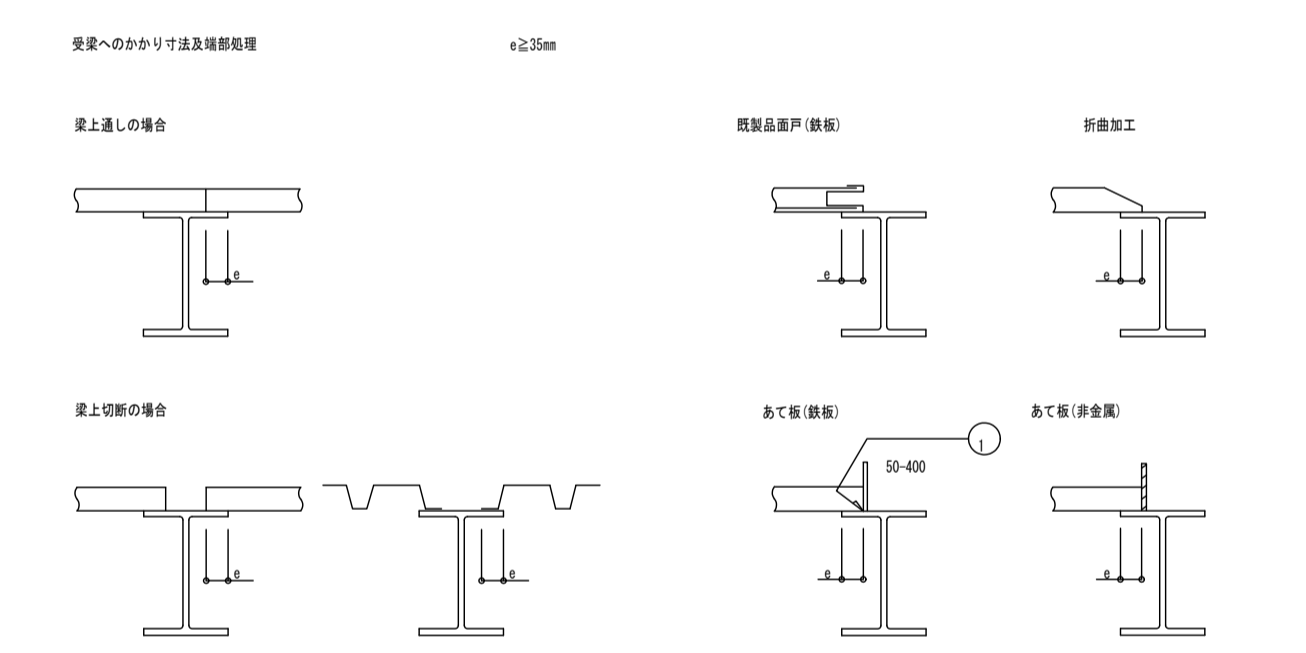
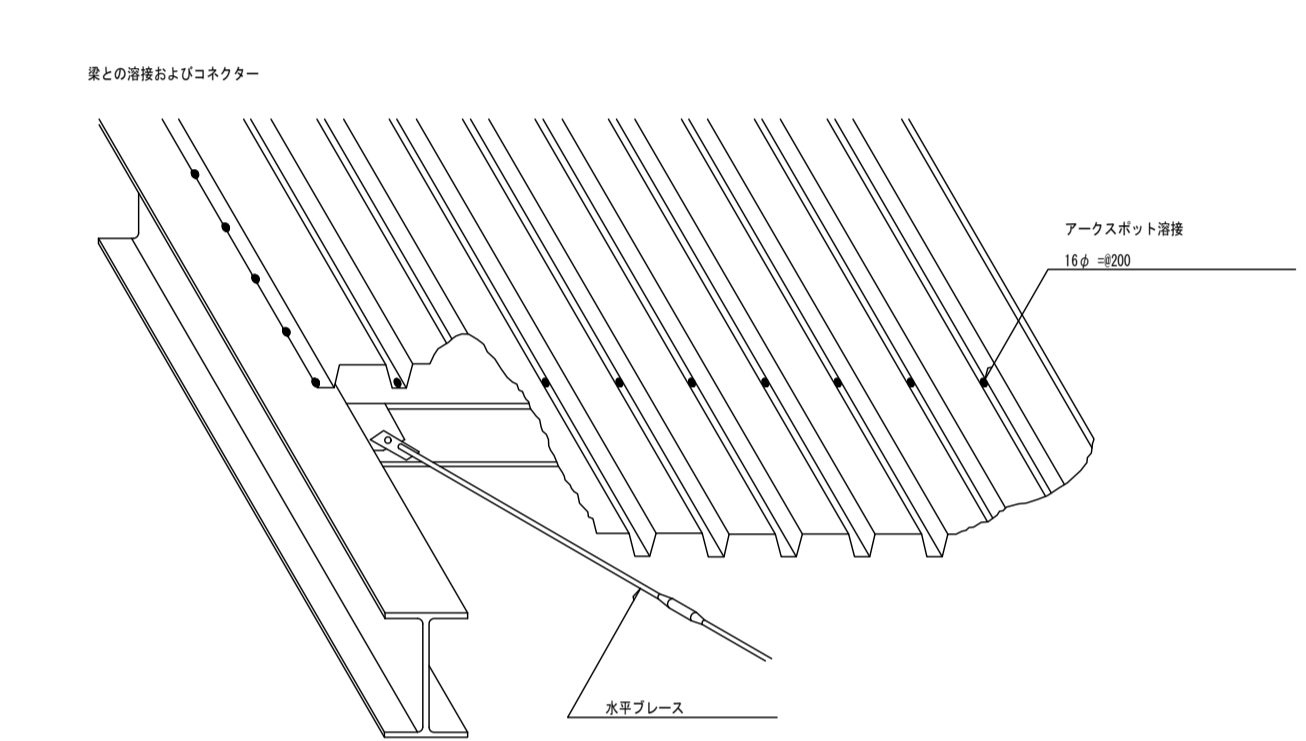
- (注) (1) φ1, φ2が確保されれば形状は自由  
 (2) ハンチ部とセットプレートの場合は必ず取付けボルトを使用し、一箇所(又は)接合とする

### (8) 鉄筋ブレース

番号	部材	PL-(1)	N・径	φ

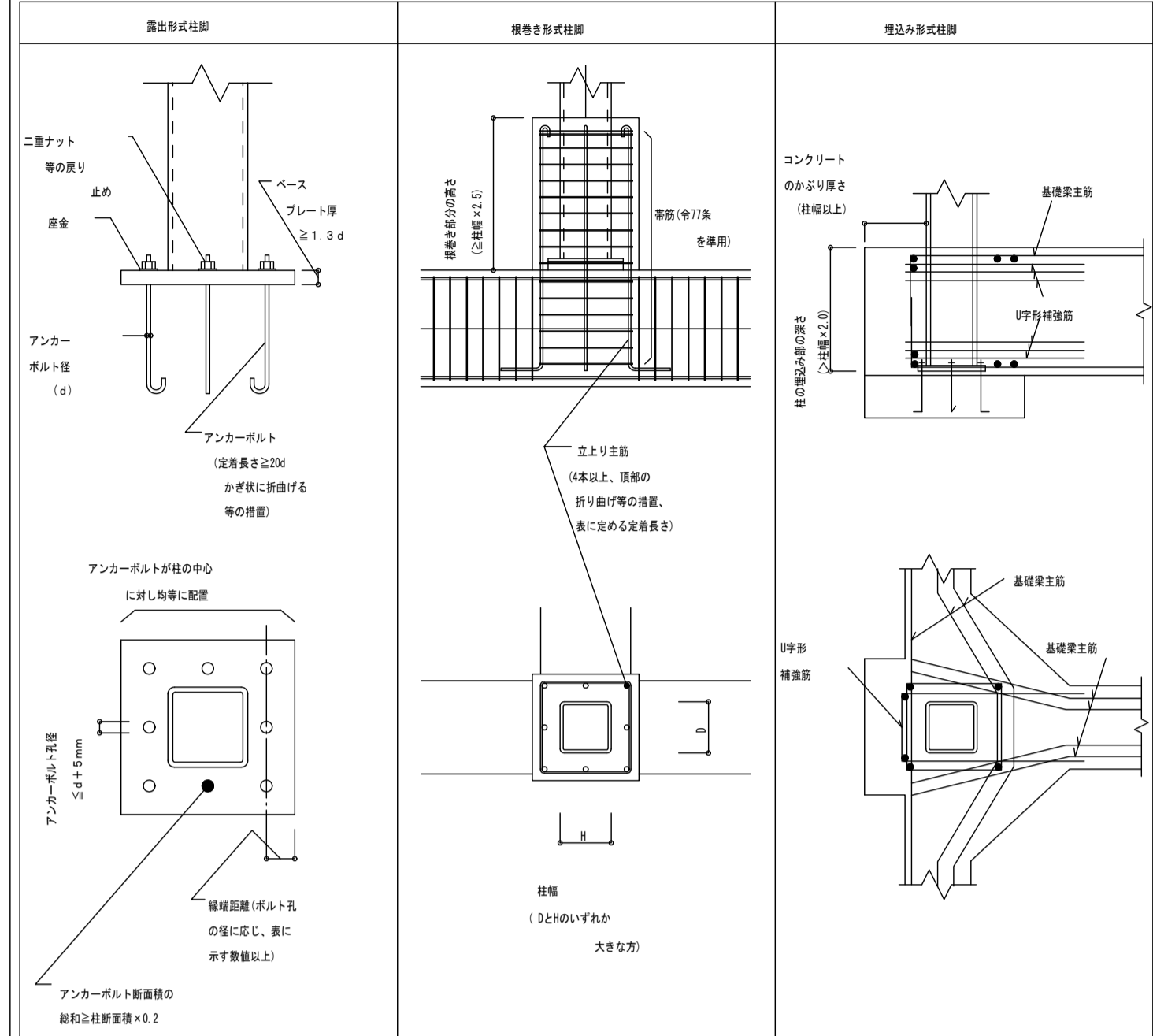


### (7) デッキプレート



### (8) 柱脚

(注) 許容応力度計算を行なった場合の構造形式



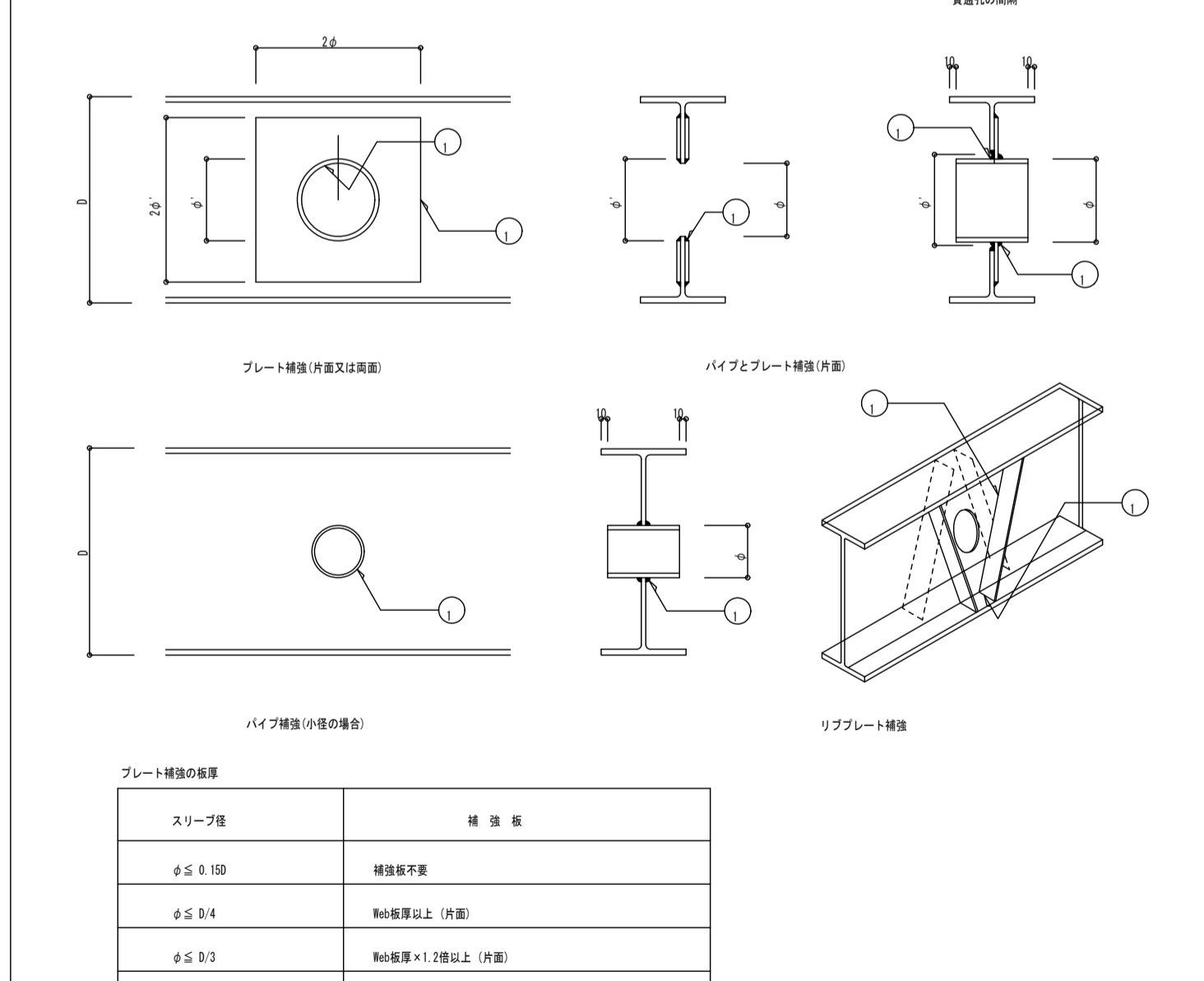
### (9) 鋼付きスタッド

(JIS S 1108)

形状	スタッド寸法				溶接後の長さL
	呼び径	鋼径φ	鋼高さT	鋼高さT	
φ13	φ13	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
	φ16	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
	φ19	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
	φ22	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150

### (10) 梁貫通補強

- 計算で確認された場合以下の位置で溶接及び補強方法にらなくてよい  
 ・実接部 (内法スパンの1/10以内かつ, 25φ以内) は避ける  
 ・φ ≤ 0.40  
 ・φ は補強部の径を指す



# ライジングW工法 特記仕様書

## §1工法概要

本地業は、ライジング工法による、地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材と土を攪拌混合し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ均質性の高いブロック状の改良体を築造する工法である。

## §2特記事項

本工法は、攪拌能力・攪拌サイズ・品質(変動係数)に対して「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術性能証明取得工法とする。また、事前にその証明書を管理者に提出し認証を得ることとする。

## §3一般事項

### <1>施工業者

本工事の施工業者は、地盤改良工法の施工技術及び計測装置の取り扱いに精通したもので、ライジング工法協会に所属する指定施工会社とする。

### <2>設計変更

改良体形状、掘削深度(改良長+空掘長)、本数配置等は、設計図書による。ただし、改良体形状・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上変更することができる。

## §4改良体仕様

### <1>設計基準強度

改良体の設計基準強度は $F_c = 1450 \text{ kN/m}^2$ とする。

### <3>固化材

固化材の配合は、原則として改良部分の検査対象土を採取し、3種類以上の添加量にて室内配合試験を行い試験結果と配合強度を基に添加量を決定する。

※使用する固化材は、六価クロム等の土壌環境基準に適合することを確認する。

### <3>配合強度

配合強度 $X_f$ は、設計基準強度 $F_c$ と変動係数・採取ヶ数により割増係数 $\alpha_t$ を用いて、次式による。  $X_f = \alpha_t \times F_c$

割増係数 $\alpha_t$ は、合格率80%とした下表による。

採取ヶ数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~	
変動係数 $V_c$	25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
	30%	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
	35%	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

### <4>室内配合強度

室内配合強度 $X_l$ は、配合強度 $X_f$ を現場/室内強度比 $\alpha_{fl}$ で除して、次式による。

$$X_l = X_f / \alpha_{fl} \quad (\alpha_{fl} = 0.7)$$

### <5>固化材液の配合

固化材添加量	280	$\text{k g / m}^3$
水/固化材比	80	%

## §5施工監理

※施工手順に従って次の仕様で行う。

- ① 固化材スラリーの吐出量
- ② 掘削深度確認
- ③ 先端地盤および土質確認
- ④ 攪拌時間管理

## §6品質管理

<1>調査ヶ所(検査対象に対して)

- ① 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。
- ② 調査ヶ数(検査対象群に対して)

調査箇所数(検査手法A)および採取位置

	改良深さ $L < 2\text{m}$	改良深さ $L \geq 2\text{m}$
調査箇所数	100ブロックに3ブロック以上、かつ、1検査区に1ブロック以上で、1ブロックあたり3箇所以上	
採取位置(1ブロックあたり)	平面方向に3箇所以上	上・中・下の3箇所以上

1箇所当たり3個のコアを採取することを標準とする。

検査手法A	モールドコア試験	3	箇所

※1箇所当たり3個のモールドコア採取を標準とする。

表 6.3 合格判定係数

抜き取り箇所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9
合格判定係数 $k_a$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

$\sigma_d$  : 設計で想定したコア強度の標準偏差 ( $\text{kN/m}^2$ ) (式(6.3)による)

$$\sigma_d = V_d \cdot \overline{q_{ud}}$$

$V_d$  : 想定した強度の変動係数

$\overline{q_{ud}}$  : 想定した平均一軸圧縮強さ ( $\text{kN/m}^2$ )

<4> 可否の判定

- ① 設計対象層について採取ヶ所をNとする。1箇所あたり3個の供試体を採取し、強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
- ③ 検査手法Aによる品質検査  
可否の判定は採取ヶ所数の一軸圧縮試験結果が下式を満足する場合を合格と判定する。

$$X_i \geq \overline{X_L} = F_c + K_a \cdot \sigma_d$$

$X_i$  : 個々のモールドコア供試体の一軸圧縮強さの平均値 ( $\text{kN/m}^2$ ) に 0.7を乗じたもの。  $1 \leq i \leq N$

$N$  : 採取箇所数

$\overline{X_L}$  : 合格判定値 ( $\text{kN/m}^2$ )

$F_c$  : 設計基準強度 ( $\text{kN/m}^2$ )

$K_a$  : 合格判定係数 (=1.9)

$\sigma_d$  : 設計で想定したコア強度の標準偏差 ( $\text{kN/m}^2$ ) (式(6.3)による)

### <5>未固化改良体の比抵抗測定

施工直後の改良体の攪拌混合状況を把握するために、比抵抗の深度方向の分布を測定する。

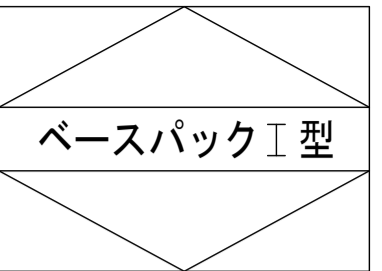
検査数量は、全ブロック1ブロックに1箇所以上

比抵抗測定	4	箇所
-------	---	----

比抵抗測定の調査箇所数と判定基準

調査箇所数	判定基準
全ブロック 1ブロックに1箇所以上	改良体における比抵抗個々の値のうち、改良体における比抵抗の平均値の2倍を超えるデータ数が全データ数の10%以下となっていること、かつ、比抵抗の最大値が40 $\Omega$ m未満であること

ライジングW工法 (GBRC性能証明 第13-02号 改 (更3))



# 角形鋼管

F値295N/mm<sup>2</sup>以下  
□-150×150 ~ □-300×300 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」(令和6年6月21日付)

# ベースバック柱脚工法設計標準図

●ベースバック柱脚工法設計は「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 旭化成建材株式会社  
TEL03 (3624) 5336 TEL03 (3296) 3515

2024年10月作成

## 1. 工法概要

### 1.1 構成部材

①アンカーボルト ②注入座金 ③Mナット ④ベースバックグラウト(グラウト材) ⑤定着座金 ⑥テンプレート

⑦フレームポスト ⑧フレームベース ⑨ステコンアンカー(コンクリートアンカー) ⑩ベースプレート

(注)上記①~⑩の構成部材はベースバック構成部品として供給される。  
(注)上記⑥~⑨は現場状況により仕様異なる場合がある。

### 1.2 柱脚の定着方法概要

## 2. 柱

F値(N/mm <sup>2</sup> )	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	TSC295	

採用	ベースバック記号	柱		材質	形状	ベースプレート							アンカーボルト 本数-呼び (N/mm <sup>2</sup> )	フレームタイプ	コンクリート柱型				フレームベース 寸法W(mm)	フレームポスト間 寸法X(mm)		最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)			
		外径 (mm)	板厚 (mm)			寸法(mm)									標準フレーム	特C	立上り筋	フープ筋		設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	標準フレーム			特C	標準フレーム	特C
						a	t	l1	l2	l3	d	φ														
	15-12V	□-150×150	t≤12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135	
	17-12V	□-175×175	t≤12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135	
	20-09V	□-200×200	t≤9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135	
	20-12V	□-200×200	t≤12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135	
	25-09V	□-250×250	t≤9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150	
	25-12V	□-250×250	t≤12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150	
	25-16V	□-250×250	t≤16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135	
	30-09V	□-300×300	t≤9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150	
	30-12V	□-300×300	t≤12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135	
	30-16V	□-300×300	t≤16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150	
	30-19V	□-300×300	t≤19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150	

## 3. 構成部材・寸法

### 3.1 ベースプレート

●材質 SN490B 【JIS G 3136】

形状(イ) 形状(ハ)

### 3.3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	単位 mm (e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

### 3.4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	
M39	80	183	12	41	

### 3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

### 3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合 ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

呼び d	異形部呼び名	L <sup>注1)</sup>	X	b <sup>注1)</sup>	単位 mm 基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

### 3.6 フレームベース

i) Aタイプ ii) Cタイプ iii) 特Cタイプ

### 3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースバックの据付け高さ (h寸法) はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ (最低h寸法) は下表に記載の値とする。

< Aタイプ > < Cタイプ ※ > < 特Cタイプ >

※鉄筋納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

## 4. コンクリート柱型

### 4.1 形状・材質

●形状 形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

呼び d	異形部呼び名	L	X	単位 mm 基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

●コンクリート 普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm<sup>2</sup>以上とする。

●鉄筋 SD295 (D13, D16) SD345 (D19, D22)

### 4.2 配筋

配筋仕様は下表による。

●基礎立上がり ●基礎立上りが高さが50mm以下とする。 ※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

### 4.3 基礎立上がり

●基礎立上りが高さが50mm以下とする。 ※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

### 4.4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

採用

- 下表標準柱型寸法からの変更あり (「柱型寸法最大・最小値一覧」による)
- 下表標準配筋仕様からの変更あり
- 立上り筋に頂部フックが必要

## 5. 工場製作 (溶接)

■組立 ●ベースプレートの中心線(ヶ線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接) ●完全溶込み溶接とする。 (JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の関連標準 (JASS 6 鉄骨工事 2018年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T (mm)	ルート間隔G (mm)		ルート面R (mm)		開先角度α1 (°)		溶接姿勢
			標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
6	被覆アーク溶接	6~	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 35	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
6	ガスシールドアーク溶接	6~	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 35	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き

許容差・記号+∞は制限無しを示す。  
・2段階きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差 (上段: 管理許容差, 下段括弧内: 現場許容差) を示す。

■ベースプレートの予熱 ●気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm)	
		t < 32	32 ≤ t ≤ 50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50℃
	SN490B	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるCO<sub>2</sub>ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素被覆アーク溶接に準じる。

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。  
■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

## 6. 工事場施工

### 6.1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

### 6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。  
●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。  
●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

図 標準許容差

e1: 柱心とテンプレートのけがき線との許容差  
-2 ≤ e1 ≤ 2  
基準高さより誤差は -3 ≤ e ≤ 10

### 6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。  
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

### 6.4 建方

●レベルモルタルはベースバックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。

### 6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

### 6.6 ベースバックグラウト(グラウト材)の注入

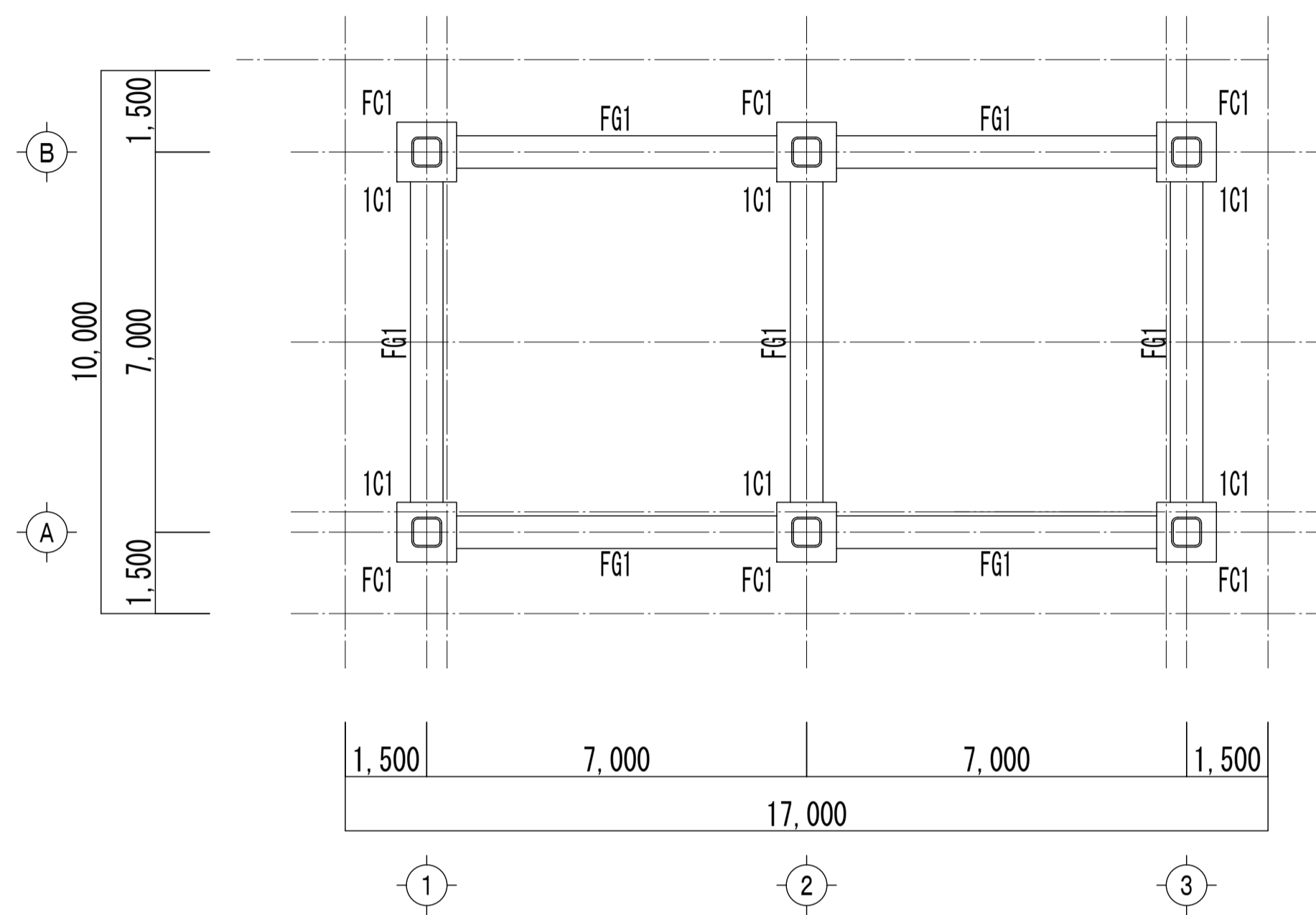
●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。  
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

## 7. 本工法の施工及び施工管理

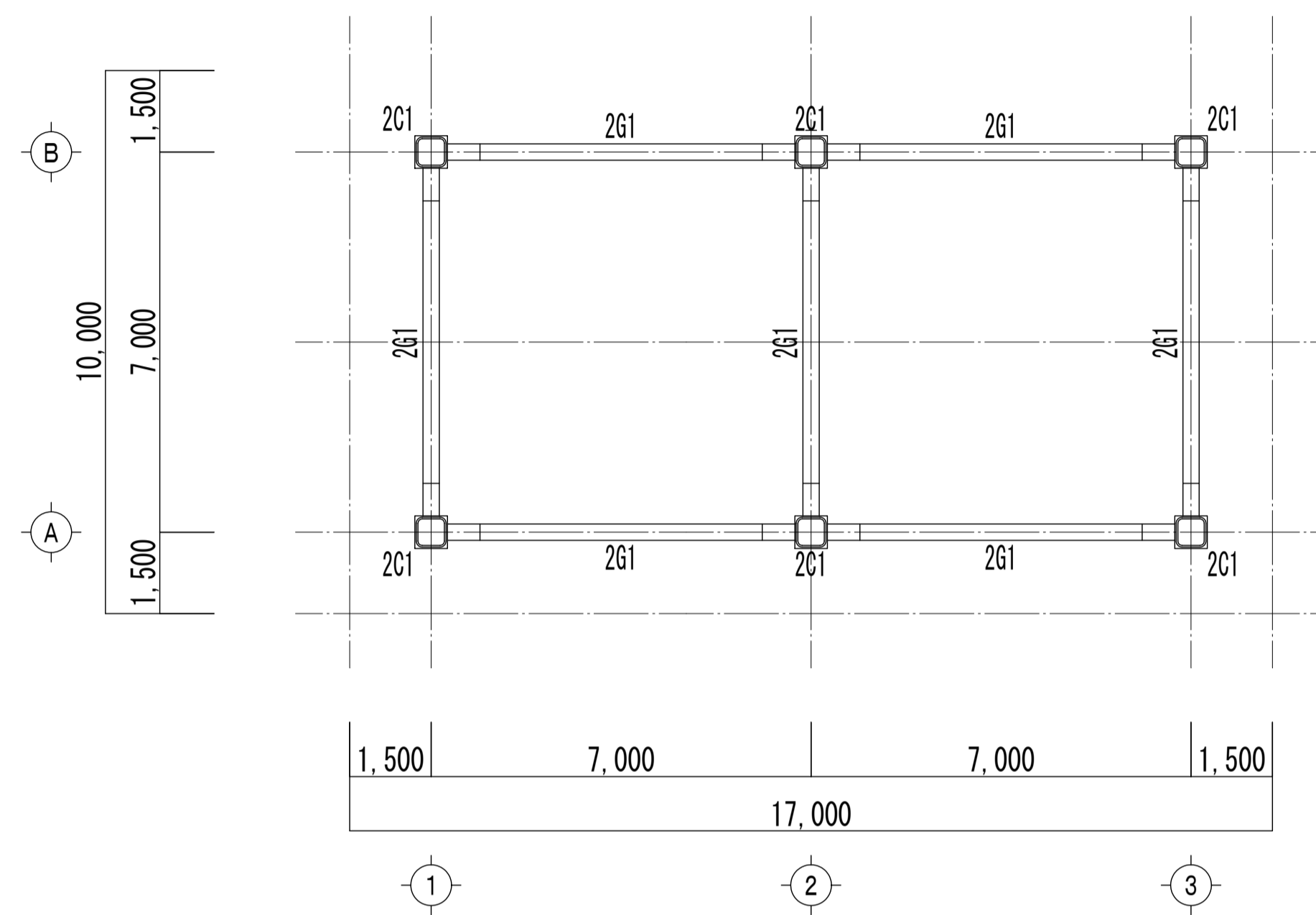
●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースバックグラウトの注入は、ベースバック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースバック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

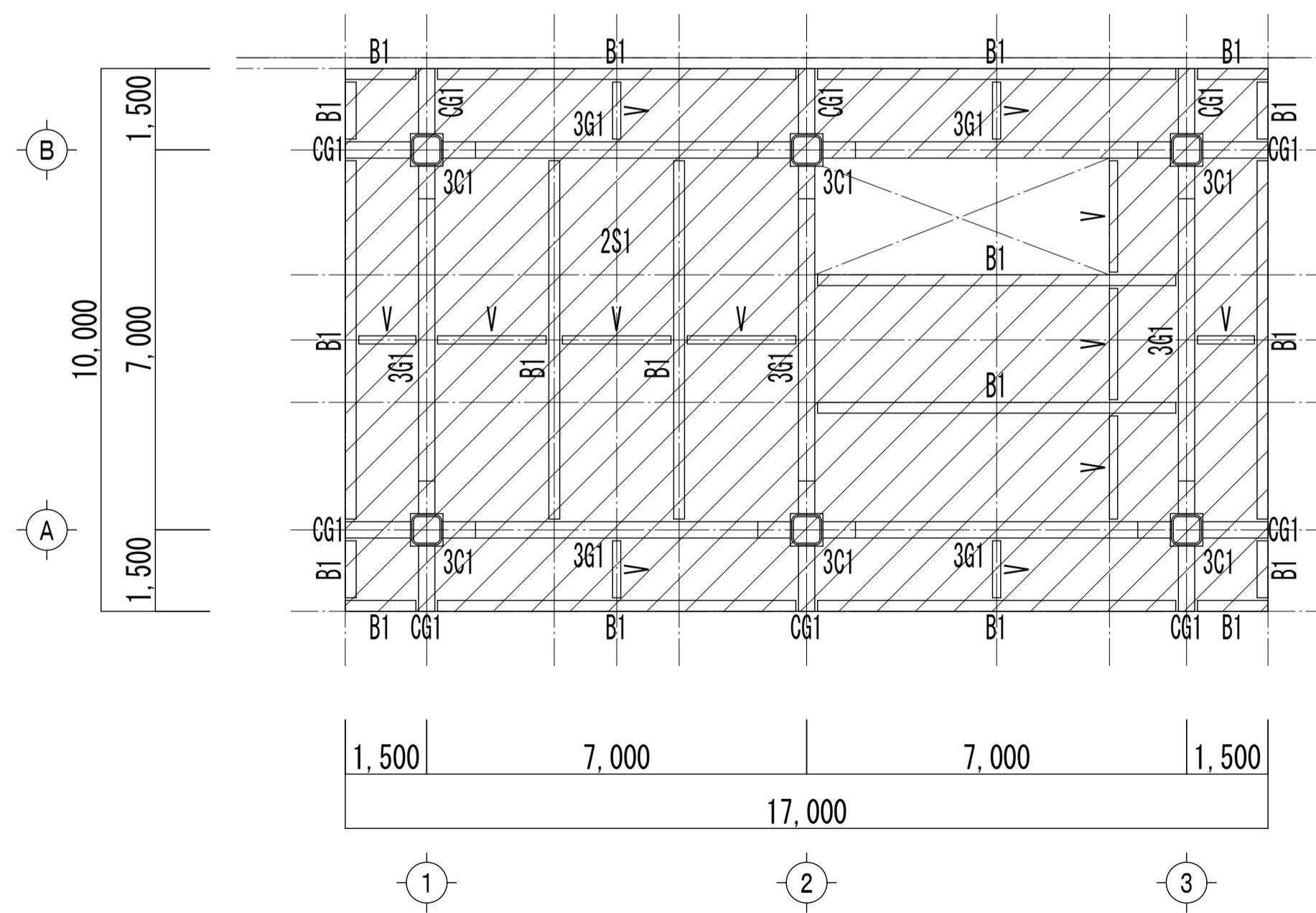
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。



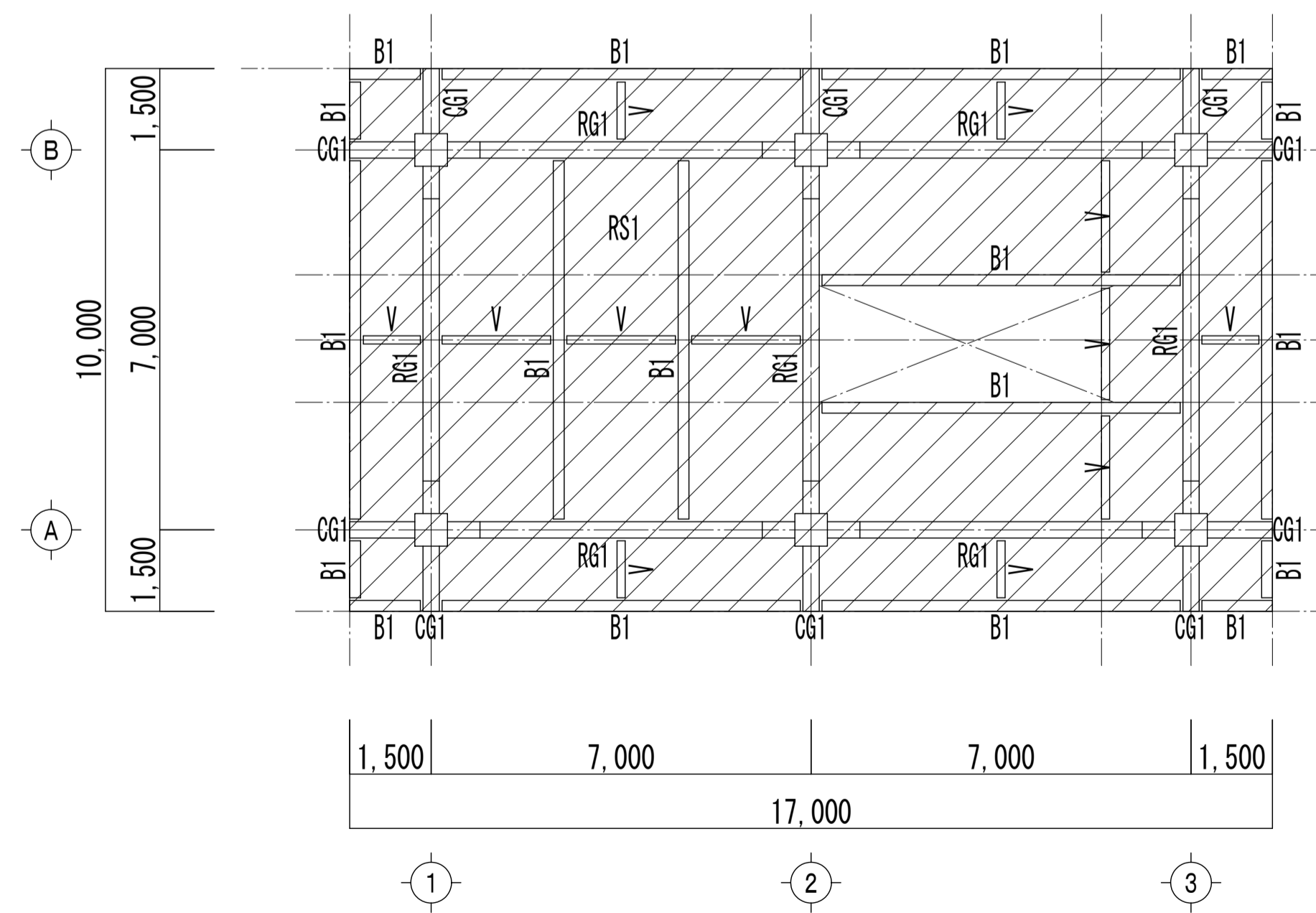
1層目 梁伏図 S=1/100



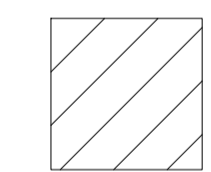
2層目 梁伏図 S=1/100



2階 梁伏図 S=1/100



R階 梁伏図 S=1/100

 : コンクリートスラブ t=180 施工範囲

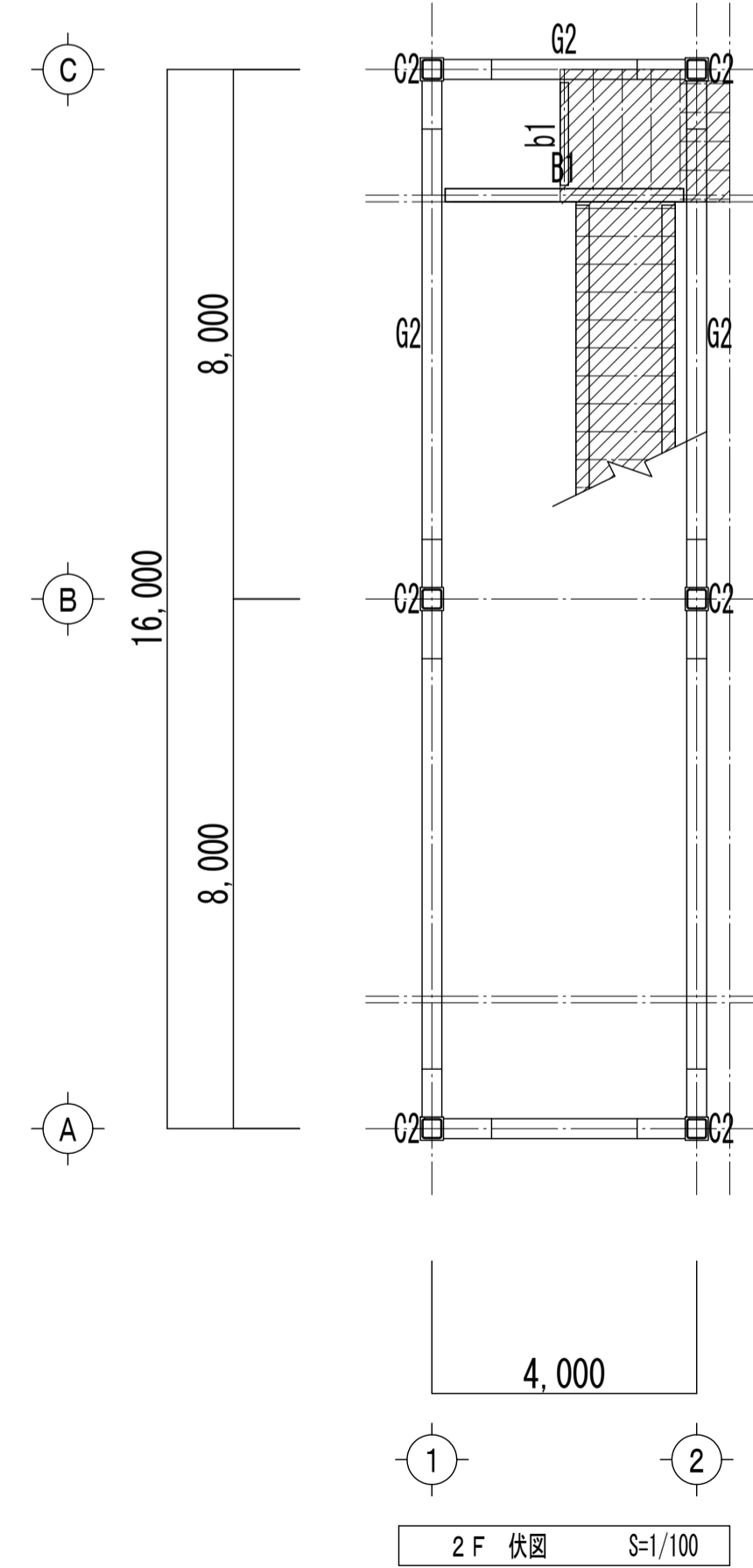
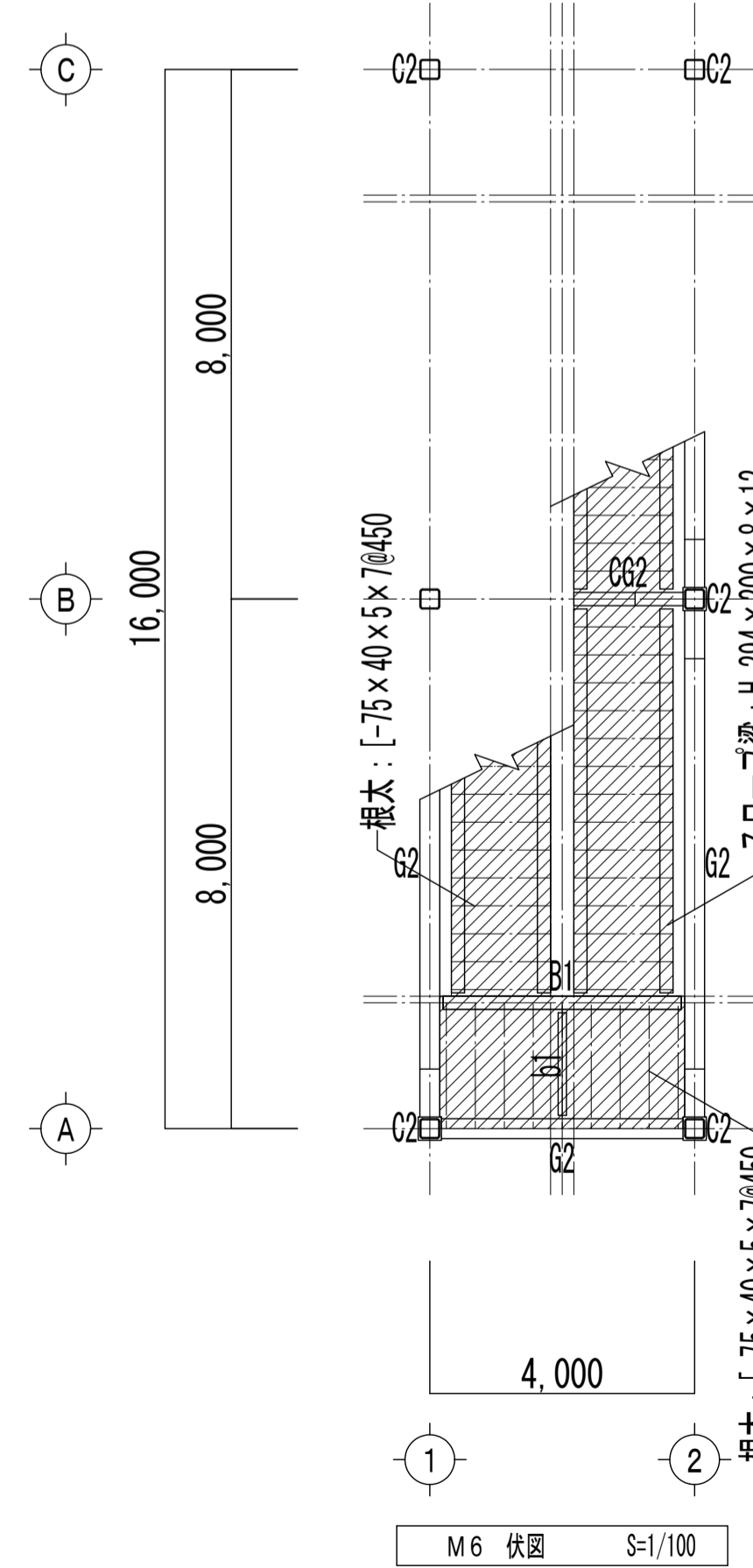
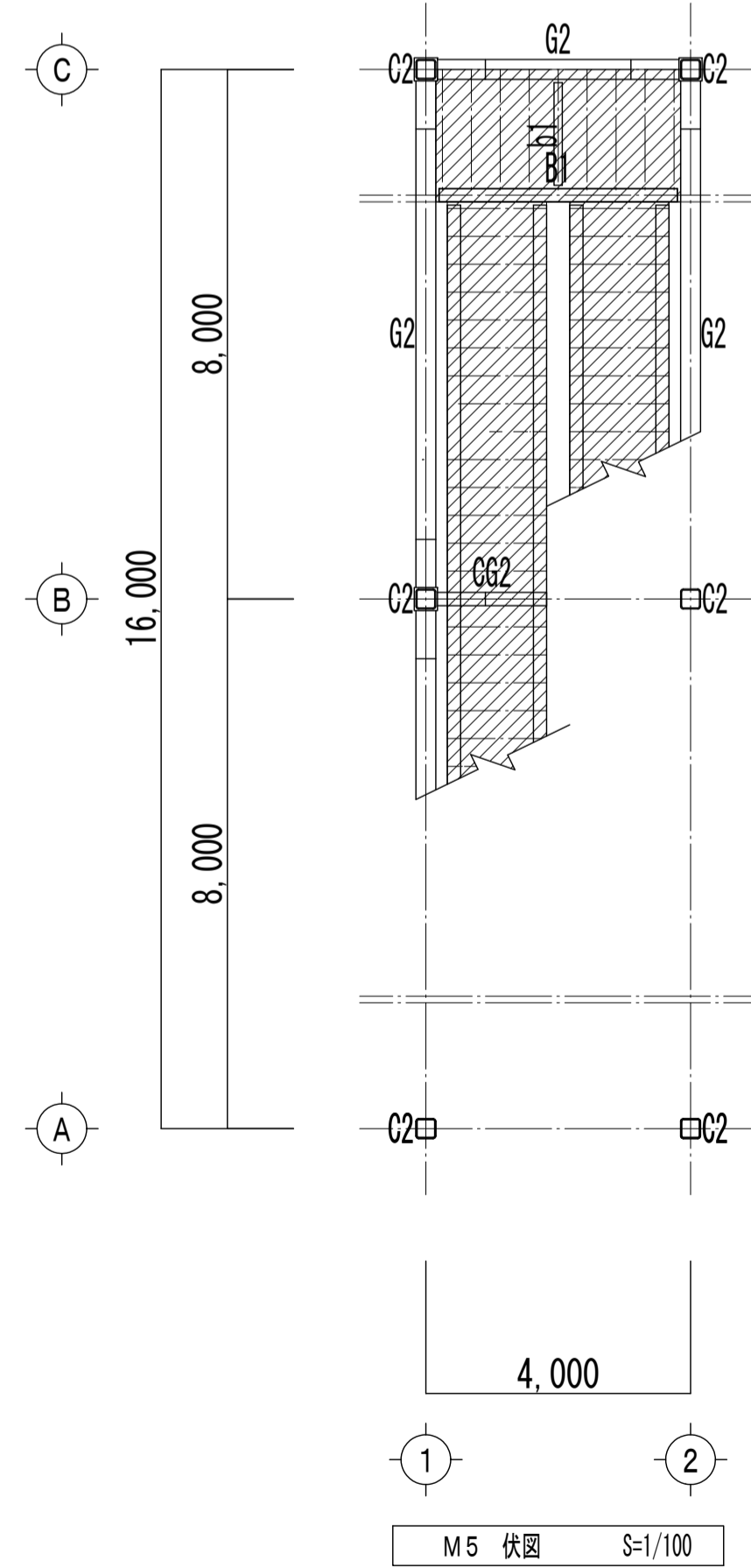
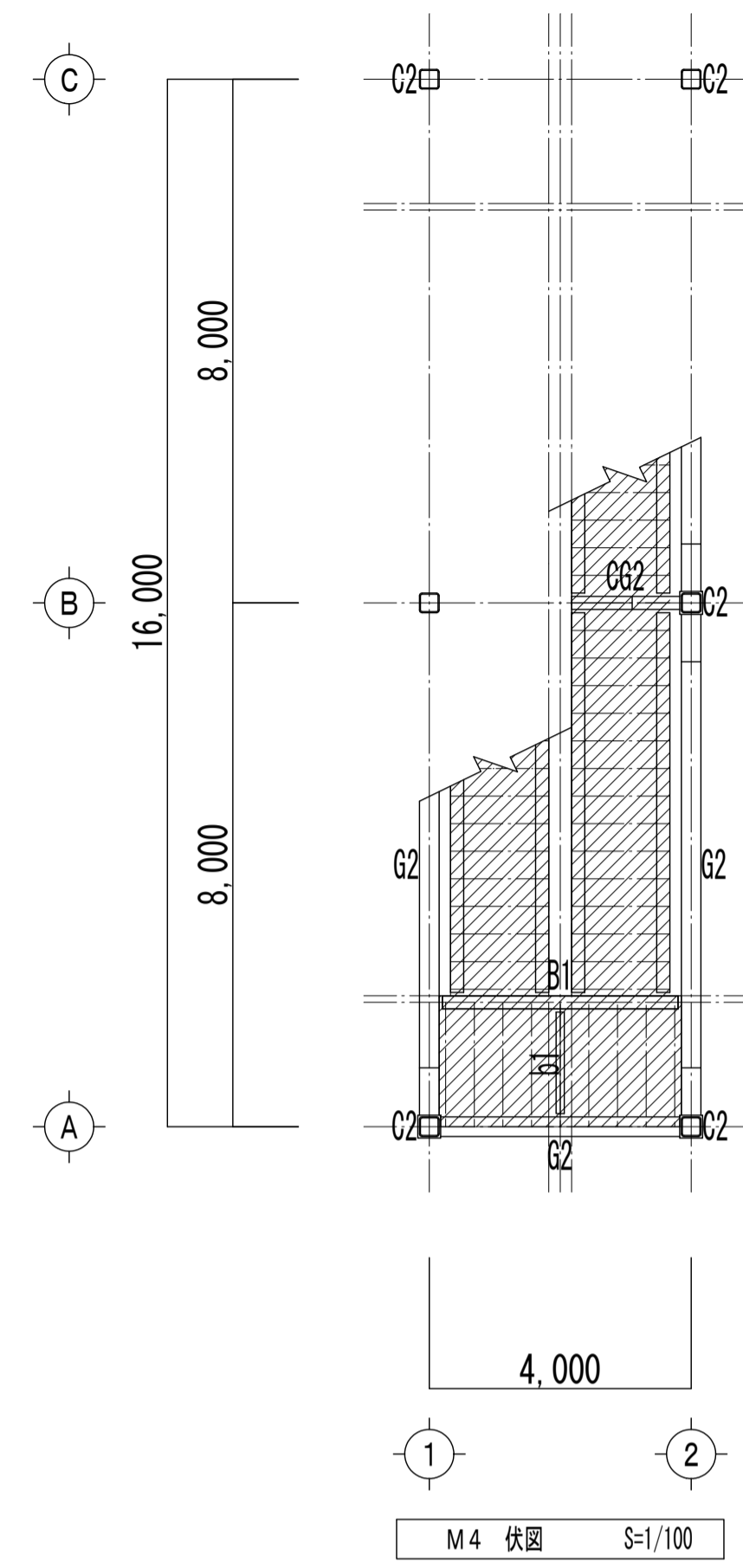
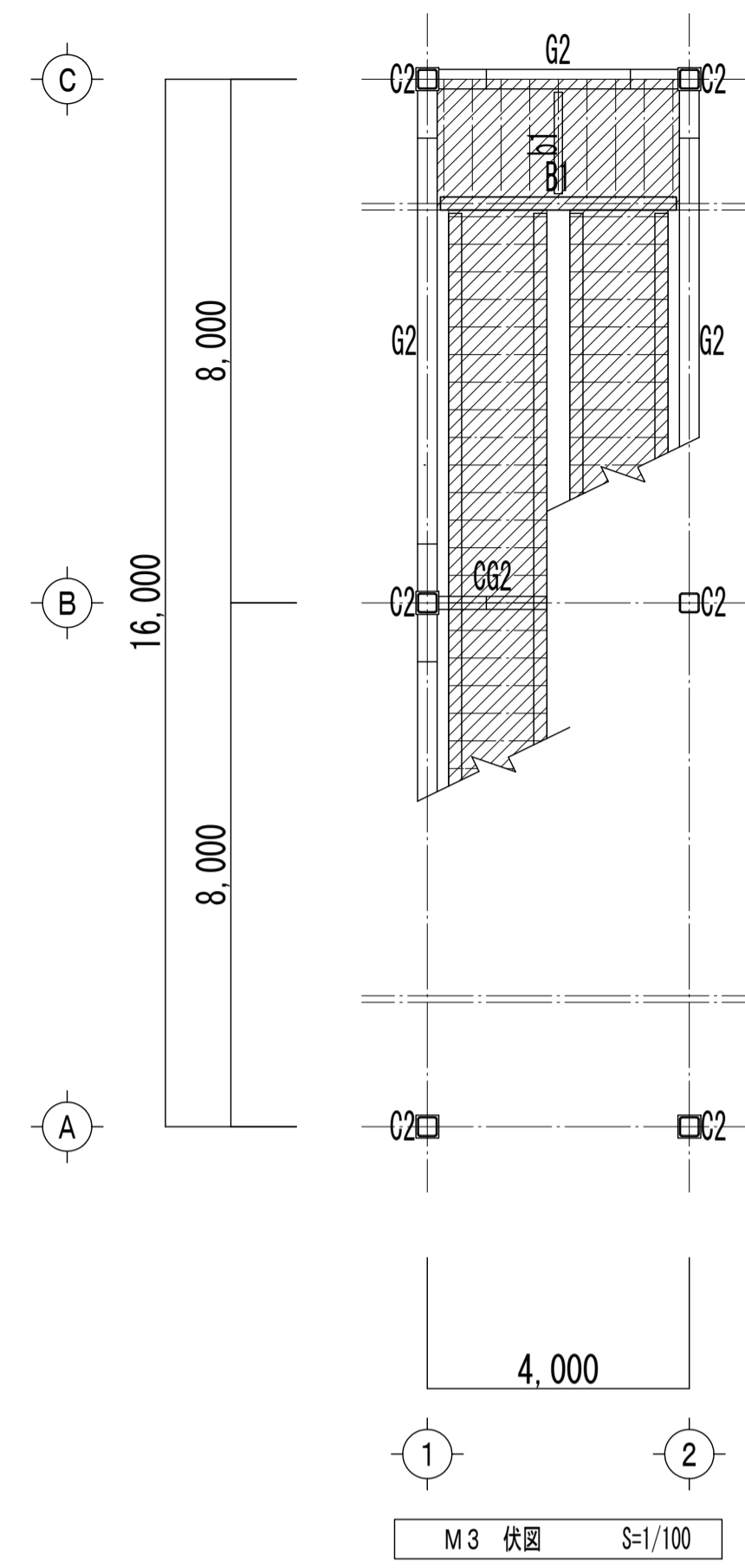
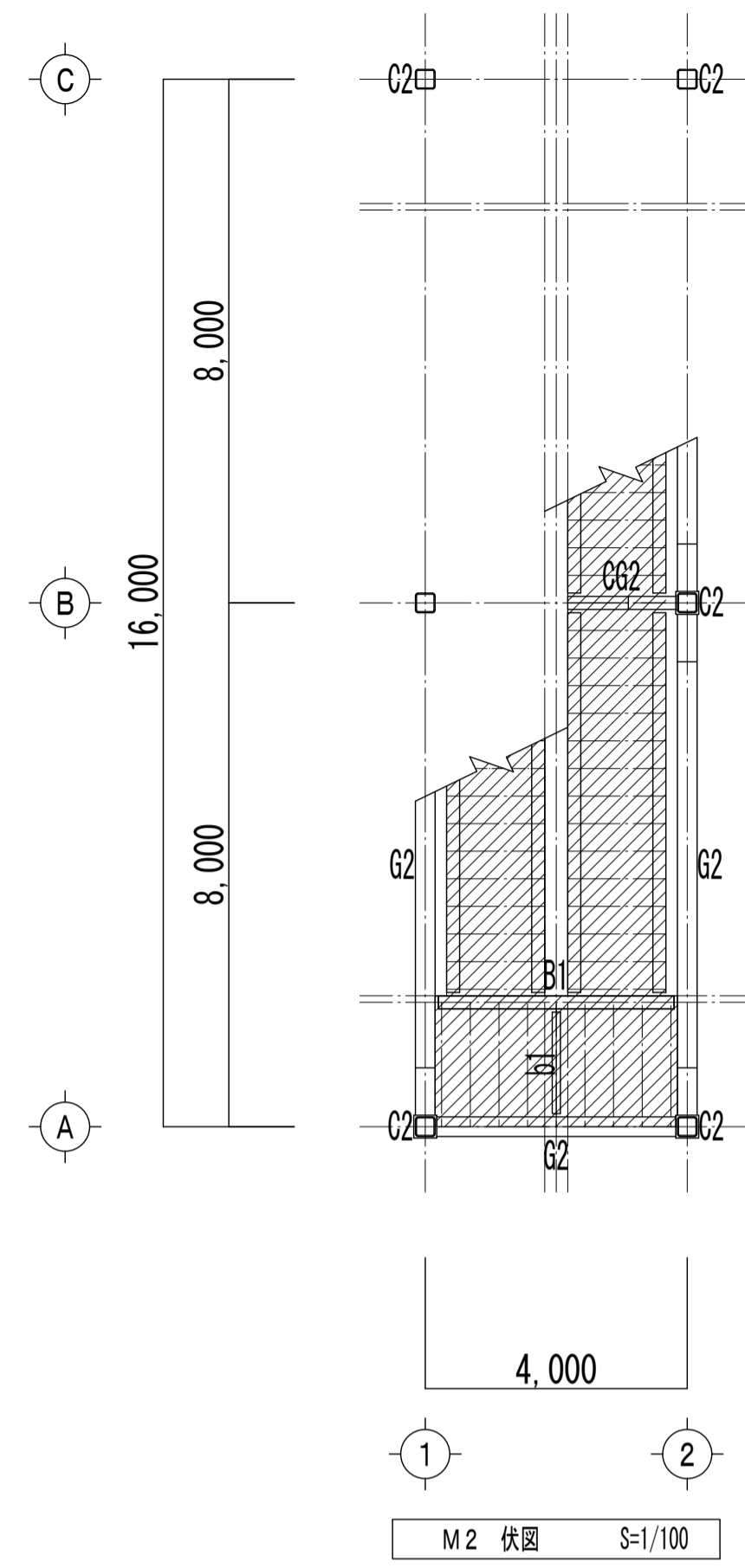
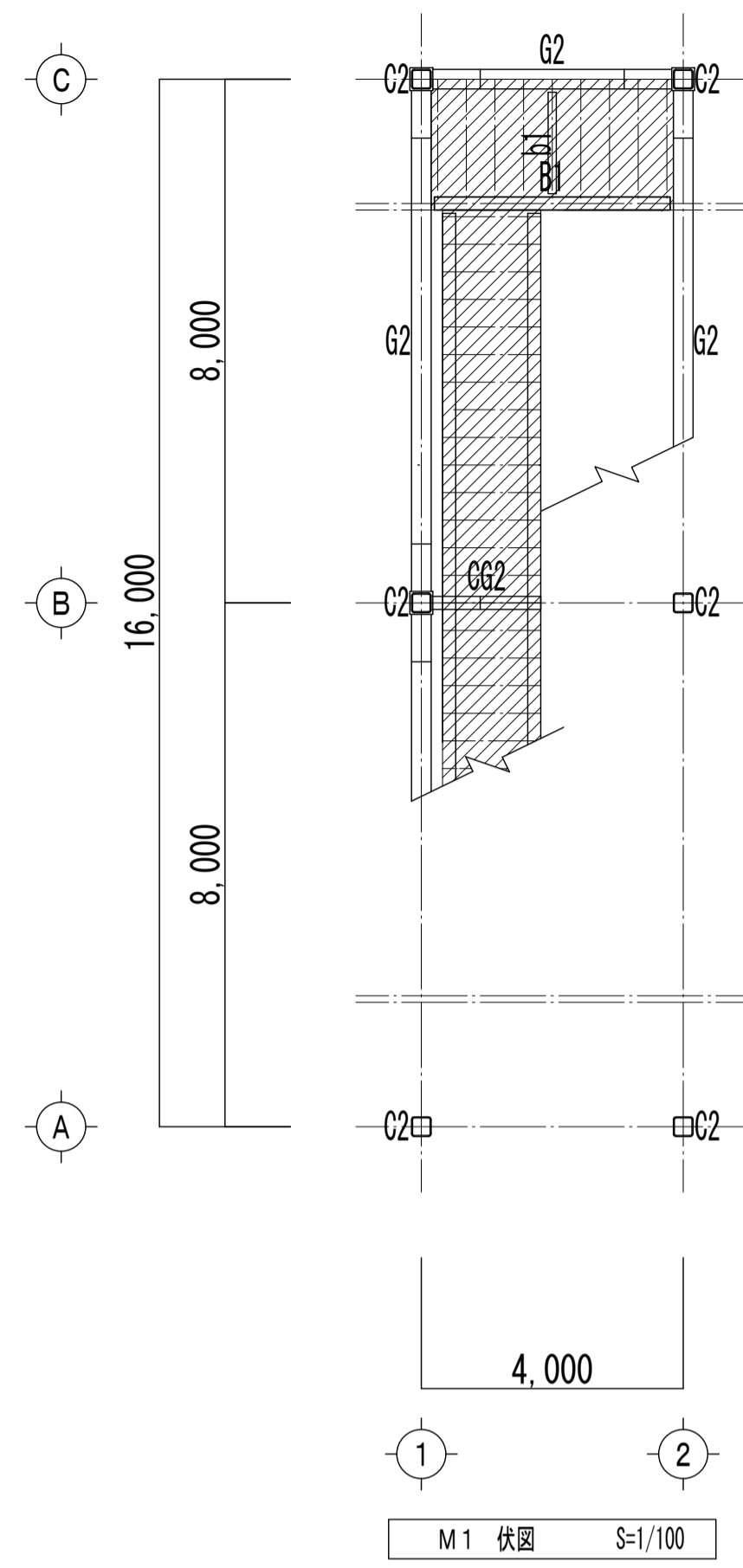
・	
・	
・	
・	

田端隆建築設計 (株)  
 三重県知事登録第1-8-61 一般建築士 No.352551 田端 進也

設計代表者	設計担当者
一般建築士 No.352551 田端進也	一般建築士 No.352557 橋本健一 構造設計一般建築士 村上俊賢

SCALE	A1 1/100
A3	1/200
DATE	R 8 . 0 3

工事名称 矢浜津波避難施設建設工事  
 図面名称 伏図 1



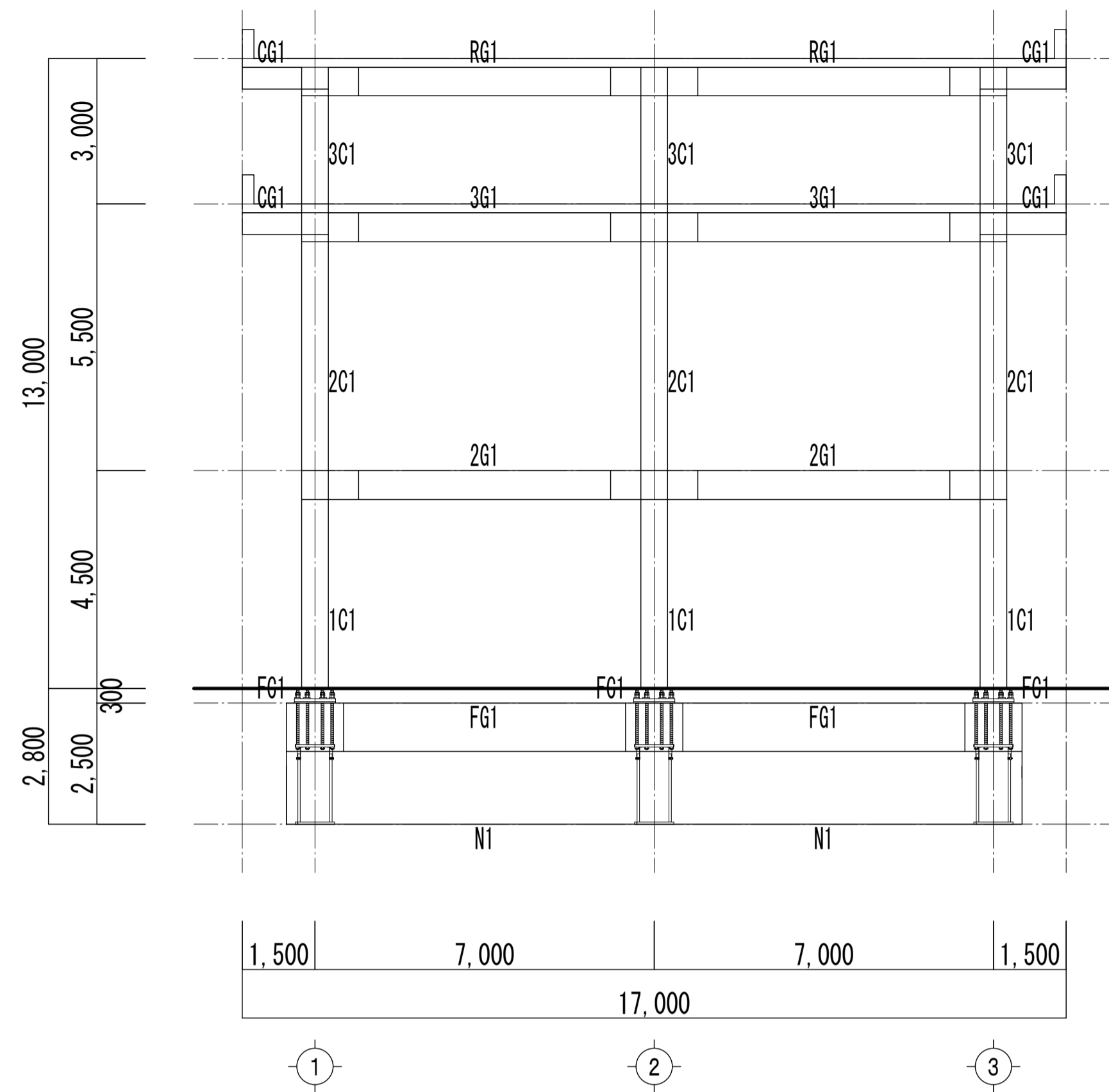
・	
・	
・	
・	

田端隆建築設計 (株)  
 三重県知事登録第1-061 一般建築士 No.352551 田端 進也

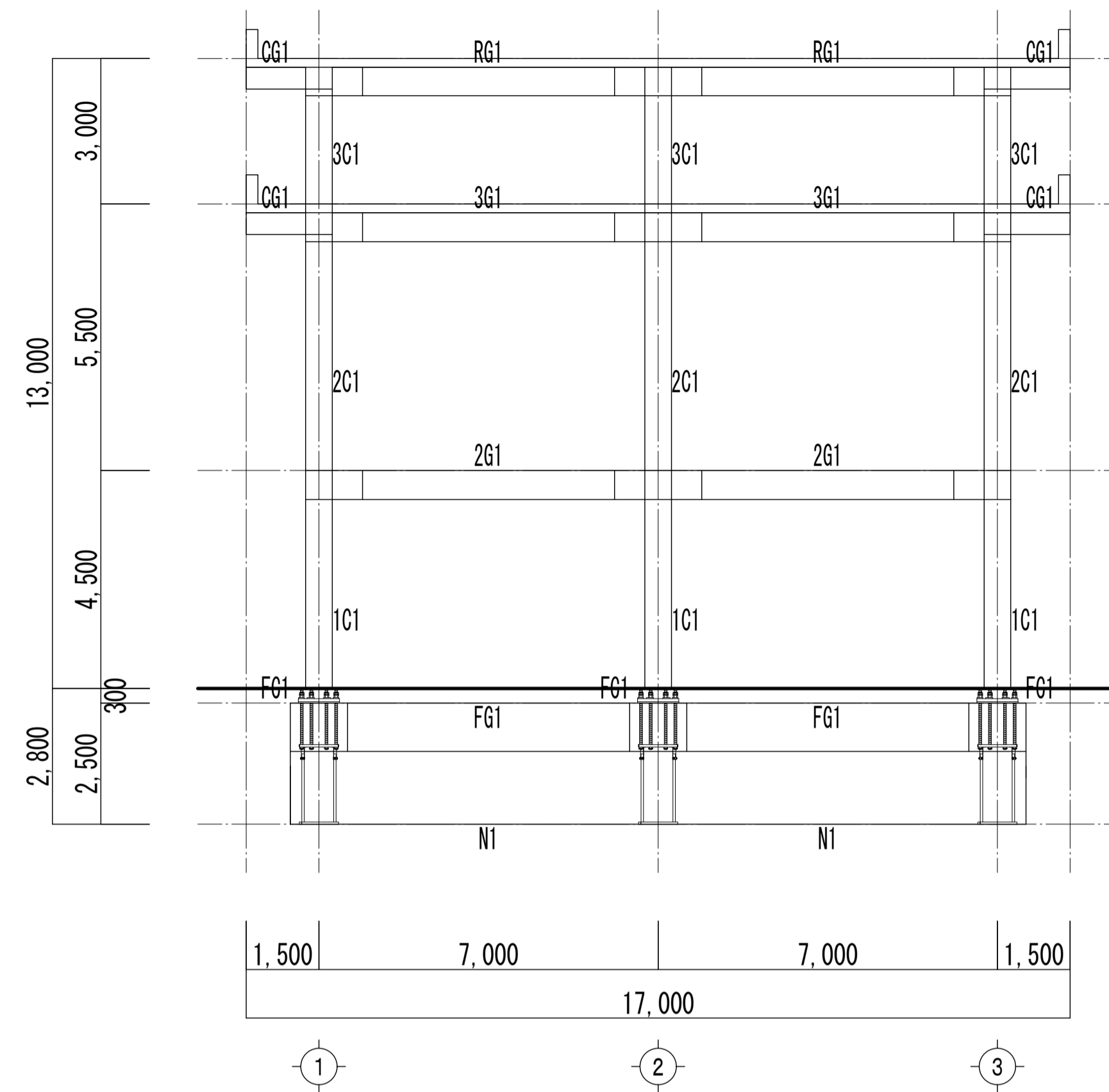
設計代表者  
 一級建築士 No.352551 田端進也  
 設計担当者  
 一級建築士 No.352551 田端進也  
 構造設計一級建築士 No.352551 田端進也

SCALE	A1 1/100
A3	1/200
DATE	R 8 . 0 3

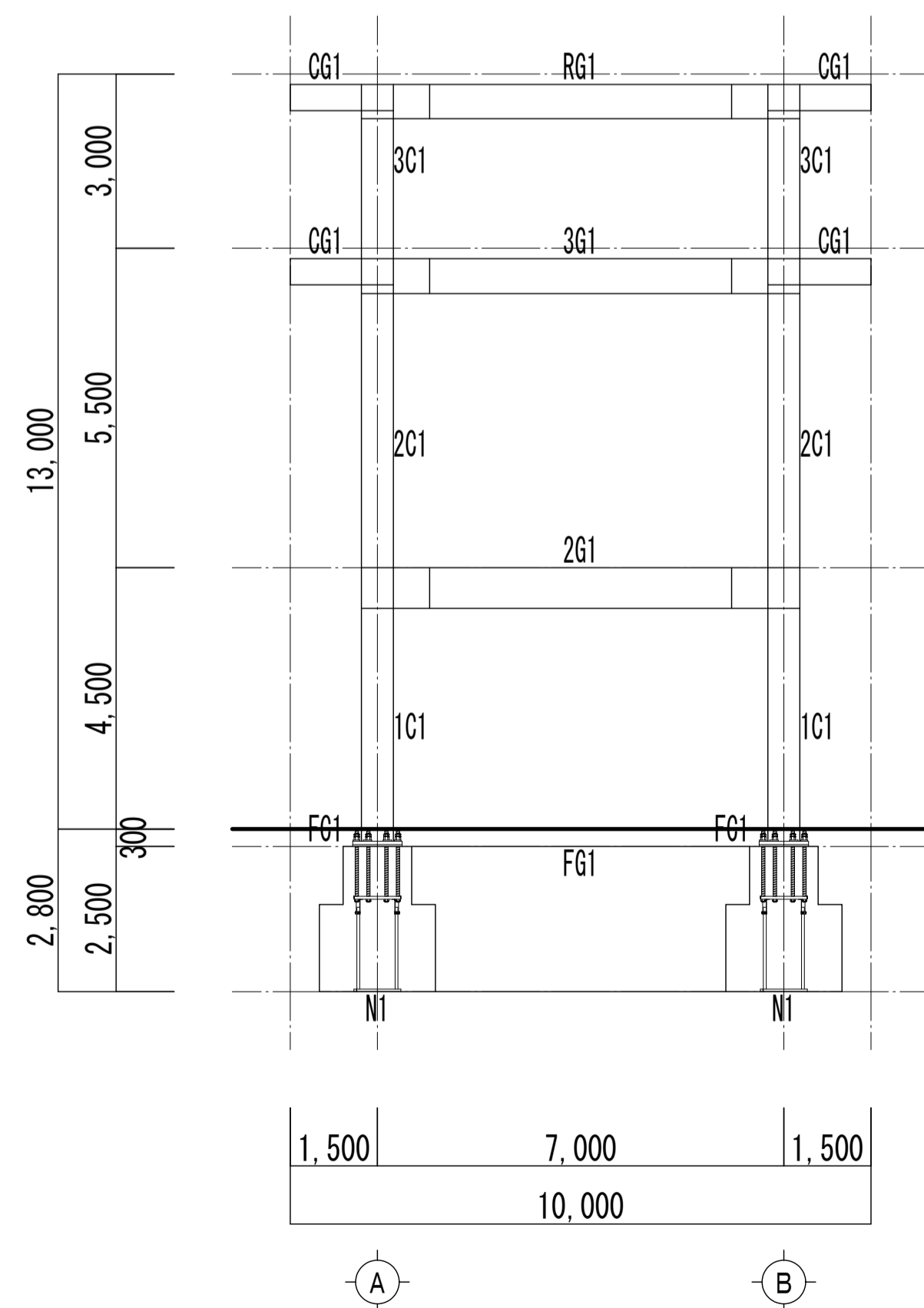
工事名称 矢浜津波避難施設建設工事  
 図面名称 伏図2



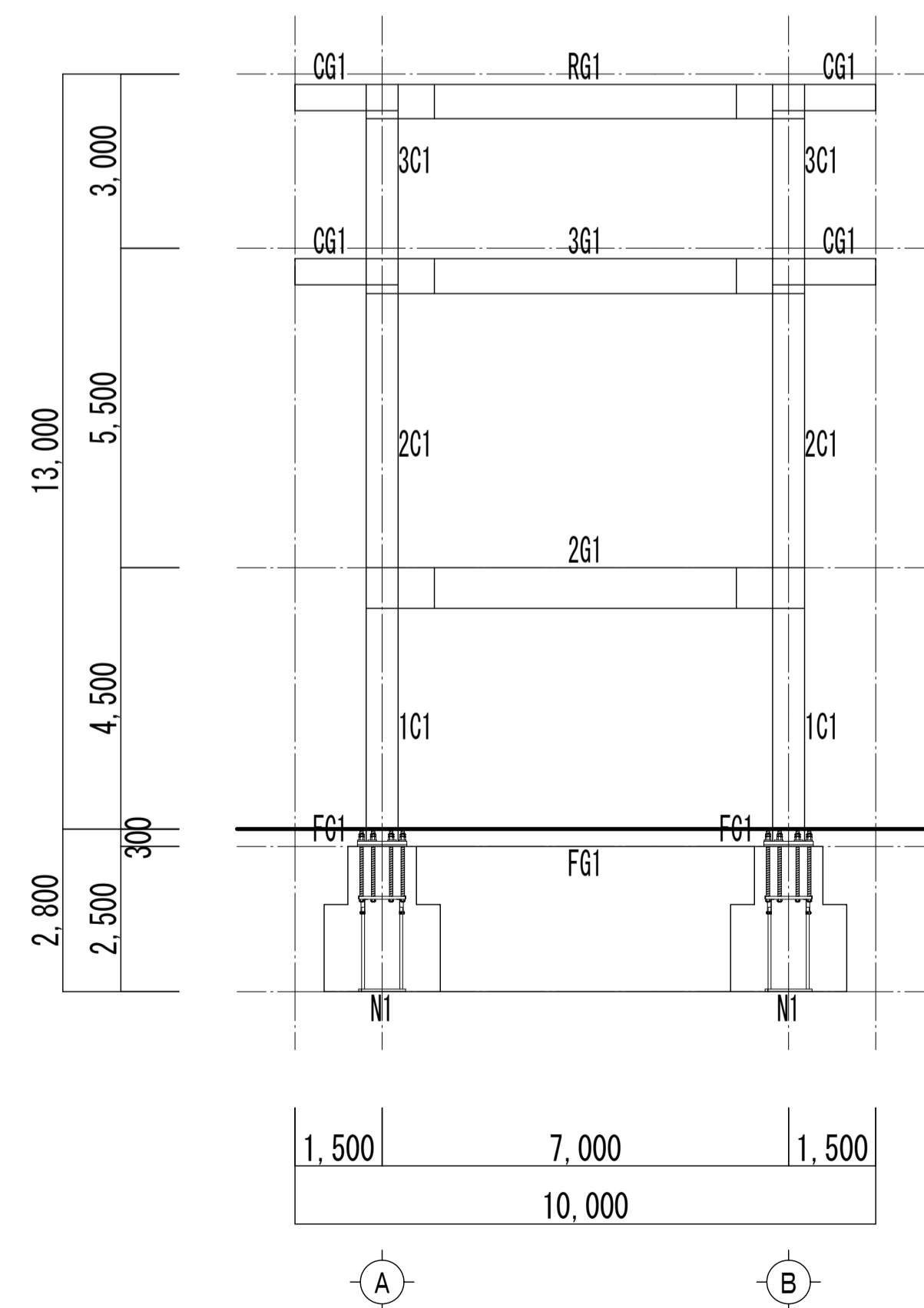
B通り 軸組図 S=1/100



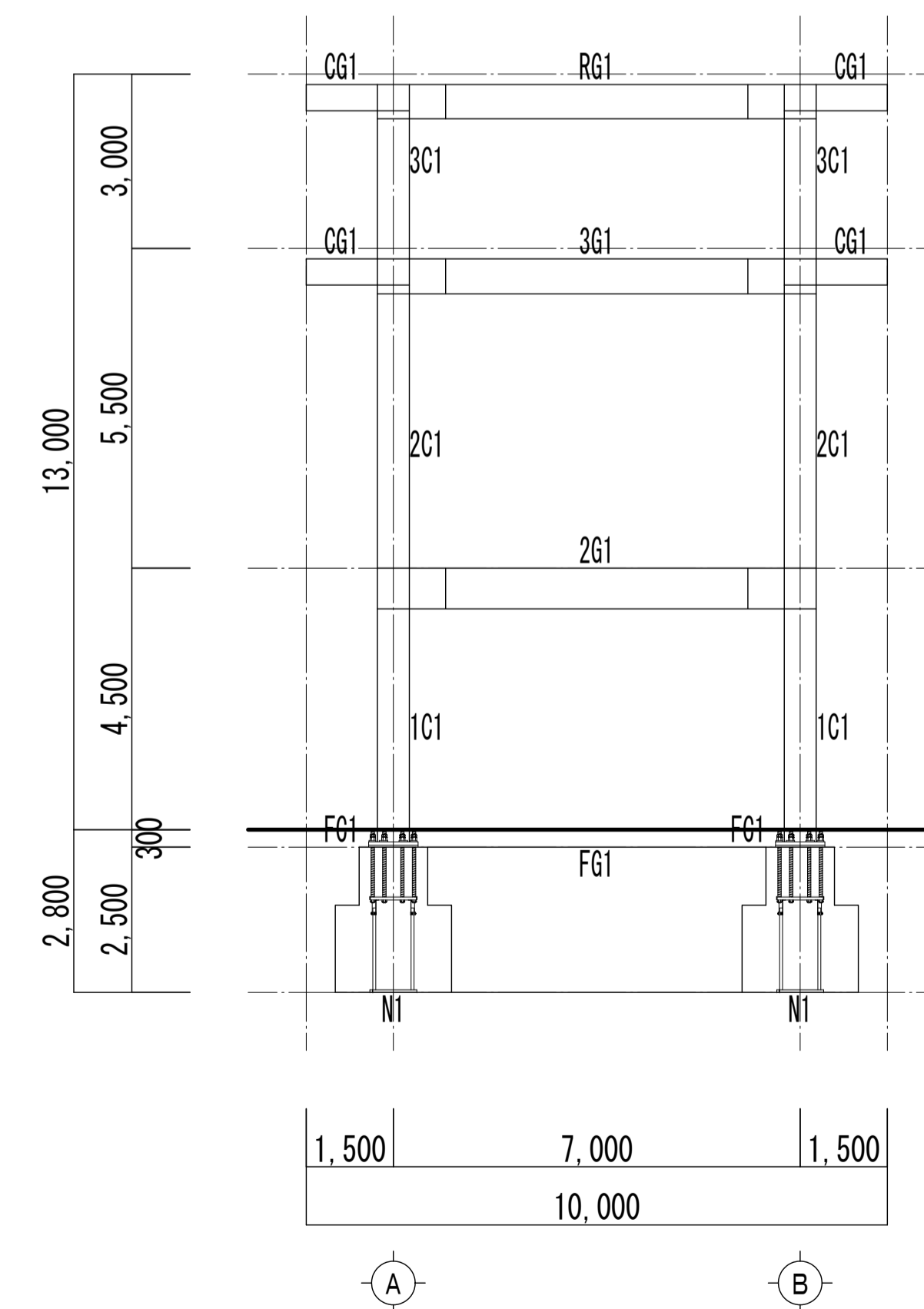
B通り 軸組図 S=1/100



1通り 軸組図 S=1/100

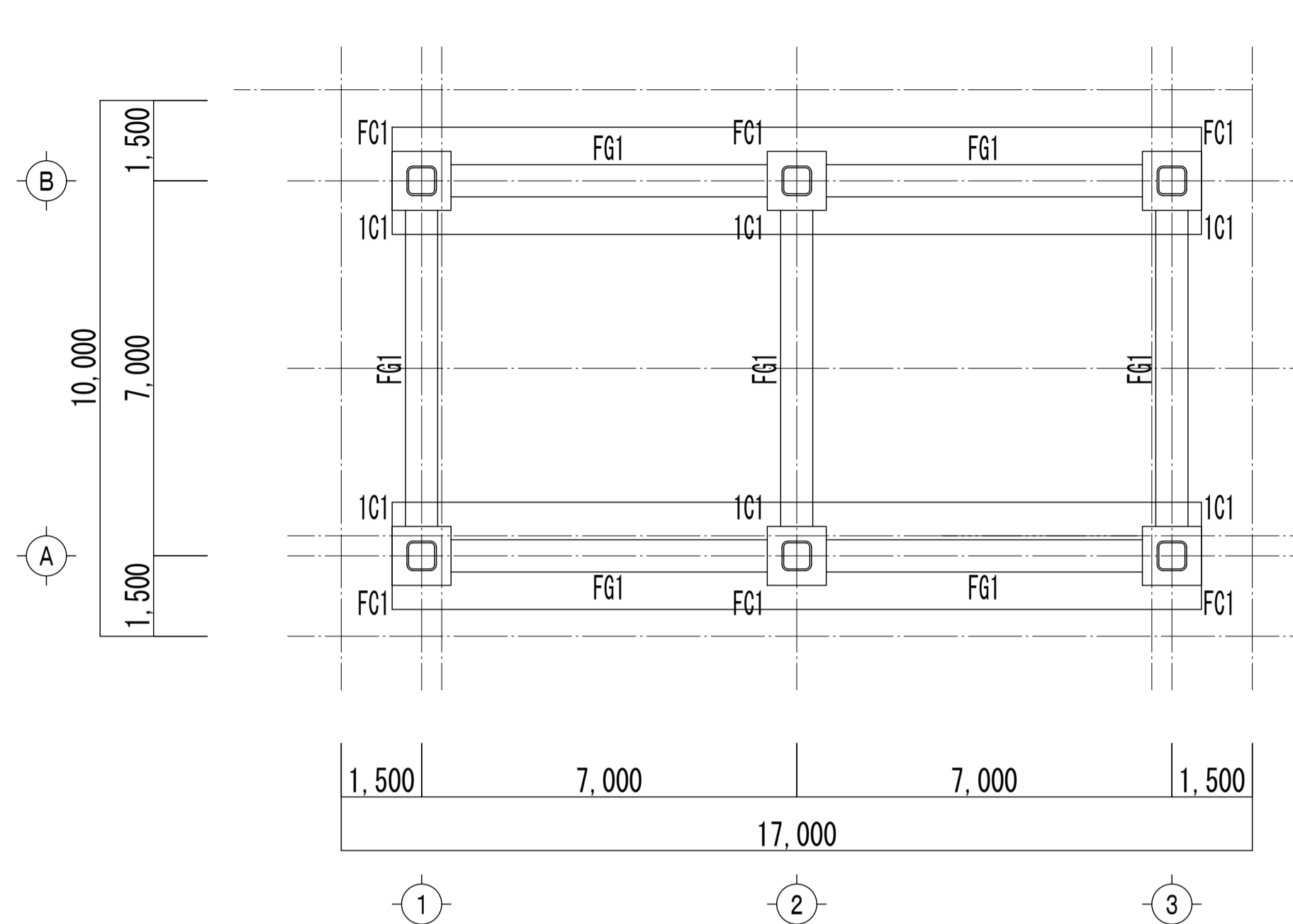


2通り 軸組図 S=1/100

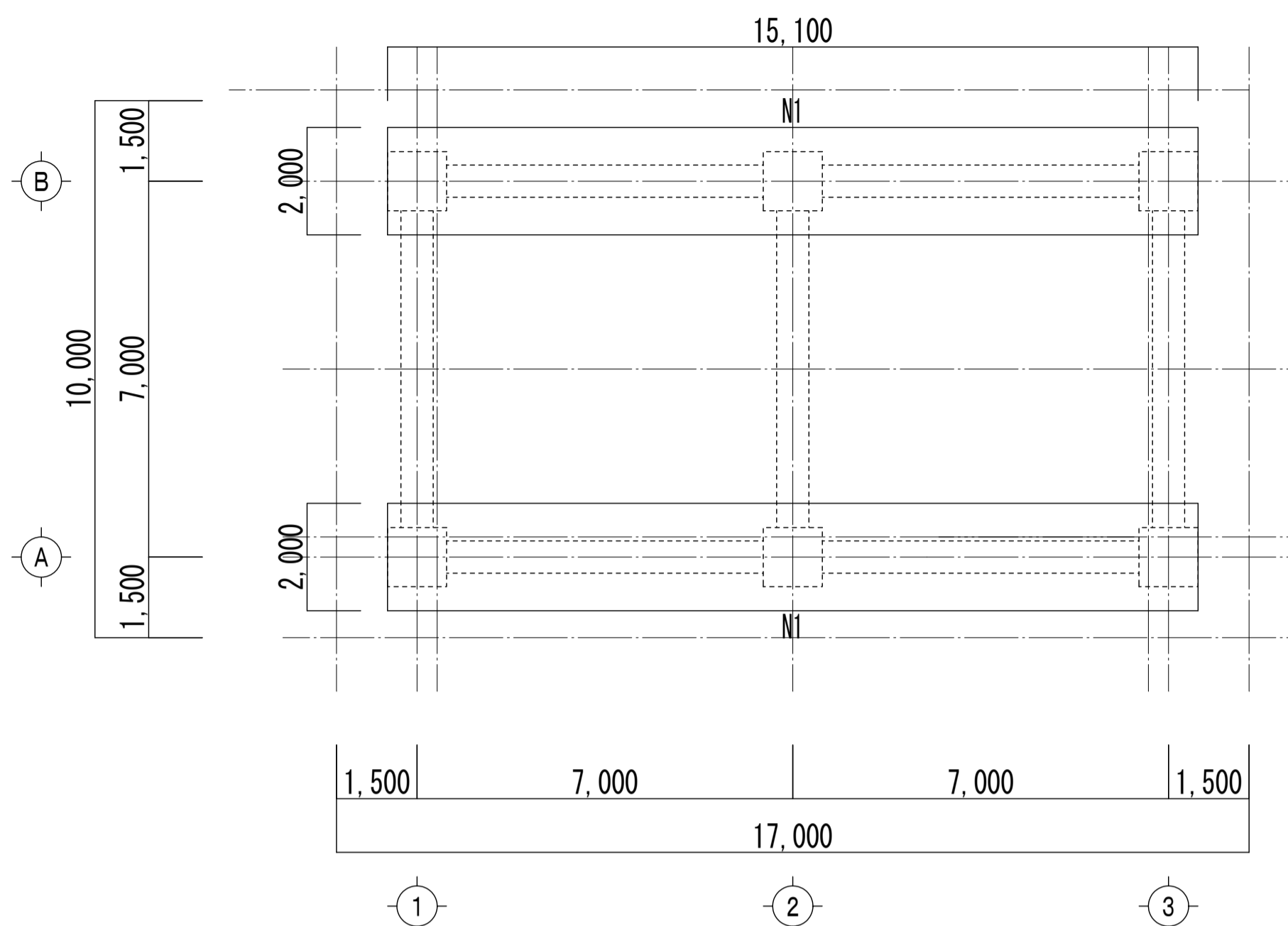


3通り 軸組図 S=1/100

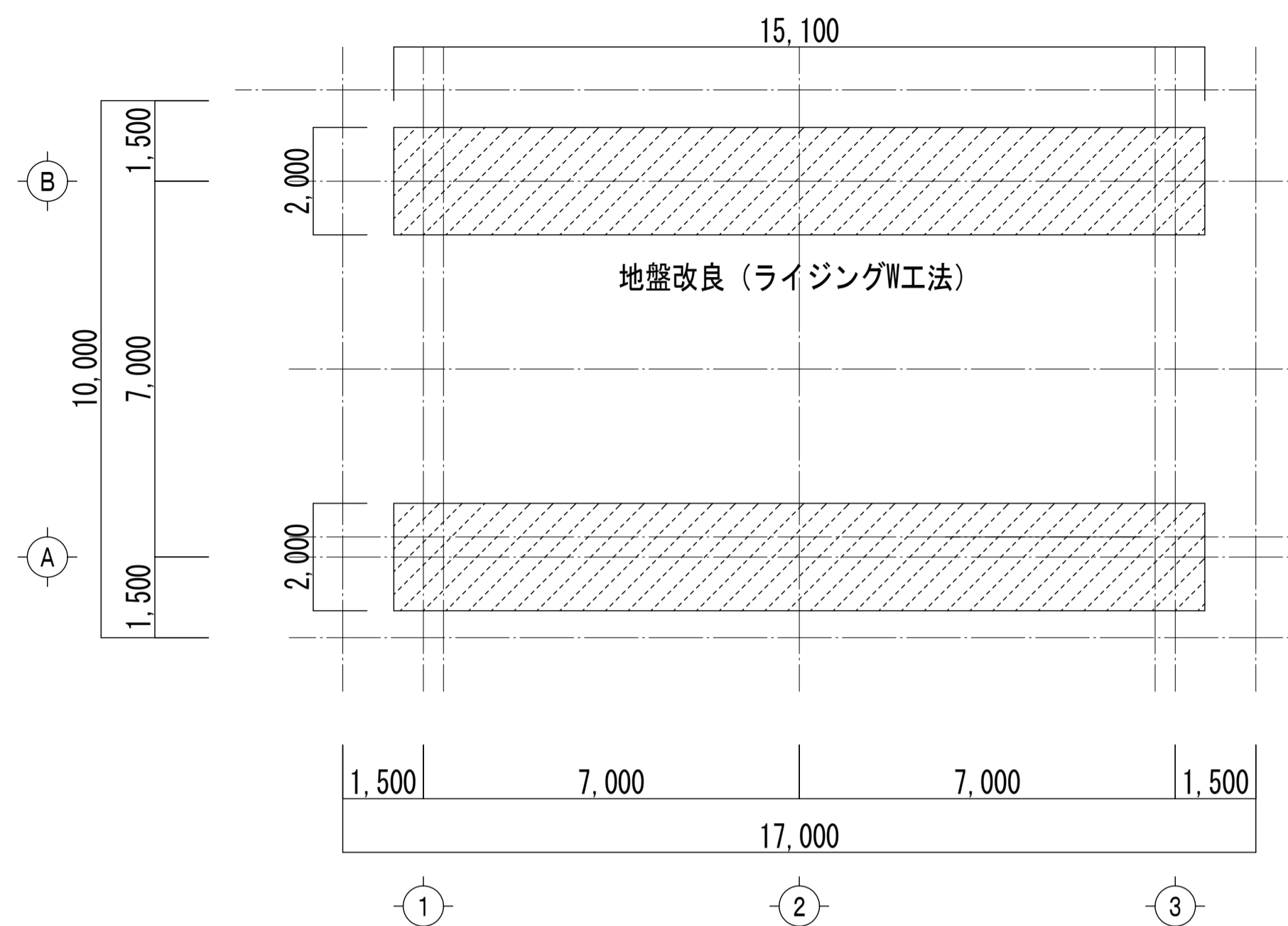




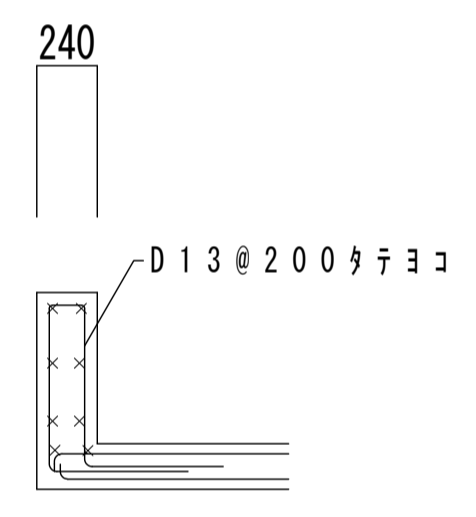
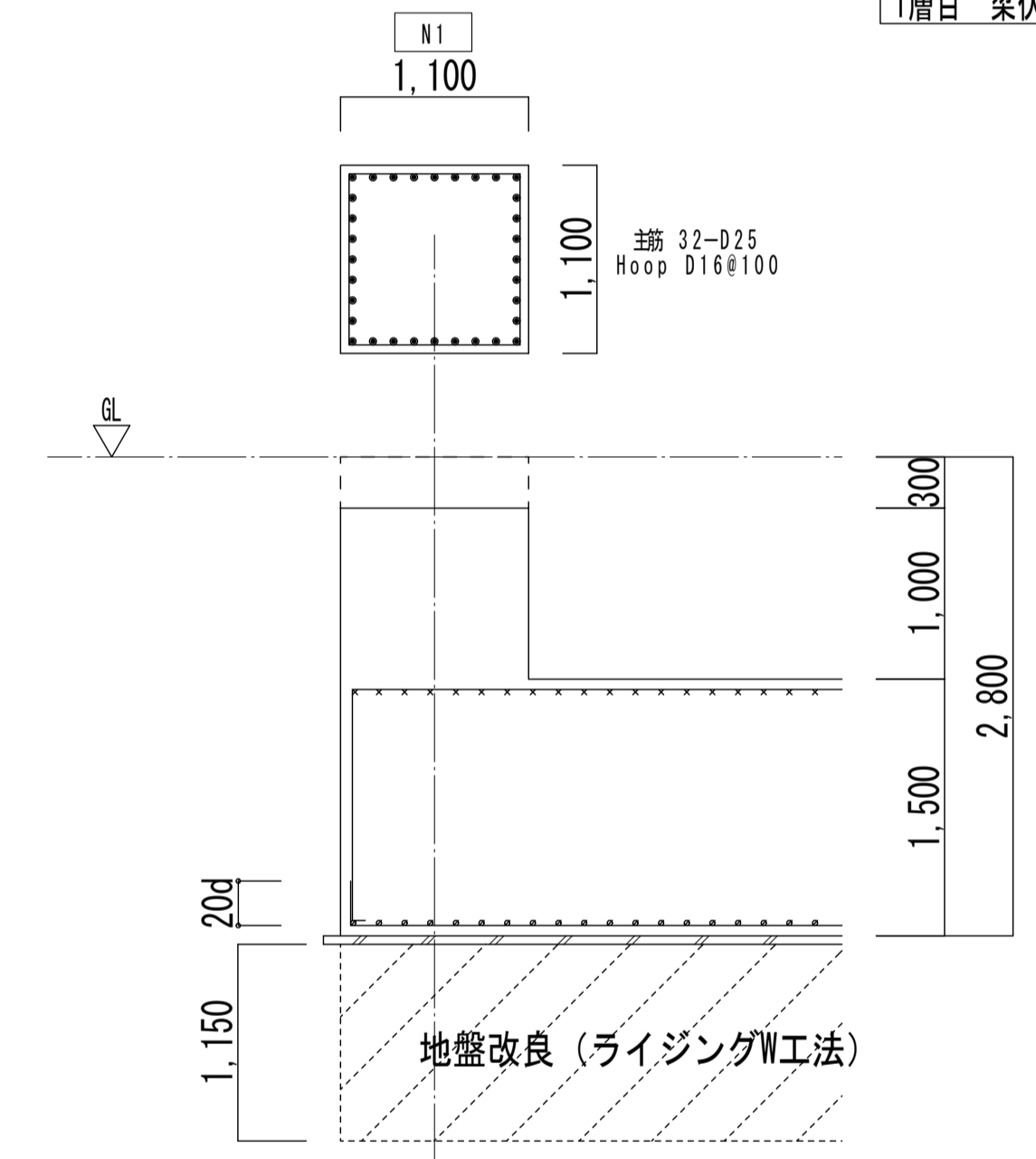
1層目 梁伏図 S=1/100



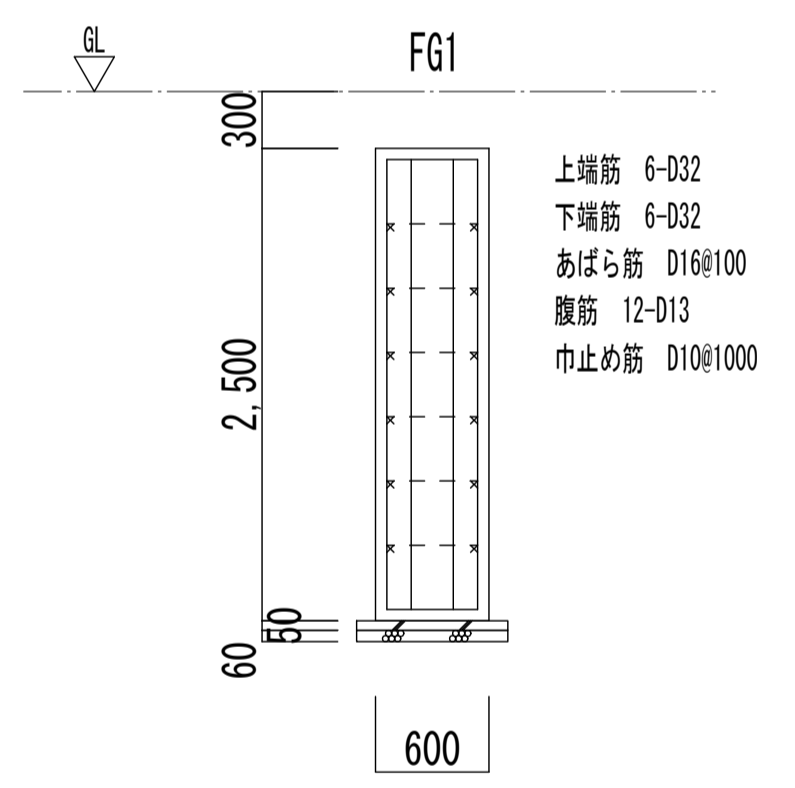
基礎伏図 S=1/100



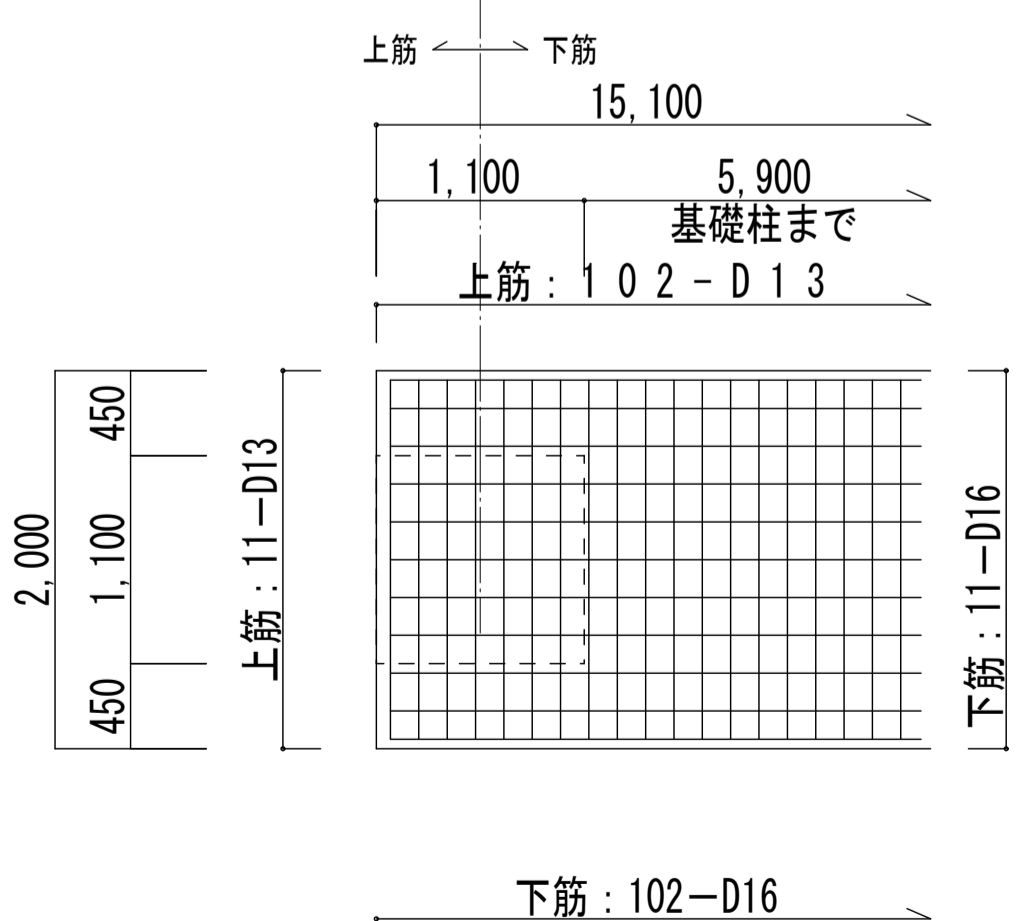
本体基礎伏図 S=1/100



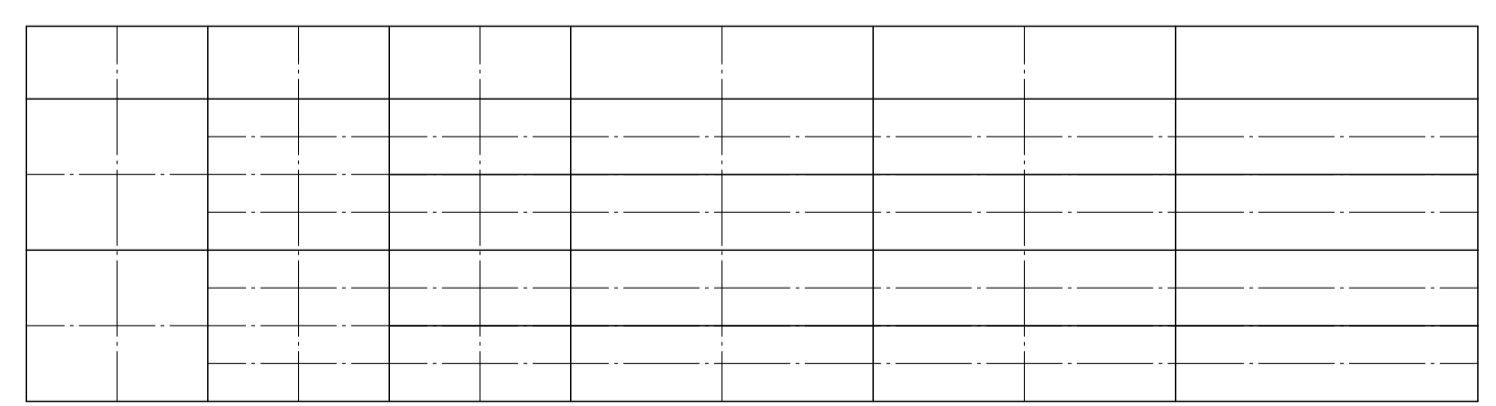
立上り詳細図 S=1/30

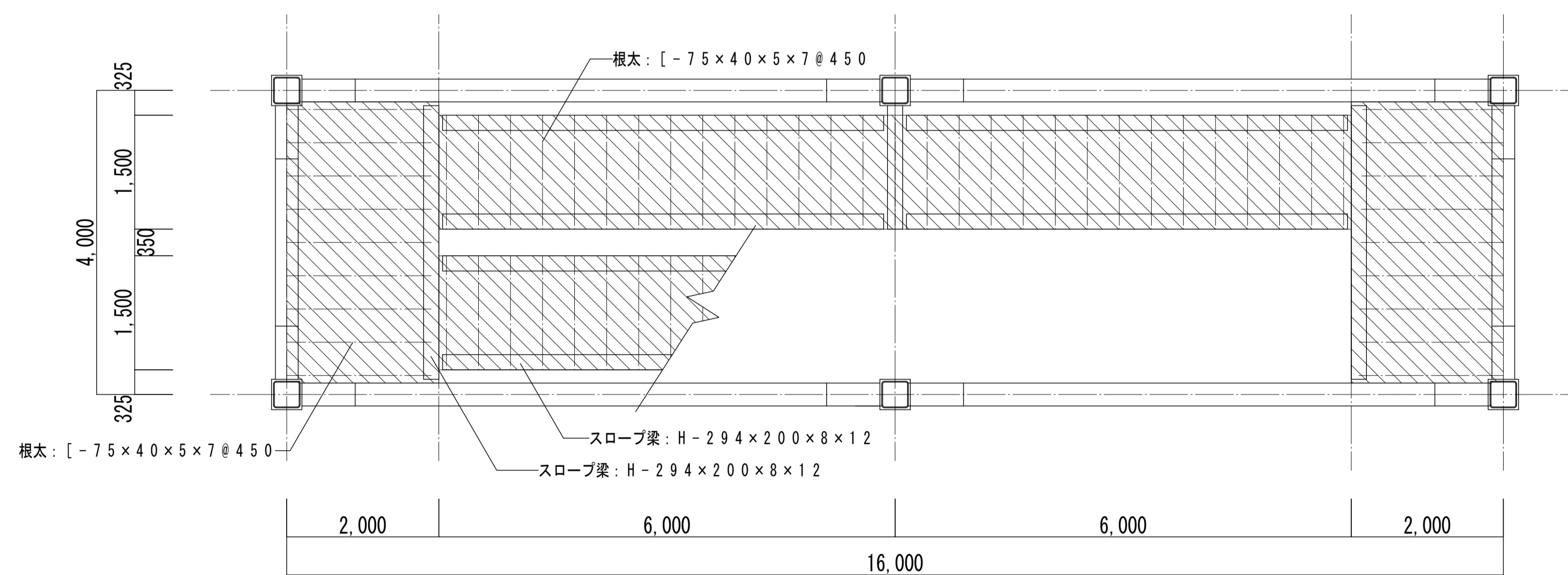
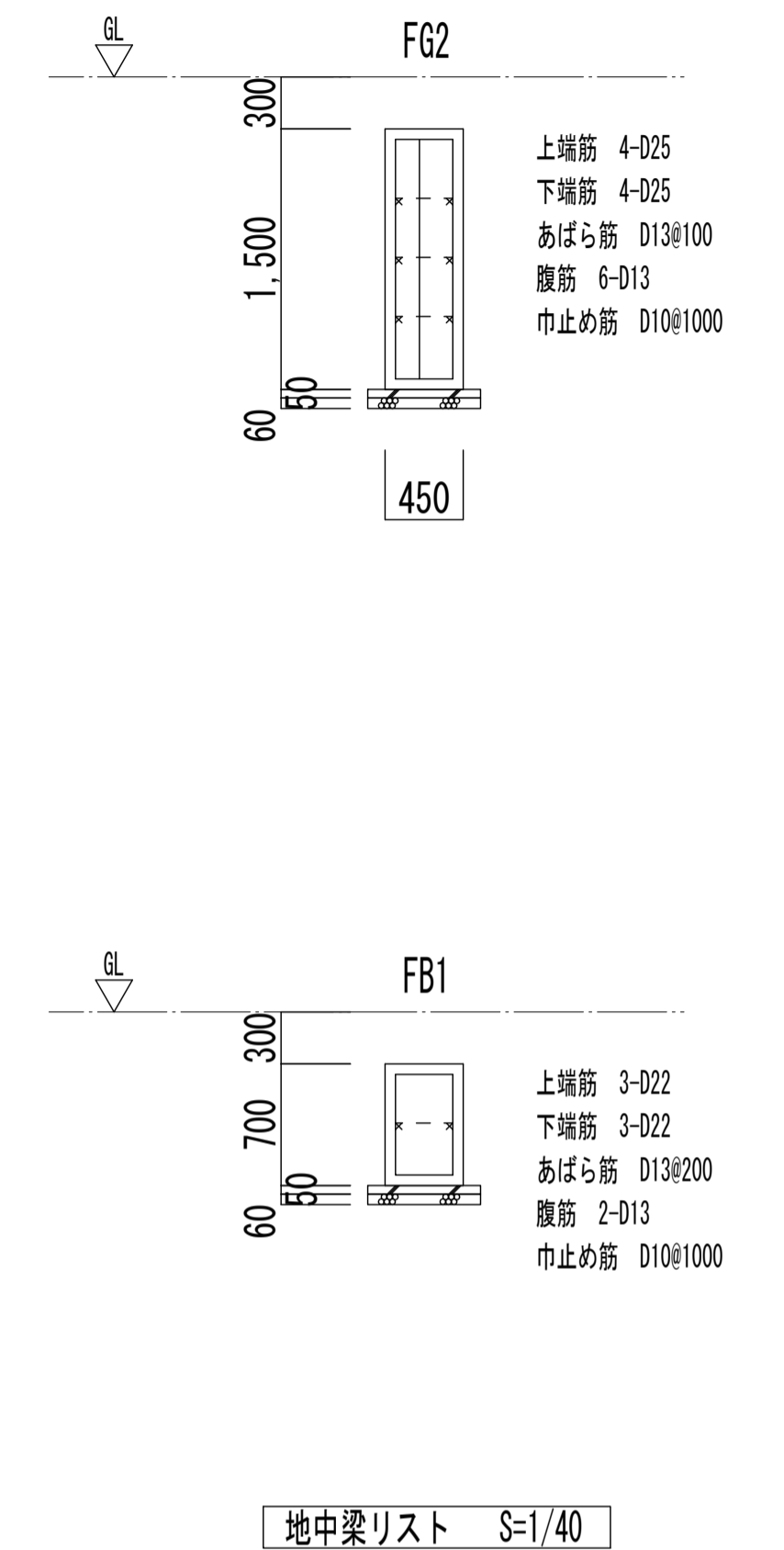
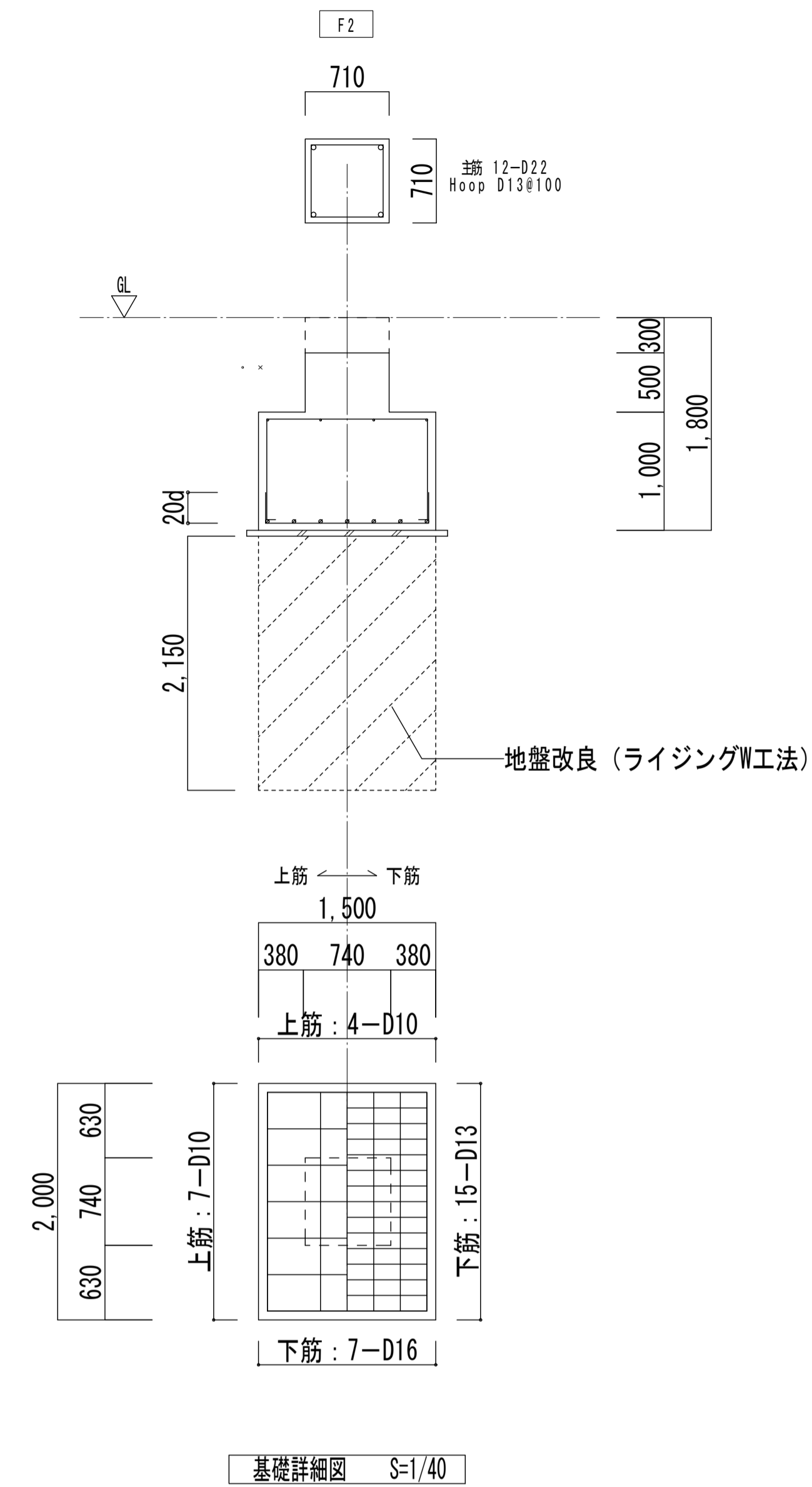
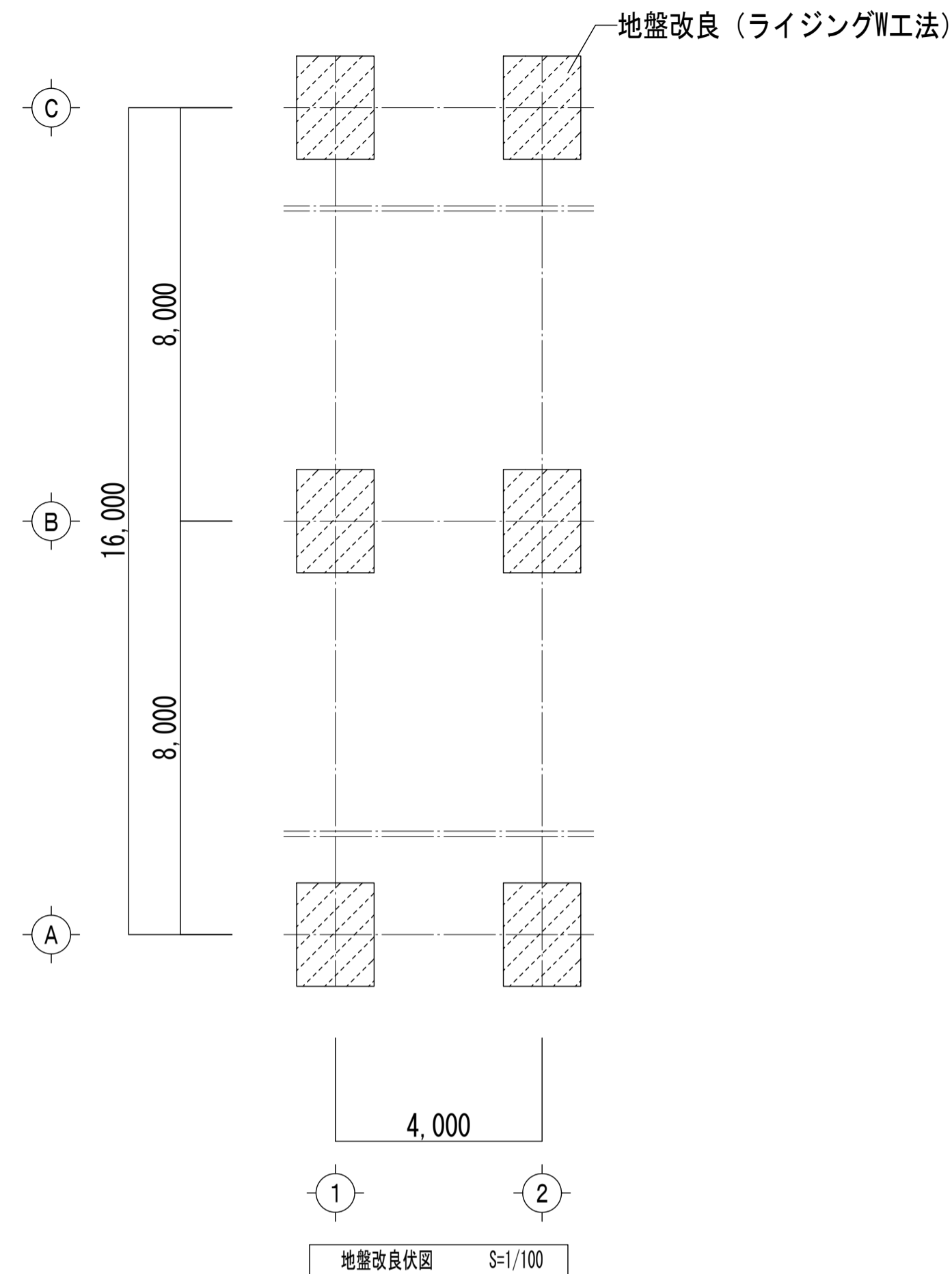
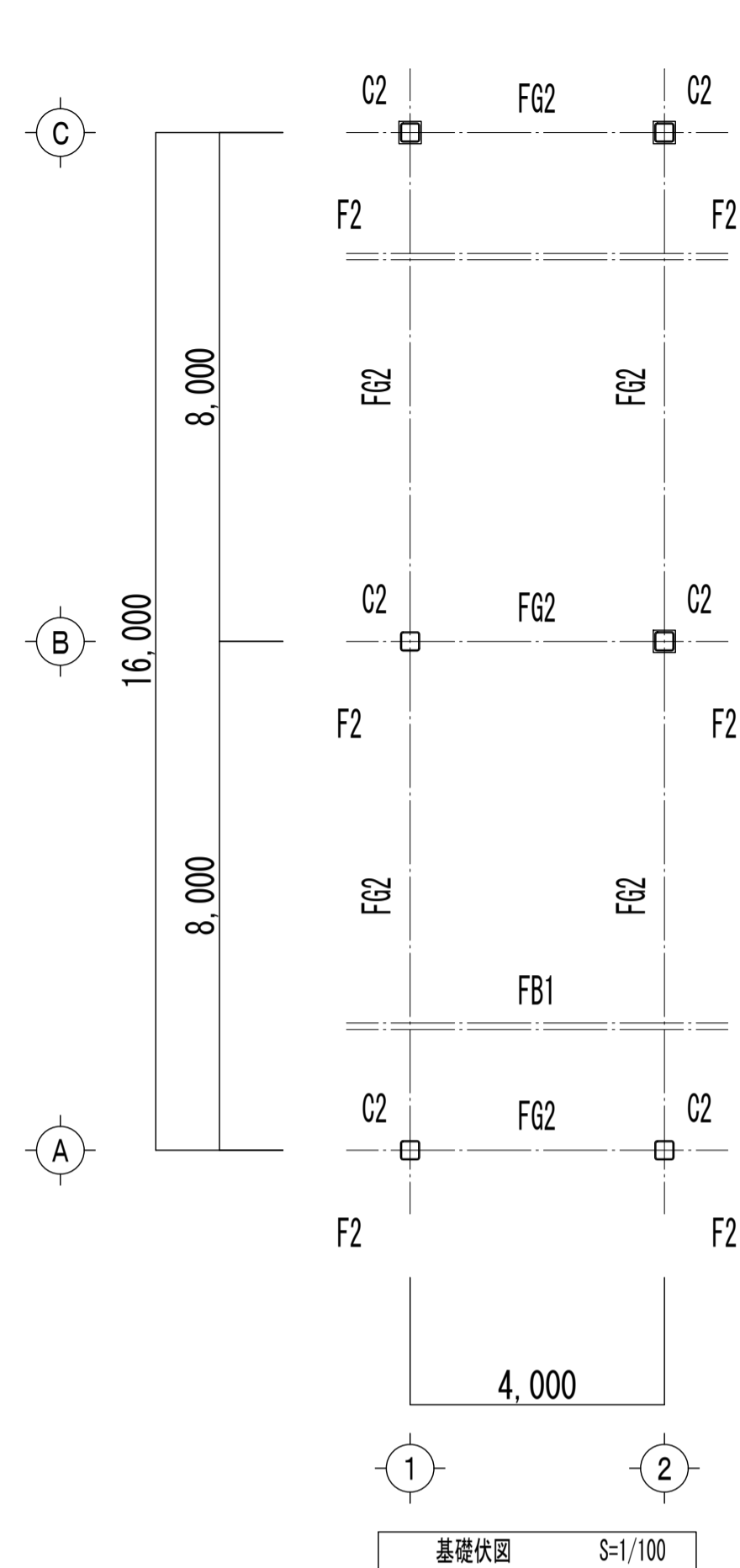


地中梁リスト S=1/40

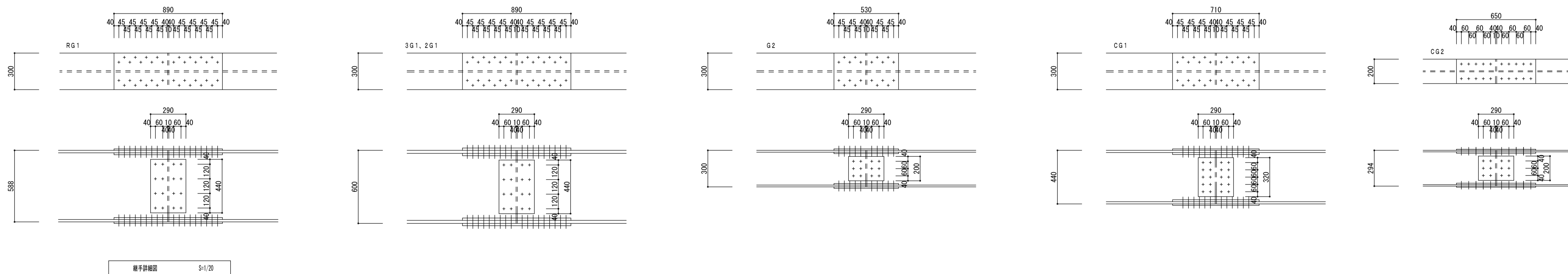


基礎詳細図 S=1/40

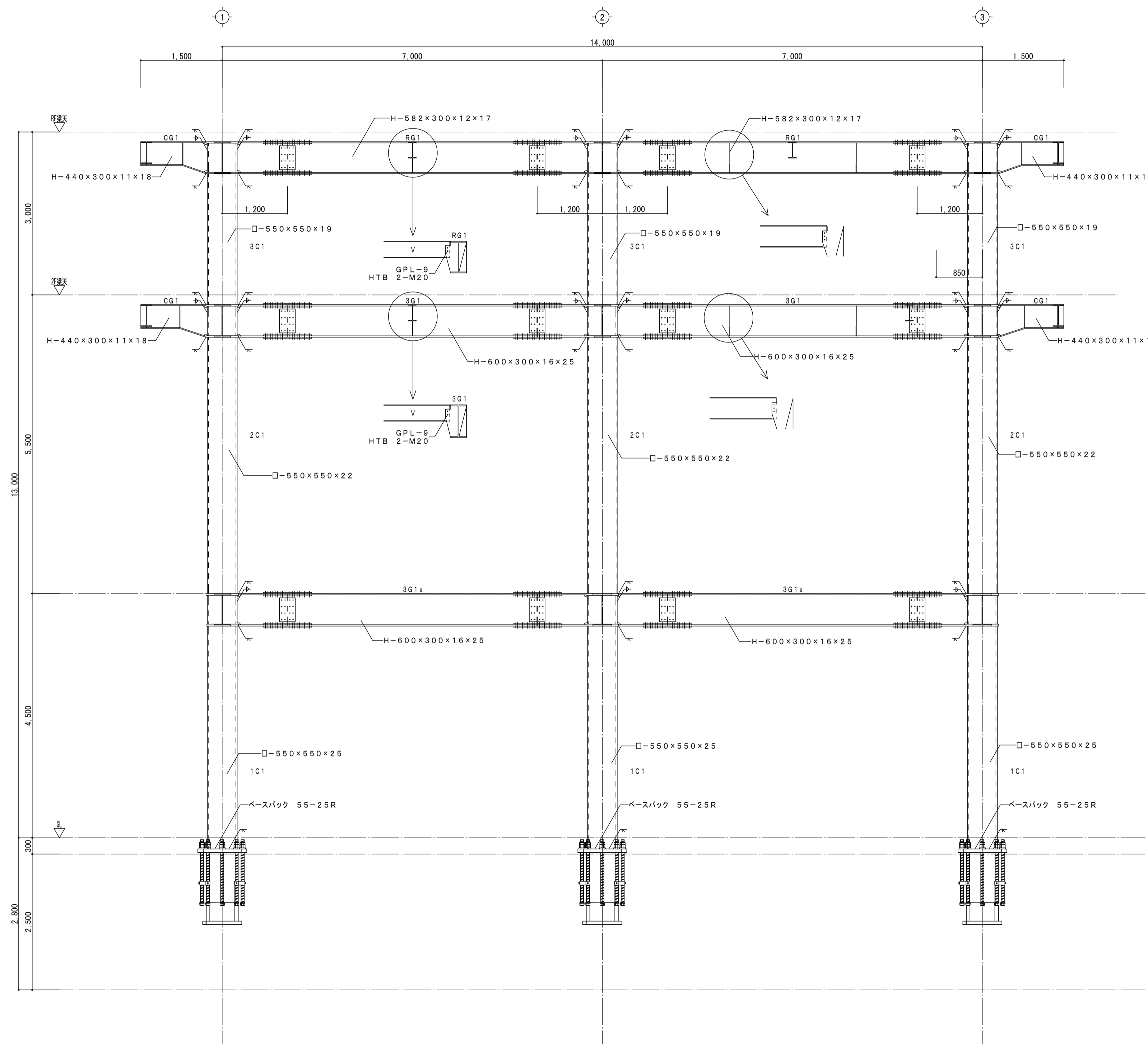




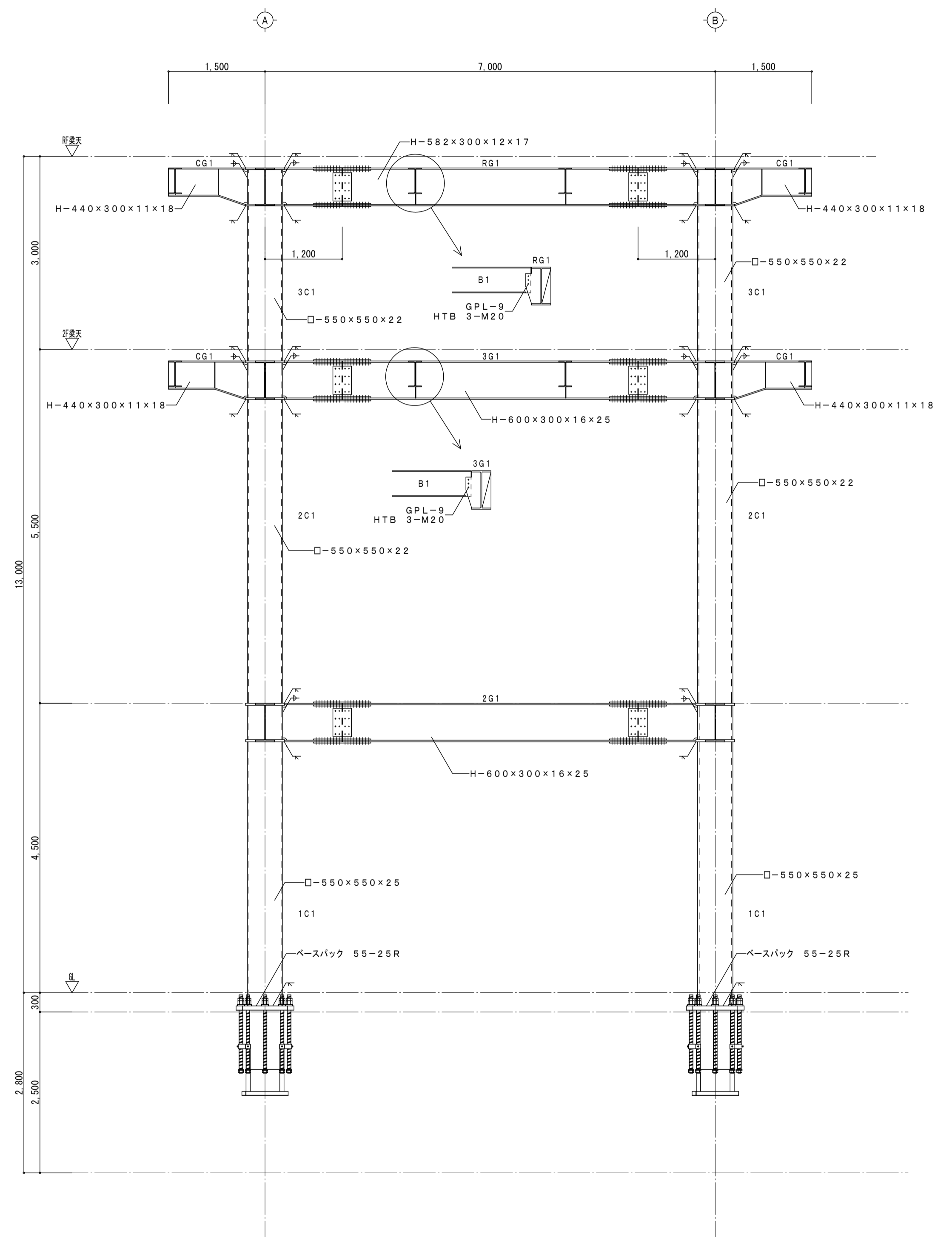
柱リスト				梁リスト		フランジ		ウェブ				
符号	1C1	C2				ボルト 径	ボルト 本数	外プレート 厚×長さ (mm)	内プレート 厚×幅 (mm)	ボルト 本数	プレート 厚×幅×長さ (mm)	
形状												
部材	□-550×550×25	□-300×300×16										
ベースプレート	850×850×60	520×520×40										
アンカーボルト	12-D51 (BPD-SD490)	8-MD36 (BPD-SD490)										
符号	2C1・3C1											
形状												
部材	3C1: □-550×550×19 2C1: □-550×550×22											
梁リスト		ボルト 径	フランジ		ウェブ							
符号			ボルト 本数	外プレート 厚×長さ (mm)	内プレート 厚×幅 (mm)	ボルト 本数	プレート 厚×幅×長さ (mm)					
RG1	H-588×300×12×20	M22	9×2 (チドリ)	12×890	16×110	4×2	9×440×290					
3G1	H-600×300×16×25	M22	9×2 (チドリ)	19×890	19×110	4×2	9×440×290					
2G1	H-600×300×16×25	M22	9×2 (チドリ)	19×890	19×110	4×2	9×440×290					
G2	H-300×300×10×15	M22	5×2 (チドリ)	12×530	12×110	3×2	9×200×290					
CG1	H-440×300×11×18	M22	7×2 (チドリ)	12×710	16×110	5×2	9×320×290					
CG2	H-294×200×8×12	M22	5×2	9×650	12×80	3×2	9×200×290					
その他リスト												
スロープ梁		H-298×201×9×14 GPL-9 3-M20 (BPL-28 350×250 2-M22 L=440)										
ササラ桁		PL-300×25 GPL-9 3-M20 (BPL-28 350×200 2-M22 L=440)										
根太		[-75×40×5×7 GPL-6 1-M20										
柱脚		ベースパッキン 責任施工										



継手詳細図 S=1/20



本棟を通り鉄骨詳細図 S-1/50



本棟を通り鉄骨詳細図 S-1/50

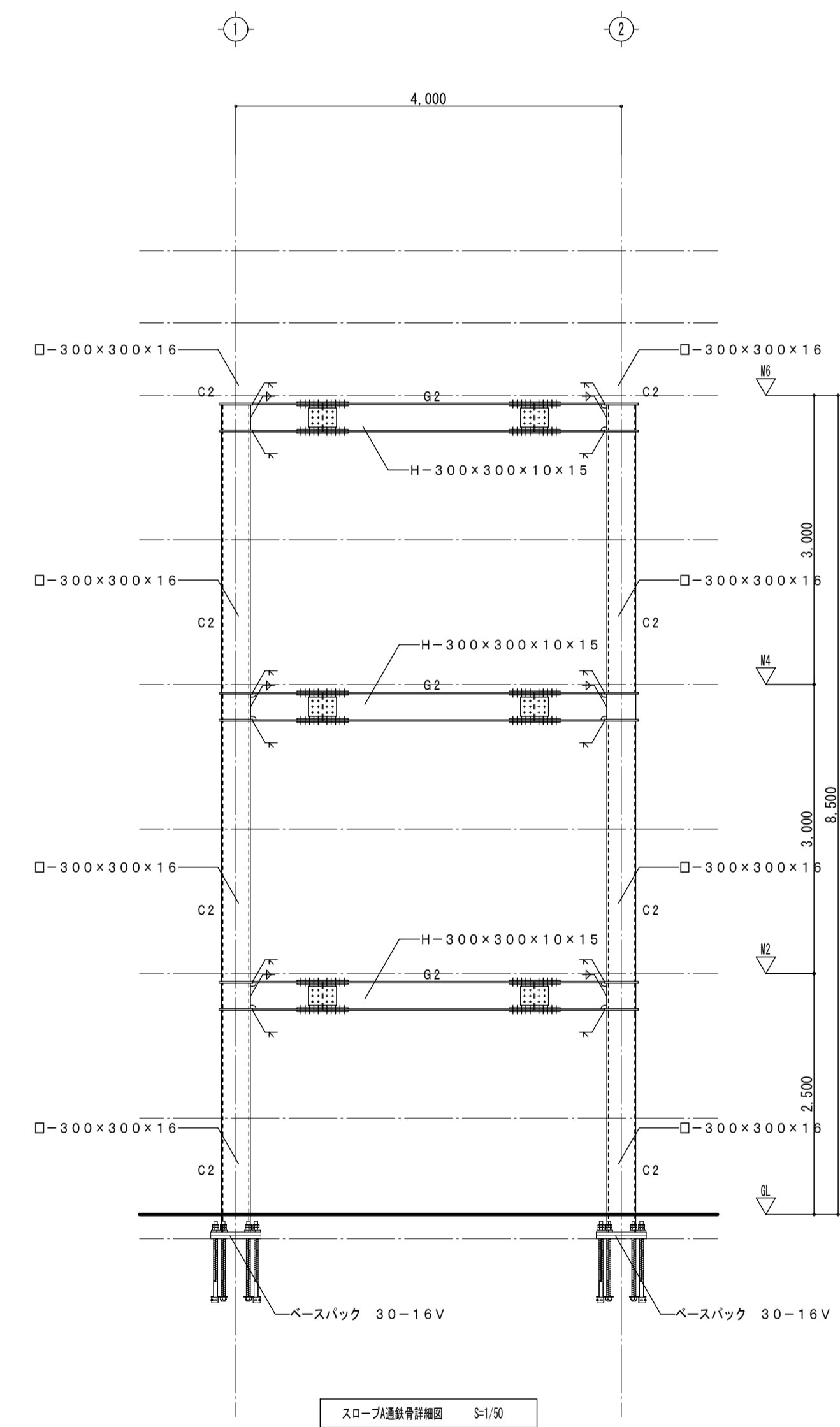
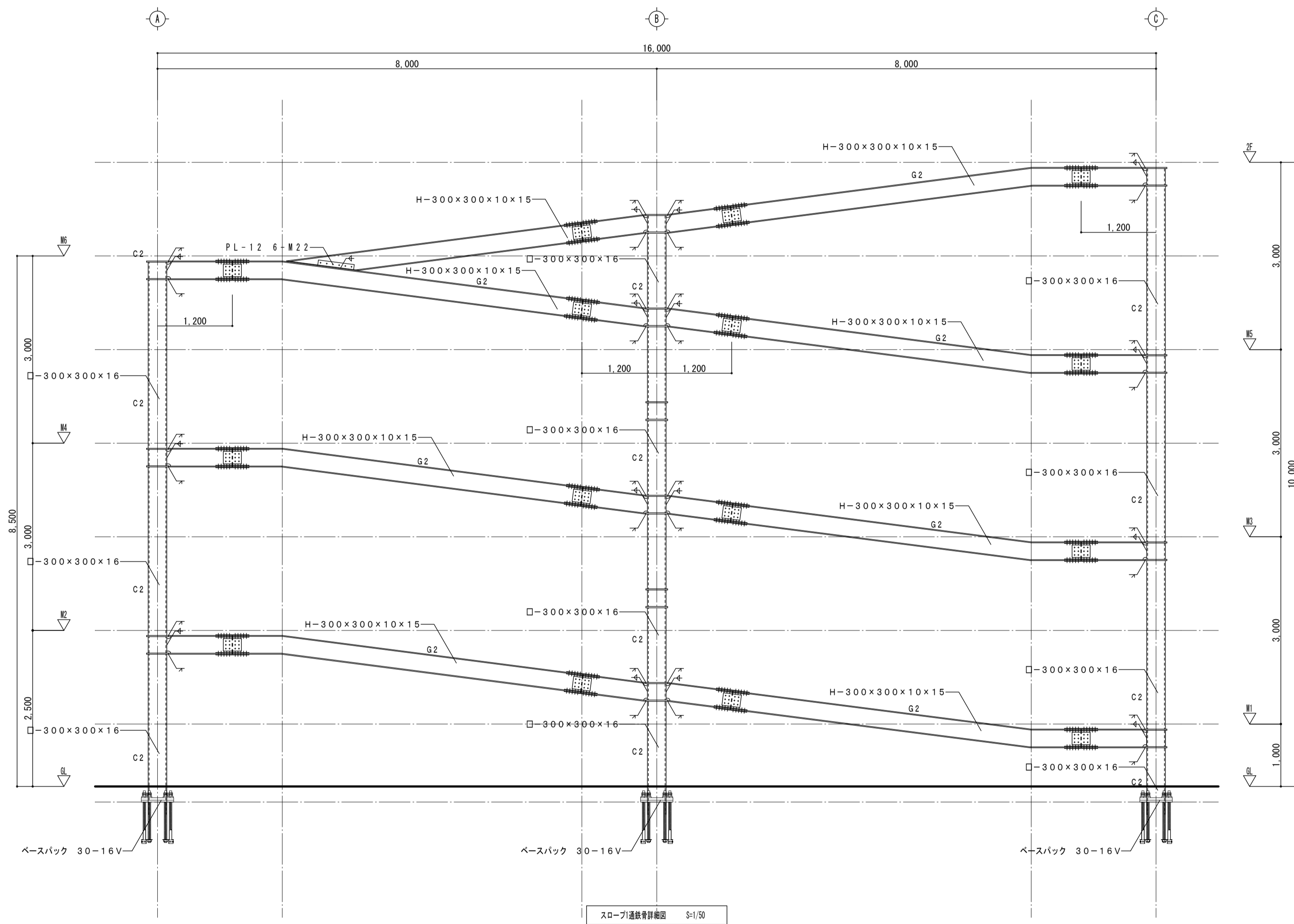
・	
・	
・	
・	

田端隆建築設計  
 三重県知事登録第1-061 一般建築士 No.352551 田端 進也

設計代表者	設計担当者
一般建築士 No.352551 田端進也	一般建築士 No.372993 高賀治

SCALE	
A1	1/50
A3	1/100
DATE	
R 8 . 0 3	

工事名称 矢浜津波避難施設建設工事  
 図面名称 鉄骨詳細図1



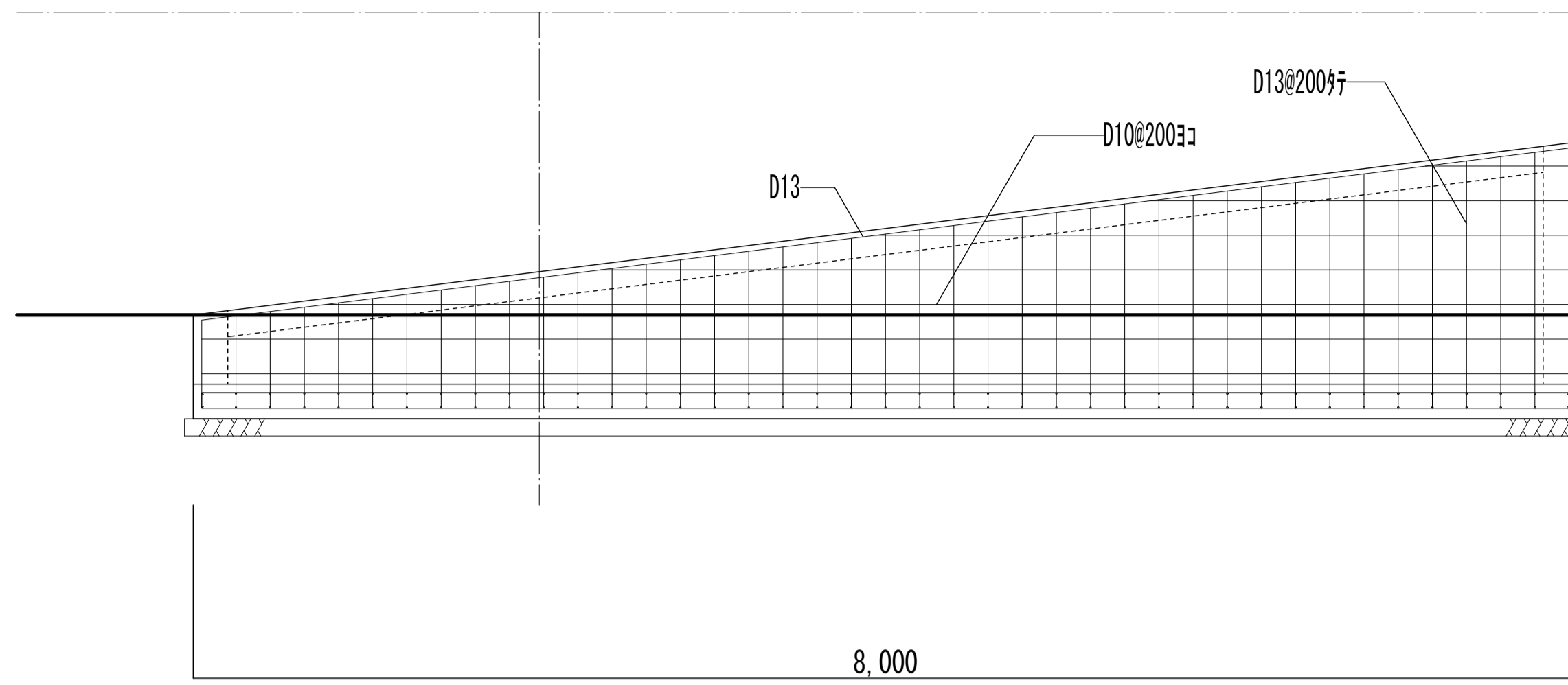
・	
・	
・	
・	


**(株)田端隆建築設計**  
三重県知事登録第1-861 一般建築士 No.352551 田端 進也

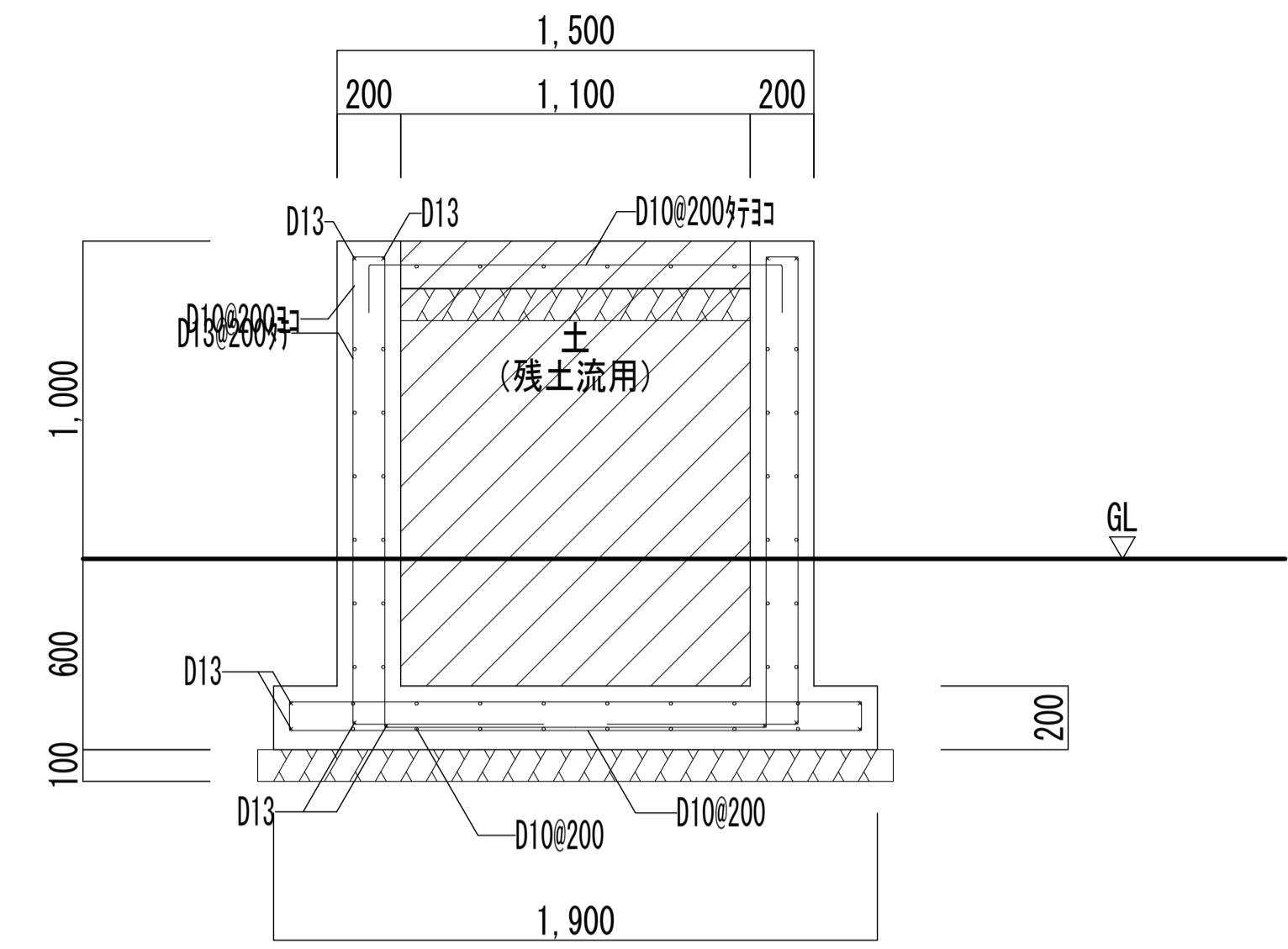
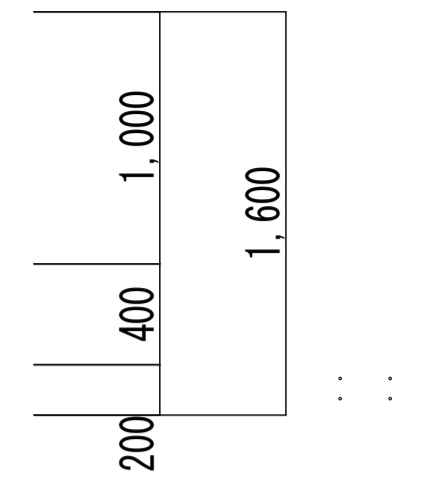
設計代表者	設計担当者
<small>一般建築士 No.352551 田端進也</small>	<small>一般建築士 No.352551 田端進也</small>

SCALE	A1
	1/50
	1/100
DATE	R 8 . 0 3

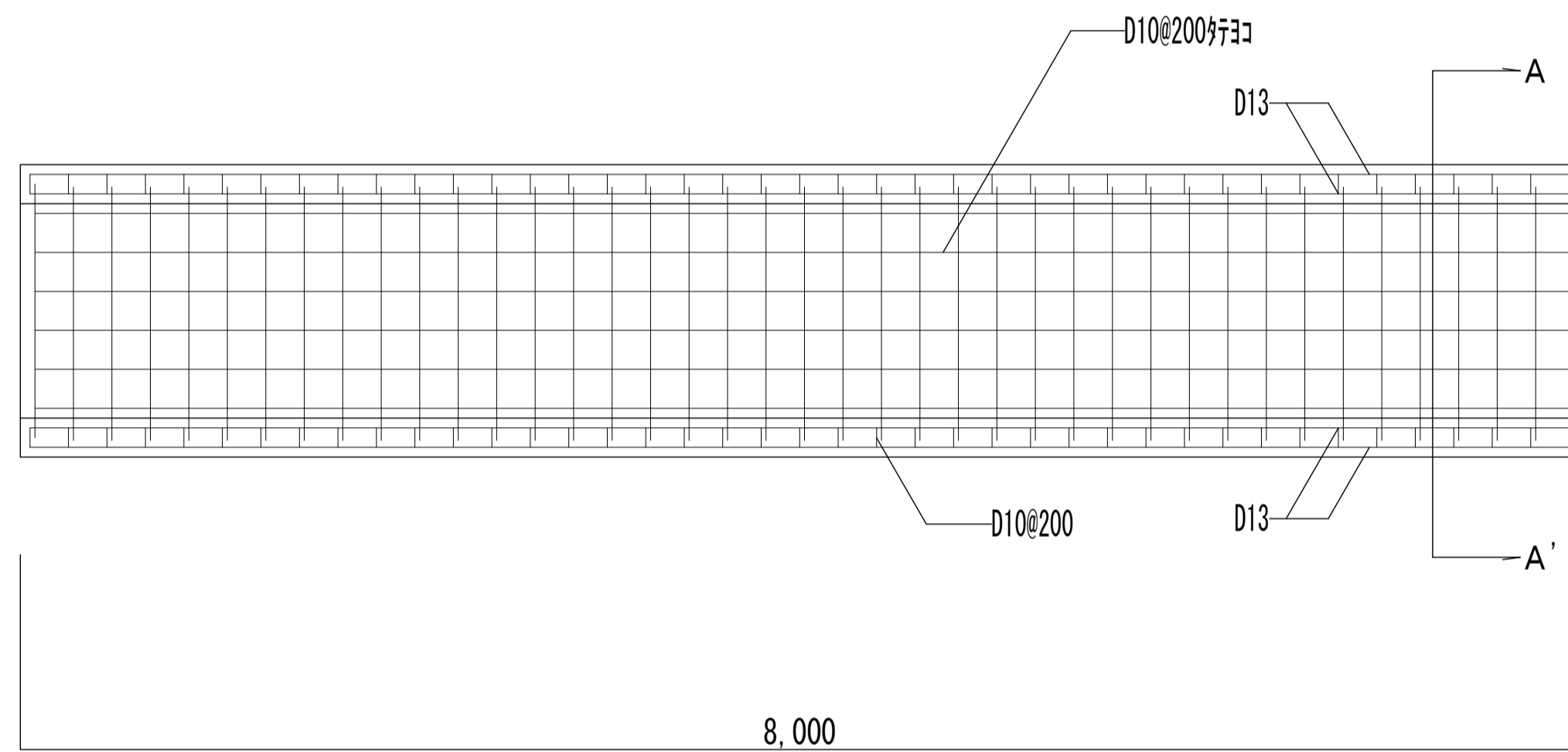
工事名称 矢浜津波避難施設建設工事  
 図面名称 鉄骨詳細図 2



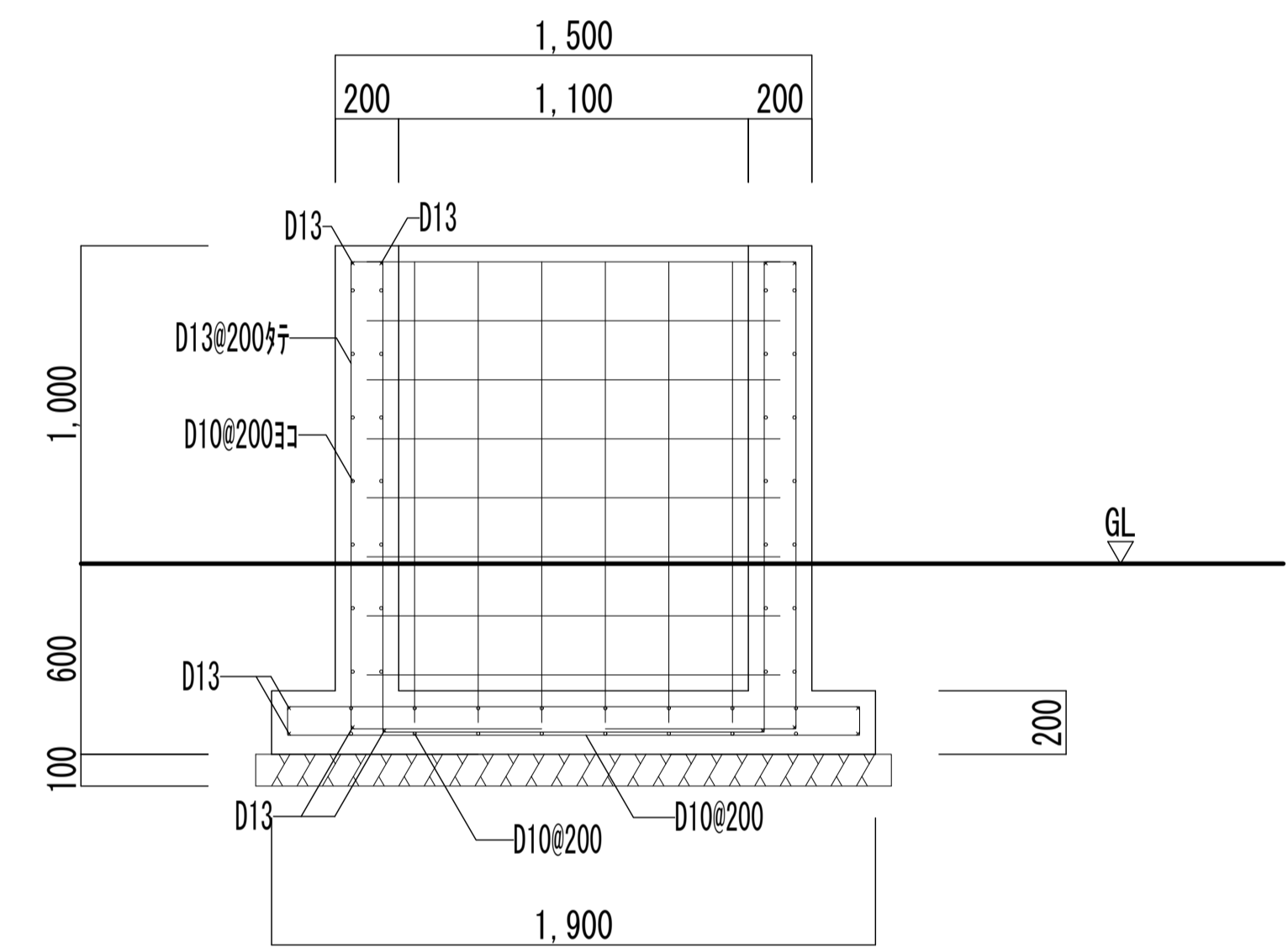
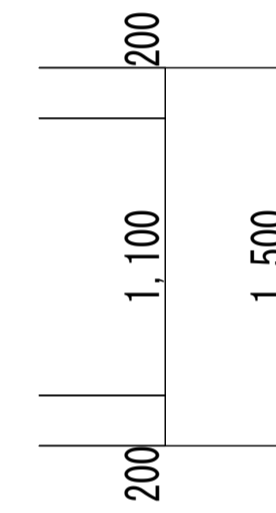
スロープ断面配筋図 S=1/30



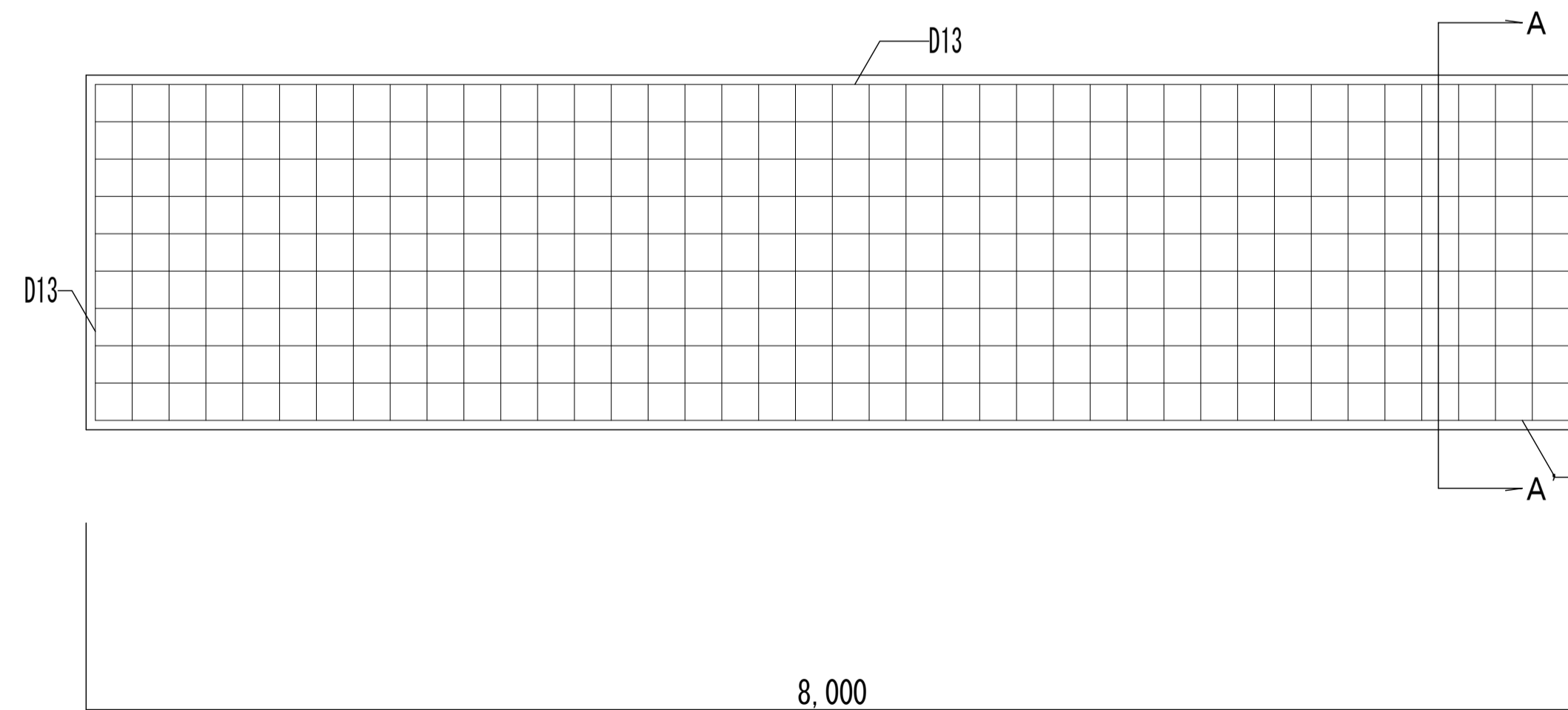
スロープ A-A' 断面配筋図 S=1/20



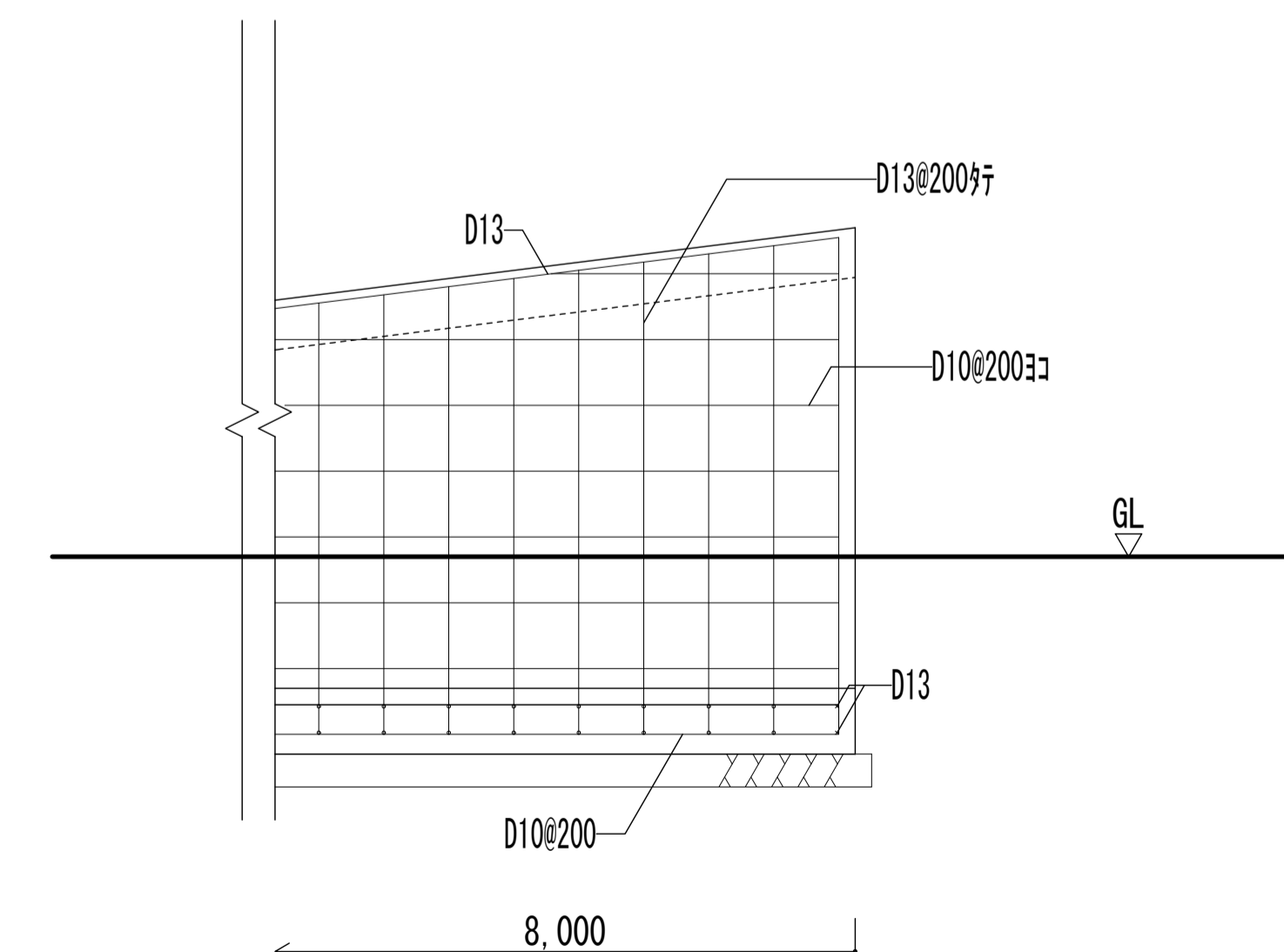
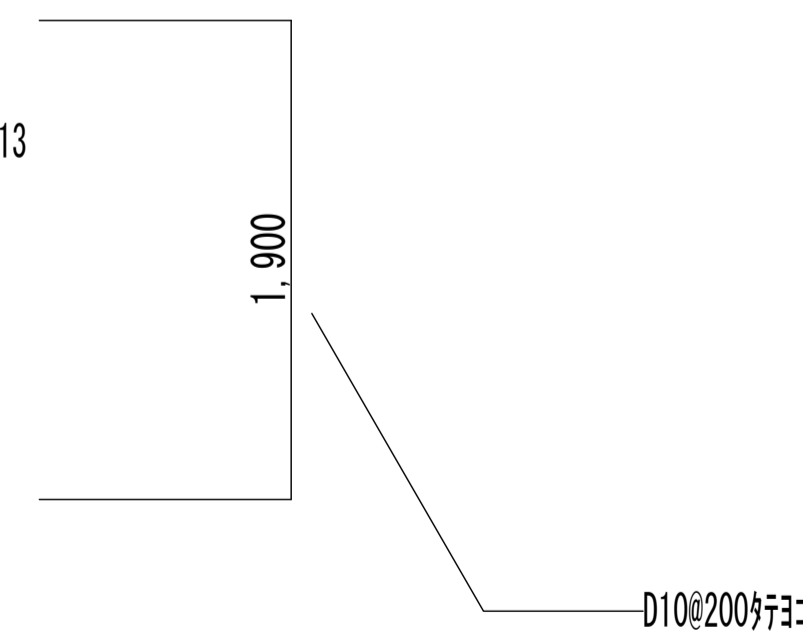
スロープ斜路配筋図 S=1/30



スロープ A-A' 断面配筋図 S=1/20



スロープ底板配筋図 S=1/30



スロープ 側壁断面配筋図 S=1/20

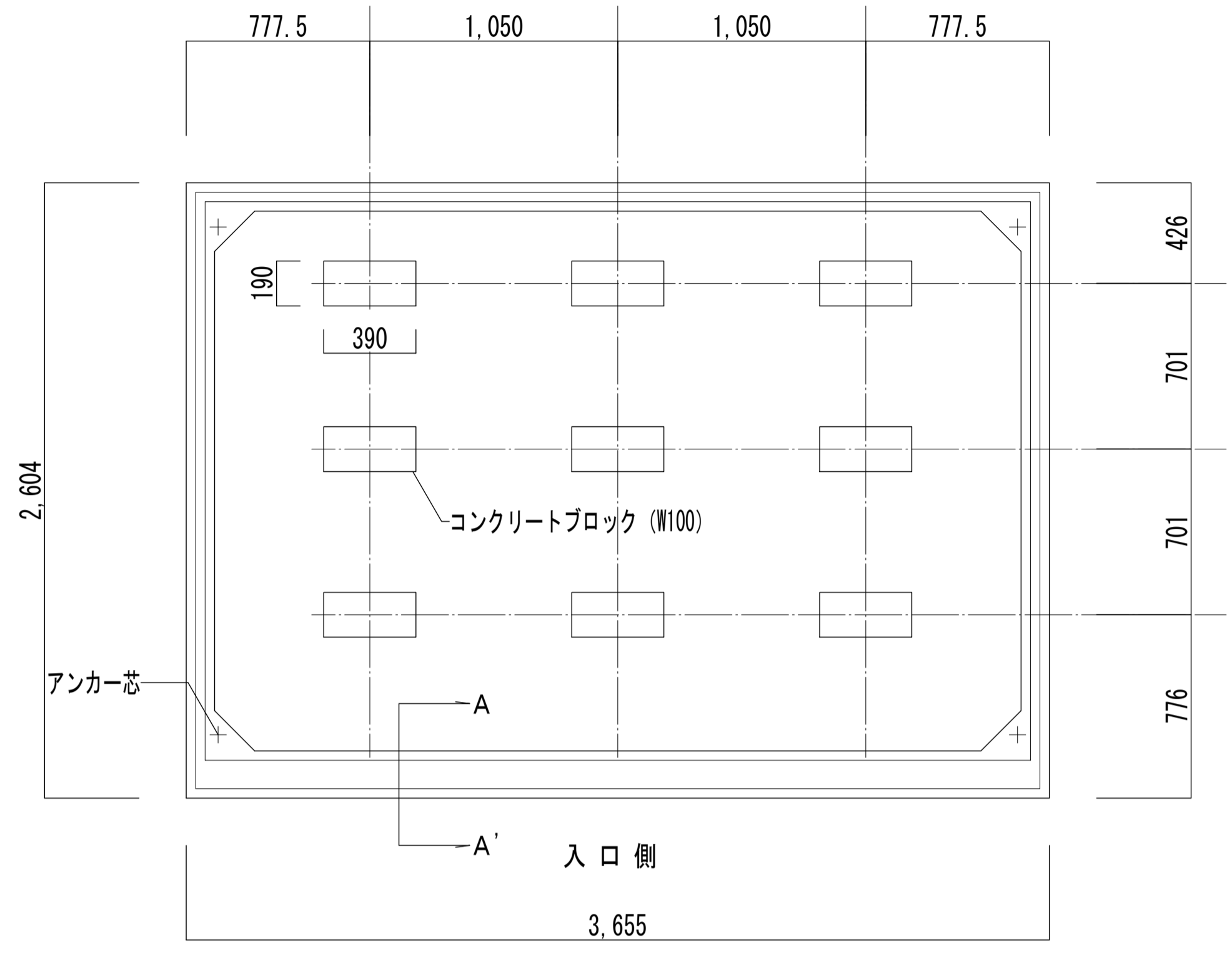
三重県知事登録第1-061 一般建築士 No.352551 田端 進也	設計代表者 一般建築士 No.352551 田端 進也	設計担当者 一般建築士 No.372993 高 賢治	監理者 一般建築士 No.372993 高 賢治
--	--------------------------------	-------------------------------	-----------------------------

田端建築設計 (株) 田端建築設計

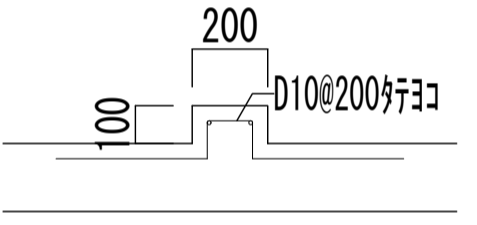
SCALE	工事名称
A 1 : 1/20, 1/30	矢浜津波避難施設建設工事
A 3 : 1/40, 1/60	
DATE	図面名称
R 8 . 0 3	スロープ 配筋図

原図: A1

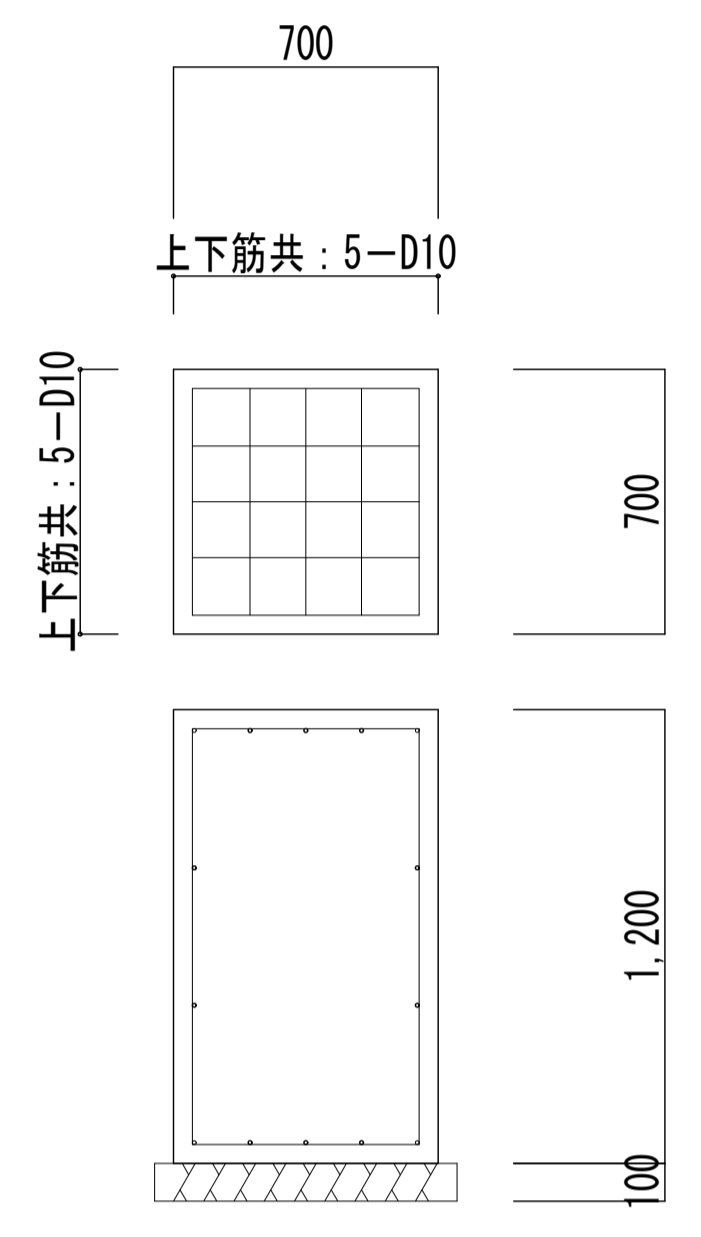
S-17



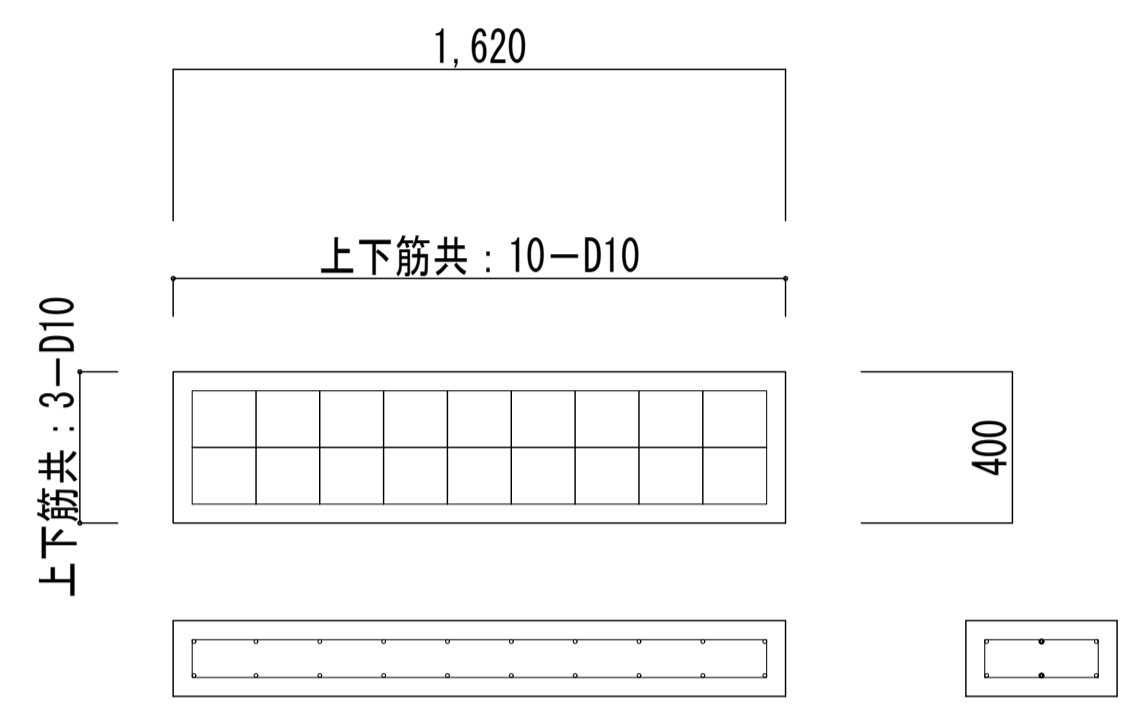
物置基礎 (参考図) S=1/20



A-A' 断面 S=1/20



屋外照明基礎 S=1/20



ソーラーパネル基礎 S=1/20

・	
・	
・	
・	

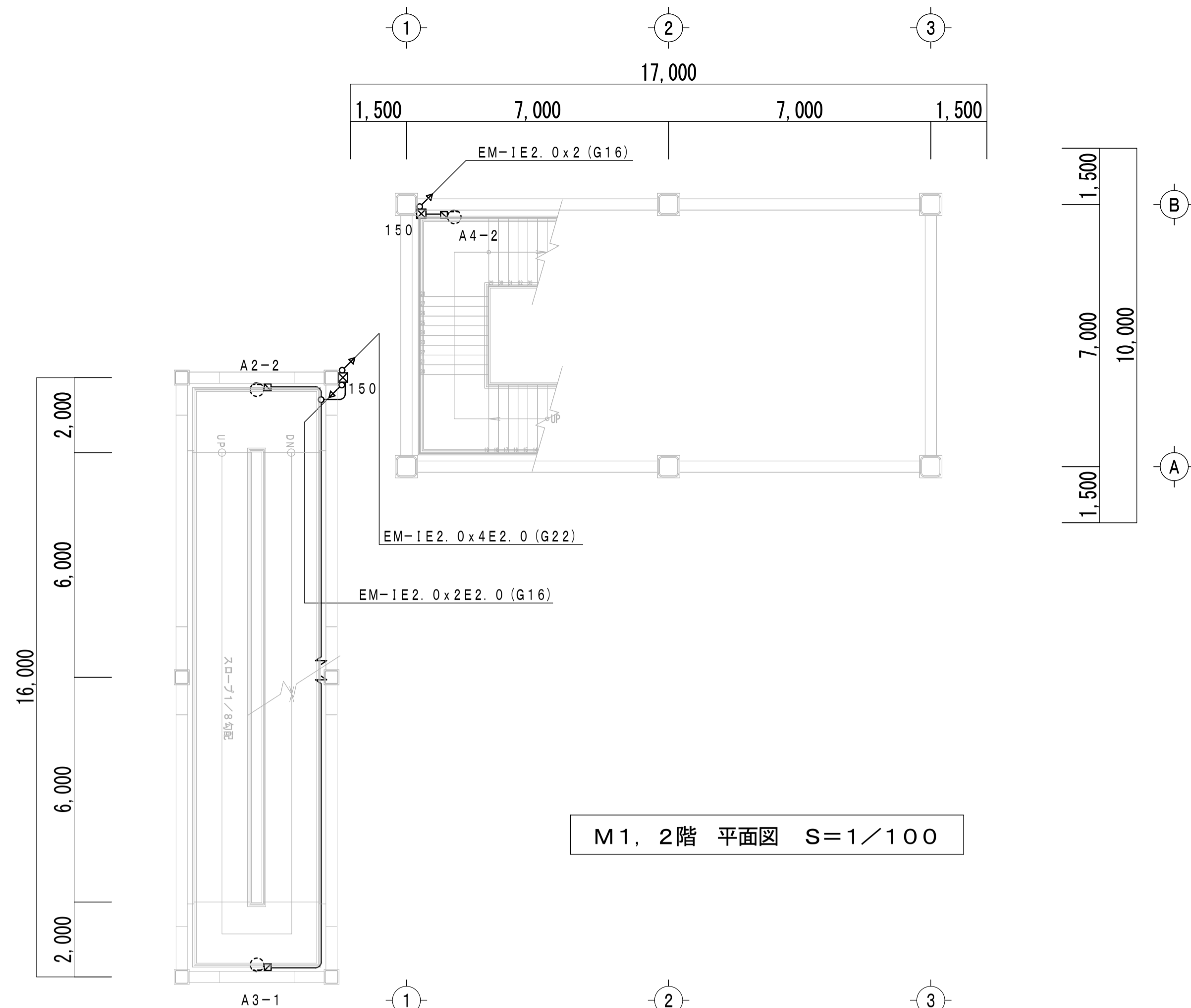
**田端隆建築設計 (株)**  
 三重県知事登録第1-061 一般建築士 No.352551 田端 進也

設計代表者	設計担当者
一般建築士 No.352551 田端進也	一般建築士 No.352557 構造設計一般建築士 No.372993 井上真智

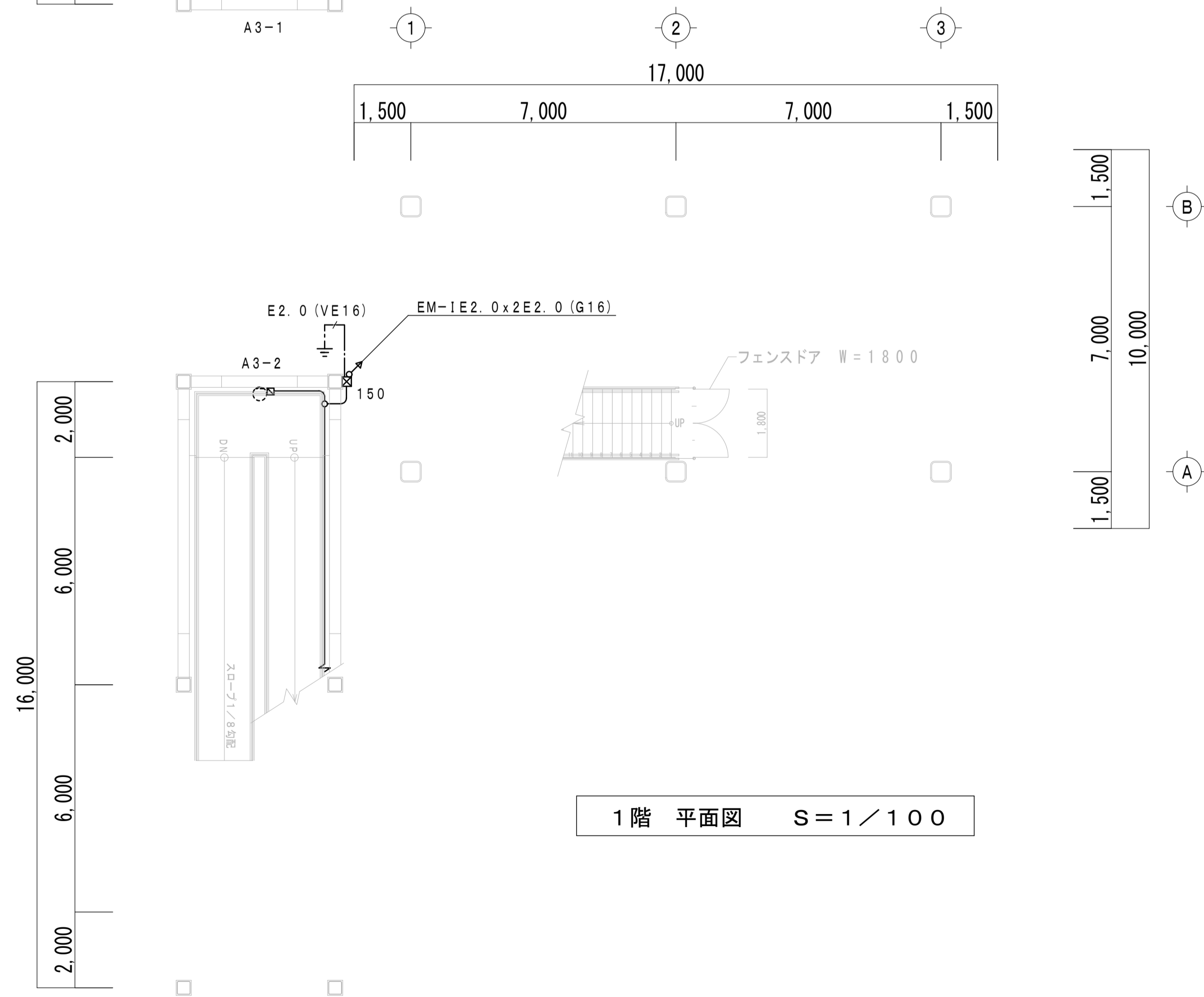
SCALE	
1/20	1/20, 1/30
1/40	1/40, 1/60
DATE	
R 8 . 0 3	

工事名称	矢浜津波避難施設建設工事
図面名称	雑配筋詳細図

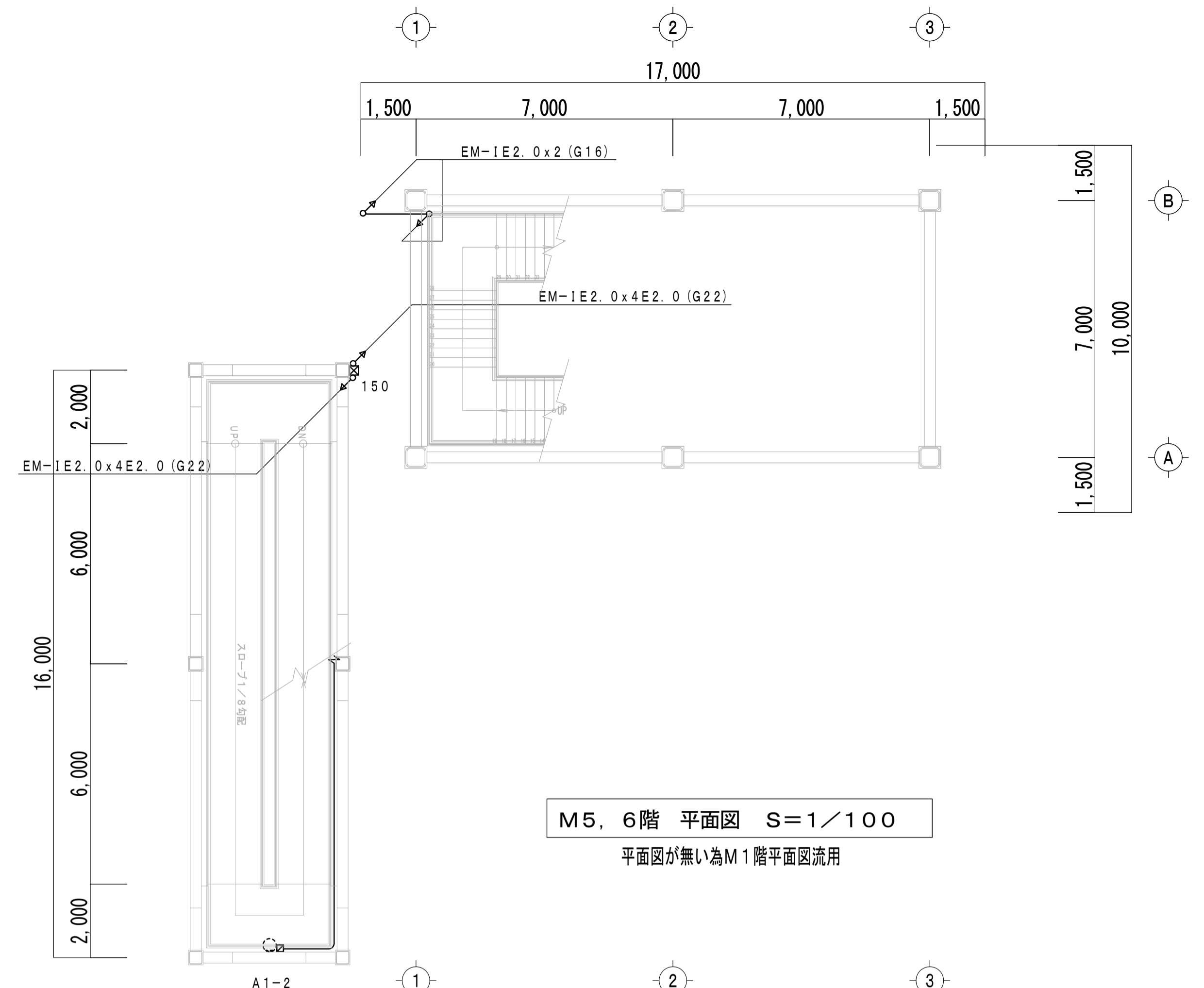




M1, 2階 平面図 S=1/100

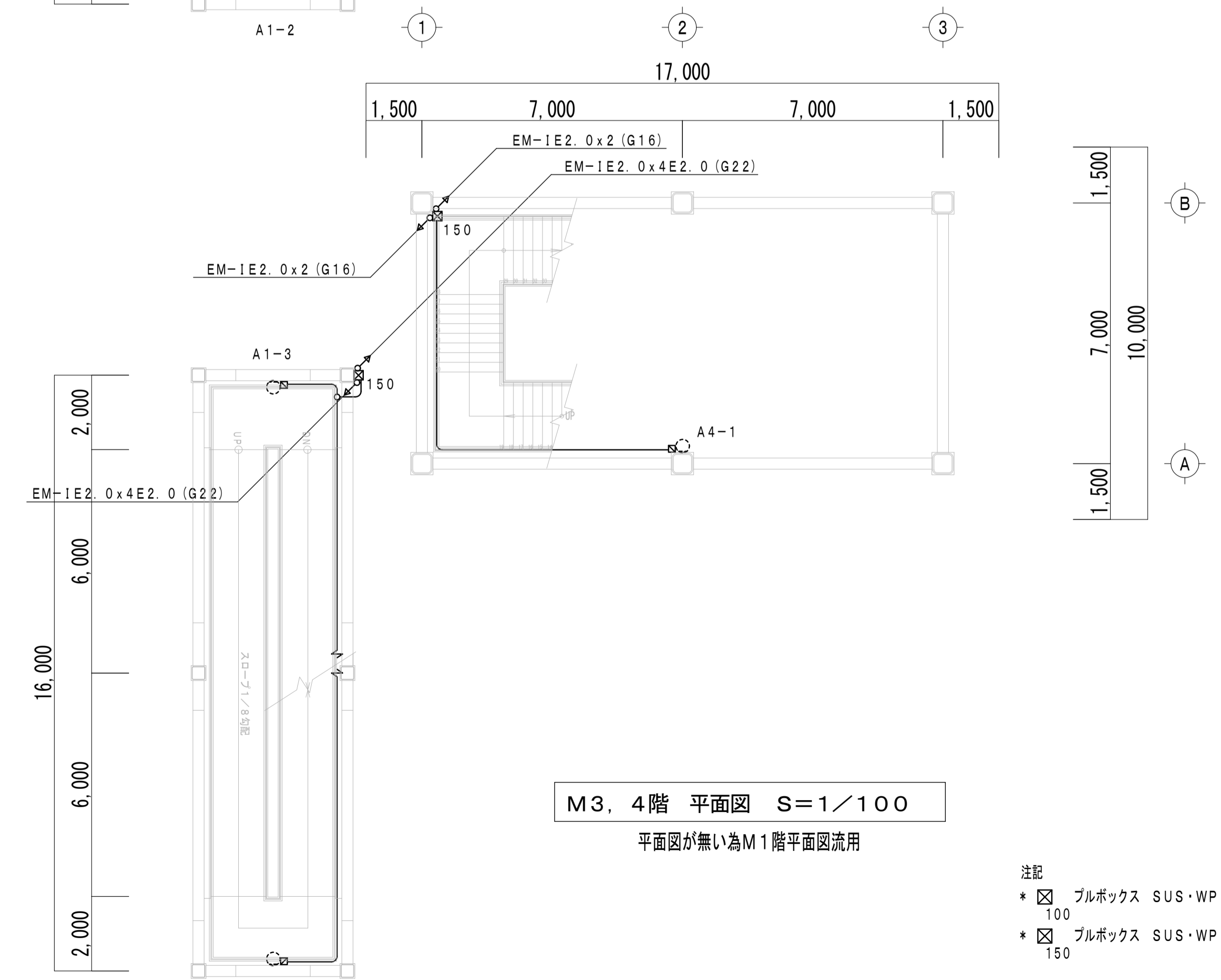


1階 平面図 S=1/100



M5, 6階 平面図 S=1/100

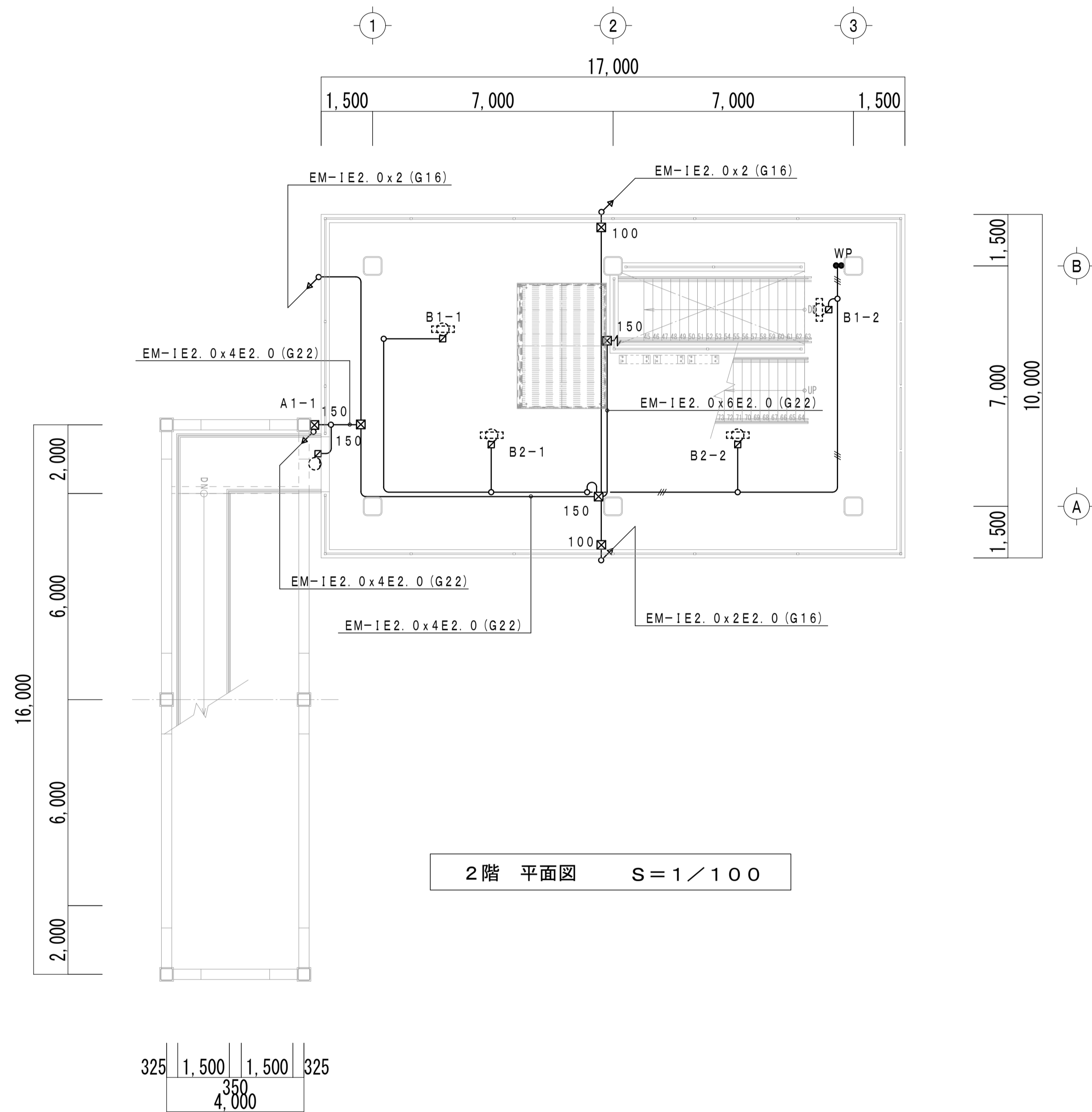
平面図が無い為M1階平面図流用



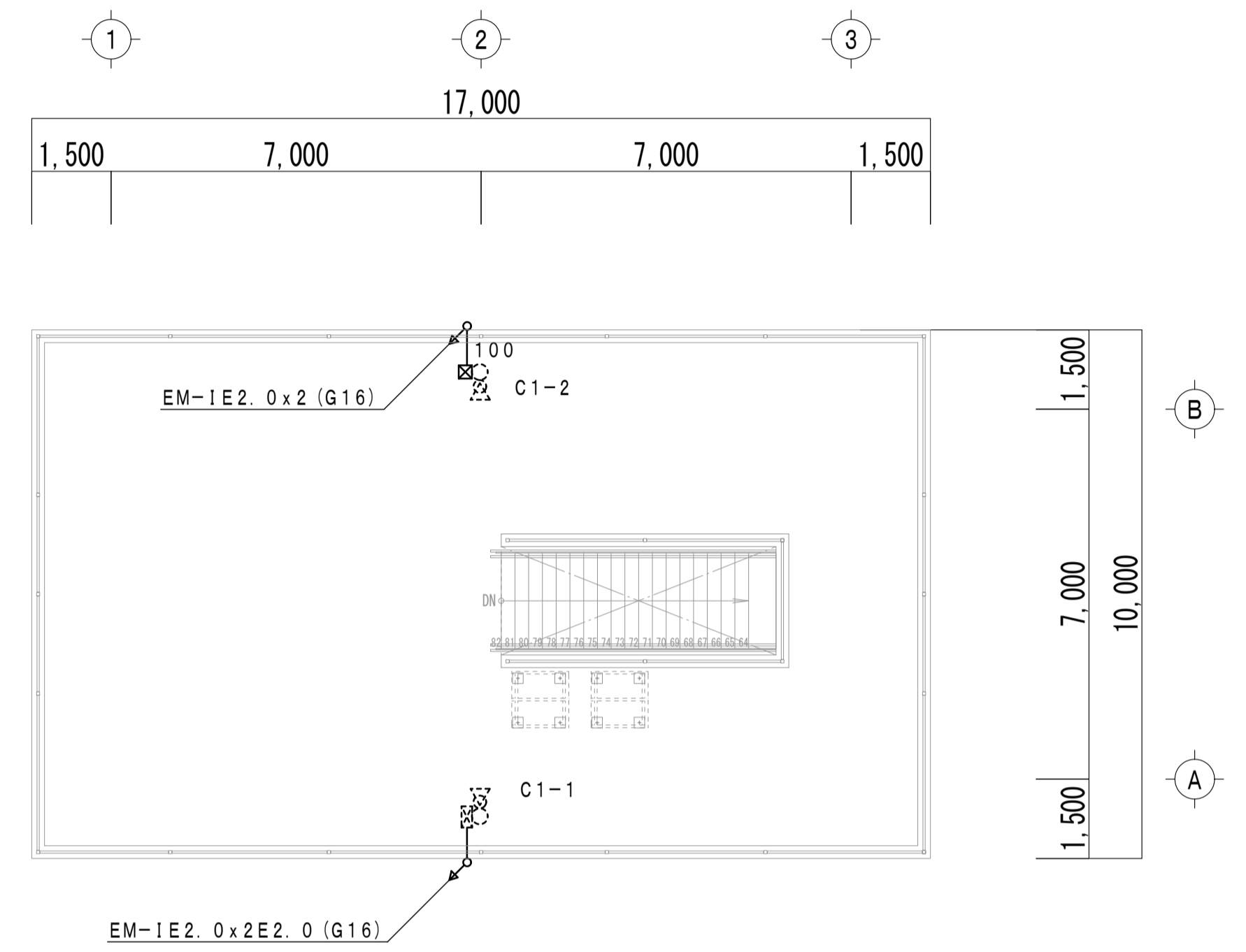
M3, 4階 平面図 S=1/100

平面図が無い為M1階平面図流用

- 注記
- \*  ブルボックス SUS・WP 100x100x100
  - \*  ブルボックス SUS・WP 150x150x100



2階 平面図 S = 1 / 100



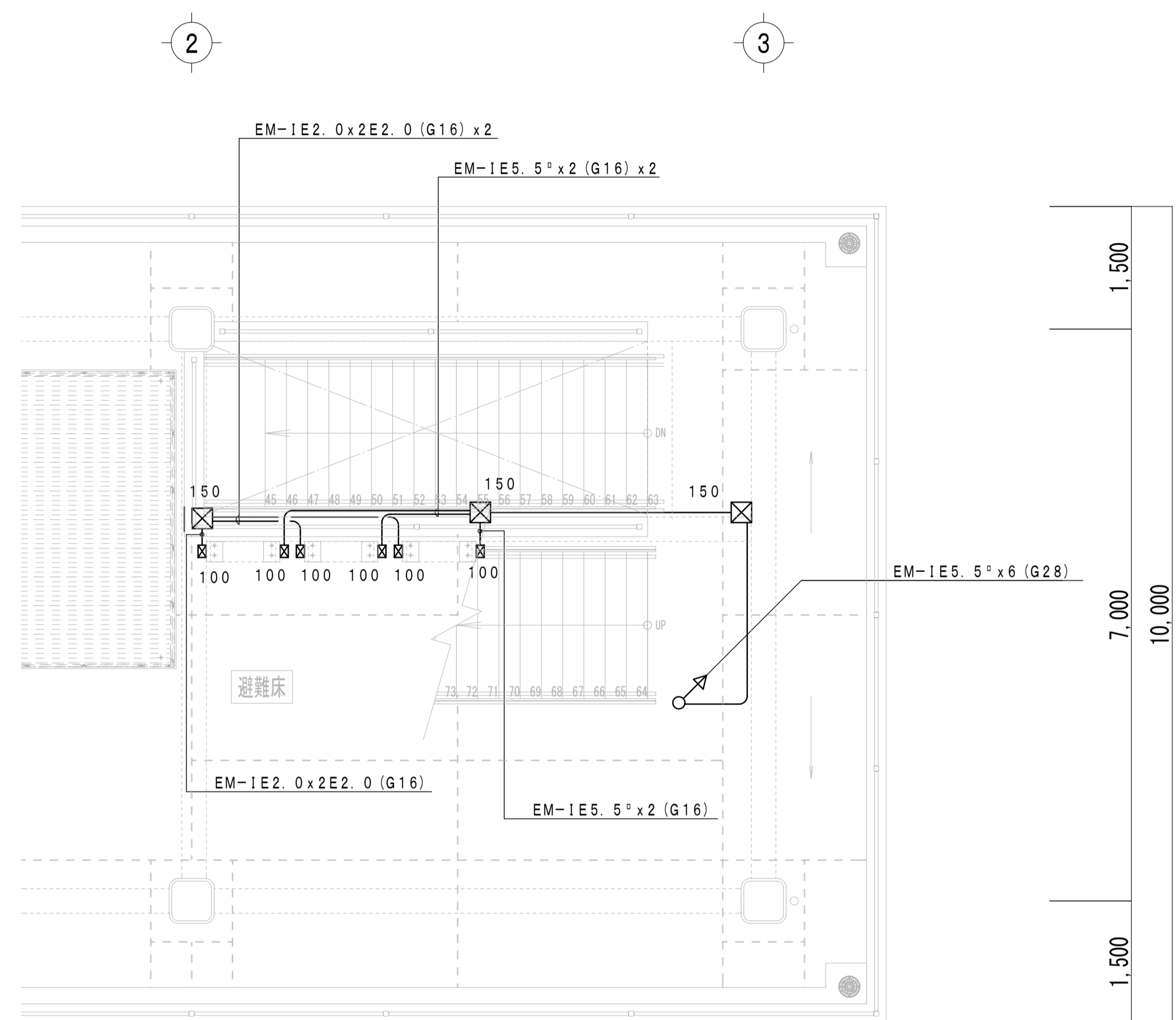
R階 平面図 S = 1 / 100

特記なき配線は下記による

—	EM-1E2.0x2 (G16)
///	EM-1E2.0x3 (G16)

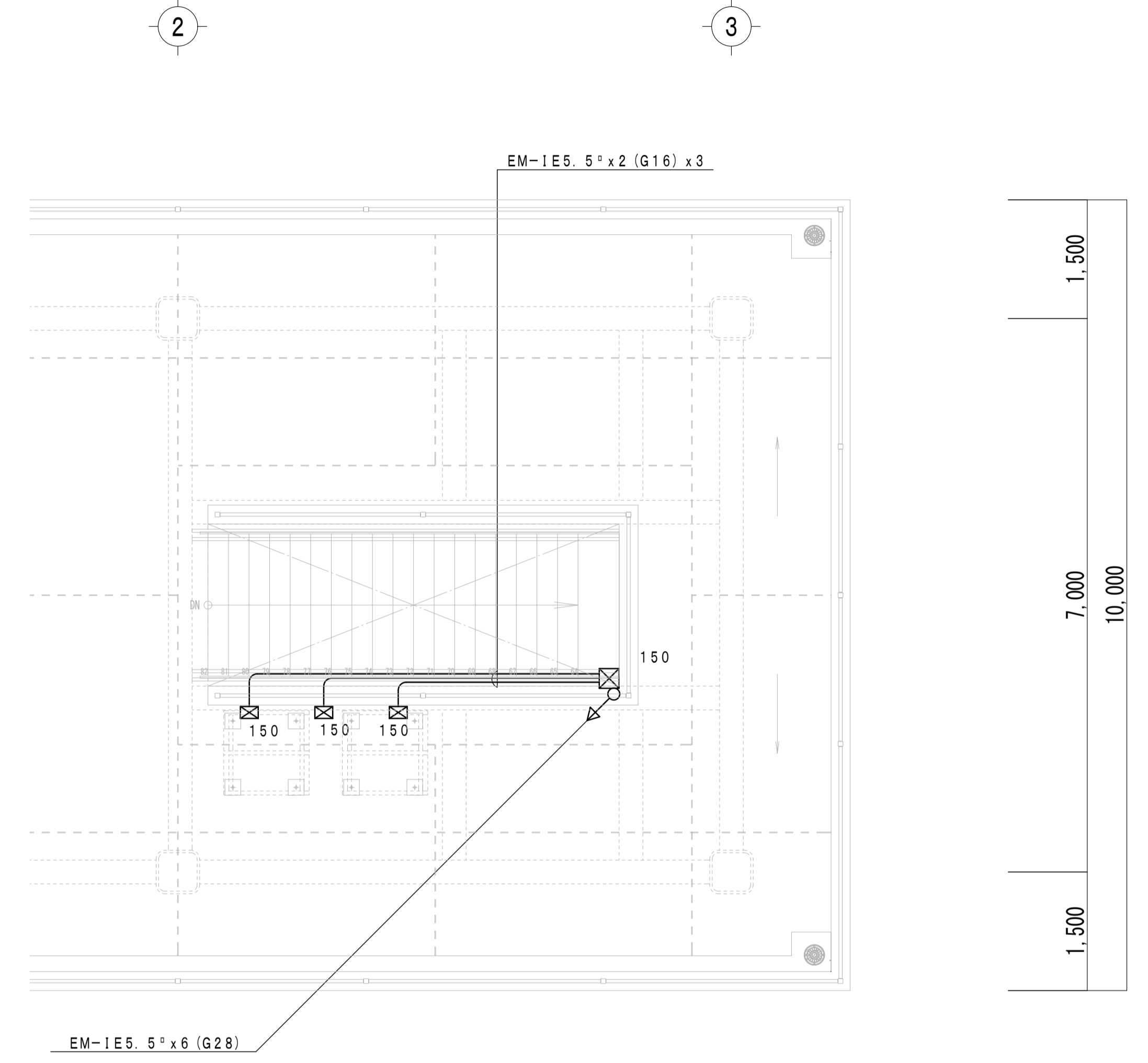
注記

- \* ブルボックス SUS・WP 100x100x100
- \* ブルボックス SUS・WP 150x150x100
- \* スイッチ1P15A x2 防雨プレート



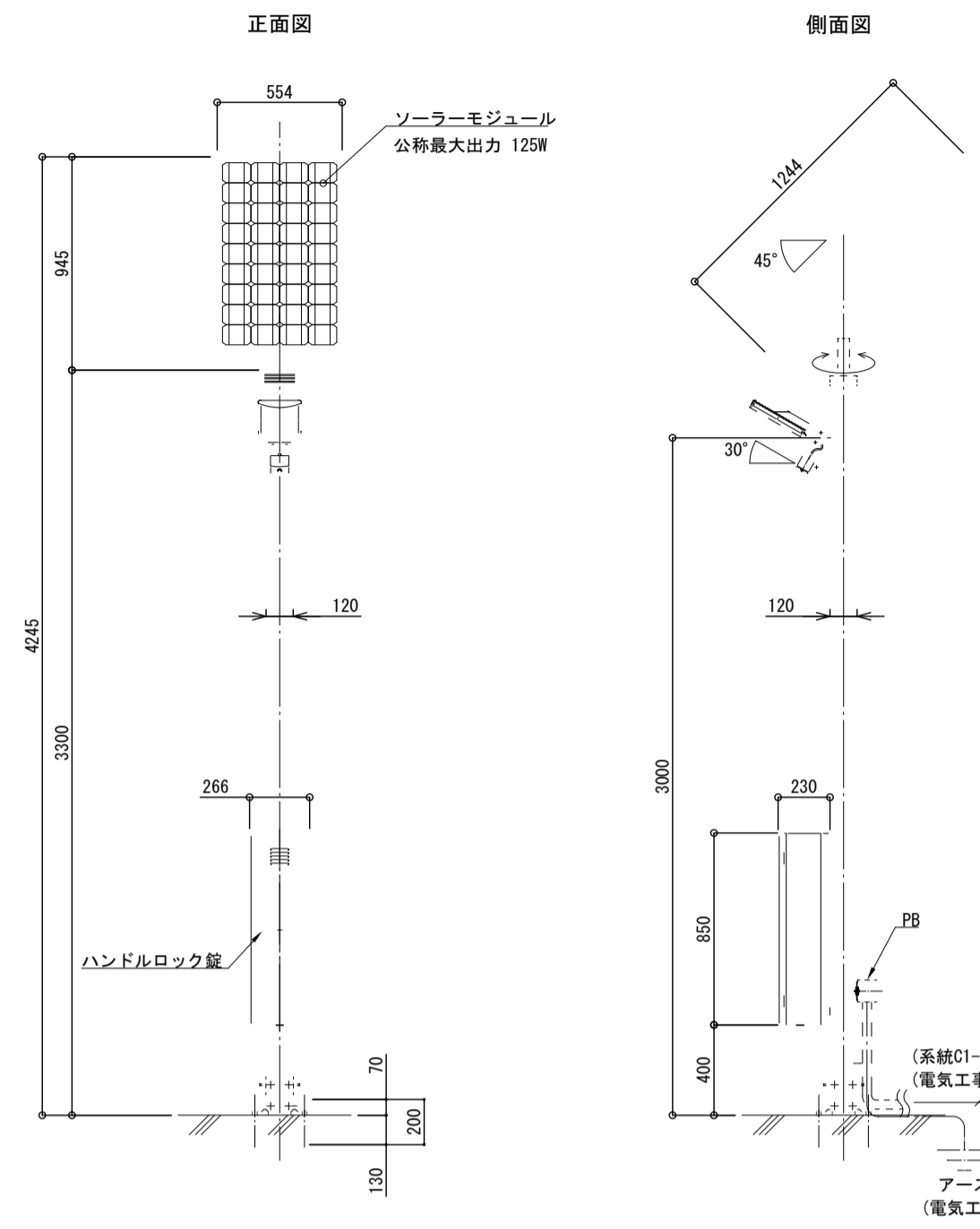
2階 平面詳細図 S=1/50

- 注記
- \* ☒<sub>100</sub> ブルボックス SUS・WP 100x100x100
  - \* ☒<sub>150</sub> ブルボックス SUS・WP 150x150x100

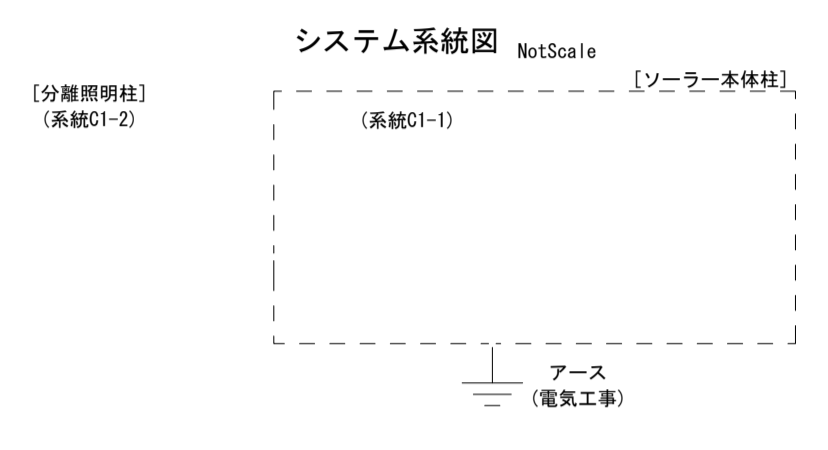
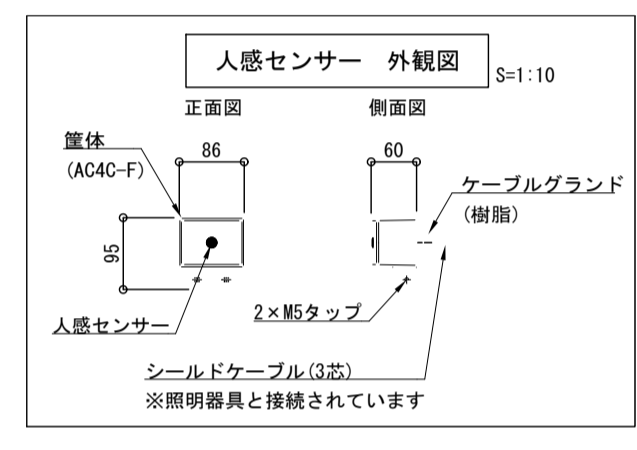
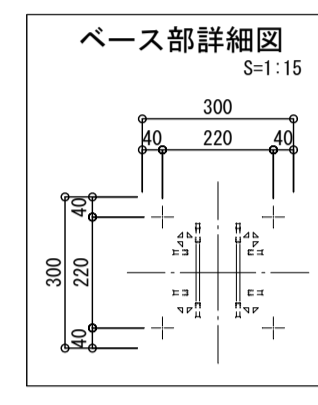
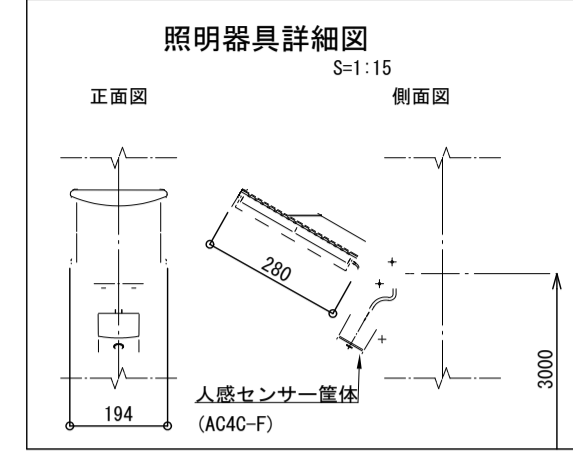
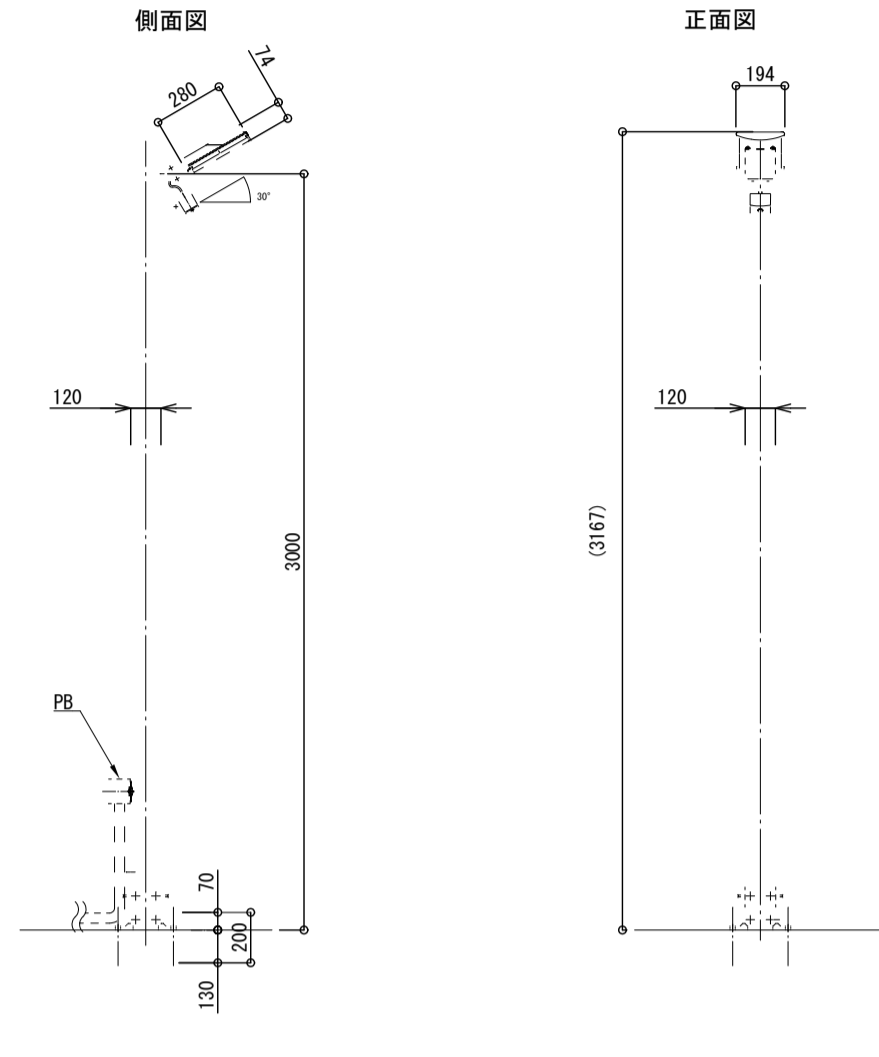


R階 平面詳細図 S=1/50

ソーラー本体柱  
S=1:30

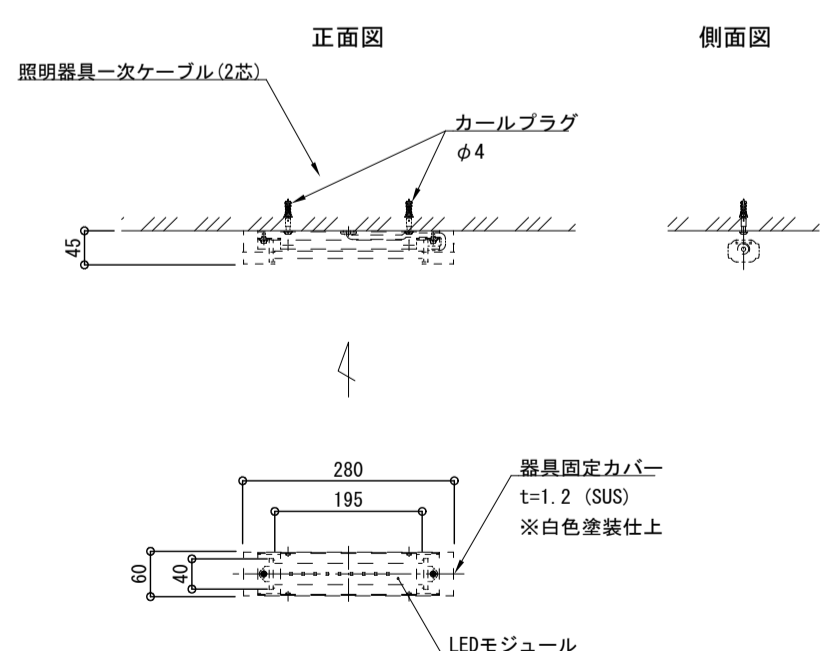


分離照明柱×1  
S=1:30



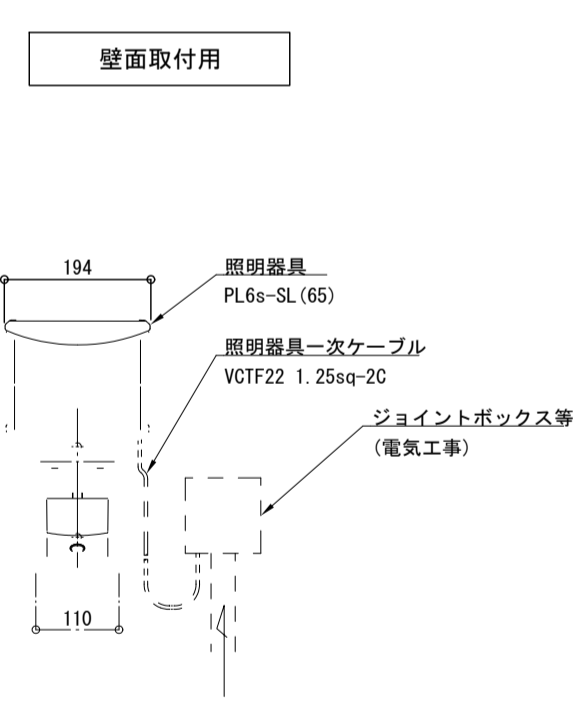
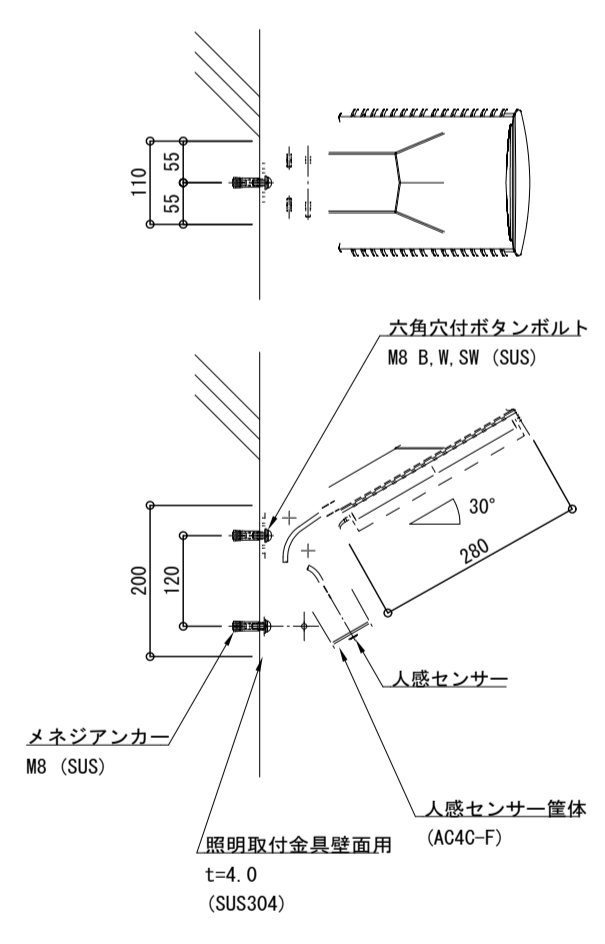
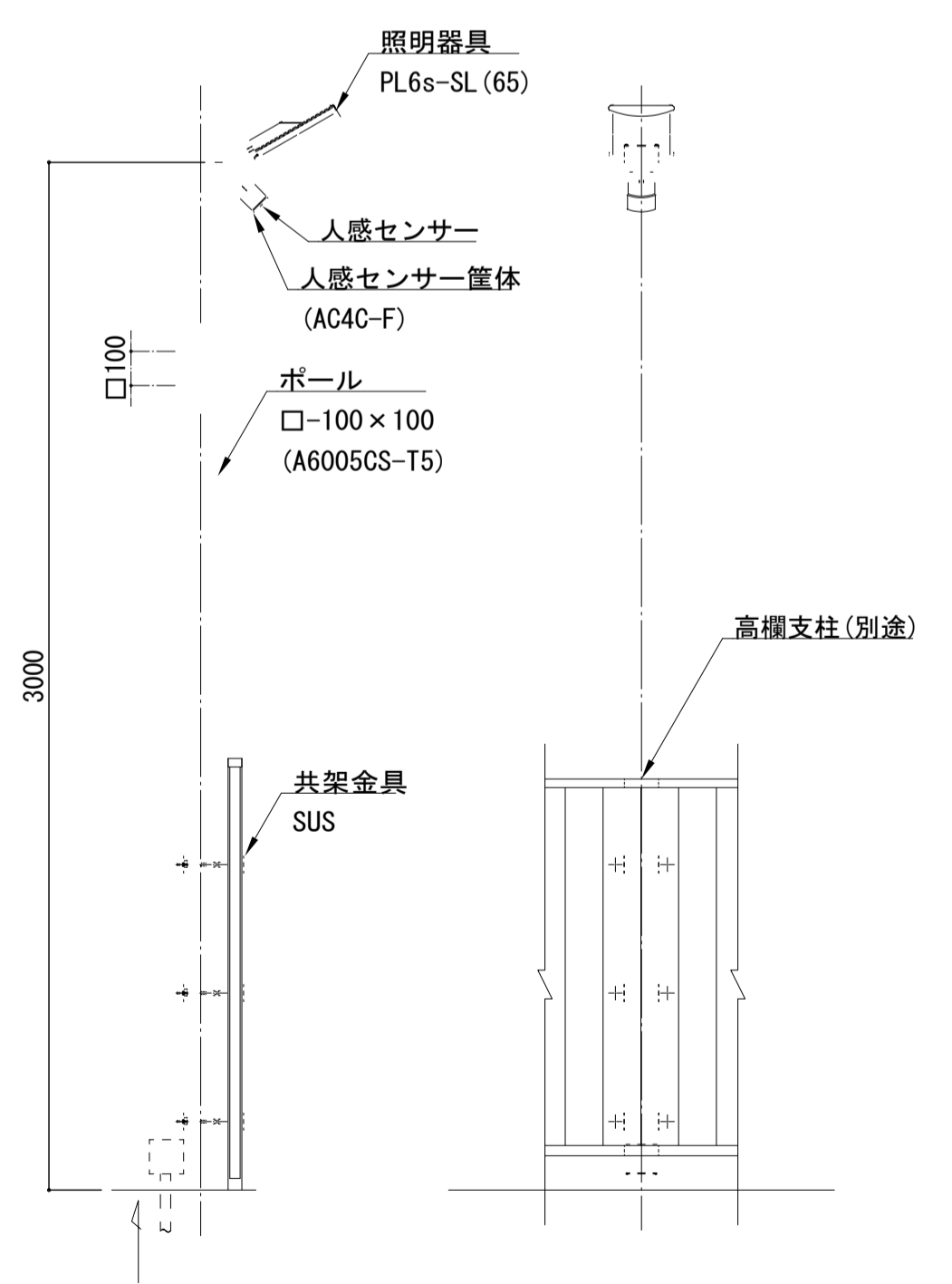
※無日照保証期間の設置条件  
ソーラーモジュールが南(東南・西南)向きで周りに高い建物の無い場所。  
※本製品は日光射角機能(LL・SPモード)非対応となります。  
※支柱、ソーラー取付台及び照明器具、センサー筐体はマットブラウン色塗装仕上。  
※ポールはブラウン色アルマイト仕上。  
※アンカーボルトは溶融亜鉛メッキ仕上。  
※取付ボルト類の材質はSUSとする。  
※LEDの筐体差により同一型式の照明器具でも明るさ、発光色が異なる場合があります。  
※配線管工事及びアース接地工事は別途となります。  
※製品は、メーカーの指定する損害賠償責任保険に加入しているものとする。  
※改良の為、仕様変更する場合があります。

室内照明(LF2B-B)取付参考図  
S=1:10

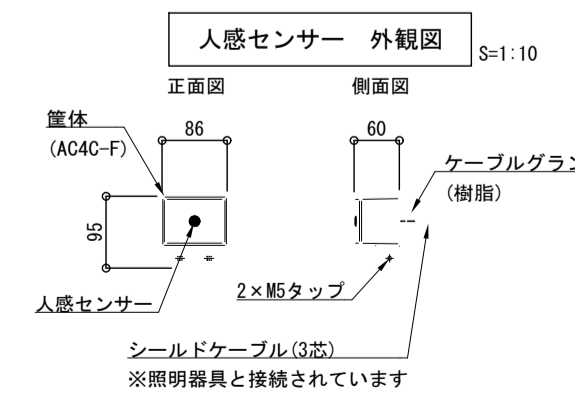
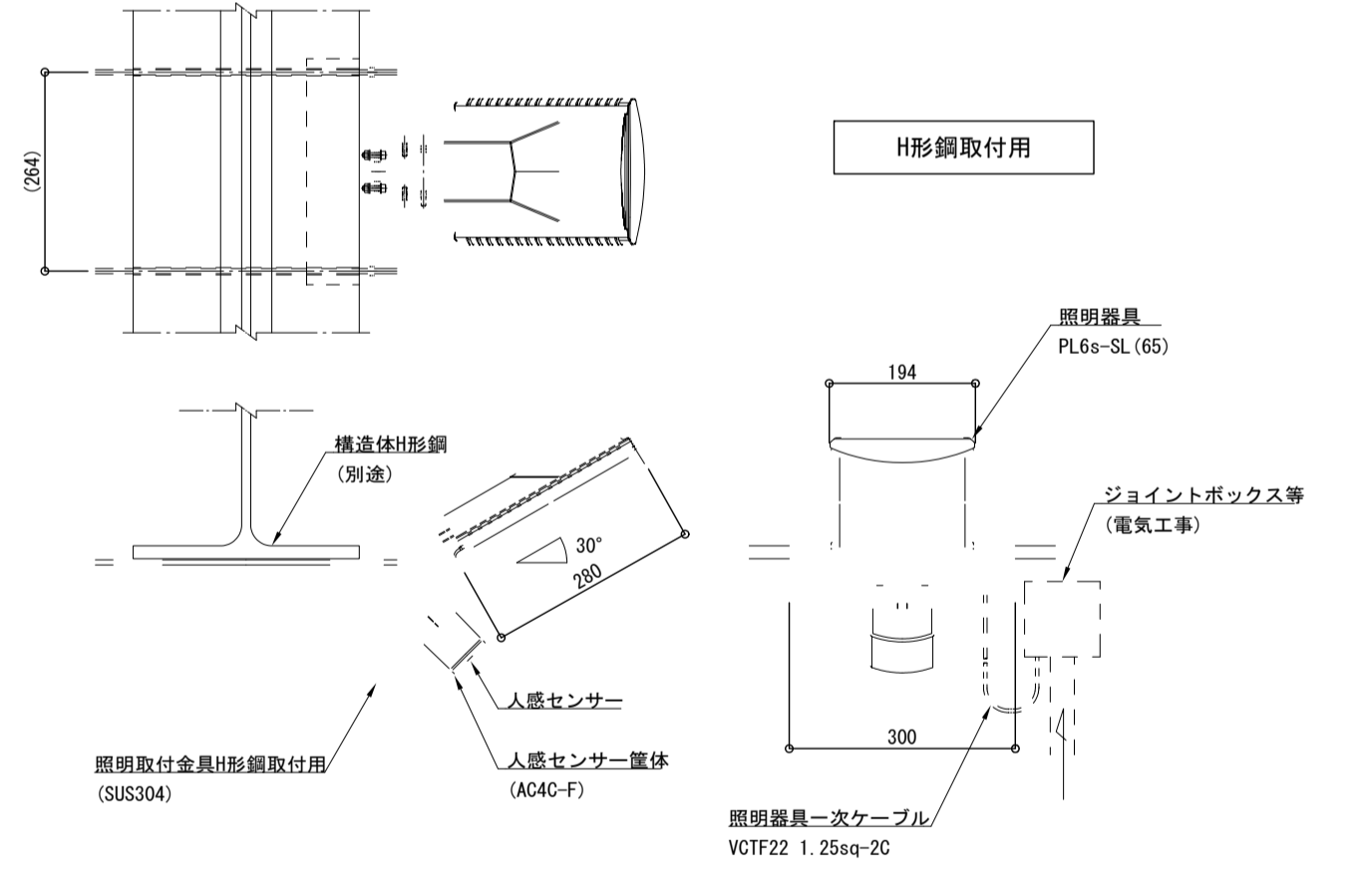


※取付ボルト類の材質はSUSとする。  
※配線管工事及びアース接地工事は別途工事となります。  
※LEDの筐体差により同一型式の照明器具でも明るさ、発光色が異なる場合があります。  
※製品は、メーカーの指定する損害賠償責任保険に加入しているものとする。  
※改良の為、仕様変更する場合があります。

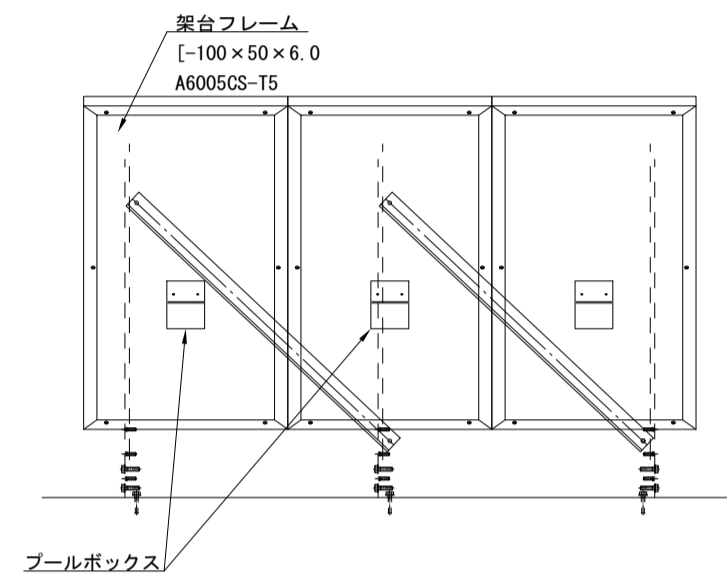
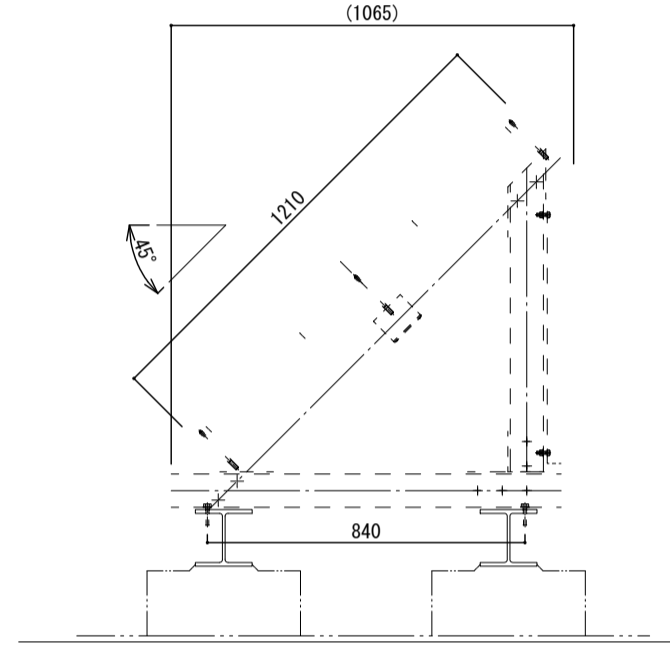
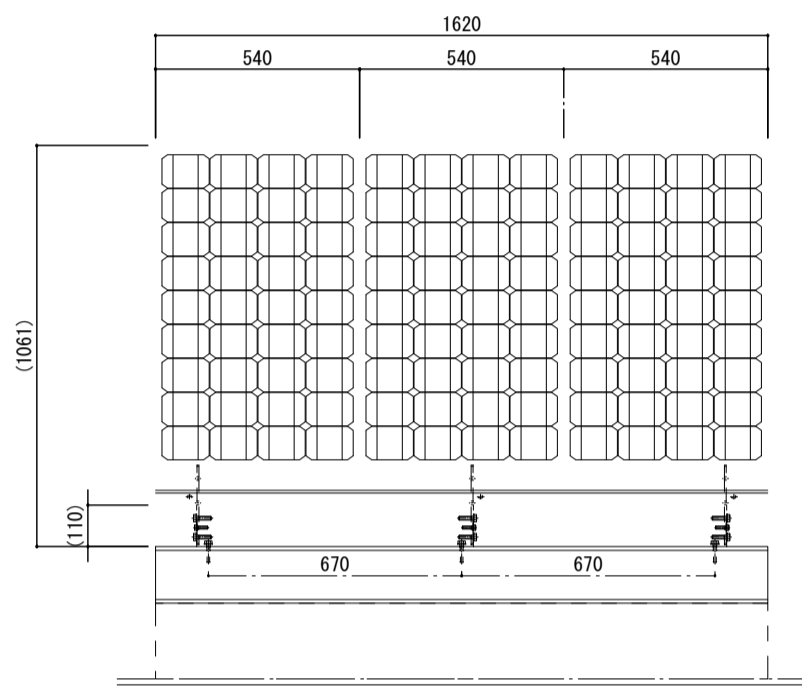
高欄共架  
S=1:30



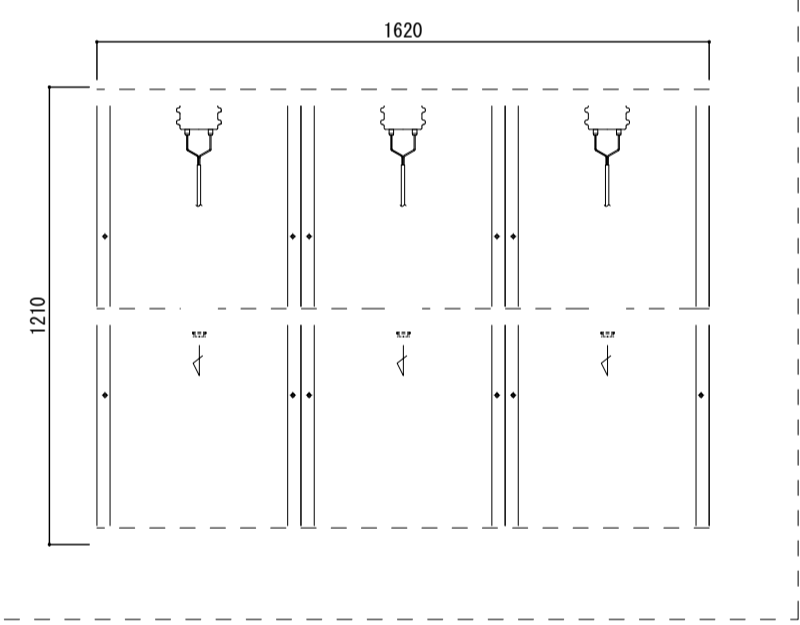
屋外照明(PL6s-SL(65))取付参考図  
S=1:10



ソーラーパネル(125W×3) 架台 数量: 1基  
S=1:10



パネル背面概要図

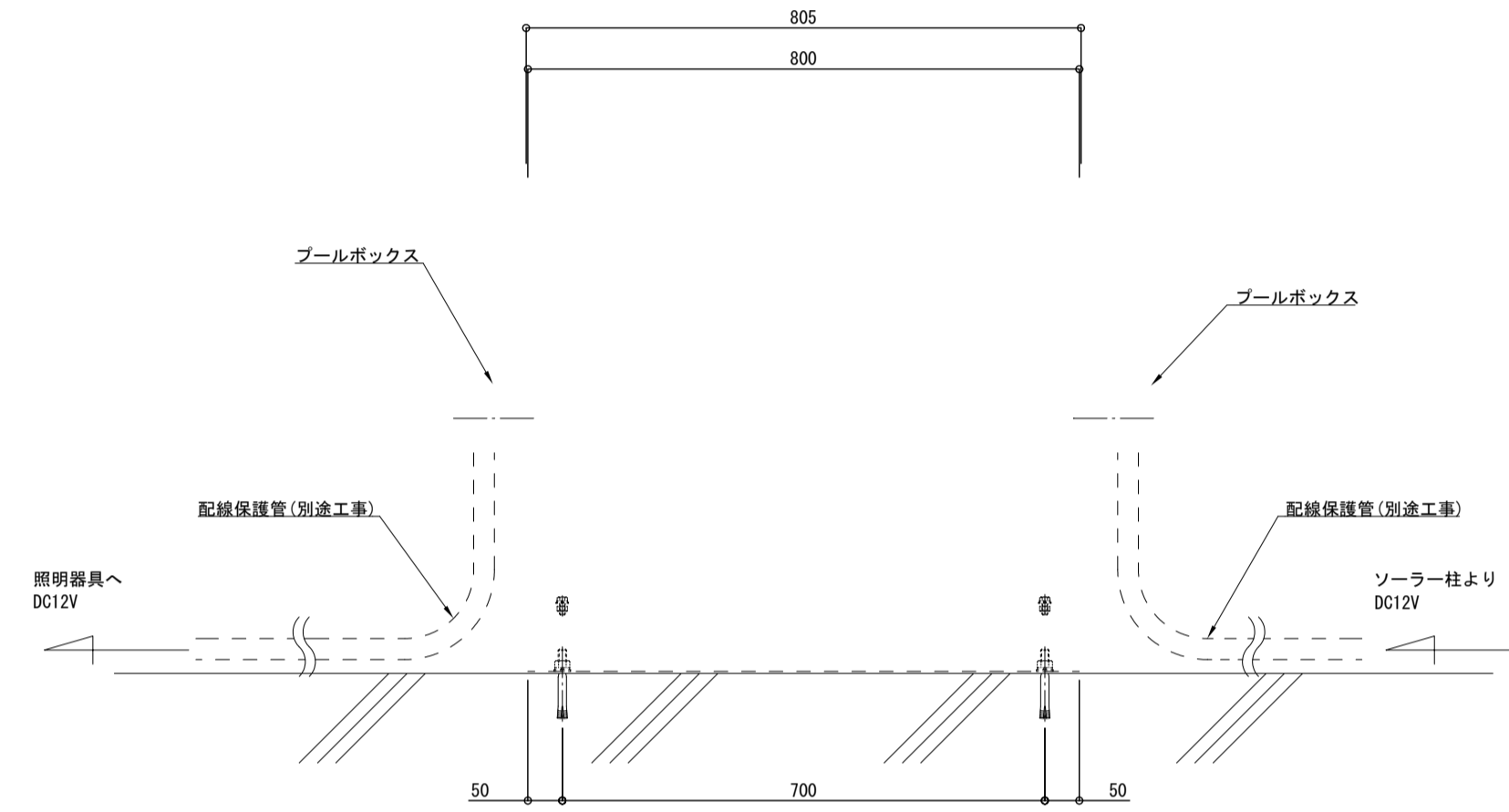


※製品の設置条件  
ソーラーモジュールが南(東南・西南)向きで周りに高い建物の無い場所。  
※配線工事は別途となります。  
※製品は、メーカーの指定する損害賠償責任保険に加入しているものとする。  
※改良の為、仕様変更する場合があります。

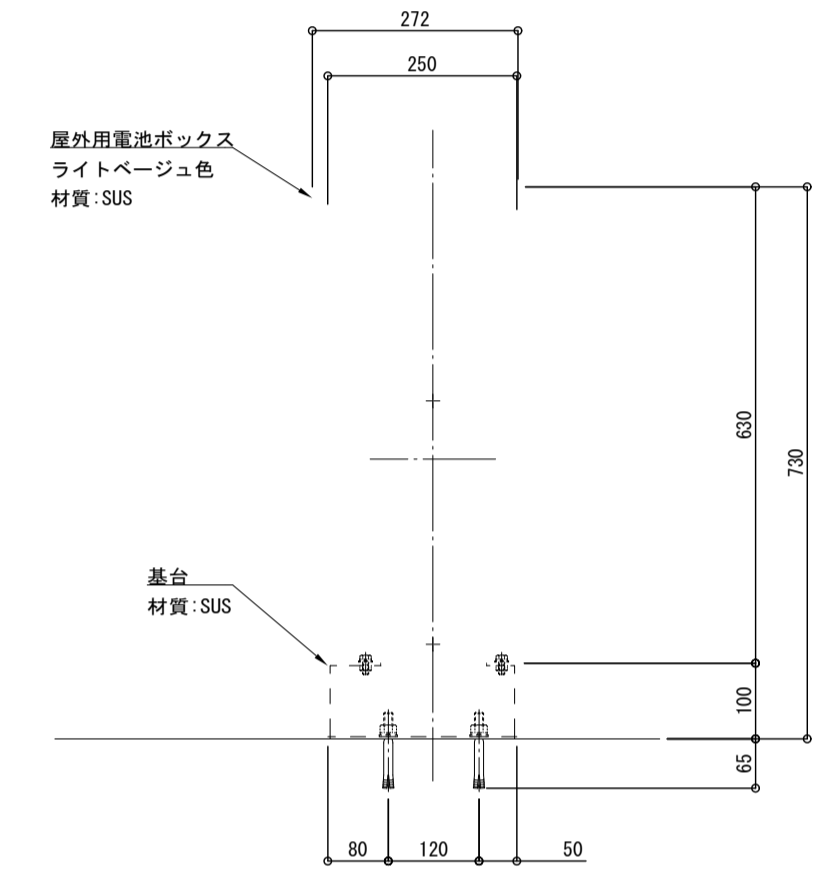
電池ボックスL  
S=1:10

基数 電池ボックスL-1…2基  
電池ボックスL-2…1基

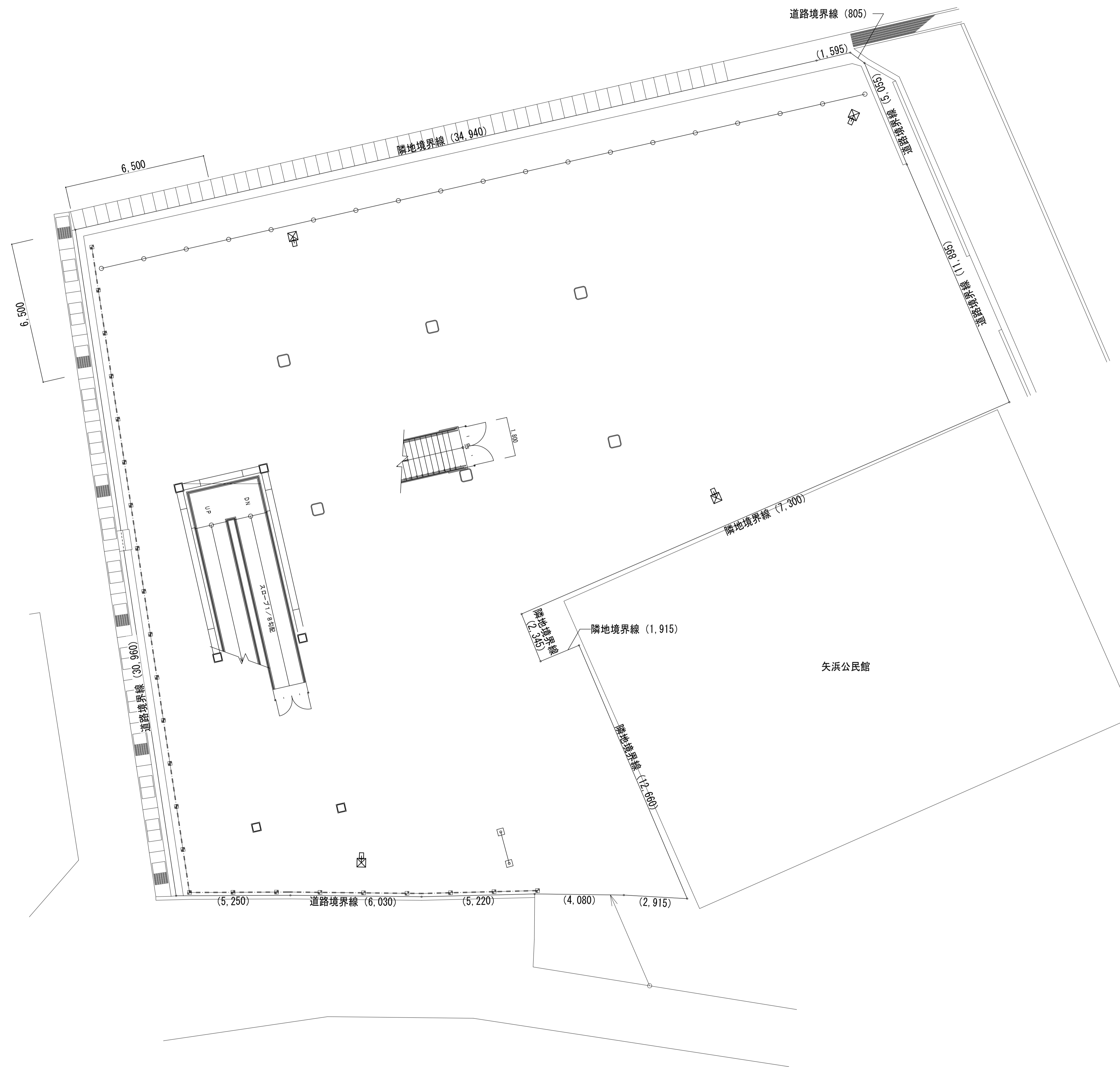
正面図



側面図



※配線管工事及びアース接地工事は別途工事となります。  
※製品は、メーカーの指定する損害賠償責任保険に加入しているものとする。  
※改良の為、仕様変更する場合があります。

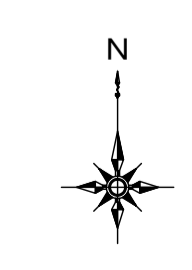


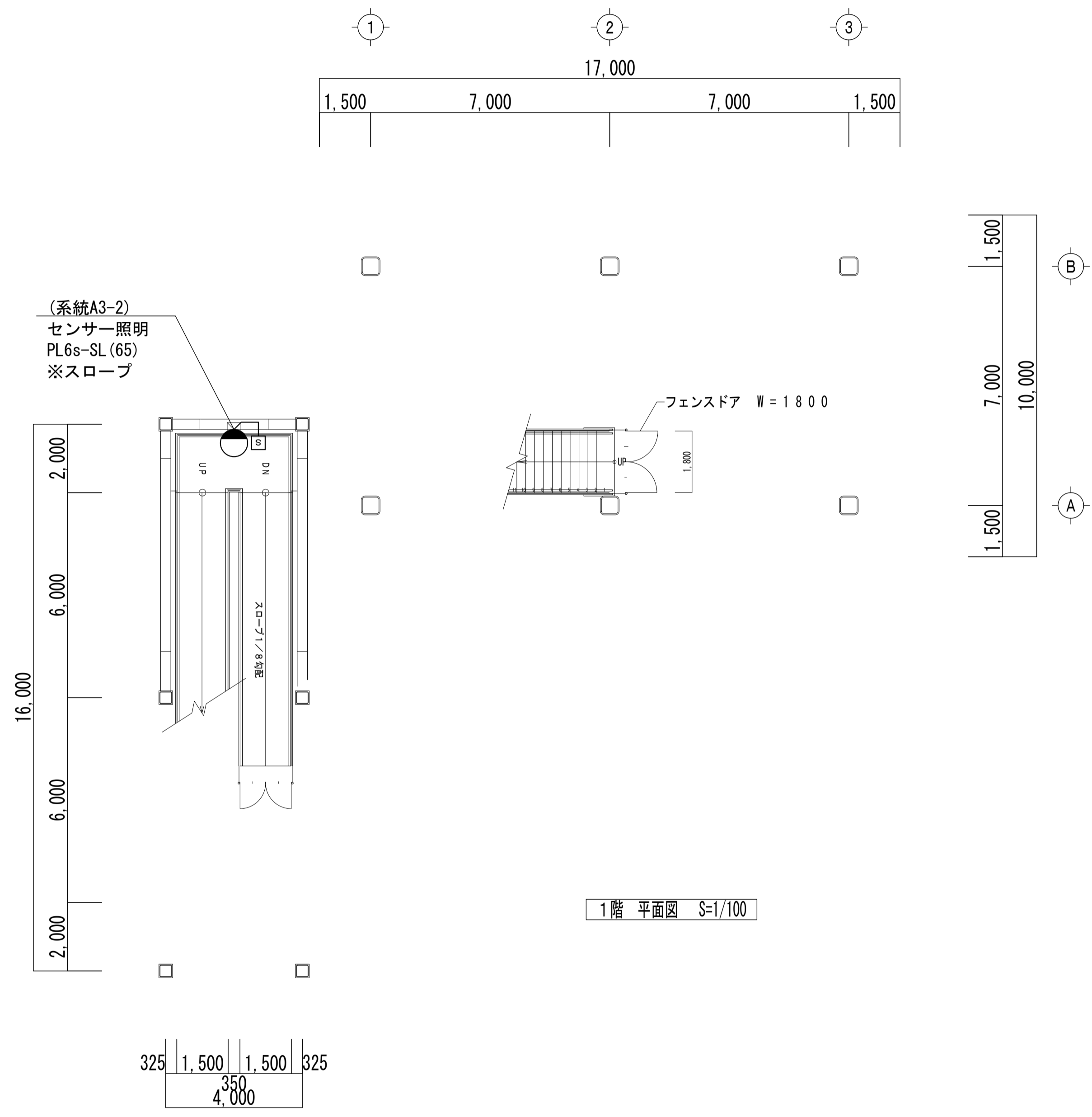
○凡例

記号	☒
製品種類	ソーラー照明灯
照明器具型式	PL6s
光源(1基あたり)	白色パワーLED 6球
灯高	3 m
取付角度	30 度
設置数	3 基

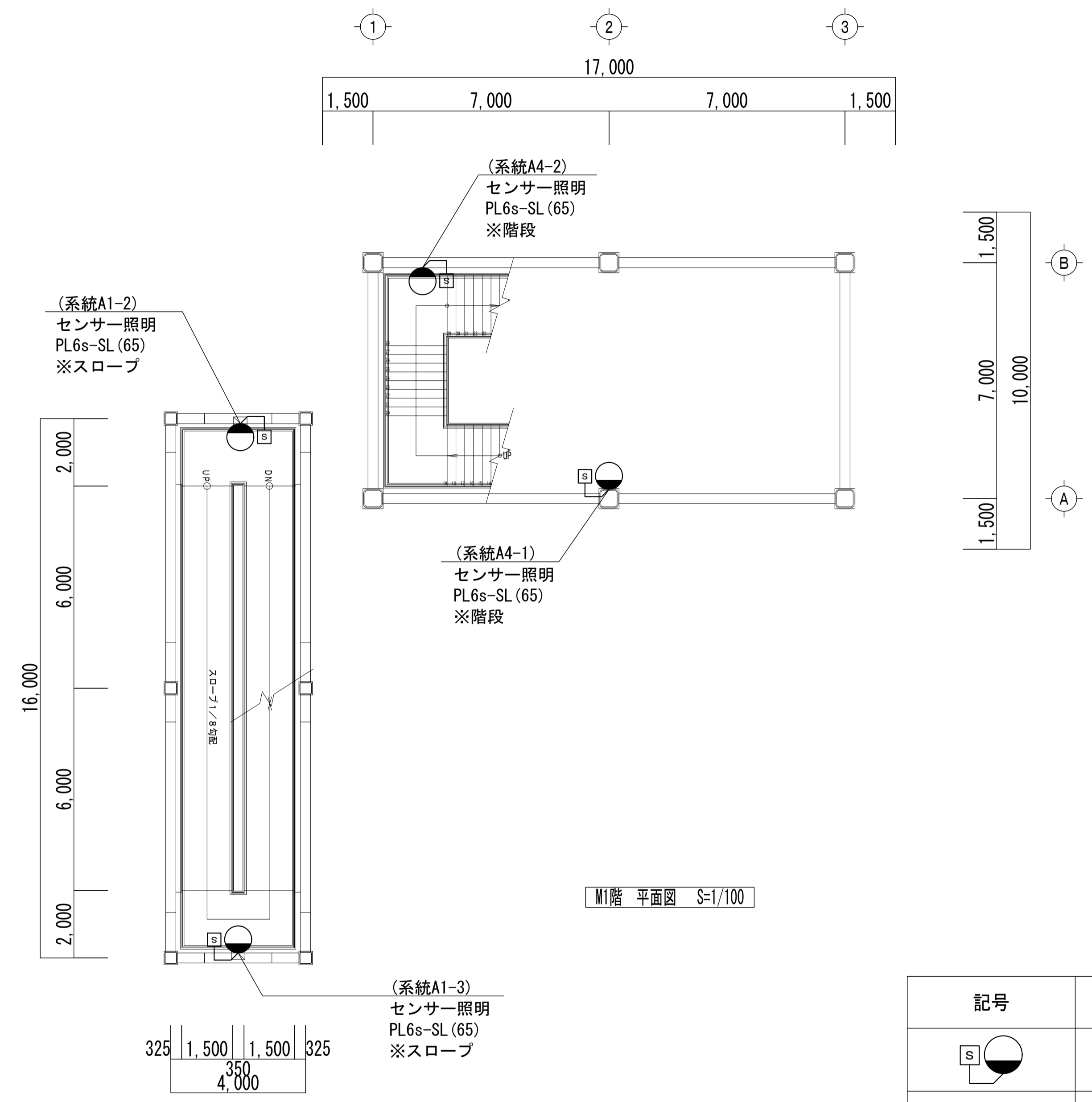
注記: 曲線上の数値は水平面照度(初期照度: 単位 lx)を示します。  
現場状況により、実際の照度と異なる場合があります。

配置図 S=1/100





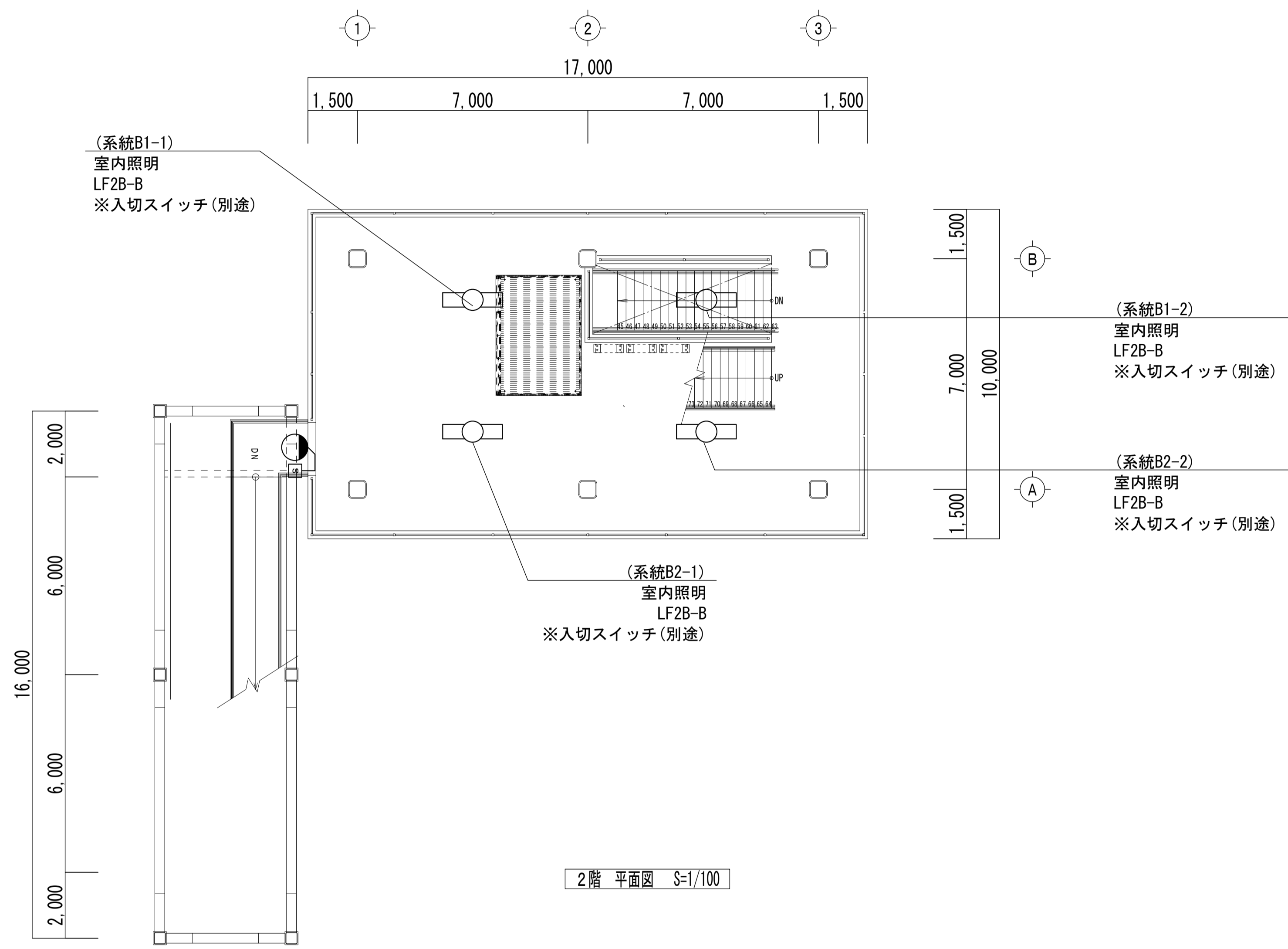
1階 平面図 S=1/100



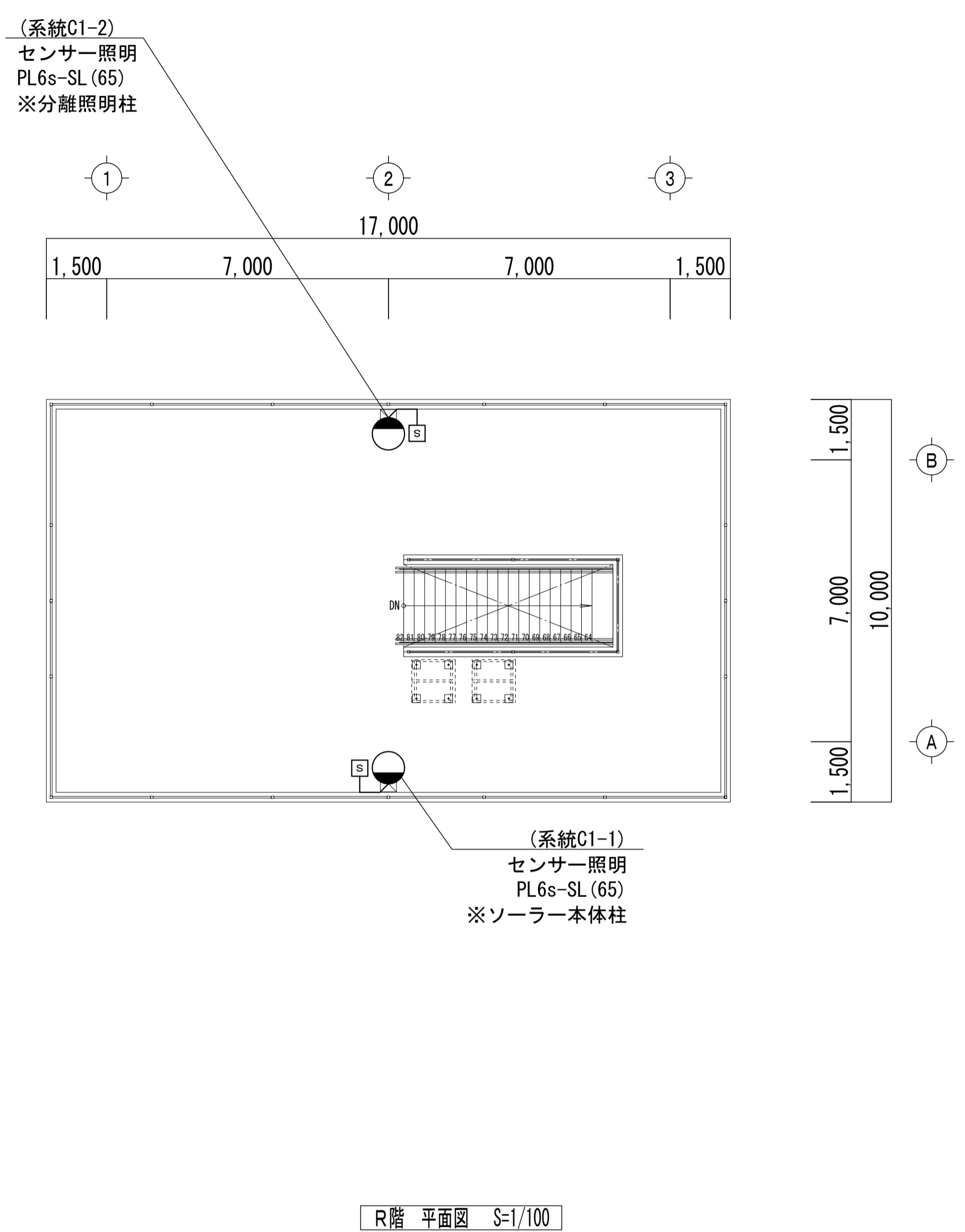
M1階 平面図 S=1/100

記号	記号
	人感センサー付照明
	室内照明

注記: 曲線上の数値は水平面照度  
 (初期照度: 単位 lx) を示します。  
 現場状況により、実際の照度と異なる場合があります。  
 LEDの個体差により同一型式の照明器具でも  
 明るさ、発光色が異なる場合があります。



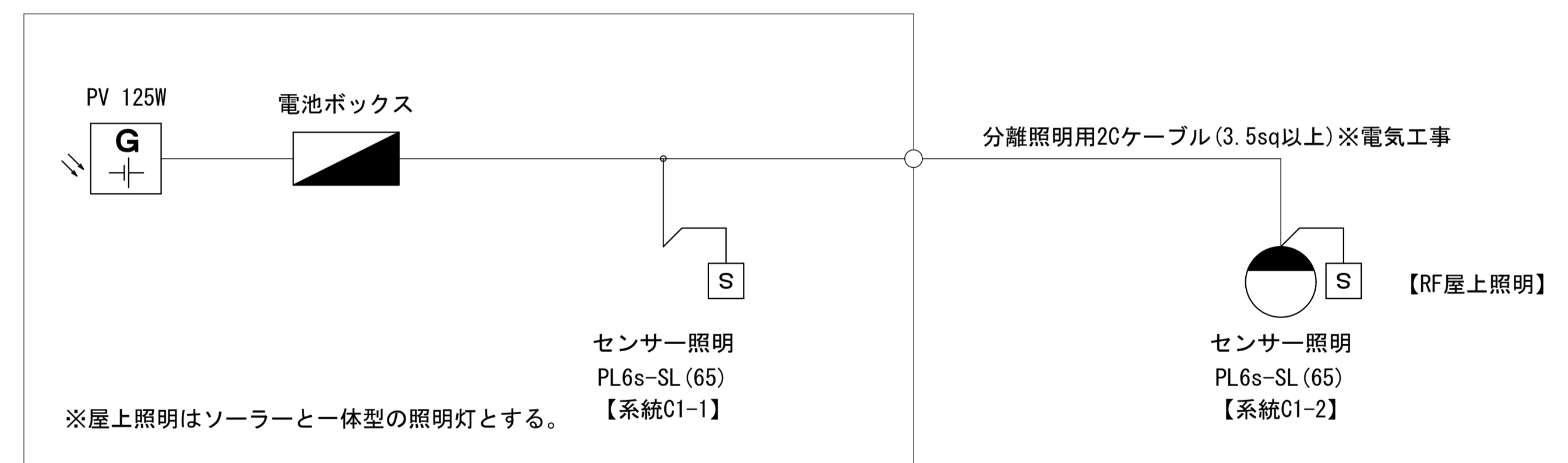
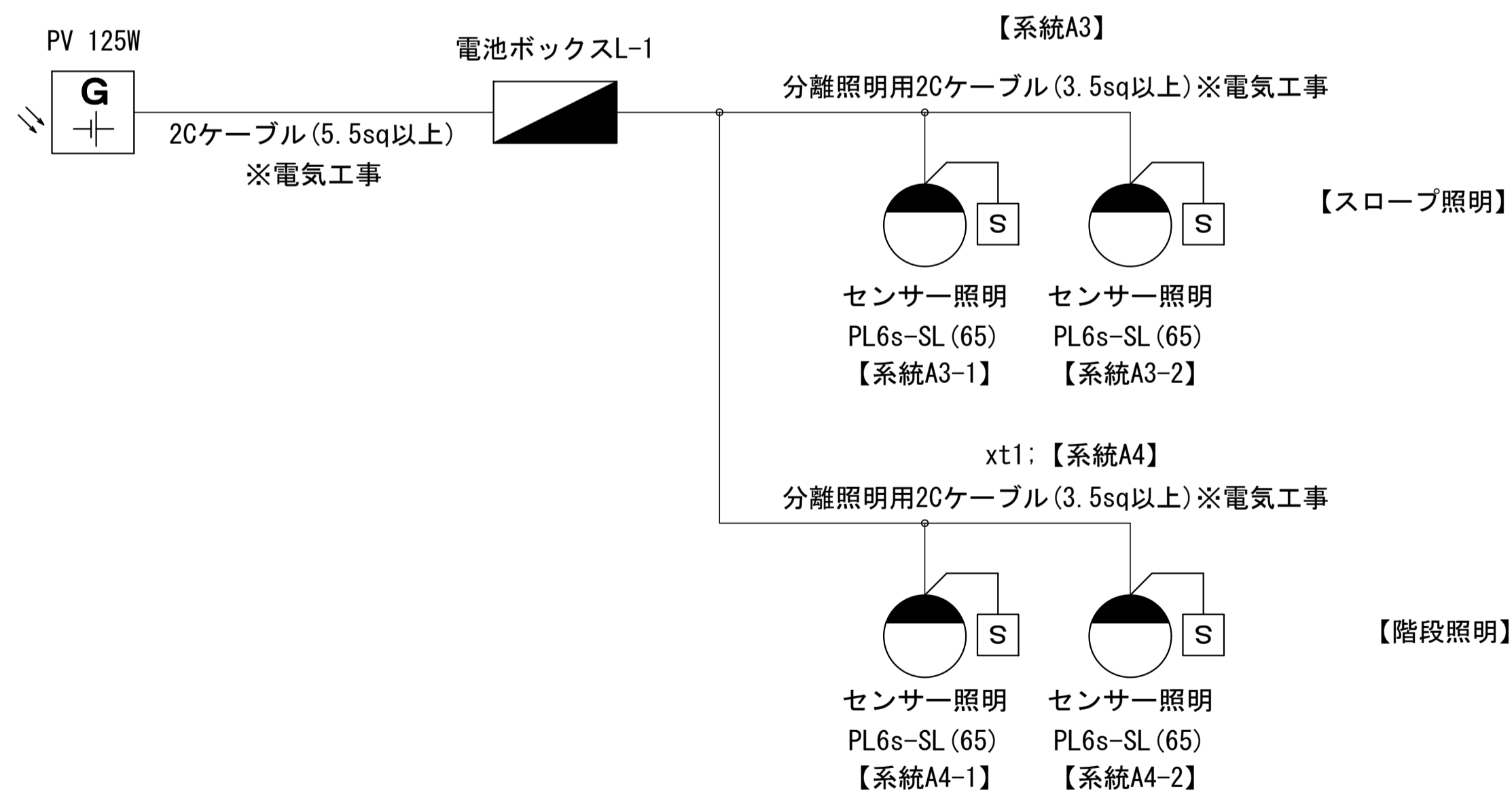
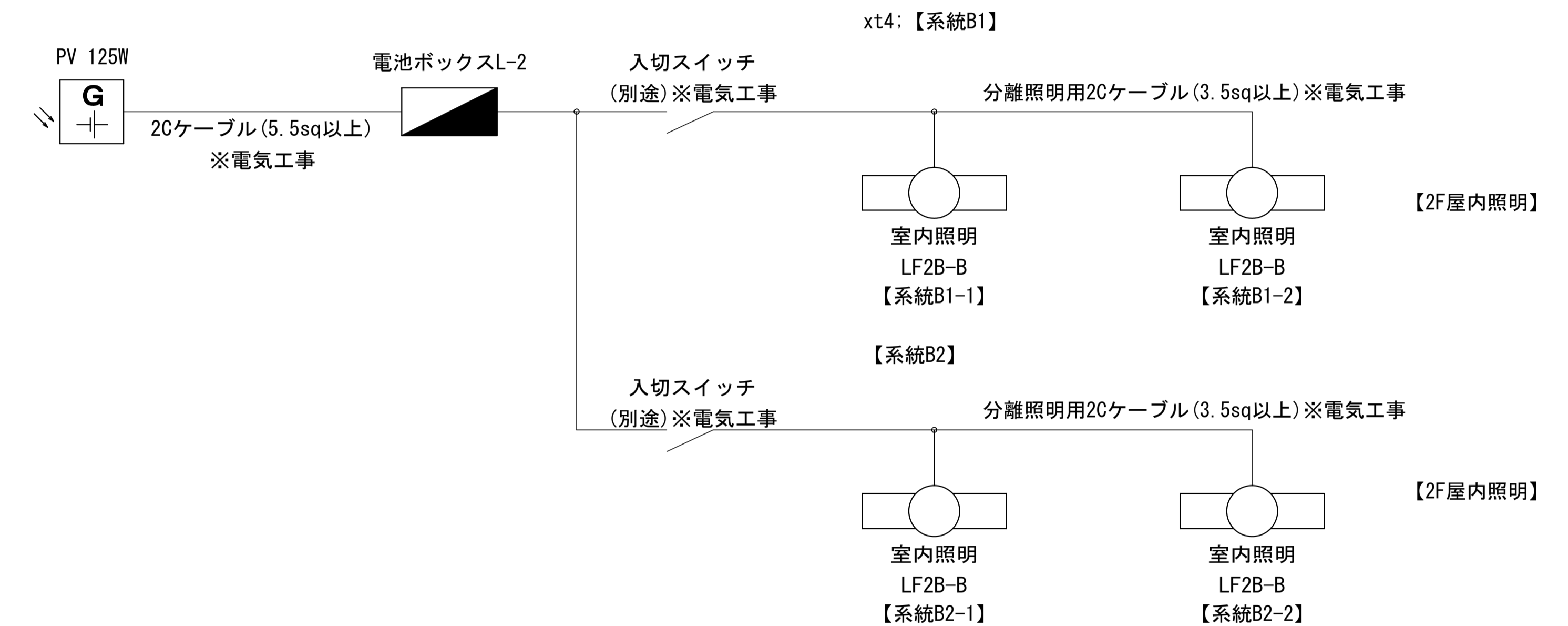
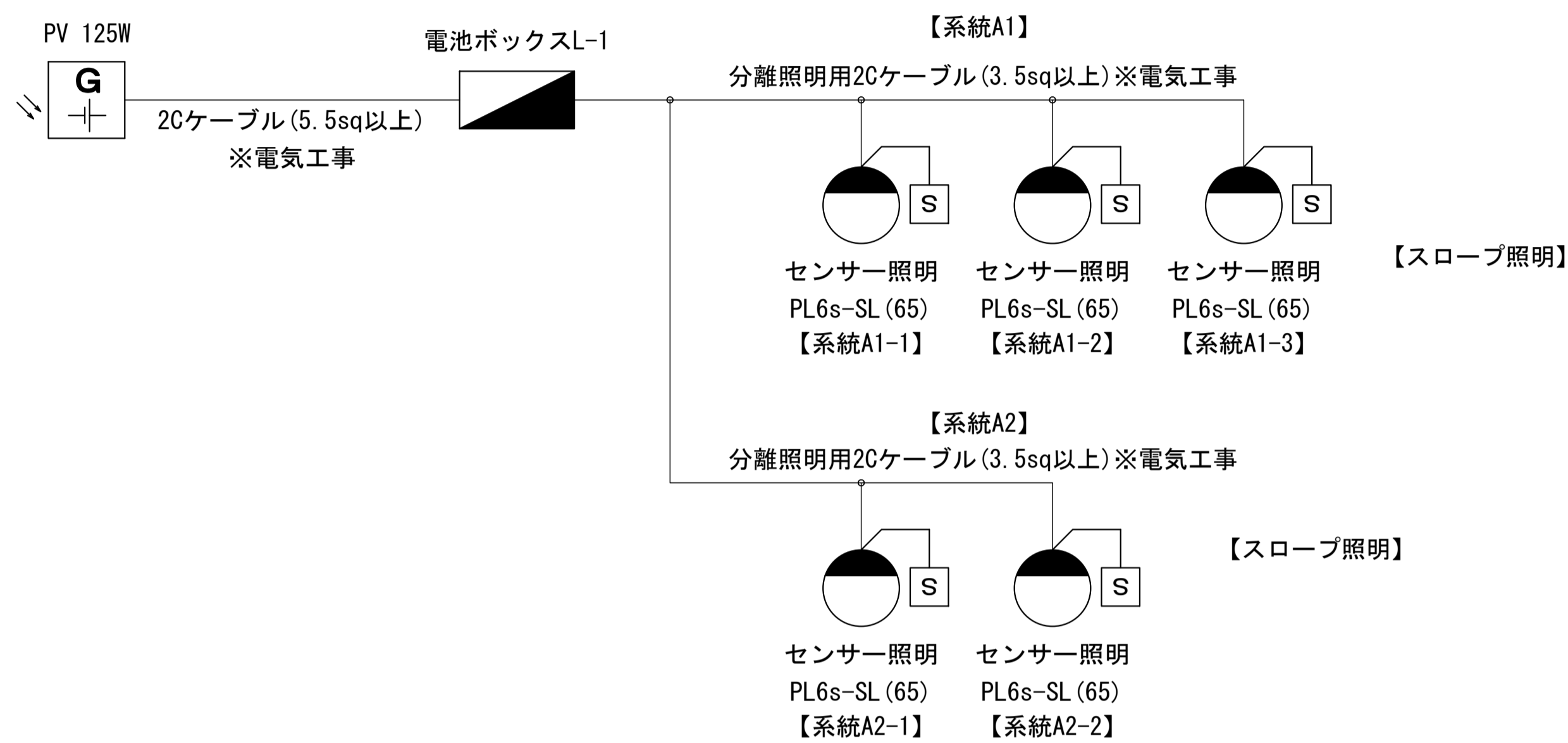
2階 平面図 S=1/100

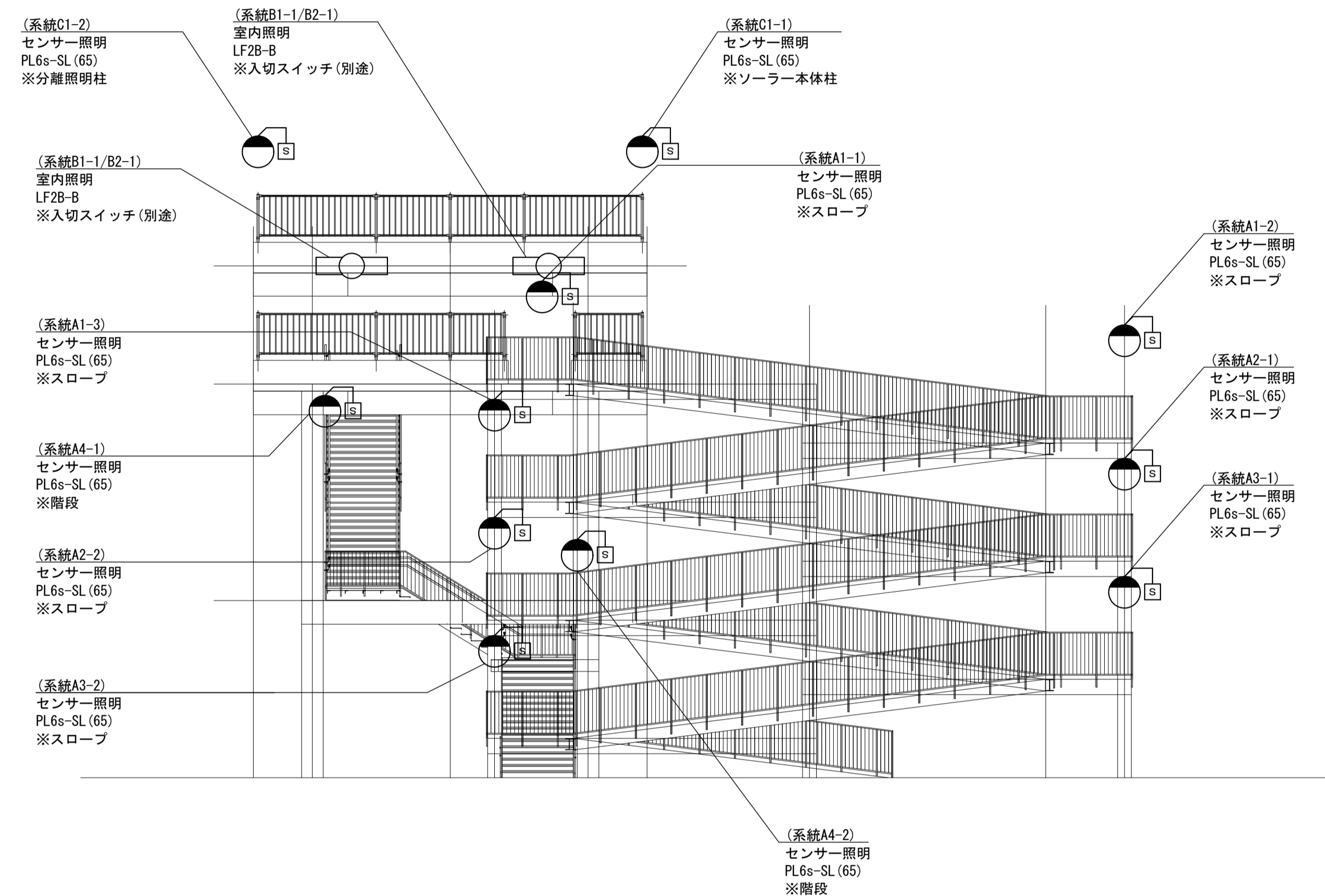
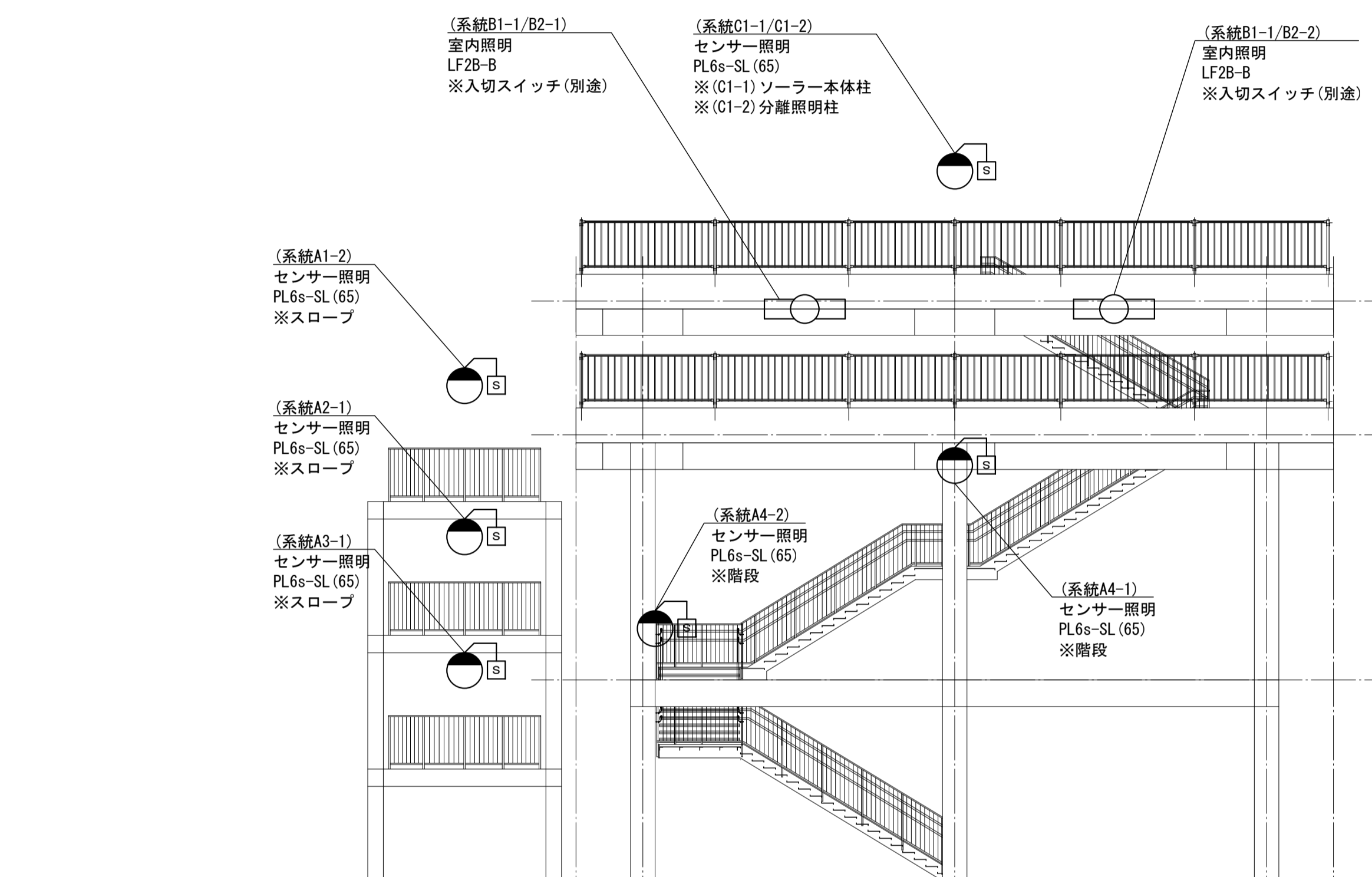


R階 平面図 S=1/100

記号	記号
	人感センサー付照明
	室内照明

注記: 曲線上の数値は水平面照度  
 (初期照度: 単位 lx) を示します。  
 現場状況により、実際の照度と異なる場合  
 があります。  
 LEDの個体差により同一型式の照明器具でも  
 明るさ、発光色が異なる場合があります。





記号	記号
	人感センサー付照明
	室内照明

注記: 曲線上の数値は水平面照度  
 (初期照度: 単位 lx) を示します。  
 現場状況により、実際の照度と異なる場合があります。  
 LEDの個体差により同一型式の照明器具でも明るさ、発光色が異なる場合があります。